

540  
2



始





大正十三年十二月發行



一九二四年に於ける大日本人物史



東京朝日通信社編纂

9B 1



克勤于邦



剛



Faint, ghostly impressions of the characters '克勤于邦' are visible in the background of the page.



梅蕊香自  
好  
景年五

梅蕊香自  
好  
景年五



新春如意



新年如意



新春如意



一 粒 收  
一 身 天

大 春 毅 題



Faint ghosting of the calligraphic text from the reverse side of the page.



能言未<sup>上</sup>是真  
君子善處乃  
為大丈夫

看洞書



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '能言未是真' and '君子善處乃為大丈夫'.



○

國大か

か

名高巖

高柳屋

新た

西か



## 自序

國を東海の形勝に建て、萬世一系の皇室を戴き、世を閱すること二千六百載、國風の美、民俗の醇、以て世界に冠たるを我が大日本帝國と爲す。明治鴻業の基を開きて以降、内外の諸政常に宜しきを制し、文化日に進み、紀綱大いに張る、日清日露の兩役を経て、國勢益々加はり、國威倍々揚り、世界の驚異を蒐む、偶々歐州大戰に會し、帝國亦之に参加し、威望愈々重きを加へ、五大列國の一に推さる、洵に東洋の平和、帝國を俟ちて初めて確立するの隆運を馴致し、皇德皇威雍々として八紘に輝くに到る、天意固より然るべしと雖も、國民亦協心戮力するに非ずんば、功業の過かなる焉、此の如くなるを得ん、萬邦瞻仰して、東洋の盟主となす、洵に故ありと謂ふべし。然るに昨秋關東地方は卒爾として一大震火災起り、文化の淵叢、貿易の中心爲めに忽焉として焦土と化し、人命を殞すこと十數萬、國富を失ふこと五十有餘億、實に帝國開闢以來の天殃にして、之が影響音に國內に限らず、洽く世界之に驚心駭目せざるなし。畏くも陛下宸襟を惱し給ひ、莫大なる内帑を下し、二大詔勅を喚發して、國民精神を喚起、激勵し、復興に大御心を注ぎ給ふ、國民上下之に感激し、協心共力、今方に復興の途上にあり。此の時に當り、皇太子殿下曠古の御成婚を擧げさせ給ふ、實に感天歡地、國威の祥瑞窮りなしと云ふべく、普天の下卒土の濱、歡喜并舞措く處を知らず、蓋し皇德の深淵、皇威の宏大、畏みて餘りありと謂ふべし。



茲に於て吾社は聖代の御慶事に浴し、帝都復興に寄與せる俊傑の士を紹介し、大に  
ては復興事業に對する協心戮力の便に資し、小にしては相互認識の具に供せんが爲め、  
曩に本書の刊行を企劃し、爾來材料の蒐集實際の調査東奔西走孜々として事に従ひ、漸  
くにして江湖有識の賛同の下に此大業の完成を得たるは本社之光榮とする所なり。  
然も現代人物敢て之を以て悉したるものに非ず、編纂亦た完璧の域に達せずと雖も收  
め來る人物は確かに現代の一勢力たると同時に、聊か國を知り、事業を知り人物を知る  
に庶幾らん歟。亦以て大正聖代の一光彩たるを信ず、若し夫れ巻頭叙したる御成婚詳  
記に至りては謹んで曠世の盛儀を記念とし。復興の概況に至りては國民奮起の魁と  
なす。斯如にして本書茲に刊成る、然も短日稿を脱し、倉卒編を了したるを以て或は多  
少の缺陷なきを保せず、幸に博雅の是正に俟たんとす、茲に上梓に臨んで抱懷事歴の一  
端を叙して以て自序とす。

大正十二年十月二十日

## 東京朝日通信社

## 東宮御成婚詳記

時維れ大正十三年の春、天朝からに梅花匂ふ一月二十六日の吉  
晨を以て英邁御仁心に涉らせ給ふ。天津日嗣の御子 皇太子殿  
下には曠古の御成婚の御式を廢墟の東京に於て擧げさせ給ふ。  
國家の盛事、國民の幸福此上や有るべき。吾等草莽蕞蕘の微臣  
此曠世の一大盛儀に浴する光榮を得て、安んぞ慶福祝賀し奉ら  
ざるべけんや。乃ち茲に長み謹みて拜せる御盛儀の御次第並に  
拜聞せる儘を記し、敢て謹みて御成婚の記念の出版たる本書の  
巻首を飾らんとす。

### 告期の御儀

一月十二日告期の御儀執り行はせらる、先づ告期勅使たる侍  
従次長たる徳川達孝伯は勅を奉じて久邇宮家に參着、之れより  
先久邇宮殿下には陸軍大將の通常禮服を召され、妃殿下には御  
洋装を以て正寢の間に於て勅使を迎へさせられ一旦退下、更に  
御兩親宮殿下には通常禮装に、良子女王殿下を御同伴の上、再  
び正寢の間に着かせられ、勅使は良子女王殿下に對し『二十六  
日皇太子と大婚の禮を行ふ』べき旨を宣し、父宮殿下は良子女王  
殿下に代り『謹んで御受け仕る』旨を申して退出、茲に於てか芽  
出度く告期の御式を終はせられたり。

### 贈書の御儀

日嗣の御子の御婚儀はいよくあと一日に迫れり、二十五日

東宮御成婚詳記

には、古式により贈書の儀を執り行はせらる。その日午前十時  
十分の刻に至り、本田東宮侍従には、東宮殿下御直筆の御書を  
良子女王殿下に贈らせらるべき旨を受く、御書は紅梅色に  
染めたる烏子紙に御歌を御認め遊ばされ、是を柳宮に納めたる  
ものなり、侍従は御書を奉じて、同十一時の刻、下澁谷の久邇  
宮邸に參邸、宮家菊の間に參進す、良子女王殿下に奉持の御書  
を捧げ、女王殿下御自ら御認めになりし御返書を奉受奉持して  
赤坂離宮に歸還、御座所に於て御答書を東宮殿下に奉呈し、茲  
に贈書の御儀式は終了せり。

### 奉告の御儀

大内山の常磐の松の梢に五彩の瑞雲霞々とはのめき、二重橋  
畔の松風、萬歳の聲を傳ふ、二十六日午前六時三十分の刻、御  
殿の御裝飾を全く終り、九條掌典長以下各掌典衣冠の装ひ清々  
しく出仕、崇重典雅の神樂歌吹奏裡に賢所、皇靈殿、神殿の神  
扉は嚴かに開かれ、神饌を供せらる、次で九條掌典長には神前  
に參進し、祝詞を奏し、甘露寺侍従 皇太子殿下の御代拜を奉  
仕す、畢りて神饌を撤し、三殿の神扉は閉ぢ、結婚奉告の御儀  
は終れり。

### 賢所大前の御儀

この芽出度き佳晨、良子女王殿下には午前三時に御起床、御  
沐浴の後、御書院に於て晴れの御化粧を遊ばさる、丈なす緑



御黒髪を御すべらかしに上げ、直に御五衣の御着附を遊ばされ先づ御兩親の宮へ御對面、いと厚き御禮を申し上げられ菊の間に  
出御あり、各關係者へ懇なる御言葉給ふ。聽て午前九時、東宮御使入江侍從長勅を奉じて久邇宮邸へ參着、令旨をのぶ、良子女王殿下には宮内省差廻しの自動車に召され、近衛儀仗兵の一隊に警護されて御參内、綾綺殿に參入せらる、東宮殿下には午前五時三十分御起床遊ばされ、陸軍中佐の御正装を御召になり、午前九時二十分、東宮御所御出門順路宮城に御參内、綾綺殿へ參入せらる、こゝに於て皇太子殿下には御正装を束帶、黃丹袍の御儀服に改めさせられ、御手を清め、侍從の捧ぐる御笏を受けさせられ、良子女王殿下にも御手を清め、女官の捧ぐる御槍扇を受けさせられ、供奉の諸員之れに扈從して幄舎に入り皇族方また所定の御座に着かせられたり、十時十五分に到り、典雅なる奏樂裡に堂典の手により神屏は開かれ、神饌幣物は供へらる、やがて九條堂典長は神前に進んで謹み畏みて祝詞を奏す、續いて 皇太子殿下、良子女王殿下御參進、内陣に御着座、兩殿下の御禮拜あり、共に玉串を奉られ、皇太子には自ら御告文を御捧讀あそばされたり、訖いて兩殿下には外陣に御座を移さる、この時掌典は先づ神盃を。皇太子に献し、掌典長は神前の御瓶子を執りて神酒をまゐらす、皇太子神盃を掌典に授けらるれば、掌典更に良子女王殿下に神盃を献する、掌典長又瓶子を執りて神酒をまゐらす、斯くて御盃の事をはれば兩殿下には神前に御禮拜ありて御退下、次で參列の各皇族諸員の禮拜あり十一時十五分、賢所の御儀はいとも莊嚴に終らせられたり。

き御心盡しに對し、厚き御禮言を述べさせられ、御一泊、翌二十八日午後三時御還啓遊ばさる。

### 東宮同妃兩殿下御西下

東宮同妃兩殿下には神宮山陵に御成婚報告の爲め二月二十二日午前十時四十五分、官民多數の御見送りの裡に東京驛御發車午後二時三十分沼津驛御著、御用邸西附屬邸へ御一泊、翌二十三日午前八時二十分御出門、午後四時三十分、三百餘哩の鐵路を悉く宇治山田へ御安着、直ちに、御泊所なる神宮司廳へ入らせらる、

二十四日午前十時二十分兩殿下には豊受大神宮へ御參拜のため御泊所を特別公式鹵簿を以て御出門、十時四十五分大神宮神域に御着、第二鳥居内側に御召車を棄てられ、西園寺式部次長、珍田東宮大夫前行、侍從女官等扈從し、塵一つ止めざる淨砂に簀子を敷きつめられたる其上を外玉垣御門内まで進ませられ、彌宜より大麻御鹽を受けさせられ、御手洗遊ばされて内玉垣御門内に御參進せらる、これより先午前十時神宮祭主久邇宮多嘉王殿下、三條西大宮司、熊谷小宮司は正殿の神屏を開き御帳をあけ御供進の幣物を一々案上に奉安し、御階の下に候するや兩殿下には内玉垣御門より正殿内院に御參進御起立のまゝ佐伯掌典の奉持する玉串を御手に取られ、大御神の御前に暫らく御默禱ありて御婚儀の趣きを念せらる。

默禱を了らせられて兩殿下には王串を宮司に御手渡しあり、祭主宮はこれを神前に奉献し、了りて幣帛を献進して茲に豊受大神宮參拜の御儀は了らせられ、午前十一時鹵簿を整へて御泊所

### 皇靈殿神殿の御謁儀

續いて皇靈殿神殿に謁するの御儀を終らせられ、午後二時宮城正門を御同乗御出門、沿道塔列の軍隊、歡呼の市民に御會釋を賜ひつゝ東宮假御所に御還啓遊ばさる。

### 供膳の御儀

御還啓遊ばされたる御兩殿下には御休息の御假もなく、直に供膳の御儀を行はせられたり。この御儀は民間の所謂三三九度の御盃事なりと拜承す。

### 三日夜の餅の御儀

供膳の御儀を終へさせられたる御兩殿下には午後六時御晚餐を召され、食後の數時間を妃殿下の御居間に過させられ、やがて夜の御殿に入らせらる、斯くて最後の御儀たる三日夜の餅の御儀を行はせられ御結婚の諸儀は御滞りなく終了せり。

### 御朝見の御儀

御幸多き第一夜は清淨たる雪に明けたり、二十七日、兩殿下には沼津御用邸に在ます兩陛下に御成婚の御歡び御禮言の爲め午前十時五分東京驛御發車、一路沼津へと向はせられ、二時十五分御用邸御着、三時十分兩陛下に御對面、御成婚に關する深

へ御還啓なる。

外宮の御拜を終らせられたる兩殿下には、午後一時三十分午前と御同様公式鹵簿にて内宮に御參拜、些の滞りもなく二時十分御泊所に御還啓なる。

神都山田に二夜を過させられたる兩殿下には二十五日午前十時御泊所御出門、多數市民の奉送裡に山田驛御發車、午後二時二十分京都驛御着、春淺き都大路を市民の御奉迎の裡に大宮御所へ入らせらる。

大宮御所に御駐泊第一夜を過させられたる東宮同妃兩殿下には二十六日午前九時二十分御出門、御豫定の如く午前十一時四十五分畝傍驛御着、畝傍山陵に御參拜あらせられ、午後二時畝傍驛御發車京都大宮御所へ入らせらる、翌二十七日兩殿下には伏見桃山兩御陵に御參拜のため午前十時五分大宮御所を出でさせられ、十時五十分桃山驛御着、宮廷馬車に召され十一時御陵前皇族召集御車寄にて御降車、大鳥居の下玉垣内に入らせらる、東宮殿下には第一の鐵屏の御下にて御脱帽、妃殿下には御式により純白のハットを戴かせられたるまゝ、第二鐵屏の内御陵間近く進ませられ、茲にて謹設せる二臺の御濱床の上に登らせらる、町尻掌典御玉串を進め兩殿下には肅然として、それを案上に奉奠遊ばされ、これより御成婚の御次第を御默禱あらせられ御陵を退下、それより桃山東陵に御參拜、午後零時二十五分大宮御所へ御歸還相成る。

御成婚奉告の御儀を滞りなく終らせられたる兩殿下には二十八日午前七時三十五分大宮御所御出門、御名殘を惜しむ西都の民草の奉送を受けさせられ、八時三分京都驛御發車、午後四時十五分沼津驛御着、御用邸西附屬邸へ入らせられ、同夜は御用邸



にて御親子御揃を以て、御晩食の卓に就かせられたり、沼津御用邸に一夜を過ごさせられたる東宮同妃兩殿下には二十九日午前十時五十分沼津御發午後三時東京驛御着三時二十分赤坂離宮へ御還啓あらせらる。

### 御慶事御饗宴

東宮御慶事御饗宴第一日は五月三十一日午後七時より、宮中豊明殿にて行はせられ、各宮並に妃殿下を首め奉り國務大臣、在京の親任官同夫人、宮中席次第一階の有位有爵者同夫人、各國大公使同夫人を御召に相成り、皇后陛下も亦御台臨、一同鄭重なる晩餐を賜り、記念としてボンボニー一組を下賜せらる。御饗宴第二日第三日の宮中午餐會は二日は總數千百餘名三日は三百餘名を御召し遊ばされ、參列員一同に賜餐あらせられたり。

### 國民の奉祝

東宮同妃兩殿下の御成婚を奉祝する國民の欣びは、全國津々浦々に至るまで數日間奉祝の氣に包まれ、歡乎の聲は天上高く響き亘りて、千代八千代までもと兩殿下の御壽を御祝申し上げたり。

## 復興の概況

我國民は歐洲大戰以降望外の好況に慥れ、自ら揣らすして、浮誇街揚動もすれば常規節度を逸し、奢侈放逸の風を滋長せり、次で經濟界の變調に遭ひ、人心頓に萎縮し、茫として把握する所を知らざりしの時、忽如として天殃臻り、十數萬の人命と、五十有餘億の國富を殞ひ、國運の進暢に一大蹉跌を來たせるの憾あり方に是れ我國民の爲めの一大警鐘にして所謂天譴の意、冥々の裡に之を看取し來れば悵然として震悚する所なき能はず想ふに我國民は今日に於て克く時難に覺醒し、克己力行し、自ら警省し、互に砥勵して以て廻瀾を既倒に回らすの覺悟と努力をなすに非ずんば所謂復興の大業も國運の暢張も共に共に設想に堪へざるものあらんとす、而も震災の當初に於て、畏くも『復興に關する詔書』並に『民心振作の大詔』の喚發あり、國民たるもの此の聖旨に鑑み敢て國民精神の復興を併せて戮力せざるべからず、帝都復興のことたる既に一朝一夕のことに非らず舉國百年の努力に俟たざるべからず、従つてその方針企劃たる遠大深淵、國家實勢を基として、東西利害得失を覈へ、長短補足宜しきを以て制し、國家發展の中核となさざるべからず、斯くの如きを以て這個の復興事業たる難事中最難事業にして、我邦に於ける振古未曾有の大事業たり、今や既に復興の方針定まり企劃亦成り、着々其の途上にあり、今茲に復興事業の概況に就き其一端を記せんと欲す、敢て國民精神の振起を望むこと切實なればなり。

### 復興の概況

### 復興審議會 並に復興院

先づ復興の最高諮問機關として大正十二年九月十九日慘鼻躁妄の間、帝都復興審議會の官制發布を見、次いで同二十七日始めて、之が執行機關たる帝都復興院の實現を見るに至れり。斯くて同十月末に至り復興計劃の大綱方針が示され、數次評議員會の開會を見るや、その内容に關し幾多の議論續出し、同十一月二十四日より開會せられたる第二回復興審議會の形勢は、政府計劃の根本問題に溯り復興院そのもの、價値に關する痛烈なる質問起り、政府提出の原案通過に關しては甚だ危急を稱へられたり。果して同二十七日特別委員會の手によりて原案總豫算に一大削減を加へたる修正協定案並に希望條件が満場一致を以て可決され、是れが爲め審議會及び政府の態度に對する一般輿論は一時大に沸騰し、評議會、東京市を初めとして審議會の横暴を論議難詰するもの或は政府の氣力なきに憤慨するもの喧々囂々鼎の湧くが如きものなり、政府は斯る四面楚歌の間にありて暫く陰忍自重し、來るべき臨時議會に善處すべくこれが對策に日夜腐心する處ありしが、大勢如何とも爲し難く、斯る間に復興院廢止論は漸く濃厚となり、嗷然表面的となり、遂に議會の絶對多數黨たる政友會はその急先鋒となつて政府に迫れり而も政府は一方に於て火災保險問題の解決を控へて、將に一大旋風の只中にあるの感あり如何にしてこの最大難關を突破するか、政府の苦心たる眞に名狀すべからざるものありき、今其提案に係る復興豫算の一部を見るに



復興の概況

復興豫算

- 一、帝都復興豫算總額五億九千七百七十四萬七千圓
  - 一、國の執行する復興事業費總額四億四千八百五十七萬圓
  - 一、地方復興事業費貸付金總額一千五百三十二萬五千圓
  - 一、復興補助總額八千九百二十萬五千圓
  - 一、地方復興事業債利子補給總額二千六百六十九萬四千圓
  - 一、帝都復興院費二千二百九十三萬一千圓
- 帝都復興院が執行する復興計劃に伴ふ豫算は前記の如くなるが右の内防火地區建築費補助は十三年度より實行する事と決定せり。次いで國の執行する復興事業に對する地方負擔金を示せば
- 一、東京復興事業費豫算總額四億二千七百九十九萬三千圓
  - 一、地方負擔額一億七千三百三十萬圓
  - 一、橫濱復興事業費豫算總額四千五百七十七萬七千圓
  - 一、地方負擔額一千七百六十九萬七千圓
- 府縣市の執行する復興事業に對する補助
- 一、總費額二億五千二百六十八萬三千圓
  - 一、補助額六千九百二十二萬五千圓
  - 一、分擔額一億八千三百四十五萬七千圓
- 右の地方復興事業に對する補助額は總費額中の純粹の基本額に對して補助歩合の割合にて算出せるものなり而して前記豫算を國の執行するものと地方公共團體の執行するものとに區分しその經費の負擔區分に依り分類し、之れが概括を示せば左の如し
- 復興事業費區分
- 一、國の執行するもの四億七千一百五十萬一千圓
  - 一、公共團體の執行するもの二億五千二百六十三萬八千圓

經費の負擔區分

- 一、國費負擔額三億七千八百八十七萬五千圓
  - 一、地方費負擔額三億五千二百三十萬八千圓
- を以て示さる。

復興議會

斯くて十二月十日遂に幾多難問題を控へて臨時議會の開會を見るに至り將に山雨到らんとして風堂に滿つる感あり、果然同十三日より貴衆兩院は一齊に質問を開始し、十四日の貴族院に於ける藤村義朗男の如きは『帝都百年の計を立てよ』と絶叫し、山上滿之進氏は火災保險問題を提げて、肉迫し難詰し、衆議院亦復興法案の上程に伴ふて質問論議猛烈を極めたり、貴族院の火保問題論議、衆議院の豫算總會は連日續行せしが、衆議院は十七日に至り、火保問題を除いて質問漸く打切となり、復興法案委員會、火保貸付委員會等重要問題の審議は凡て各委員會の手に移れり、斯くて火保案の握り潰しの意明瞭となり、且つ政友會の復興豫算修正具體案の示さるゝに至り、政府内は勿論議會及び輿論は非常に緊張し、解散か、同意か、果總辭職かと政府の態度は大に注目され、雲行極めて險惡化されたり、斯くて貴族院の議事は震災勅令の事後承諾案その他概ね平凡裡に終始せしが、衆議院十九日の總會は極度の緊張を見せ、遂に政友會員島田俊雄氏の提出復興豫算大修正案を多數を以て可決し尋いで本會議に上程され、山本委員長の委員會經過並に結果の報告あり、更に討論に入り憲政會は原案支持を力説し、政府を鞭達する處ありしが、政府は既に同日の緊急閣議に於て修正案に同意するの決定を爲したる後とて如何ともなす能はず遂に採決

に入り百三十五票の多數を以て此修正案は可決され、政府また之れに屈從の餘儀なきに至れり、今その聲明書を一瞥するに今回政府の提出せる、帝都復興に關する豫算たる本日の衆議院に於て修正せられたるは政府の誠に遺憾とする處なり、而して此修正により將來復興事業の執行上に多大の支障あるべきことを豫察すれども若し不幸にして豫算案不成立となりたる場合に於ては帝都復興計劃實施に著るしき、阻誤を來すの恐れあるべし、之れ罹災者百萬の窮狀に顧み政府の最も心痛する所にして衆議院の修正に應じて本豫算案の成立を望みたる次第なり

斯くて此の修正案は貴族院に廻附され、結局最終日の會議に於て原案復活説破れ、衆議院修正案は遂に可決せしなり、然して最後に政府が唯一の望を囁きたりし火災保險案も最終日の衆議院本會議に於て遂に政友會の爲めに豫想通り握り潰しの運命に遭ひ、政府の計劃は悉く敗れ田農相の責任辭職となるに至れり斯くて帝都復興院は、その事務豫算全部の削除により自然消滅に歸し、超えて十三年二月廿五日の官報を以て、復興審議會及復興院の廢止勅令と共に、新に復興局の官制制定公布せらるるに至れり。

復興局並復興機關

復興局は内務大臣の管理に屬し、東京及橫濱に於ける都市計劃都市計劃事業の執行、市街地建築物法の施行及都市計劃上建築改善に關する事務を掌るものにして、其職員として長官(勅任)事務官(勅任)技師(勅任)部長四人(勅任)書記官專任十人(奏任)事務官專任二十人(奏任)技師專任百二十七人(奏任)屬專任二

復興の概況

百二十五人(判任)技師專任六百五十人(判任)を置き、而して復興局に長官官房及び整地部、土木部、建築部、經理部の四部を置き、更に局内分課規程以下の如し、長官官房(文書課、計劃課、監理課)、整地部(庶務課、地籍課、施業課、技術課)、土木部(庶務課、工務課、道路課、橋梁課、河港課)、建築部(庶務課、技術課、公園課)、經理部(主計課、購買課、倉庫課、供給課)等並に東京には四ヶ出張所、橫濱には一ヶ出張所を配備せり

復興局職

長官	高等官一等	直木倫太郎
技師	高等官一等	直木倫太郎
整地部長	高等官二等	稻葉健之助
土木部長	高等官二等	太田圓三
建築部長	高等官二等	笠原敏郎
經理部長	高等官二等	十河信二
東京第一出張所長	等官二等	山田博愛
東京第二出張所長	高等官二等	茂庭忠次郎
東京第三出張所長	高等官三等	神保金術
東京第四出張所長	高等官三等	池邊稻生
橫濱出張所長	高等官三等(勅任)	市來尙治
技術試驗所長兼土木部長		太田圓三
長官官房		
書記官	三等	鐵道書記官
同	同	吉田浩
同	同	中山隆吉
同	四等	村上義一



復興の概況

書記官	四等	内閣書記官	長谷川 勉夫	事務官	七等
文書課				計畫課	
書記官	三等	文書課長	金井 清	事務官	五等
計畫課				同	六等
書記官	三等	計畫課長	菊地 慎三	同	七等
同		監理課	野村 信孝	監理課	
監理課				事務官	四等
書記官兼		文書課長	金井 清	同	七等
同	四等		野村 信孝	整地部	
整地部				事務官	五等
書記官	四等	地籍課長	田中 勝次郎	同	五等
同		庶務課長	熊野 英	同	六等
同		施業課長	宮原 顯三	土木部	
土木部				事務官	七等
書記官	四等	庶務課長	岡田 周造	建築部	
建築部				事務官	五等
書記官	六等	庶務課長	武部 六藏	同	七等
經理部				經理部	
書記官	三等	供給課長	安達 房次郎	事務官	五等
同		外務書記官	桑島 主計	同	六等
同		外務事務官	村上 義温	同	七等
同	四等	會計課長	植木 壽雄	同	七等
文書課				東京第一出張所	
事務官	四等		羽生 雅則	事務官	七等
同	六等		丹羽 氏彦	東京第二出張所	
同	七等		大平 吉五郎	事務官	七等

四

上草 直清	横濱出張所	事務官	七等
西村 輝一	長官官房	技師	二等
森山 銳一	整地部	技師	二等
大平 吉五郎	同	技師	二等
羽生 雅則	同	技師	四等
伊藤 隆祐	同	技師	五等
三樹 樹三	同	技師	五等
馬場 義也	同	技師	六等
内藤 熙也	同	技師	七等
伊藤 隆祐	土木部	技師	七等
平 敏孝	同	技師	二等
上原 六郎	同	技師	三等
上倉 三之助	同	技師	五等
富井 泰	同	技師	同
平山 燦	同	技師	同
根本 傳作	同	技師	六等
大野 定男	同	技師	同
柴山 博	同	技師	同
湯澤 真太郎	同	技師	同
玉橋 市三	同	技師	同
河北 一郎	同	技師	同
野坂 喜代松	同	技師	同
磯原 儀助	同	技師	同
高田 道生	同	技師	同
太田 勲	同	技師	同
宮崎 信太郎	同	技師	同
中山 茂	同	技師	同
星野 長太	同	技師	同
安倍 邦術	同	技師	同
久永 勇吉	同	技師	同
細野 芳彦	同	技師	同
松木 壽	同	技師	同
平山 復二郎	同	技師	同
田中 豊	同	技師	同
宮崎 正夫	同	技師	同
左合 貞吉郎	同	技師	同
金子 源一郎	同	技師	同
春藤 真三	同	技師	同
正子 重三	同	技師	同
山田 安三	同	技師	同

復興の概況

技師	七等	近藤 謙三郎	技師	七等	
同		緒方 虎之助	同		
同		竹中 喜義	同		
同		福井 友三郎	同		
同		和田 宗吉	同		
同		和 田 宗吉	同		
同		成瀬 勝武	同		
同		中島 時雄	同		
同		倉内 豊太郎	同		
同		鈴木 美英	同		
同		田沼 親實	同		
同		浦川 良藏	同		
同		豊田 良藏	同		
建築部			東京第一出張所		
技師	二等	農商務技師	井上 藤之助	技師	五等
同	三等	公園課長	折下 吉延	同	七等
同		技術課長	佐藤 茂助	同	
同		警視廳技師	清野 信雄	同	
同	四等		竹内 六藏	同	
同	五等		柳澤 五郎	同	
同			伊部 貞吉	同	
同			小倉 勉吉	同	
同	六等	農商務技師	中村 寛	同	
同			菱田 厚介	同	
同			太田 謙吉	同	
同			尾崎 久助	同	

五

小林 隆徳	東京第三出張所	技師	七等
加藤 得三郎	同	技師	三等
井本 政信	同	技師	五等
佐藤 戈止	同	技師	同
山田 彦一	同	技師	同
渡邊 全	同	技師	七等
榎葉 可省	同	技師	同
北 玉樹	東京第四出張所	技師	三等
村上 義通	同	技師	四等
恒田 嘉文	同	技師	五等
岩井 芳通	同	技師	六等
川地 陽一	同	技師	同
北澤 惇夫	同	技師	同
伊藤 清市	同	技師	同
田寺 元治	同	技師	同
櫻井 英記	同	技師	同
中村 滿輔	同	技師	同
新納 靖	同	技師	同
池田 勝藏	同	技師	同
和 重辰	同	技師	同
宮内 義則	同	技師	同
上井 兼吉	同	技師	同
松田 文治	同	技師	同
飯塚 惣一	同	技師	同
稻光 特	同	技師	同
安東 功	同	技師	同
木村 富治郎	同	技師	同
小畑 英五郎	同	技師	同
石田 道太郎	同	技師	同
森 經義	同	技師	同
世間 瀬千代松	同	技師	同
森田 林次郎	同	技師	同
江木 貴一郎	同	技師	同
眞柄 基	同	技師	同
吉岡 文政	同	技師	同
瀬戸 角馬	同	技師	同
城戸 鎮吉	同	技師	同
大岡 大三	同	技師	同
今井 哲	同	技師	同
水野 源三郎	同	技師	同
木村 宗次郎	同	技師	同
杉山 宗次郎	同	技師	同
小柳 健吉	同	技師	同
山地 健勇	同	技師	同
大峽 興次	同	技師	同



技師	五等	長江	丁一
同	七等	天孝	松枝
同	同	田中	勝吉

### 火災保険問題

復興問題に最も重大なる關係を有するものとして震災直後の十二年秋より十三年の春に亘り、囂々として國內は申す迄もなく海外に至る迄重大視せられたる問題は火災保険の問題なり、該問題に關しては災後引續き、約款並に商法等に基く解決の相違より、支拂是非の論議屢々繰り返されたるが保險會社側に於ては之れが對策を講ずべく、東西關係者再三會して協議を重ね、政府亦此問題の解決に考慮せり、即ち之れが具體案としては、東西各會社をして組合を組織せしめ、罹災被保險者に對する出捐の目的を以て各火災保險會社に對し、保險總額の一割に相當する金額を年百分の二の低利を以て貸付け、之れを被保險者に支拂らばしむるの方針を示せり、然るに保險業者は容易に意見の一致を見ず。結局政府案に對し不服を唱へたる關西側は、十二年十一月三十日の協議會に於て分離するに決し、組合案は放棄さるゝに至れり、かくて賛成側は直ちに支拂準備に着手し、支拂細目の決定をも見るに至りしが、政府が臨時議會に提出せる、保險會社貸付法案即ち大正十二年九月の地震の爲め直接または間接に生じたる火災及びその延焼並にその消防または避難に必要な處分により損害を受けたる被保險者に對し、任意出捐を爲す場合は現政府は、之に對し出捐に必要な援助金八千萬圓を年四分の利率を以て五十ヶ年以内に年賦償還の規定を以て交付するの案は樞府並に兩院を通じて論議の焦點となり、保

險契約者のみ見舞金を與へて多數の罹災者を度外するは不當なりと同時に保險契約者と雖も貧富の差あり一律に同率の見舞金となす社會政策的方法に非ざるのみならず償還方法に於ても不備の點多しとの理由の下に政府の有謂緩和策も効なく、遂に握り潰しの運命に逢着せるため、問題解決に第一頓座を來せりこれが爲め、田農相は責を負ひて辭表を提出し、東西協議會々長たる各務議長また表面上、之れが善後策の任に堪へずとなし之亦辭任を申出するに至れり、一方被保險者側は、最初より形勢の如何を注視したりしが十三年一月末の議會解散により、再び政府援助の頓座を見るに至りて、支拂の遷延を責むるの聲漸く高く、政府は兩者板挟みの形となり、之が善後策に窮するの狀態に陥れり、而も二月に至り、屢々被保險者側の火保解決促進示威運動をも見るに至りしより會社側は狼狽の色を示し東西妥協して自力出捐を聲明し政府亦極力解決誘導に力め、更に二月十八日に至り火保援助緊急勸令案の御裁可を仰ぐに至りしなり、而るに事態斯くの如くして取收困難に到りしより遂に三月六日に至りて本案を撤回するに決し此際斷然として責任支出の方途により、本問題を根本的に解決すべき臍を固めるに至れり其責任支出財源として政府は國庫剩餘金二億三千餘萬圓の内より約六千五百萬圓を振替へて、火災保險問題解決に充當するに決し、三月八日前田農相は關係會社代表者を本省に招致して正式に火保援助を通告せり、これに對し會社側は火保協會總會を開きて助成金交付の請願償還問題及び支拂法其の他を協議する處あり、最初より兎角亂れ勝の歩調を以て、しかも幾多の難問題に座折しつゝ、約半歳を閲したる會社側も此處に漸く問題解決の一段落に到達することを得たり。斯くして四月十三日勅

令を以て保險會社助成金交付令は公布され、政府は先づその支拂限度によりて二十三社即ち五千圓以下一割支拂たるA組及び八社即ち三千圓以下一割支拂たるB組の二種に分ち五月一日二十八社に對し、約千六百萬圓の助成金を交付せり、かくて各會社は五月一日より申告受付を始め、五月五日一齋に支拂を開始し、六月三十日を以て支拂は終了せり、尙此他焼失倉庫證券の保證金支拂期間問題の残れるあるも大體に於て大震災火災保險問題も茲に大團圓を告げたり

### 街路修築並に土地區劃整理

斯くて六月十一月加藤新内閣の成立を見たるが第四十九臨時議會に提出すべき豫算案は時日切迫の故を以て清浦内閣の豫算を踏襲するに決せり、即ち帝都復興追加豫算として臨時議會に提出されたるものは東京横濱兩市の執行する街路修築及び土地區劃整理に要する經費に對して貸付金並に補助なり、此等は十三年年度以降十七年度に至る五ヶ年間の豫算外國庫の負擔に屬する經費にして第四十七議會に於て修正削減せられたる十二間未滿の街路修築及び土地區劃整理に要する經費に相當し、是れと十二年度に於ける豫算外支出にかゝる二百三十六萬圓を加へ、復興總費額は結局一億五百萬圓となるに至れり事業の概況を見るに、東京に於ける街路はこれを幹線と補助線とに分ち幹線の規格は地域の情況と交通の系統により幅員を二十二メートル以上として特に其配置に意を用ひ別に幅員十一メートル以上の補助線を配置し、災後に於ける交通系統の整備を圖り、而して幹線は政府之れを執行し、補助線は市之れを執行することに決定せり又東京市内に於ける水運の狀況に鑑み運河の新鑿改修並に埋

立を爲すこと總て政府に於てこれを執行することに決し、更に公園に關しては東京市内に普遍的に之を設置するの方針を執り大公園は政府に於て之れを執行し小公園は小學校に隣接して設置することとし市長之れを執行することに決せり、尙東京市土地區劃整理は焼失區域の殆んど全部に亘り政府之れを施行する豫定なりしが、斯くの如く波瀾曲折の間漸く諸般の復興施設なり、特別都市計劃の地區並に防火地區の設定も共に制定を告げ又横濱に於ける諸計劃も、全く決定を見、今や着々土地區劃整理の實測を完了しつゝあり、此間政府は米英に於て復興公債五億五千萬圓を起し、又十二月第一回復興貯蓄債券一千萬圓を起し、逐次豫算の實行を計り、民間亦當局指示の下に着々復興に力を致し方に面目一新の概を實現しつゝあり、今後上記の計劃施設、完全に遂行するや否やは一にかゝりて爲政者の賢明と國民の熱誠なる協調に俟たざるべからず、懸て見る當に東洋一にあらす、世界に冠絶せる理想的大東京の壯觀を完成すべきは決して他人にあらず。











新元鹿之助	新渡戸稻造	仁科梅太郎	仁禮景嘉	西神精一	西島助義	西坂熊太郎	西澤又右衛門	西澤善七	西澤喜太郎	西澤定七	西松喬次	西山覺太郎	西山龜太郎	西脇健治	西脇吉久	西脇右衛門	西脇三郎	西尾勘兵衛	西尾小左衛門	西尾兵一	西尾繁太郎	西尾忠方	西原茂太郎
二二	二二	二二	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
穂積重遠	日本製粉株式會社	日本興業銀行	日本晝夜銀行	日本毛織株式會社	日本國債株式會社	日本醫師共濟生命保險相互會社	西岡貞太郎	西岡良助	西岡貞太郎	西岡良助	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔	新山花輔
堀田金四郎	堀部彦次郎	堀啓次郎	堀熊次郎	堀三太郎	堀藤十郎	堀鎌次郎	堀義二	堀尾宗六	堀尾宗六	堀尾宗六	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎	堀內文次郎
保科孝一	保科鏡次郎	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛	保科善兵衛
星野庄三郎	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門	星野勘右衛門

林太郎	林武右衛門	林音吉	林千八	林毅陸	林雅之助	林寅造	林平鶴	林森太郎	林喜兵衛	林芳太郎	林平四郎	林源十郎	林仙輔	林平造	林半助	林郁彦	林市藏	林賴三郎	長谷川進次郎	長谷川鏡次郎	長谷川直藏	長谷川乙彦
三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
橋本喜作	橋本喜造	橋本信次郎	橋本圭三郎	橋本萬右衛門	橋本保長	橋本長太	橋本千陽	橋本辰二	橋本良藏	橋本八右衛門	橋本市太郎	橋本梅太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎	橋本龜太郎
西野嘉右衛門	西野市兵衛	西野惠之助	坂東信樹	箱根土地株式會社	伴房次郎	半澤善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎	半田善四郎
二階堂三郎	二宮傳右衛門	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊	二宮榮熊
西原爲五郎	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平	西原直平











索引

吉田平太郎	吉田豐平	吉田得兵衛	吉田磯吉	吉田敬直	吉田九輔	橫川忠民	米倉清昌	米倉政松	米津半造	米谷平吉	米田元吉	米田甚太郎	米田奈良吉	米田市右衛門	依田六郎	依田省輔	米澤吉次	米澤與三	米澤與三	橫井太郎	
四	四	三	三	二	七	六	四	四	四	三	四	三	三	三	三	三	六	五	二	六	
橫村米太郎	萬崎傳治郎	米崎九兵衛	橫尾松之助	吉田茂平	吉田真一	吉田靜致	橫田彌平	橫田熊次	橫田常吉	橫田啓藏	橫田耕三	橫田圓助	橫田武衛	橫田琢磨	橫田喜一郎	橫田久太郎	橫田羊治郎	橫田銀之助	橫田庄四郎	橫田忠右衛門	
八	五	六	七	六	五	七	七	七	六	六	六	六	五	五	五	五	五	五	五	四	四
吉村友平	吉村鐵之助	吉村清之助	吉村惠吉	吉村伊助	橫地石太郎	橫尾松三	橫堀治忠	好川笱一	芳川祐輝	吉川祐助	吉川專助	吉川久七	吉川正夫	吉川芳太郎	吉川龜次郎	吉川幸藏	吉江幸三	吉井直彌	橫島直彌	橫江半三郎	橫手千代之助
六	五	五	三	六	六	六	六	六	七	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二
丹波波三	瀧澤菊藏	瀧澤善太郎	丹澤善太郎	丹澤善太郎	九	吉武榮之進	吉植庄一	吉野周作	吉久保清三	吉町太郎	吉崎鉦之助	橫濱第二銀行	吉永良延	吉見乾海	吉峰幸之助	吉弘素郎	吉本彦太郎	吉瀬松之助	芳澤謙吉	米山長幸	
一	一	一	一	一	一	五	五	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一
田端要平	田井真吉	太宰政夫	太宰文藏	太宰文藏	高木重兵衛	高木道一	高城規一	高見榮治	高見種吉	瀧村立太郎	瀧宮虎之助	高宮久彦	高島屋吳服店	高島七郎	高島仲右衛門	高安右衛門	高山圭三	高山壽太郎	高山峻吉	高山永三郎	高山長幸
六	六	六	五	五	二	五	五	四	四	六	三	三	五	九	四	二	二	三	三	四	一

加瀨義雄	加瀨忠次郎	加島安次郎	何門桂太郎	加納哲三郎	加納友之介	加倉井楯夫	賀谷長兵衛	賀正太郎	賀覺次郎	藤木重教	木外岐雄	川住銳四郎	葛西萬代	金子喜代	可兒孝次郎	可兒孝次郎	加藤守一	加藤高明	加藤久明	加藤清太郎	加藤仙太郎	加藤左衛門
六	六	五	五	五	五	四	四	四	三	三	六	五	四	三	三	一	一	七	四	四	三	三
片山量平	片山正雄	片山正夫	片山三郎	片山徹一郎	片山禮三郎	神田銀三郎	葛城治郎	桂廣太郎	桂潛太郎	金岡又左衛門	金井久兵衛	金井清志	川崎銀吉	川崎卓男	川崎清吉	川崎西貞次郎	鳴島義英	樺太工業株式會社	賀島政一	香川櫻男	賀茂嚴雄	賀來惟義
三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	五	三	三	三	三	六	六	七	七	六	六
河合鉢太郎	河崎助太郎	河上俊彦	川龜豐二	川北電氣企業社	河喜多能雄	河相三郎	河本重次郎	河本直一	各務幸一	各務鎌吉	片岡春直	片岡温郎	片岡輝吾	片岡喜輔	片岡倉兼太郎	片岡倉健吉	片岡桐寅	片岡真央	勝呂平右衛門	勝田銀次郎	勝本勘三郎	勝本勘三郎
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
吉岡新五郎	吉岡嘉兵衛	吉岡彌生	吉岡忠藏	吉岡忠藏	吉岡弘素	吉岡本彦	吉岡幸太郎	吉岡上田	神田光庸	金田庸夫	河上哲太	河村嘉一郎	河村德一	河村岩吉	河內源七郎	河內研次郎	河浦謙一	河野豐次郎	河野正義	河合佐兵衛	河合藤七	河合藤七
二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
橫井半三郎	橫井辨之助	橫井時藏	橫山吉京	橫山十郎	橫山壽太郎	橫山俊二	橫山慶爾	橫山信隆	橫山芳章	橫山次郎	橫山又次郎	橫山德次郎	橫山勝太郎	橫山千之助	橫田永秀	橫田秀雄	橫田田鄉	橫田保兵衛	橫田鄉助	橫田成年	橫田成年	橫田成年
六	六	六	二	二	二	二	二	二	九	九	九	九	八	八	八	五	二	八	七	七	二	一

索引

















































皇室

天皇

明治天皇第三皇子

御名 嘉仁

御降誕 明治十二年八月三十一日

立太子 明治二十二年十一月三日

御踐祚 大正元年七月三十日

御即位 大正四年十一月十日

大嘗祭 大正四年十一月十四日

后 御名 節子

皇

故從一位大勳位公爵九條道孝第四女

御誕生 明治十七年六月二十五日

御入内 明治三十三年五月十日

立后 大正元年七月三十日



皇太子 御名 裕仁

今上天皇第一皇子大勳位

御誕生 明治三十四年四月二十九日  
立太子式 大正五年十一月三日  
御成年式 大正八年五月七日  
攝政御就任 大正十年十一月二十五日

皇太子妃 御名 良子

大勳位久邇宮邦彥王第一王女

御誕生 明治三十六年三月六日  
御入輿 大正十三年一月二十六日  
皇太子妃宣下 大正十三年一月二十六日

皇子 御名 崇仁 御稱號澄宮

今上天皇第四皇子

御誕生 大正四年十二月二日

皇族

秩父宮 (東京市麴町區紀尾井町)

雍仁親王

今上天皇第二皇子

御誕生 明治三十五年六月二十五日

高松宮 (東京市麴町區三年町)

宣仁親王

今上天皇第三皇子

御誕生 明治三十八年一月三日

伏見宮 (東京市麴町區紀尾井町四番地)

博恭王 大勳位功四級

故大勳位貞愛親王第一子

御誕生 明治八年十月十六日

經子 勳一等

故從一位勳一等公德川慶喜第九女

御誕生 明治十五年九月二十三日

故大勳位貞愛親王妃

利子女王 勳一等

故一品熾仁親王第四女

御誕生 安政五年五月二十一日

博義王

大勳位博恭王第一子

御誕生 明治三十年十二月八日

博義王妃

朝子

公爵一條實輝第二女

御誕生 明治三十五年六月二十日

博信王

博恭王第三子

御誕生 明治三十八年八月二十二日

敦子女王

博恭王第二女

御誕生 明治四十年五月十八日

知子女王

博恭王第三女

御誕生 明治四十年五月十八日



博英王

博恭王第四子

御誕生 大正元年十月四日

邦芳王

故貞愛親王第二子

御誕生 明治十三年三月十八日

文秀女王

故邦家親王第七女

御誕生 弘化元年正月二十九日

◎華頂宮

(東京市芝區三田臺町一丁目五番地)

◎山階宮

(東京市麴町區富士見町五丁目一番地)

武彦王

故大勳位菊麿王第二子

御誕生 明治三十一年二月十三日

常子

故從一位勳一等公爵島津忠義第三女

御誕生 明治七年二月七日

藤麿王

故菊麿王第三子

御誕生 明治三十八年二月二十五日

萩麿王

故菊麿王第四子

御誕生 明治三十九年四月二十一日

茂麿王

故菊麿王第五子

御誕生 明治四十一年四月二十九日

◎賀陽宮

(京都市下京區三十三間堂廻六百四十五番地 東京市町區一番町御假寓)

恒憲王

故大勳位邦憲王第一子

御誕生 明治三十二年一月二十七日

邦壽王

從二位公爵九條道實第五女

御誕生 明治三十六年五月十六日

美智子女王

恒憲王第一女

御誕生 大正十二年七月二十九日

好子

故從一位侯爵醍醐忠順第一女

御誕生 慶應元年十月二十日

◎久邇宮

(京都市上京區東櫻町百十七番地 京都市下灘谷町御假寓)

邦彦王

故大勳位朝彦親王第三子

御誕生 明治六年七月二十三日

倪子

故從一位勳一等公爵島津忠義第七女

御誕生 明治十二年十月十九日

朝融王

邦彦王第一子

御誕生 明治三十四年二月二日

邦英王

邦彦王第三子

御誕生 明治四十三年五月十六日

多嘉王

故朝彦親王第五子

御誕生 明治八年八月十七日

靜子

子爵水無瀬忠輔第一女

御誕生 明治十七年九月二十五日

恭仁子女王

多嘉王第三女

御誕生 大正六年五月十八日

家彦王

多嘉王第二子

御誕生 大正九年三月十七日

德彦王

多嘉王第三子

御誕生 大正十一年十一月十九日

◎梨本宮

(京都市下灘谷町青山北町七丁目二番地)

守正王

故大勳位久邇宮朝彦親王第四子

御誕生 明治七年三月九日



大勳位守正王妃

伊都子 勳一等

故從一位勳一等侯爵鍋島直大第二女

御誕生 明治十五年二月二日

規子女王

守正王第二女

御誕生 明治四十年四月二十七日

◎朝香宮 (東京市芝區高輪南町十七番地)

鳩彦王 大勳位

故大勳位久邇宮朝彥親王第八子

御誕生 明治二十年十月二日

大勳位鳩彦王妃

允子內親王 勳一等

明治天皇第八皇女

御誕生 明治二十四年八月七日

紀久子女王

鳩彦王第一女

御誕生 明治四十四年九月十二日

孚彦王

鳩彦王第一子

御誕生 大正元年十月八日

正彦王

鳩彦王第二子

御誕生 大正三年一月五日

湛子女王

鳩彦王第二女

御誕生 大正八年八月二日

◎東久邇宮 (東京市麻布區市兵衛町一丁目十三番地)

稔彦王 大勳位

故大勳位久邇宮朝彥親王第九子

御誕生 明治二十年十二月三日

大勳位稔彦王妃

聰子內親王 勳一等

明治天皇第九皇女

御誕生 明治二十九年五月十一日

盛厚王

稔彦王第一子

御誕生 大正五年五月六日

彰常王

稔彦王第三子

御誕生 大正九年五月十三日

◎北白川宮 (東京市芝區高輪南町十七番地)

永久王

故大勳位成久王第一子

御誕生 明治四十三年二月十九日

故大勳位成久王妃

房子內親王 勳一等

明治天皇第七皇女

御誕生 明治二十三年一月二十八日

故能久親王妃

富子 勳一等

故從一位大勳位公爵島津久光養女

實故正二位勳四等侯伊達宗徳第二女

御誕生 文久二閏年八月八日

美年子女王

故成久王第一女

御誕生 明治四十四年五月六日

佐和子女王

故成久王第二女

御誕生 大正二年十月十五日

多惠子女王

故成久王第三女

御誕生 大正九年四月十五日

◎竹田宮 (東京市芝區高輪南町十七番地)

恒徳王

故大勳位恒久王第一子

御誕生 明治四十二年三月四日

故大勳位恒久王妃

昌子內親王 勳一等

明治天皇第六皇女

御誕生 明治二十一年九月三十日

禮子女王

故恒久王第一女

御誕生 大正二年七月四日



●閑院宮 (東京市麴町區永田町二丁目二十番地)

載仁親王 大勳位功二級

故伏見宮邦家親王第十六子

御誕生 慶應元年九月二十二日

大勳位載仁親王妃 智 惠 子 勳一等

故正一位大勳位公爵三條實美第二女

御誕生 明治五年五月二十五日

春 仁 王

載仁親王第二子 御誕生 明治三十五年八月三日

朝鮮王族

大勳位

昌德宮李王 御名 拓

勳一等 御誕生 明治七年三月二十五日

昌德宮妃 尹氏

御誕生 明治二十七年九月十九日

昌德宮王世子 御名 垠

御誕生 明治三十年十月二十日 御婚儀 大正九年四月

華子女王

載仁親王第五女

御誕生 明治四十二年六月三十日

●東伏見宮 (東京市赤坂區葵町二番地麻布區飯倉町元徳川侯舊邸御假寓)

故依仁親王妃

周 子 勳一等

故從一位勳一等公爵岩倉具定第一女 御誕生 明治九年八月二十九日

勳二等

昌德宮妃 御名 方子 御稱號 方子女王

御誕生 明治三十四年十一月四日 御婚儀 大正九年四月

義和宮李垠公 平吉

御誕生 明治十年三月三十日

李垠公妃 金氏

御誕生 明治十一年十二月二十二日 御名 錫

御誕生 大正元年十一月十五日

御成婚紀念 復與之魁 一九〇五年に於ける大日本人物史

東京朝日通信社編纂

い(ろ)之部

井伊直忠君

從四位 伯爵

君は舊江州彦根の藩主にして故從二位勳二等伯爵貴族院議員井伊直憲君の第二子なり、明治十四年五月彦根に生る、家門の系譜たる史上に不朽の名ある藤原鎌足公の末裔なるが其裔孫直孝は徳川氏の創めに當りて武士道の化身として英名を千載に遺し徳川三百年の國家を泰山の安きに置けるが直綱に到り家茂に仕へ大老職となり國事の大柄を兼り聲譽を高からしめた父直憲君は其第二子にして嘉永元年四月襲封し勳功あり明治維新の大業成るに及び十七年特に伯爵を

い(ろ)之部

授けられ爾來累進して正二位勳一等に陞叙せられ廿三年伯爵議員に特選せらる、卅五年直忠君薨去後、君は特旨を以て襲爵し家門の榮達を双肩に荷ふに到り更に史上赫々の光彩を添ふべく前途多望なりと謂ふべく、君の人となり高雅率直小事に拘泥せず能く大局に通ずる所累代の英主に負かず偏に學事に熱中し時勢の進運を白眼冷視する所眞に敬重の値ありと云ふべきなり一男直愛君あり (現住)東京市麴町區一番町二一 (電話)九段一一〇

岩崎勳君

勳四等衆議院議員政友會幹事長

君は静岡縣駿東郡清水村八幡



岩崎元功君の長男たり、明治十一年二月生る、家代々清水八幡神社の神官にして父元功君は更に官幣大社三島神社の禰宜を兼ねたり。君幼にして通悟潤達にして衆人の注目する處なりしが夙に大志あり覇を中原に稱へん

ことを期し、郷里の中等學校を卒業や笈を負ふて東都に出で第一高等學校に入り、同卅二年卒業し、同年東京帝國大學佛法科に入り三十六年卒業、直ちに文官高等試験に應じ之に合格し、

同年辯護士特許辯護士となりて積年の蘊蓄を傾注せるに、漸く其學才器量は世人の認むる所となり事務益々發展致し、斯界に名を爲すに到り今や日本辯護士協會理事たり又東京辯護士會議員たる他渥美養魚株式會社監查役、駿東新聞社取締役、東洋木工監查役等を兼ねつゝあるが更に鬱然たる勢威を發揮して政界に馳驅する事十餘年、衆議院議場に於て議事進行係りとして雷名ありき衆議院議員たること四回に及び今や政友會の幹事長として本部の全黨務を主幹し黨内最年少の逸足として前途將に洋洋たるものあり、夫人とく子の間に一男郁夫君あり (現住)東京市麻布區本村町一五〇 (電話)高輪四八七五





### 入江爲守君

正三位勳二等子爵東宮侍從長

君は明治元年四月京都に生る伯備冷泉爲紀氏の令弟にして明治七年入江家に入り先代爲福君の養嗣子となり、翌八年家督を相續す、明治十六年殿掌を仰付られ翌十七年子爵を授けらる、當家は内大臣藤原鎌足十二代權大納言長家の裔權中納言爲條の二男相尙の後なり相尙一家を立て、入江と稱す、數世を経て爲福に至る、入江家は代々歌道の家元にして君また歌學に通じ和歌に堪能なり故を以て多年御歌所參候たりしが東宮侍從長たるに及んで其職を辭せり、君亦漢籍に造詣深く、三島博士の高弟

たり其他有職故實に精しく文藝美術の鑑賞に眼識ある事遍く世人の知る所なり、君は常に餘裕ある生活を理想とし、閑を得れば乃ち謠曲繪畫園藝讀書等に悠々として自ら楽しむ、人物温雅氣品高きを以て特に拔擢せられて大正三年四月東宮侍從長に任せらる、眞に適材と謂ふべし



### 今井環君

醫學博士

君は明治廿三年二月、鹿兒島縣出水郡中出水村に生る。大正四年東京帝國大學醫學科大學を卒業せられ更に研究科に入り木下、磐瀬、林の諸教授並に眞鍋講師の下に研讀を積む事數年後順天堂病院に入り産婦人科を擔當せらる、大正十年學位を授けられたるが其の後更に歐洲に遊學されエーヤマン教授フビーヤ教授ブム教授等の教室に於て斯科の蘊蓄を窮めらる、歸朝後引續いて同院に在勤せられ斯界に聲名あり、君は醫學上の理論

を實際化することに努力されつつあるが、總ての生活は一面此趨勢を有せなければならぬと説かる、君は小旅行又は自動車運轉杯に興味を有せらるゝが殊に寫眞撮影には極めて堪能なり、さわ子夫人との間に三令嬢あり

### 井原文吉君

信陽銀行常務取締役

君は長野縣上水内郡古牧村の人慶應元年八月生る、井原重左衛門君の次男なり、先代與吉君の養子となり、二十九年三月家督を相續す、君は巨萬の富を有し、之を利用する手腕たる地方同業者中稀に見る所の逸物たり更にまた同地方に於ける名望家たり、今や株式會社信陽銀行常務、長野實業銀行、吉田倉庫等各社の重役たり、地方財界の爲め熱心盡力せられつゝ、ありきん子夫人の間に三男一女あり

### 井原豊作君

千代田通信社々長

君は井原八百助君の長男、明治七年一月愛媛縣に生る、曩に東京日日新聞記者たりし事あり明治四十五年個人通信業を創立し大いに活躍する所あり大正二年四月事業を擴張して日刊千代田通信社を起し、宮内省、内閣等の専門通信機關を以て立つ、其他雜誌心の華を發行し又明治聖訓を發行し、我思想界の爲めに盡す、現に大日本歌道奨勵會の幹事たり、夫人しげ子は學習院女學部助教授たり、夫人との間に季子壽子の二令嬢あり

〔現住〕東京市麴町區永田町一ノ三〇〔電話〕新橋二八四

### 井原彌四郎君

農業、多額納稅者

君は安政三年九月生る、埼玉縣の人井原彌四郎君の長男たり代々農を以て業とし、多額納稅者にして同地の名望家たり

い(る)之部

族は長男貞亮君次男勝三君ゆき子(貞亮君妻)きよ子、みね子の二嬢あり

### 井原外助君

廣島電燈株式會社常務

君は山口縣士族井原彌三君の次男、明治六年二月生れ後分家せり、前記會社重役たる他長府電燈、日本電話工業、徳島水力電氣各取締役、伊勢電氣鐵道株式會社監査役たりすみ子夫人との間に一男一君養女ハツ子あり

### 井原百介君

正四位 勳四等 東亞肥料株式會社取締役

君は山口縣士族井原勘兵衛君の二男にして萬延元年二月生る先代壽養子たり、明治十三年駒場農科大學を卒業し、農商務省御用掛となる後山口中學校教諭山口農學校長、山口高等中學校教諭宮城農學校長、宮城縣、大

阪府各技師、大阪府立農學校長に歴任し、又曩に衆議院議員に當選すること二回曾て歐洲へ差遣せられしことあり、ヒサ子夫人及び養子信次君あり

### 井原長吉君

太陽製糖株式會社取締役

君は明治九年五月を以て生る東京府の人井原龜吉君二男たり現在前記會社重役たり、まさ子夫人他男六一君あり



### 今村太平次君

今村製菓株式會社々長

君は明治七年四月熊本縣熊本に生る、今村卯平君の二男たり父祖代々製糖を業として同市の舊家なりしが、君は幼にして學を修め傍ら家業を視る、齡十一にして不幸嚴父を亡ふ、長ずるに及んで専心一意家政の整理に當り業務の繁榮を計る、壯年に達し社會公共の爲めに盡す所あり爲めに郷黨の間に重きをなし、三十八歳にして市會議員に舉げられ市政に貢献する所多かりしが君の志遠大にして眼前の境遇に安んずる事能はず斷然公職を擲ち家業の全部を舉げて令弟に譲り夫人を伴ひ奮然上京し轉た世路の艱難を砥めたるが不屈不撓奮闘努力の結果、漸く品質の優良なるを世人に認められ遂に今日の大を成すに到りしなり、今村製菓株式會社は從來同君個人經營なりしを大正七年十月資本金壹百萬圓の株式組織に改め、自ら社長たり、本社工場の外下濫谷に第二工場を設け大に發展擴張したるが更に本年



四月同君の經營たる朝日製麵株式會社(資本金五拾萬圓)を併合し同社中野町工場を第三工場とし又關西方面の擴張の爲め大阪に出張所を設け大に發展を期しつゝあり、君は旅行、骨董等に趣味を有せらるゝが就中骨董に關する趣味は事業に次いで熱心家なりと云ふ、君は現に今村製菓株式會社々長たるの外佐久間製菓株式會社、鶴善製菓株式會社其他數社の重役を兼ね、尙ほ東京商業會議所議員東京菓子同業組合長の要職にあり、君は世上稀に見る立志傳中の一偉彩たり。トキ子夫人の間に秀太郎君吉之助君の二男あり

〔現住〕東京府下澁谷町下澁谷  
〔電話〕高輪七七〇一

### 井戸川辰三君

正五位勳三等功四級陸軍少將近衛歩兵第二旅團長

君は明治二年十二月生る宮崎縣士族井戸川唯一君の長男なり明治二十四年陸軍歩兵少尉に任

じ大正七年陸軍少將に累進す、其間參謀本部出仕、滿州軍總司令部附、關東都督陸軍部附、東京衛戍部副官、陸軍大臣副官兼陸軍省副官本郷聯隊區司令官、近衛歩兵第三聯隊長等に歴補せり、曩に支那へ出張を命ぜられたることあり、ヨネ子夫人との間に男一君女光子須賀子英明君三郎君涉君あり長女文子は陸軍中尉沼田多稼藏君に嫁す

〔現住〕東京市麻布區斧町一七七  
〔電話〕芝四五三六

### 井戸文四郎君

辯護士 高松木材株式會社々長

君は香川縣士族村上太一郎君の弟にして、明治元年七月を以て生る、先代利平君の養子たり明治二十三年明治法律學校を卒業す辯護士たり、曾て衆議院議員に擧げられたることあり、君は前記會社重役たる他高松電燈株式會社監査役たり、令閨をヨネ子と稱す

〔現住〕高松市南鍛屋町

### 井戸川義忠君

廣野炭礦株式會社專務

君は慶應元年九月生る、福島縣士族井戸川義忠君の長男たり現時前記會社重役たる他中島商事株式會社取締役、北日本拓殖會社監査役たり、たま子夫人との間に男義賢君あり婦をととき子と稱す

〔現住〕東京市淺草區今戸町一三  
〔電話〕淺草一一二〇

### 井東幸七君

廣島商業銀行頭取

君は廣島縣の人林幸助君の長男にして天保十一年五月生る先代理助の養子たり、現時は前記會社重役たる他廣島商業會議所議員たり、家族は男茂兵衛君外次郎君孫三代造君同妻カネ子等あり

〔現住〕廣島市塚本町

### 井東悦二君

安藝貯蓄銀行取締役

君は慶應二年九月生る、廣島縣の人筒井敬三君の次男たり井

東幸七君の養子にして後分家す曾て株式會社廣島商業銀行監査役たり、現時は前記會社重役の任にあり、リカ子夫人との間に男三次郎、麻二、敬三の三君及女アイ子カネ子エソ子の三女あり

### 井狩平九郎君

下館銀行頭取

君は嘉永六年八月生る、滋賀縣の人井狩三右衛門の長男なり前記會社重役たる他八幡銀行の監査役たり、たゞ子夫人の間に三郎君完二君の二男あり長女やそ子は嫁す

〔現住〕滋賀縣蒲生郡八幡町  
〔電話〕六六六

### 井岡虎之助君

兵庫米穀取引所仲買人

君は明治二十年七月生る、兵庫縣人西田貞亮兄にして入夫たり、現時兵庫米穀取引所仲買人たり、しげ子夫人の他養子さくあり

〔現住〕神戸市水木通三、六〇  
〔電話〕本局二二〇三

### 井狩彌左衛門君

江頭農産銀行取締役

君は明治十六年四月生る、前名を雄吉と稱し京都府人能勢清太郎弟養子たり、現時前記會社重役たり、つま子夫人の間に男甫君三男克君長女園子あり

〔現住〕滋賀縣野洲郡北里村

### 井川馨彦君

北海拓殖銀行貸付課長

君は島根縣士族井川冽君の四男にして明治十八年四月生る現時前記會社の課長たり、あや子夫人の間に男武彦君三男晴彦君四男英彦君あり

〔現住〕札幌北一條西二丁目拓殖銀行内

### 井田幸介君

君は明治十四年四月を以て生る、兵庫縣の人井田幸介君の長男たり前名を善介と稱せり、勞力受負業を營む、かつ子夫人の間に長女房子二女君子三女幸枝あり弟幸治君は夫人及び子息を

伴ひ分家せり

〔現住〕神戸市兵庫湊町一ノ五二  
五〔電話〕本局五九

### 井浦義久君

正五位勳四等朝鮮總督府判事

君は慶應三年五月福岡縣に生る井浦藤吉君の弟分家なり、明治二十二年明治法律學校卒業後文官高等試験に合格し、檢事監督判事、長崎、東京各控訴院判事等に歴任す、現時前記の官職にある他平壤地方法院新義州支廳判事たり、家はイチ子夫人との間に長男英一郎君次男雄二郎君長女綾子次女香代三男武三郎君四男達四郎君七女久子八女道子あり、長女千代子及び三女静子は嫁せり

〔現住〕朝鮮新義州平壤地方法院支廳官舎内

### 井村寅三君

糸山銀行取締役

君は長崎縣士族井村市右衛門君の長男なり慶應二年八月生る現時糸山銀行取締役なり、家族

は夫人ミヨ子養子悟君女エン養子ツナ子及孫清あり二女キミ子は嫁せり

〔現住〕佐世保市長尾町

### 井上市次郎君

日本商事信託株式會社取締役

君は明治十年六月生る、大阪府井上萬次郎君の長男なり、生魚問屋を業とし他に日本商事信託株式會社及び朝日酒類株式會社取締役たり、家族は繼母に子及夫人する子他男泰三君女輝子弟徳之助君同妻美代子弟順三君同妻智子三男三郎君二女愛子四男康藏君甥利見君あり二男敬次君は大阪府岡本新三郎君の養子となれり

〔現住〕大阪市西區江戶堀南通五ノ一七  
〔電話〕土佐堀二二二八

### 井上彌太夫君

江頭農産銀行專務取締役

君は嘉永四年十二月を以て、滋賀縣の人村瀬八左衛門君の三男として生る、先代彌太夫の養子となりて、滋賀縣の人小島雄

作君の妹とめ子を婚し、先代の後を相續す、現在江頭農産銀行の專務取締役たり

夫人との間に長男岩尾君二男彌次郎君外に四女あり、次男は滋賀縣人井狩さと子の跡を相續し二女さと子は京都府人井上治郎兵衛君に嫁せり

〔現住〕滋賀縣野洲郡北里村江頭

### 井田馨楠君

從四位勳五等功五級 男爵 豫備陸軍砲兵少佐

君は明治十四年二月に生る先代井田讓君の二男なり慶應義塾に學び、明治三十五年陸軍砲兵少尉に任じ、大正八年少佐に陞る、又其の間に陸軍士官學校教官に補せらるる夫人久子は、公爵大山柏氏の姉なり

當家は先代井田讓君より顯る讓君、戊辰の役の際京都に至り、岩倉具視に従ひ國事に奔走し、明治四年陸軍少將に進み、特命全權公使元老院議官となり、同



二十三年勳功によりて、男爵を授けられたるなり。

〔現任〕東京市麴町區永田町二ノ六二

井口録郎君

銀行會社重役

君は大分縣の人今馬三平君の二男にして、安政五年正月を以て生る。井上熊藏君の養子となりて絹糸紡績各取締役並びに耶馬深鐵道の監査役たり。夫人マヌ子は養父利平君の長女なり

〔現任〕大分縣下毛郡中津町

井筒政藏君

大阪屋 金物商

君は明治十年二月大阪府に生る大庭政助君の二男にして先代良助君の養子たり、代々金物商を營み大阪屋と稱す、家族は夫人の子の間に男政雄君女ひさ子あり尙二男良之助君二女貞江三男秀三君四男潤吉君あり弟寅之助君は妻ちう子と共に子女を伴ひ分家せり〔現任〕大阪府南區

安堂寺橋通三ノ五〇〔電話〕國船場六二

井内太平君

徳島縣多額納税者

君は徳島縣井内大治君の長男なり、文久三年六月を以て生る、度量衡器製造販賣業を營む、多額納税者たり、別に大正林業索道株式會社取締役なり、家族は母タケ子夫人アサノ及男慎一郎君敬次郎君養子佛治君同妻志津子の間に保子君正文君あり長女アイ子其夫聰次郎君と共に弟信二君も亦妻シゲ子と共に各分家せり〔現任〕徳島市西新町一三

井田清三君

横濱商業會議所議員

君は元治元年六月を以て生る兵庫縣士族井田佐君の長男なり明治十八年慶應義塾卒業す、曩に山陽鐵道株式會社會計課長たりしことあり、現時前記要職にある他麒麟麥酒株式會社專務取締役並に日本硝子工業株式會社

取締役たり、家族はときえ夫人との間に男房雄君女かな子二男秀雄君七女ツネ子あり二女まき子

〔現任〕東京市外中澁谷字並木

井内勇君

從五位朝鮮銀行理事

君は佐賀縣士族井内傳一君の長男なり明治十一年三月を以て生る、明治三十八年東京帝國大學法科を卒業せり、後稅務監督官、函館稅務署長に歴任し現時前記會社調査課長たる他検査局長を兼務せり、家族は泰子夫人との間に男與一君女綾子あり妹レイ子は鹿兒島縣人泉常美和君二男常五郎君に姉エイ子は東京人齋藤兼吉君に嫁せり尙伯母マ子あり

〔現任〕京城南米倉町

井上歡二君

衆議院議員北海道銀行取締役

君は明治四年六月生る、徳島縣人井内幸七君の長男なり前記要職にある他現旭川區會議員、同商業會議所會頭、旭川商事株式會社代表、旭川木工株式會社、東洋酒精釀造株式會社各取締り家族はカヨ子夫人の間に男謹二君女ソノ子、敏子、壽美、田鶴、正敏、美智あり長女喜美子は岩手縣人野田英三長男哲夫君に嫁し弟與次君は妻と共に分家し六男正恭君は其養子となれり

〔現任〕旭川 市條通

井村萬之助君

百十七銀行專務取締役

君は長野縣人井村萬之助君の長男、萬延元年八月生る現に前記銀行重役たる他飯田貯蓄銀行株式會社支配人たり夫人ちか子の間に養子成次君女喜美子民恵ゆき子あり二女理代子は京都市人小林隆治君に妹はるゑは長野

縣人牧野春郎君に嫁せり

〔現任〕長野縣下伊那郡飯田町

井上徳三郎君

大阪商業會議所員 大阪株式

取引所仲買人

君は和歌山の人にして井上庄助君の二男なり慶應二年十一月を以て生る明治二十五年父君の没後家督を相続す、初め大阪三品市場仲買人となり後大阪株式取引所仲買人と爲る、君資性極めて恬澹快濶にして他と交り毫も境壁を設けず一見にして舊知の如く而も疑懼を以て他人に接する事なし以て北濱の名物漢として其名あるも故なきにあらず然れども君一度出で、輸贏を市場に決せんとするや用意周到にして迫らず、斯くして一度決すれば即ち電光も雷ならざるの敏腕を以て突撃奮進す果然投機、其圖に的中して一舉萬金を獲得して斯界に頭角を表す、今や前記名譽職にある他日本冷蔵會社株式會社長、大阪港土地、和歌

山水利電氣各取締役、南洋護謨拓殖監査役、大阪三品取引仲買人等の職にあり前名を徳松と稱す

〔現任〕大阪市東區高麗橋通一ノ八〔電話〕國本局一一二五

井上虎治君

浪速セルロイド工業株式會社代表

君は明治九年六月兵庫縣に生る川上右衛門君の三男にして先代路一郎君の養子なり、初め遞信省通信書記、姫路郵便局電信課長に歴任し、轉じて實業界に入り合資會社商船臺灣組支配人大阪商船株式會社助役、合資會社富島組代表社員等に就任今日に到る現時浪速セルロイド工業株式會社代表たる他櫻島土地、東洋フェルト各取締役、綱島土地、極東硝子工業の各監査役たり、家族は養母いく子、夫人よし子の間に男路治君、三男雄三君及姉のふ子あり〔現任〕大阪市南區天王寺松ヶ鼻町五四七〇〔電話〕南二五七七

井上利宣君

下松銀行取締役

君は明治十八年五月生る、山口縣士族井上達己君の長男なり現時下松銀行取締役たり、家族は母カネ子、夫人淑子、弟隆一君弟妻千代子弟亥輔君は分家し、従姉シツ子は山口縣士族岩崎藩郁君の長男の左輔君に嫁せり

〔現任〕山口縣都濃郡徳山町

井上徳兵衛君

小徳 魚類商

君は大阪府の人井上徳兵衛君の長男にして明治三十三年六月生る前名義三と稱せり、魚類商を營み小徳と稱し名あり家族は祖母エイ、母すへ、妹濱子あり尙弟孝君、俊三君妹幸子あり叔父眞三君は妻マキ及其子を伴ひ分家し姉しな子は同職木原忠兵衛君二男廣君に嫁せり

〔現任〕大阪市西區京町堀上通り五ノ四〇〔電話〕國土佐堀四四〇

井上治郎君

川西商事株式會社取締兼倉庫部長

君は明治十九年四月京都市に生る井上治助君の二男なり、大正三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業せり現時は前記川西商事株式會社取締兼倉庫部長たり、家族は父治助君、母しを妻マツ子、弟三郎君、弟すか子兄妻ユキ子、甥治一君尙長女美和子、甥次夫君、同侯三君、同四郎君、同逸夫君あり

〔現任〕神戸市西須磨町字上天神東

井上徳次郎君

洛西電車軌道株式會社取締役

君は明治十四年十二月兵庫縣に生る井上敬一君の長男なり、現時は洛西電車軌道株式會社取締役たり、家族は母みね男靜雄君弟泰治君あり弟武雄君は其妻行枝と共に同謙吉君は其妻みつへと共に各其子女を伴ひ分家し妹益子は福岡縣人西村美徳次郎君に嫁し二男正君は大阪府大林



ナル方に入家せり

〔現住〕大阪府泉北郡濱寺村

井上留太郎君

石油商

君は大阪府の人、慶應元年十月生る、林久右衛門君の長男にして入夫せり、業として石油商を營む、家族は妻よねの間に男保太郎君あり同妻サト子との間に彌太郎君、同保子の二子あり

〔現住〕大阪市西區北堀江通六ノ一九〔電話〕園新町一五一九

井上長平君

君は明治四年六月大阪府に生る井上長三君の長男にして前名を善吉と稱せり、業として印刷事業を營めり、家族は父長三君繼母さく、妻エツ子男孝吉君同妻ユキ子男良吉君二女フク子五男圓三君、六男康吉君、七男嘉三君、孫幾代あり、長女トヨ子は大阪府人保田タネ二男新吉君に嫁し、姪コウ子は分家せり

〔現住〕大阪市北區堂島船大工町

七〔電話〕北一〇〇八

井上利助君

商工貯金銀行 京都工業各取締役

君は京都府士族鳥羽重義君の五男にして明治三年十月京都に生る、先代利助君の養子たり前名を六郎と稱せり、代々呉服商を營み傍ら前記の各會社の重役たる他京都取引所株式會社の理事なり、家族は養母コウ、夫人フサ子との間に男芳次郎君彦三郎君、女タカ子八十子あり、養祖父利三郎君祖母ヒデ子と共に其養孫重節君を伴ひて分家し、長女ヨシ子は同利三郎君の相續人となり二女あい子は京都府與田久兵衛君に嫁せり

〔現住〕京都市下京區六角通り新町西入五藏町二六〔電話〕園中三三一

井上勝純君

正五位勳五等子爵海軍少佐

君は明治十七年七月東京に生る、松浦詮伯爵の男なり先代勝君の養子にして明治四十三年養

父勝君薨去せしより同年襲爵仰付られ正五位に叙せらる、夙に海軍に志し大正七年少佐に累進す、曩に元帥副官兼海軍々令部出仕、伊勢分隊長に歴補す、當家は先代勝君より家名を揚げ勝君は舊山口縣藩士にして明治元年以來職を海軍に奉じ特に鐵道事業の經營に參畫して貢獻する處多く明治二十年華族に列し子爵を授けらる、同四十三年歐洲を視察し歸朝す我國に於ける鐵道界の先達として有名なり、家族は夫人千八重子との間に長男勝英君長女正子、二女加禰子あり養姉うめ子は男爵森村開作君に養妹辰子は侯爵松方正義男義輔君に嫁せり

〔現住〕京都市赤坂區榎坂町一〔電話〕芝一九五

井上嘉都治君

正五位勳四等 醫學博士

君は京都府士族井上善助君の三男にして明治九年五月を以て生る明治三十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し、京都帝國大學醫學科大學助手を初めとして同學助教に進み、更に東北帝國大學醫學專門學部教授に歴任し後醫學化學研究の爲め瑞獨佛國等に留學し歸朝後同大學教授として現在に到る、家族はカエ子夫人との間に男剛君女善美子兄妻むら子、姪夫莞爾君、姪佐久子、三男榮君、再姪加都良、甥高暉君あり

〔現住〕仙臺市北三番町

井上利八君

新報便鐵道株式會社專務取締役

君は廣島縣の人、森田留八君の長男にして慶應二年十一月生る先代エイ子の養子なり彼は元政友會廣島縣支部長として縣會議長として同縣下に重きをなして居たるが今や革新俱樂部に入黨して新代議士に當選し得意の境にあり事業家としての君は現時輕便鐵道株式會社專務取締役たり家族は長男辰一君、二男仁三郎君、三男唐吉君、長女清子、四男修君、五男五郎君、二女光子等あり

〔現住〕廣島縣沼隈郡水谷村

井上一男君

横濱正金銀行調査課長

君は文久元年五月、山口縣に生る、士族井上唯輔君の長男なり、初の横濱正金銀行大連支店長、大連商業會議所常務員、大連重要物産取引所議員、大連慈惠病院評議員等に就任せしが現

時は前記の會社に在勤されつゝ、あり、家族は夫人もと子との間に長男信太郎君、二男順君、他父唯輔君母リユあり、長女春枝は鹿兒島縣人兒玉久君に嫁し、弟明三郎君は妻ハギノと共に子を伴ひ分家し、同右次君も亦分家せり

〔現住〕横濱市南仲通五ノ八三〇

井上角五郎君

北海炭礦株式會社社長 京都電氣鐵道株式會社社長

君は廣島縣福山の近村に於て安政六月十月生る、井上忠五郎君の弟にして分家なり、幼にして父君に永別し兄忠五郎君と共に慈母の下に傳育せられ、長ずるに及んで轉々世路の艱難を越めたるも天資惠敏才氣幹發なる君は終た今日の如き社會上の地位と實力を占むるに到れり君の才幹手腕に至りては政治上と言はず又實業界と言はず、行く所として可ならざるはなく従ふとして事蹟の擧らざるは無し初期

議會以來代議士として議席に列り所屬政黨員の間に敬重せられ常に之が要部に位置して論らざるも偶然にあらざるなり、偶今春の總選舉に於て井上利八君の爲に羸を譲りしは君の爲め更に將來の發展に資する活訓なりと謂ふべし、明治十五年慶應義塾を卒業し、後朝鮮國統理交涉通商事務衙門顧問兼漢城府博文局主宰、漢城旬報記者時事新報記者、大同新報記者たり、議會開設以來衆議院議員たること十四回に及べり、曩に北海炭礦汽船株式會社專務取締役社長、八王寺瓦斯株式會社取締役會長、金筆製紙株式會社、株式會社日本電氣製鐵所各取締役、品川銀行監査役、矢作水力株式會社代表日本瓦斯株式會社、下津井輕便鐵道株式會社、電氣製鐵所、日本製鋼、日東硫肥各取締役、日本メント製造、日本人造絹糸、新潟瓦斯、合同瓦斯各監査役たり會て移民事業視察の爲め歐米に渡航せることあり、家族は夫人わ

井上利之助君

料理業

君は井上利助君の長男にして明治十三年十二月京都に生る、料理業を營み美の利と稱して名あり、家族は妻キヌとの間に長男吉之助君、長女キク子、二男利三君、三男常三君あり、弟友吉君は分家し、同萬之助君は妻ムメは子を伴ひ亦分家し、妹サトは京都人沙山タケの養子となれり

〔現住〕京都市大和大路通四條下三丁目〔電話〕中三三七

井上太十郎君

加茂郡銀行取締役

君は岐阜縣人井上松平君の長男にして明治元年六月生る、前記會社の重役なり、家は妻さく



のとの間に長男照君、三男光男君の他父松平君母まさよあり、姉ひな子は岐阜縣人足立多四郎君に妹さつは同額額利三郎君に同じく子は同堀田利吉長男要吉君に嫁し弟松五郎君は同久保田こまつの入夫となり同太一君は同安藤義翁君に同澄吉君は同久保田鐵五郎君に各養子となれり

井上武君

日田銀行 日田貯蓄銀行取締役

君は福岡縣の士族垂井益喜君の弟にして養子たり明治六年五月を以て生る、現時は前記各會社の重役たる他日田鐵道株式會社取締役たり、家族は妻ヨネ子との間に男億君、養子正三君、長女清子、次女安藝子、四女義子あり二女政子は福岡縣人延壽寺唯稱に養女ミツは同牟田廣喜に嫁し、妹織子は夫卷三君に從ひ子女を伴ひ分家せり尚養母クヨあり〔現住〕大分縣日田郡大鶴村

井上一次君

正五位勳三等陸軍少將駐米帝國大使館附武官

君は東京府士族井上鼎盛君の叔父分家川島甚兵衛叔父にして明治六年七月生る、明治二十七年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍少尉に任せられ後參謀本部々員陸軍々醫學校教官、陸軍大學校兵學教官、歩兵第二十六聯隊長近衛歩兵第一聯隊長、第四師團參謀長に歴任し、大正七年陸軍少將に陞任し功三級を賜ふ現時は前記官職にある他米國駐在員取締なり、曩に新嘉坡、比律賓に差遣せらる、夫ス、子は東京士族今村信敬君の次女なり

井上武夫君

京都ホテル主

君は京都府森島照彦君の弟にして明治十九年十二月生る、先代喜太郎君の養子なり旅館業を營み、京都ホテルの主人なり、

家族は妻千賀子との間に長女花子、二女梅子、及養弟喜三郎君同喜一君あり〔現住〕京都市上京區河原町通二條南入一三船入町四五〔電話〕園上一一七

井上卯之松君

鐵板商

君は明治九年八月生る、大阪府井上庄兵衛君の二男なり、業として鐵板商を營む、家族は妻みつ子との間に長男卯三郎君、長女艶子、二女静子、四女隆子あり兄熊吉君は分家し姉はつは大阪府人中島祐吉君に嫁し弟菊太郎君は同大村チウに妹タミは同林庄吉君に各養子となれり

井上良馨君

正二位勳一等功二級子爵元帥海軍大將

君は弘化二年十一月鹿兒島に生る舊鹿兒島藩士井上七郎君の長男なり、維新後身を海軍に投

じ明治七年江華島事件に名を爲し明治十一年一月西南戰爭の功により勳四等に叙せられ此年歐米を航海し翌十二年四月歸朝す十五年大佐に陞任し扶桑兼淺間艦長となり十七年二月軍事部次長に補せられ、十九年常備小艦隊參謀長、軍務局次長、將校課長、軍務局長將官會議々員に歴任し從四位に進む、二十年五月男爵を授けられ横須賀鎮守府軍法會議判士を命せられ更に朝鮮公使館附となる、二十一年海軍大學校長、海軍省第一局長、常備艦隊司令官より司令長官となる、二十四年六月海軍參謀長に補せられ翌年二月正四位に叙せらる十二月海軍中將に任じ佐世保鎮守府司令長官に補せられ、二十六年五月横須賀鎮守府司令長官に轉じ、二十七八年の戰役に當り西海艦隊司令長官として征臺の役に參加し殊勳あり從三位勳二等に進む、後吳鎮守府司令長官となり三十三年横須賀鎮守府司令長官に補せらる三十九年四

月日露役の功によりて子爵を授けられ、從二位勳二等功二級に叙せられ、大將に進み元帥に親補し、元帥府に列せらる。光子夫人との間に長男虎君、同婦トク子、孫良正君あり長男良雄君は分家し、長女秀子は福岡縣士族松本健次郎君に二女清子は福井縣士族西尾雄治郎君に嫁せり

〔現住〕東京市麻布區本村町一三三〔電話〕芝一三八一

井上又兵衛君

堀内井上銀行社員

君は三重縣の人、井上又兵衛君の長男にして明治三十年十二月を以て生る、前名を又左衛門と稱し、現時合名會社堀内井上銀行の社員たり、家族は弟又右衛門君姉むめ子、妹小菊、弟増五郎君、妹すけ子あり、姉みね子は三重縣人松島叶君に同こぶくは同加藤明君に同こぢうは同大塚寛太郎君弟繁之助君に同こくとくは同平野助右衛門君男恒三君に叔母せいは同山本竹松君に嫁し

叔父猪三郎君は同井上善助姉なかの入夫となり、妹初榮は絶家を再興せり

〔現住〕三重縣飯南郡松坂町

井上宇太郎君

砂糖商

君は井上安太郎君の長男にして明治七年十月を以て愛媛縣に生る、砂糖商を以て家業とす。家族は妻ヒデ子との間に男閔太郎君、二男愛二君、三男雄三君、四男保君、五男芙蓉男君、長女ムメ子六男利正君あり弟俊一君は其妻セツを伴ひ分家し同大藏君も亦分家し妹マサは北海道人鎌田辰之助君に嫁せり

井上熊次郎君

染物商

君は東京府の人、井上熊次郎君の長男にして明治三十二年を以て生る、染物商を營み那須屋と稱す、家族は母ます、弟啓二郎君、妹麻子、弟祐三君、同善

井上正己君

正三位 子爵

君は舊常陸國下妻の藩主井上正兼君の二男にして安政三年正月を以て生る、當家は源經基四代井上頼季の裔正徳の次男正長の後なり、正長父の所領を分與され常州下妻の藩主として一萬石を領す、夫より十一代を経て先代正兼に至り次いで君に代りしなり、君は明治十七年子爵を授けられ、下妻藩知事、宮中祇候、賢所勤番等に歴任せしことあり、家族は種子夫人の他男正國君、女季子あり三男正頼君は茨城縣士族横田まさきの死跡相續人となり四男甫君弟正心君同正義君は各分家し、長女千枝子は栃木縣飯田勇吉君長男延太郎君に二女艶子は東京府人池田勝須君に嫁し、妹操子は茨城縣士族高橋和吉君の養子となり、二男

三郎君等あり

〔現住〕東京日本橋區南茅場町三八〔電話〕七八四

井上倉吉君

多摩銀行取締役

君は東京府人井上豊吉君の長男にして慶應元年正月の生れなり現時は多摩銀行の取締役たり家族は妻リノ男毅太郎君、弟仙太郎君、甥賢之助君、姪まさ子同喜恵子甥要治君、姪登喜子同多喜子同喜美子あり、妹ツネ子は東京府人榎本敏一君に嫁せり

〔現住〕東京西多摩郡調布村千ヶ瀬〔電話〕青梅五八

井上保三郎君

高崎商業會議所常議員群馬紡績株式會社取締役社長

君は群馬縣の人、井上平次郎君の二男にして明治元年十一月を以て生る、先代盛三郎君の養子なり、同地屈指の實業家にして現時前記會社の重役たる他、上毛貯藏銀行監査役、高崎製糖



株式會社、鳥川水力電氣株式會社の各代表、高崎板紙、龍榮社上毛製紙、熊川電氣、高崎莫大小各株式會社取締役、群馬電氣製鐵、高崎水力電氣各株式會社の監査役たり、現在の家族は夫人ゆき子との間に房一郎君、養子米三郎君、女げん、津留、つね及六女登代、四男正三郎君、孫八重子同卯三郎君同とし子同こう子あり三女かねは東京府人岡田麟治養子三郎治君に嫁す

井上正言君

正四位 子爵

井上家は清和天皇の後裔たる源經基より四代の孫從四位下賴季より出でたる筑後守正重の後なり、正重徳川氏に仕へ總目付となり寛永十七年上總國に於て一萬石を領す、是れ君に近き祖先たり其後數代を経て下總國高岡の藩主として正和に到る、其長男正順君は明治元年以來宮内

少輔となり二年高岡藩知事に轉じ、九年警視廳に出仕し警部補に歴任し、明治十七年子爵を授けらる、君は正順君の長男にして明治九年五月を以て生る、三十七年父君薨去せるや襲爵を仰付られ正五位に叙せらる、家族は敬子夫人との間に男正方君女綾子あり

井上堅太郎君

大阪米穀取引所仲買人

君は廣島縣深安郡福山町深野庄右衛門君の長男にして、安政三年四月を以て生る、幼にして井上類兵衛君の養子となり家督を相續す、夙に福山藩の誠之館に入りて藩儒に師事して漢籍及び洋學を修めたり、明治十三年より二十六年に涉り滋賀縣、徳島縣の警部に歴任せしが、三十二年身を實業界に投じ大阪に出で、堂島に店を定め三十八年米穀仲買を開始す、先に井上土地建物合名會社、井上セラケン合

資會社代表社員、備後水力電氣株式會社取締役たり、現在の家族は令閨ヨシ子、男堅作君、同妻さく子、庶子ヒサ子、孫照堅君あり

井上彌兵衛君

井上酒造株式會社取締役

君は大阪府の人、井上彌兵衛君の長男にして明治四年八月を以て生る、前名を彌三郎と稱せり前記會社重役たる他、代々酒造業を營めり、家族は父井松君を初めとして令閨コマ子、男英太郎君同妻なか子男保次郎君、女マサ子、女子三男貞三君弟欣一君あり養妹コト子は兵庫縣人山口林三郎君の養子となり養弟金三郎君は分家せり

井上敬次郎君

多摩川水力電氣株式會社社長 元東京電氣局長

君は肥後の熊本藩士井上彌

三郎君の長男にして文久元年八月を以て生れ、先代匡君の養子なり、身を寒微に起し、幾多の辛勞を嘗めて百折屈まず、千挫撓せず、遂に今日の成功を收めたる君の如きは稀有の成功者と云ふべし、廣澤參議を暗殺せる中村六藏について和漢英の學を修む、後新聞條例違反を以て入獄し獄中偶故星亨と相知り意氣投合して是より星亨の僚友となり、自由黨に入り政界に馳驅せり、明治二十九年移民會社を組織し着々成功せり、後雨宮敬二郎君市街鐵道會社を設立するや招かれて入社し雨宮君を助けて頗る功あり終に専務取締役となる、更に市街鐵道は東京電車株式會社と合併せられて東京鐵道株式會社と成るや君又之が専務取締役に推選せらる、電車市有後君は電氣局電車部長となりて部下の信頼を受くること頗る厚かりき、其後電氣局理事、電氣局長事務取扱となり更に東京市參與、電氣局長に歴任せしこと

井上朝司君

精業銀行株式會社取締役

君は萬延元年三月の生れにして静岡縣井上佐平治君の長男なり現時は前記會社重役たる他加島銀行、東海鐵工、東陽製紙各株式會社の取締役、東洋加工紙株式會社監査役たり、家族は男端君、婦さく子、男衷君、文六君恒也君、登君、女敦子、男八三君、孫周君同百代同京子同富子あり、長女りん子は静岡縣渡邊平左衛門君長男欣一君に二女いし子は同小川爲良長男爲親君に嫁せり

井上幸治郎君

日本簡易火災保險株式會社主事

君は大阪人、井上周藏君の長男にして明治元年五月の生れなり、現時は前記日本簡易火災保險株式會社の主事たり、家族は繼母みね子を初めとして令閨ヨネ子、男義郎君、弟亥三郎君、

井上五助君

君は神奈川人田中重五郎君の二男にして慶應二年十一月を以て生る、先代銀次郎君の養子なり、代々木材商を業とし森田屋と稱す、家族は養母ツタ養子兼輔君同妻さよ子あり祖母ツナは神奈川縣人澁谷諦洋母に入家し弟喜一君は分家す又同轍君は祖母ツナの養子となれり

君は神奈川人田中重五郎君の二男にして慶應二年十一月を以て生る、先代銀次郎君の養子なり、代々木材商を業とし森田屋と稱す、家族は養母ツタ養子兼輔君同妻さよ子あり祖母ツナは神奈川縣人澁谷諦洋母に入家し弟喜一君は分家す又同轍君は祖母ツナの養子となれり

子との間に男吉之助君、女鷹子延子、一男多満吉君、四女壽賀子、三男友三郎君あり

井上耕作君

高松市會議員 高松商業會議所 常議員

君は香川縣の士族井上三藏君の長男にして明治八年七月を以て生る、夙に身を實業界に投じて現在前記の要務に推舉せられ又高松百十四銀行株式會社專務取締役、高松電燈、高松木材、片川電力各株式會社取締役、高松電氣軌道、高松製紙各株式會社監査役等重役たり、家族は令閨朝

井上輝夫君

日支合辦亞細亞製粉株式會社 代表取締役

君は明治十二年六月を以て生れ廣島縣井上佐平君の長男なり現在前記會社重役たる他滿洲製麻株式會社取締役兼支配人たり、現在の家族は母ヨシ子を初



四男仁郎君あり二女禮子は大阪の人前田光之助君の養子となり妹満子は東京人村田三一郎君に嫁せり〔現住〕大阪市東區十二軒町一三〔電話〕南三七四六

井上才藏君

北越醸造株式會社取締役

君は新潟縣井上才藏君の長男にして文久元年十月の生れなり現時は前記北越醸造株式會社取締役たり、家族は男東太郎君婦ミネ子、孫三保子同律子ミツ子、チエ子あり、長女キミ子は新潟縣人市島友松君に二女トシは同五十嵐京藏男友四郎君に嫁し、三女ウタ子は其夫妻君及子と共に分家せり〔現住〕新潟縣北浦原郡乙村

井上耕作君

プロカ業

君は兵庫縣の人井上泰元君の長男にして明治九年十月を以て生るプロカ業を營む、家族は令園きく子との間に男耕君、弟

子、弟桓征君、弟妻レイ子、兄妻ステ子、甥成教君、三女和子四女正子、甥至文君同高明君姪利子同清子甥越夫君同俊彦君あり姪常子は山口縣人熊野修造君に嫁せり〔現住〕東京市芝區白金今里町九六〔電話〕高輪七七八

井上信八君

中央製菓株式會社取締役

君は嘉永五年二月生れにして長野縣人原新藏君の三男なり先代清次郎君の養子、現時中央製材株式會社の取締役なり、家族は妻しな子、男清君同妻とよ子孫信子、富美子あり養妹じやうは愛知縣人小塚關一郎君に嫁せり〔現住〕名古屋市南區熱田須賀町三四〔電話〕園本局二四四

井上剛一君

辯護士遠州軌道株式會社取締役

君は和歌山縣水木重左衛門君の二男にして明治元年四月を以て生る、先代又左衛門君の養嗣子たり、和歌山縣師範學校卒業

誠一君、弟妻芳枝、甥八右衛門姪和子あり、弟四郎君は妻トケ及長男支那彦君、二男多々彦君三男三郎彦君、四男八郎彦君、五男三六彦君、六男真多彦君、七男三十九彦君を携へ絶家井上家を再興せり〔現住〕神戸市榮町通り六ノ五二〔電話〕園本局一七五五

井上哲次郎君

正三位勳一等文學博士  
東京帝國大學名譽教授

君は筑前太宰府の人、安政十二年十二月を以て生る、福岡縣人富田俊達君の三男にして先代鐵英君の養子なり、幼にして母を失ひ叔父船越芳哉君に養育せらる九歳に至り叔父に死別し。甘木實文君に寄食す、幼にして家庭の樂を知らず肉親の情を解さず薄幸の人と云ふべし而も之却て君を發奮せしむる基となる當時既に佐野文同、飯田俊雄、香川恕經、中村周平等に就いて詩文經史算數の學を修習す、後

後上京し英和法律學校に學び辯護士登用試験に及第し、静岡地方裁判所を屬たり、事務所を同所に設け同地方人に普く信頼を博せり、故に同地方たる濱松市會議員、静岡縣々會議員等に推選され、大正九年衆議院議員に當選せり、家族は令園なみ子との間に男啓一郎君、洋之助君、女あき君、しげ子、三男民三君四男利夫、五男裕君等あり〔現住〕濱松市後道

井上喜代一君

湯淺貿易株式會社取締役

君は福岡縣の人にして井上九平君の二男なり、明治九年十二月を以て生る、現時湯淺貿易株式會社取締役なり、家族は父九平君母ヤス子他夫人マサ子との間に弟四方藏君あり、養女静子は福岡縣人衆原作太郎君に妹ッイは同岸利三君次男藤吉郎君に嫁し、弟孫四郎君は其妻キクを伴ひ分家せり〔現住〕下關市上田中町

叔父井上鐵馬君の博多にあるを訪ひ終に其繼嗣養子となる、明治四年長州廣運館に學び八年上京して開成學校に入り進んで東京帝國大學文科に入り哲學政治學を兼修し十三年卒業す、直に文務省御用掛に出仕し、十五年東京大學助教となり哲學史を講じて好評を博せり、十七年獨逸に留學を命ぜられハイデルベルヒ、ライプツヒ、ベルリン、ハリス、マレーデトフラス等の大學に學び、在學中萬國東洋學會の會員に擧げられる、業終つてベルリン東洋學校の教授に擧げられ名譽俄に歐洲の學界に鳴る二十三年歸朝文科大學教授に任せられ文學博士の學位を受く二十八年東京大學士會員に推薦せられ三十年文科大學長に任せらる此年萬國東洋學會へ參列の爲め佛國へ差遣せられたり歸來正五位に叙せられ三十四年勳四等に進み更に進んで勳三等となる君の著書は頗る多し、何れも咸世人に歡迎せらる現時東京帝國

井上禧之助君

正四位勳三等 理學博士  
農商務所技師

君は舊山口藩士井上信厚君の二男にして明治六年十二月を以て生る、明治二十九年東京帝國大學理科大學を卒業し、更に大學院に入りて、鑛學、地質學を專攻せり三十年拓殖務省の技師に任せられ、臺灣總督府技師に轉じ後農商務省技師に榮轉せり又同省製鐵所技師、鑛山局地質調査所々長たりし事あり、家族は母マチ子を初として夫人たのみ子、男誠之助君、女温子、恭

井上準之助君

正四位勳三等 元大藏大臣

君は大分縣日田の人、井上清君の五男にして初太郎君の弟たり明治二年三月を以て生る、明治十一年八月先代井上簡一君の養嗣子となる、君幼にして俊英の稱あり二十九年帝國大學法科大學を卒業し、直に日本銀行に入り大阪支店員となる、後鶴更定吉君に拔擢せられ特に土方久徵君と共に英國に留學し、ハクスバンクに於て銀行事務を實習す、歸朝後大阪京都等に勤務し日露の役に際しては、國債募集の事務に従事し特に其功勞を認められ勳五等に叙せらる明治三十七年大阪支店長に進み後更に東京に移りて營業局長となる四十年社命を帯び渡米し紐育代理店を監督せり在米二年にして四十四年三月歸朝するや直ちに正金銀行取締役に擧げられ又同年六月副頭取に推選せられ進んで頭取となり横濱商業會議所議

井上清純君

正五位勳三等 男爵海軍中佐

員たりしが後日本銀行總裁に榮進し、大正十二年清浦内閣成るに及び之が大藏大臣に就任せり現に東京市電氣局長候補者として市會滿場一致の推選さる、家族は夫人チヨ子との間に男益雄君、女春子、善美子、四女比奈子、四男四郎君、五男五郎君あり〔現住〕東京市麻布區三河臺町三一〔電話〕青山三四四〇



副長なり、家族は夫人和子男二郎君及前戸主妻トヨ子同ト子同妹愛子三男三郎君あり

〔現住〕神奈川県鎌倉郡鎌倉町

井上周君

大正製酒 阪神急行電車株式會社 取締役

君は東京の人、財界に名ある今村繁三君の令弟、同英祐君の兄なり、明治十二年四月を以て生る、先代保次郎君の養子たり現時前記會社の重役たる他東洋製紙、東洋加工紙、日本簡易火災保險、亞鉛乾鑊、中外商工、日本絹織機製作所、兩備水力各株式會社取締役、網島土地、富士藥品工業、櫻セメント各株式會社監査役なり、家族は養母イタを初として妻キミ子、女芳子美代子あり〔現住〕大阪市北區中野町二五九〔電話〕園東二一

井上清三郎君

吳服商

君は京都府の人岡田儀兵衛君

の二男にして明治六年十二月を以て生る、先代清藏君の養子なり、前代より吳服商を營む、家族は令閨セイ子との間に男清一郎君、二男達四郎君二女露子、三男長雄君三女康子四女道子あり長女ふじ子は分家し養子十九君は妻ふく子と共に分家せり

〔現住〕京都市下京區室町通錦小路上ル四〔電話〕園中一一六四

井口隆君

勳七等瑞澤銀行頭取

君は新潟縣の人、井口六治君の長男にして萬延元年四月の生れなり前名を保太郎と稱す、柳莊塾に學ぶ、鹽澤町長、郡町村吏員協議會々々長、聯帶會議長、郡農會副會頭、郡會議長、新潟縣會議員、同參事會員等に擧げらる、君は詩文を能くし、北洲詩鈔、愛梅閣漫遊噺囊其他の著書多し、現在前記會社重役たる他鹽澤圖書館長、郡誌編纂顧問たり、家族は妻常子を初めとし養子誠君、同憲子及孫正君同孝

君あり〔現住〕新潟縣南魚沼郡鹽澤町

井上仁吉君

正四位勳三等工學博士東北帝國大學教授

君は應用化學の泰斗なり、明治戊辰十一月を以て京都市下京區狩熊町に生る、井上康平君の叔父分家なり、二十九年七月東京帝國大學工學科大學應用化學科を卒業し、直に横濱瓦斯局技師に撰任せられ本邦の瓦斯事業に關して多年研鑽し甚だ資する所あり三十三年七月、東京帝國大學工學科大學助教に任せられ三十四年四月、瓦斯事業監督官を命ぜらる、越へて三十六年八月自費を投じて獨英國に留學し實地を研學して得る所甚だ多し歸朝すると共に明治三十八年八月帝國大學工學科大學教授に任せらる、四十年八月博士會の推薦を以て工學博士の學位を受け現今理科大學應用化學科擔當教授として頗る令聞あり、君は實に學

井上茂平君

名古屋瓦斯株式會社常務取締役

君は愛知縣の人井上佐吉君の長男にして嘉永六年七月の生れなり、扇子業を營み更に前記の會社重役たる外尾州瓦斯電氣、豊橋瓦斯、中央鐵工所、濱松瓦斯、中央鐵業各株式會社取締役、北海炭業株式會社監査役たり、家族は夫人かま子、養子鉦次郎君、妻さう子、孫春子、同榮一君、同光三君、同豊子、同純三君、同良三君あり

〔現住〕名古屋市西區押切町二六

九〔電話〕本局三七

井野口春清君

從四位勳二等功三級 豫備陸軍中將

君は岐阜縣士族井野口春桐君の長男にして文久元年正月を以て生る、夙に笈を負ふて東都に上り貫名正祐君の塾に學び大いに造詣する處あり後陸軍に志し明治十九年陸軍歩兵少尉に任せられ、同三十三年歩兵少佐に任じ、累進して四十五年陸軍少將に陞る、其間陸軍大學校を卒業陸軍士官學校教官、戸山學校教官に歴任し、三十七八年の役に金澤九師團參謀として參加し功あり後、教育總監部參謀歩兵第七第十八各聯隊長士官學校教官並に生徒隊長に任じ大正四年富山第一旅團長等に歴補されたり曾て、獨逸に派遣せられしことあり、資性剛毅果斷にして縦横の智略あり學識又博大、陸軍部内の錚々者を以て目せられしことあり、今や豫備に編入され陸

軍中將たり、家族は夫人フキ子との間に二女末子あり

〔現住〕東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷五六三

井上正進君

正五位勳四等 姫治市長

君は佐賀縣士族留守經太郎の伯父にして安政二年三月を以て生る、先代つる子の入夫なり、鐵道事務官を初めとして臨時國有準備局事務官、帝國鐵道廳參事、同經理部會計課長、同總裁官房保健課長、經理課長、九州鐵道管理局經理課長、神戸鐵道管理課長に歴任し、現時前記の名譽職にあり、家族は夫人ゆう子、男正弘君、養弟銳雄君、同妻善子、姪房子、同由美子、同妙子、同千枝子あり、長女つね子は東京府人林昭正長男昭徳君に二女ひさ子は同人二男成昭君に三女忍子は兵庫縣人内藤利八男一郎君に養妹しげ子は長崎縣士族山崎忍之助弟鹿之助君に嫁せり〔現住〕姫路市北條口

井出智君

東洋物産株式會社常務取締役

君は長野縣人井出忠太郎君の三男にして明治七年九月を以て生る、夙に東京法科大學佛法科を卒業し、東洋物産株式會社取締役兼支配人たり、家族は令閨ひで子、男滋君、兄善一郎君同人妻すゞ子、甥左忠君、姪とし子同とめ子、長女美代子、甥定夫君同正忠君あり、妹てい子は長野縣人清水賢治君に姪とよは同佐藤新作君に、同みさ子は同井出梁太郎君の養子となれり

〔現住〕新潟市長堀通一番町

井口省吾君

從二位勳一等功二級 後備陸軍大將

君は静岡縣の人にして井上幹一郎君の次男なり、安政二年八月を以て静岡縣駿東郡大岡村に生る、明治八年上京して陸軍士官學校に入學し十二年卒業、砲兵少尉に任じ、更に陸軍大學に

者肌の人なり敢て世流に赴かず富貴に阿らず一意専心化學の研鑽に耽けるを以て無上の樂みとなす現に東北帝國大學教授兼工學部長及び普通試験委員長普通懲戒委員なり尙理學部附屬臨時理科學研究部第一研究主任たり、夫人よし子との間に男良一君、女富喜子あり妹きん子は群馬縣人荒木寅三郎君に嫁せり

〔現住〕仙臺市片平町

入り、十八年卒業せり、廿年五月獨逸に留學を命ぜられ二十三年二月歸朝し參謀本部に出仕す二十四年少佐に進み、日清の役起るや、第二軍參謀となり從軍せり、功により功四級金鷄勳章並に單光旭日章を賜はり、陸軍中佐に進む、陸軍大學教官野砲兵第四聯隊第三大隊長等に歴任せり、三十年大佐に陞り陸軍大學教頭に補せらる、三十四年陸軍省軍事課長に轉じ、翌年少將に進み、參謀本部總務部長に補せらる、日露の役起るや大本營參謀となり、更に滿州軍參謀になり兒玉參謀長に従ひ殊功あり從四位勳三等に叙せられ功二級を賜る、四十二年中將に陞り、陸軍大學校長に補せられ、大正二年第十五師團師長に轉ず、更に朝鮮軍司令官、軍事參議官に補せられ、後大將に累進して後備仰付けれる、家族はひろ子夫人、養子俊彦君、女すゑ子、弟篤三君、同妻ゑい子、甥勳君同陽三君、姪乙枝子、七女ゆふ子



甥秀也君、同完吾君あり、長女きよ子は岡山縣人圓山春黛君二男幾彦君に三女はな子は岐阜縣人今井晨一君に嫁し、六女はる子は静岡縣人池田穂三郎君の養子となれり〔現住〕東京豊多摩郡淀橋町柏木一六〇〔電話〕番町三六五五

井坂孝君

横濱商業會議所特別議員  
横濱火災海上運送信用保  
險專務取締

君は茨城縣の人にして、同縣士族井坂直幹君の令弟なり、明治二年十二月を以て生れ、同二十九年菊地季吉兄分家し一家を創立す、東洋汽船株式會社の創立せるや入社して勵精事に従ひ後横濱出張所を開設せらるゝや多士濟々の中より拔擢されて所長となり獨特の敏腕を縦横に揮ひ終に同社をして今日あるに到らしめたり、尙増々同社の爲に誠實業を執り其大成を期しつゝ、現に前記會社重役たる他



岩切重雄君

從五位 衆議院議員

君は鹿児島縣士族岩切仲二君の長男にして明治二十一年一月を以て生る、大正三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業せり曾て鳥取縣警視、鹿児島市助役たり、大正九年衆議院議員に當選し現在に到る、新進少壯代議士として將來大に矚目されつゝ、

横濱帆布、東洋麻糸紡績、東洋電氣機製造、東京報知機、横濱生命保險、大正製作各取締役、横濱船渠株式會社監査役なり、夫人せつ子との間に男富士雄君、女富美子二女喜美子あり〔現住〕東京市京橋區大鋸町一二二〔電話〕京橋一五九八

伊東松之助君

勝浦商業銀行取締役  
安房銀行取締役兼支配人

君は千葉縣の士族伊東祐三君の二男にして明治三年八月を以て生る、現時前記會社重役たる他安房運送倉庫株式會社取締役たり、家族は令閨ヒデ子、長男祐一君、長女みち子、二女直枝子、二男謙之助君、三男恒三君、四男嘉橘君、三女光子、五男廣君、四女夫佐子あり、兄祐吉君は東京府人堀内又右衛門君三女セン子の婿養子となり、姉千代子は同田中甚右衛門君に嫁せり〔現住〕千葉縣安房郡北條町

伊東保次君

札幌木材株式會社支配人

君は北海道の人にして伊東伊

伊東雅太郎君

衣浦貯金銀行專務取締役

君は愛知縣の人にして加藤忠右衛門君の弟なり、慶應三年七月を以て生る、前代信藏君の養子なり、醬油商を營み現時は前記會社重役たる他龜崎水産株式會社長たり、家族は養母たね、令閨くめ子、養弟信藏君、同妻とも子、養姪千代子、養甥正君同治君あり〔現住〕愛知縣知多郡龜崎町〔電話〕四二〇

伊東靖祐君

正五位 伯爵

當家は先代祐享君より家名を揚ぐ、祐享は舊鹿兒島藩士にし

伊東卓夫君

美濃津商店主

君は安濃津藩督學野田竹溪翁の孫にして萬延元年六月を以て生る、伊東健藏君の養弟にして分家なり、祖父竹溪翁は有名な儒者なり、君は同志社及び同人社等に學ぶ、體操運動器械等の製造を業とす、曾て東京商業會議所議員たり、家族は夫人のぶ子、長男虎夫君、長女捨子、三女常子、五男清夫君、六男道夫君、七君親夫君、八男麓文君九男豊夫君あり、二女慶子は三重縣士族小西功長男正道君に嫁し、三男修吉君は分家せり〔現住〕東京市本郷區本郷五ノ一〇〔電話〕園小石川八四五 二〇七一

岩崎俊彌君

旭硝子株式會社社長

君は男爵岩崎小彌太君の令弟にして、男爵岩崎久彌君の從弟なり、明治十四年一月を以て生

伊東久米藏君

工學博士 三菱内燃機製造  
株式會社專務取締役

君は福岡縣士族伊東縣君の長男なり、明治六年三月を以て生る、同三十一年東京帝國大學工科大学機械科を卒業せり、曩に三菱造船株式會社神戸造船所副



伊東泰介君

正六位勳四等 陸軍三等軍醫正  
現伊東醫院院長

君は茨城縣鹿島郡東下村波崎の出身にして、伊東弘齋君の長男なり、慶應二年十一月を以て生る、千葉醫學專門學校を卒業し、東京湯島順天堂病院、日本赤十字社病院、東京帝國大學醫科青山内科等に實地醫學を研究し外國語學校獨逸語專修科を卒業せり更に羅甸語、英佛語を修學し醫學に堪能なり、明治二十七年陸軍々醫を拜命し、日清日露の兩戰役及日韓併合等に參加

長たりしが其後三菱造船株式會社内燃機製造所長に就任し現今に到る〔現住〕名古屋市南區東築地六號地三菱會社内



る、君夙に英國に渡りケンブリッヂ大學に入學して専ら農藝化學を修め歸朝せり、明治四十年九月旭硝子株式會社を創立して爾來同社の社長として専心事業の發展に盡力せり、同社の營業は窓硝子、曹達、促肥素の製造なり、君は園藝、音樂に趣味を有せられ極めて造詣深きものあり、夫人は東京府士族盧高朗君の六女(明治二十三年八月生れ)なり、家族は夫人との間に長女八重子(明治四十四年十一月生れ)次女淑子(大正二年六月生れ)三女温子(大正五年三月生れ)等あり〔現住〕東京市赤坂區青山高樹町一八

伊東義節君

從五位 男爵

當家は先代義五郎君より顯はる、義五郎君は信州の一藩士より身を起し海軍に入り累進して海軍中將に昇る、軍事に勳功あり明治四十年特旨を以て華族に列せられ男爵を授けらる、曾て

井上篤太郎君

勳四等 京王電氣軌道株式會社 専務取締役

君は安政六年六月相模國愛甲郡三田村に生る、神奈川縣人井上松羅君の長男なり、君幼にして學を好み夙に帝都に出で、獨逸學を修む、嚴父の逝去に會し一旦學を廢したるも後再び上京

し明治法律學校に學びたり、當時自由民權の議論盛にして君また神奈川縣自由黨の牛耳を執り縣郡村の名譽職を始め蠶糸業郡部取締所重役中央部會議員等に擧げられたること枚擧に遑あらず、明治二十三年始めて議會の開設せらるるに當り候補を辭して中島信行君を推し其當選を見るや驕然身を實業界に投じ横濱鐵工會社、日本絹紡績株式會社の理事又は支配人となり明治三十四年紡績界の重鎮故和田豊治君の知る處となり富士瓦斯紡績株式會社に入り工場長商務部長等の要職を占め三十七年清國に四十四年より五年に亘り英領印度に渡航し専ら蠶糸、絹織物、棉花、絹綿糸布對外貿易に關し視察研究する處ありたり、君また發明の趣味を有し蠶業紡績業の爲め有益なる發明をなし、特許を得たるもの拾數件の多きに至る、以て君の天才と技倆とは得易からざるものと謂ふべし、大正三年先輩知友に推されて、

市倉兼吉君

元淀橋町々長

君は東京府北多摩郡國分寺村大字内藤の人にして文久三年九

軍事視察の爲め獨佛に差遣されたることあり、また常備艦隊參謀、海軍大臣副官、海軍省主事敷島艦長、横須賀鎮守府艦政部長、竹敷要港部司令官等に歴任し、貴族院議員に互選せらる、君は義五郎君の二男にして明治三十三年三月を以て生る、大正八年を以て襲爵を仰付けらる、家族は母満里子、妹千代子、妹文字あり、姉櫻子は佛國海軍大尉ア、ルヅイエル、同不二子は子爵武者小路公共君に、同清子は子爵本野盛一郎君に嫁せり〔現住〕東京市麻布區霞町二二〔電話〕芝九二四

井島義雄君

玉東製紙株式會社取締役

君は熊本縣士族井島九門君の長男にして明治八年三月を以て生る、明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し辯護士となる、熊本市會議員、同縣會議員に擧げられ大正六年代議士に當選す、肥後酒精、熊本米

月を以て生る、夙に學に志し、後身子弟の育英の聖業に盡さんと欲し、先づ神奈川縣立尋常師範學校を卒業し、更に私立早稲田專門學校英語科並に政治科に入り同校を卒業するや、間もなく私立麴町日比谷中學校(府立第一中學校の前身)に教鞭を執り、後推されて同校幹事の職に就き大に子弟の教育に盡瘁せしが、明治三十六年十月の交、府下豊多摩郡淀橋町々長に擧げられ、謹直大に町政に努力せられたるが、大正三年八月を以て閑地に就かる、君は由來書畫に多くの趣味を有せられ、居中座臥常に書畫に親まる、家族は令閨たま子、長男定衛君、長女はつ子、次女とみ子、三女喜久子あり〔現住〕東京府豊多摩郡淀橋町大字柏木一九九

男九郎維次の後なり、其より六代祐光に至る其孫長實豊臣秀吉に仕へ備中國岡田の城主となり後九代を経て先々代長壽に至り華族に列し子爵を授けられ先代久實を経て以て君に至る、君は子爵伊東己代治君の二男にして明治十七年を以て生れ先代久實の跡を指定相続す、大正六年六月襲爵を仰付けらる、明治四十二年東京高等商業學校を卒業し現時は鐵道省技師にして經理局事務官購買課長なり、家族は先代母千重子、先代久實君、夫人澤子等なり〔現住〕東京府豊多摩郡千駄ヶ谷原宿八六

井本満助君

樺太廳折部郡長

君は山口縣人小野勝次郎君の七男にして井本家の養子となる明治六年一月生なり、明治三十二年、東京專門學校政治科を卒業し、文官高等試験に合格す、後、宮崎縣參事官、同事務官、鳥取、岐阜各縣事務官、福岡縣理事官、樺太廳警察部長等に歴任す、家族は養父滿槌、母ハヤ子、令閨キチ子にして、養從弟静子は、山口縣人藤本勇君に嫁せり〔現住〕樺太豊原町東五條官舎

伊東要藏君

静岡縣多額納稅者

君は静岡縣の人口喜平君の弟にして、元治元年三月を以て生る、先代磯平治君の養子なり慶應義塾を卒業、曩きに同義塾及大阪商業講習所教師たり、曾て豊岡銀行取締役、濱松委託、濱松鐵道、濱松瓦斯各株式會社長、第一火災海上再保險株式會社取締役、富士瓦斯紡績株式會社監査役たり、家族は六男一女にして、二女みる子は千葉縣人木内直君に嫁せり〔現住〕静岡縣引佐郡中川村

伊東二郎君

正五位 子爵 鐵道技師 經理局事務官

當家は藤原鎌足の裔狩野維職

井元爲三郎君

名古屋信託株式會社取締役

君は明治七年四月、愛知縣の



伊東直吉君

風月堂主

君は神奈川縣人伊東久右衛門君の長男にして、明治三年五月を以て生る、代々菓子商を營みて、風月堂と稱す、令閨をスズ子と云ひ、養子修二君は、東京人米津松造君の養弟なり、尙妹わか子は神奈川縣人梅澤源平衛長男慶助君に、同とし子は同縣人江島安兵衛君に嫁す

伊東忠太君

工學博士 帝國大學教授

君は舊山形藩士伊東祐順君の二男にして、子爵平田東助君の甥なり、慶應三年十月を以て生る、明治二十五年帝國大學工科學大學建築科を卒業す、後建築學研究の爲めに、印度及支那、土耳其に留學せり、帝國大學教授の外、造神宮技師兼内務技師に歴任す、令閨千代子との間に二

男一女あり〔現住〕東京本郷區西片町一〇と八號〔電話〕小石川一〇五〇

伊原五郎兵衛君

伊那電車軌道株式會社取締役

君は長野縣人伊原五郎兵衛君の弟にして明治十三年十月の生なり、前名を恒次と云ふ、曾て深志倉庫株式會社の監査役たりしことあり、伊那電車重役の他富士生命保險、六十三銀行、百十七銀行各株式會社取締役、飯田貯蓄銀行株式會社監査役たり令閨きぬ子との間に一男二女あり〔現住〕長野縣下伊那郡飯田町

五十嵐甚藏君

新潟縣多額納稅者

君は新潟縣の人、明治六年四月を以て生る、前名を直彦と稱せり、慶應義塾を卒業し、新發田銀行株式會社取締役會長及横並銅鐵商店取締役、新潟紡績株式會社監査役たり、令閨むつ子と

の間に一男二女あり、二女ヤヨエは新潟縣人今井フユ子の養女となり、弟貞彦君、同安彦君、同國彦君、同文彦君、同二十彦君及び妹百代子は、共に其生母浦井ウタ方へ入家し、同マツノは、熊本縣士族赤星朝暉君に嫁せり〔現住〕新潟縣北蒲原郡笹岡村

井出竹重君

榮銀行事務取締役

君は長野縣人小林半左衛門君の三男にして安政六年十一月を以て生れ先代柳吉君の養嗣子となる、現在株式會社榮銀行事務取締役たり、令閨なつ子との間に一男二女あり、長男幸吉君は長野縣人津金兵太の長女を迎へ二女はる子は養子敷造君を迎へたり、尙養弟幸一君は分家し、長女やすのは長野縣人高見澤興平君に、二女さわ子は同縣人小林豊君に、三女さくのは高見澤興平弟珍佑君に、養妹とめのは

同縣高見澤庄一郎君に嫁せり〔現住〕長野縣南佐久郡畑八村

井關正行君

實家

君は和歌山縣人井關助左衛門君の長男にして、明治十三年七月を以て生る、現在那賀銀行取締役たり、令閨をとら子と呼び一男あり、尙弟誠一君、同英一君は各分家し、妹正子は和歌山縣人木村岩太郎長男徳之丞君に嫁し、從妹よし子は同縣林房太郎君に嫁したり

井坂平一君

中泉織物株式會社取締役

君は大阪府人井坂補太郎君の長男なり、明治十六年六月を以て生る、東洋麻糸紡績株式會社の取締役たり、令閨をひさ子と呼び四男一女あり、妹キヨ子は奈良縣人中尾徳郎左衛門君に同

伊藤三郎君

實業家

君は三重縣人伊藤小次郎君の弟にして、明治十六年九月を以て生る、現時伊藤製絲部、伊藤醬油部各株式會社の取締役たり令閨本千代は滋賀縣人上田安常君の長女にして、家族は尙母吉富、男英一君、弟孝五郎君、長女ふさ子、三女まさ子、二男小太郎君あり、從弟純一郎君は分家し、從妹しづ子は三重縣人伊藤小三郎君の養子となりたり

伊藤喜十郎君

文房具商

君は大阪府人小野十右衛門君の六男にして、安政二年三月を以て生る、先代善兵衛君の養子たり、現時日本債券株式會社長浪速ビルブローカー株式會社取締役たり、尙伊藤喜商店と稱し文房具商を營む、令閨モト子は養父善兵衛君の長女にして其間善之助君あり、京都府大鳥居榮

伊藤庄三郎君

實業家

君は愛媛縣人伊藤齊八君の二男にして、安政二年十一月を以て生る、現時宇和商業銀行取締役たり、令閨フデ子は、同縣人古谷寅三郎君の妹にして、男義太郎君あり、其妻キヨ子は同縣人阿部長吾君の妹なり、尙兄妻アサ子は愛媛縣人菊地縫君に、姪のサダ子は同縣人伊藤安太郎君に夫々嫁きたり

伊藤瀨平君

豫備陸軍中將

君は長野縣人伊藤清彌君の長男にして、元治元年四月を以て生る、明治二十年陸軍士官學校同二十六年陸軍大學校を卒業し

井口清次郎君

金物商

君は石川縣人北川三次郎弟養子なり、明治三年十月の生にして金物商を營む、家族は養父文五郎君、令閨つき子との間に四男三女あり、長男清次君には石川縣人野口孝君の二女を迎へ、三男次吉君は石川縣人岡本錠太郎君に、二女ソト子は富山縣人藏野石次郎君に各養子となりたり〔現住〕金澤市下堤町〔電話〕八五三

井口庄屋君

東京帝國大學教授

君は東京府の士族井口第一郎君の叔父にして分家せり、安政三年十月を以て生れ前名を窓助と云ふ、幼にして學才あり、篤學にして學事に意を注ぐ明治十



同二十年に歩兵少尉に任じ、大正四年陸軍中將に累進せり、其間參謀本部副官、第五師團參謀侍從武官、歩兵第二十五聯隊長第十五師團參謀長、歩兵第三十四旅團長等に歴補、現時從四位勳二等にして豫備陸軍中將たり夫人うめ子は、宮城縣人伊達宗亮君の三女にして、男祐信君あり、繼父市郎君は、妹いと子と共に長野縣人伊藤政重君方へ入家す〔現住〕東京市外代々幡町代々木中山谷

伊藤清助君

實業家

君は宮城縣人伊藤清次郎君の長男にして、安政三年四月を以て生る、現時鹽釜セメント株式會社社長、東洋醸造、山三カーバイト、三和製氷各株式會社の取締役、仙臺魚市場株式會社監査役たり、令聞しげ子は同縣人相原德之助君の二女にして、妹すゑ子は分家せり〔現住〕仙臺市東二番町〔電話〕一五二七

伊藤茂七郎君

實業家

君は奈良縣人當麻辰藏君の弟にして、明治三年十月を以て生る、先代茂兵衛君の養子たり、前名を東七と云へり、現時共立物産株式會社取締役、沖繩炭礦三星工業、日本農藝肥料、東洋曹達、程ヶ谷曹達工場各株式會社の監査役たり、砂糖商をも營む、令聞るい子は、養父茂兵衛君の長女にして、一男六女あり養父茂兵衛君は、養母登美子と共に三男茂次君を伴ひて分家し五女貴奴子は其養子となり、妹春子、弟茂一君は共に大阪人川端中三君の養子となりたり〔現住〕大阪東區南本町二ノ一五〔電話〕園東四六〇

伊藤善次郎君

實業家

君は栃木縣人前澤藤兵衛君の三男にして、明治二十一年九月を以て生る、先代善次郎君の養

伊賀氏英君

男爵

當家は舊高知藩の國老にして世々宿毛邑六千八百石を領し先々代陽太郎に至る、先代氏廣君明治十七年に特旨を以て華族に列せられ男爵を授けられたり、君は氏廣君の長男にして、明治四十四年五月の生なり、大正四年襲爵す、家族は祖母イネ子、父氏廣君、母キタ子、妹つう子弟氏俊君、同三省君あり〔現住〕高知縣幡多郡宿毛町

井出繁三郎君

代議士 前鐵道監督局長

君は秋田縣士族井出章造君の長男として、元治元年十月を以て生る、明治二十四年帝大法律科を卒業し、爾來東京地方裁判所檢事、逓信省鐵道事務官及書記官、通信局鐵道船舶課長、鐵道院參事、北海道管理局心得、鐵道院理事、北海道及神戸各鐵道管理局長等に歴任す、令聞をコマキ子と云ひ一男あり、千葉

縣人安西謙次君の妹夫見子を迎ふ〔現住〕東京市小石川區大門町三〔電話〕小石川二〇三四

五十嵐久助君

金貨業

君は嘉永二年三月生れにして福井縣士族五十嵐佐平君の五男なり、資産家として知らる、五十嵐商會株式會社取締役にして荒物商及農業を營む、令聞は福井縣人淺野市兵衛君の長女にして一男一女あり、長男三郎君は後藤慶治二女キヨ子を娶り、長女ヒサヲ子は埼玉縣士族渡邊悦三君の弟爲三君に嫁せり〔現住〕札幌市南五條西二丁目

井出源策君

實業家

君は静岡縣井出源五郎君の長男として、安政元年八月を以て生る、吉原銀行、駿富製紙、製紙法特許、富士産業各株式會社取締役及び岳南製紙、今泉製材駿陽製紙各株式會社の監査役たり

子たり、前名を眞三郎といへり現時栃木伊藤銀行監査役、栃木米券倉庫、栃木大麻製糖各株式會社の取締役たり、令聞トク子との間に男善司君、長女麻喜子二女實知子あり、甥善一郎同武二君姪嘉代子は各栃木縣人伊藤常三郎の甥芳次郎君へ入家す〔現住〕栃木縣下都賀郡栃木町

伊地知精君

男爵

當家は先代幸介より顯る、幸介は舊鹿兒島藩士夙に軍籍に入り累進陸軍中將に至り滿洲軍第三軍參謀長、旅順要塞司令官、東京灣要塞司令官、第十一師團長等に歴補し日露戰役の功に依り男爵を授けらる、君は幸介君の長男にして、明治四十二年三月を以て生る、大正六年襲爵す家族は祖母スミ子、母ミキ子あり姉梅子は子爵小川武次君に、同百合子は東京府士族莊田平五郎長男達彌君に、同花子は稻垣鐵郎君に嫁きたり〔現住〕東京市麻布區斧町一七五

國へ出張中なり、令聞をまつ子と呼び一男一女及び養子謙一君あり〔現住〕東京豊多摩郡中野町中野大塚一五九八〔電話〕中野一〇

井芹典太君

熊本縣多額納稅者

君は熊本縣の人にして、嘉永四年二月を以て生る、士族井芹嘉門君の長男なり、酒造を業とす、明治二十三年貴族院議員に互選せらる、令聞ふじ子は熊本縣人遠山彌次郎君の長女にして其間二男二女あり〔現住〕熊本縣八代郡宮原町

伊庭貞剛君

住友銀行監査役

君は滋賀縣人伊庭正人君の長男にして、弘化四年正月を以て生る、曾て衆議院議員たりし事あり、夙に司法省に出仕し、後住友家に入り累進して理事となり、令聞んめ子は、同縣士族松本義信君の長女にして其間に

六男四女あり、長男貞吉君は大阪府人上路忠景君の孫喜代子を娶りたり、長女はる子は大阪府の人高山圭三君に嫁せり〔現住〕大阪市南天王寺堂ヶ芝五六六五

池田季雄君

辯護士

君は静岡縣の人明治九年五月を以て生る、舊幕臣永谷啓行君の五男なり、明治二十八年第一高等學校入學試験に合格し同三十二年同校を卒業す、後東京帝國大學英法科に學び卒業して法學士となる、尋で大學院に入り同三十五年辯護士の免許を得、穂積博士の紹介に依り秋山德藏事務所に入り、特許辯護士登錄を得、獨立にて事務所を開始せり、明治四十二年東京辯護士會常議員に、同四十四年に日本辯護士協會理事に選出せられたり叔父篤次郎君の嗣子となり池田と改姓す、令聞をもん子と云ひ其間に忠雄君、スミ子あり〔現住〕東京市下谷區御徒町



〔電話〕下谷三八一四

### 石井淳雄君

辯護士

君は明治十二年一月を以て、東京府下柏江村に生る、明治義會中學校を卒業し、第二高等中學校、東京帝大文科を經、文學士となる、後京都帝國大學法科大學に入り法學士の稱號を得、東京市役所に入り尾崎市長の秘書役及統計顧問として盡力す、明治四十三年辯護士の免許を得て事務所を開業せり、令聞しげ子との間に一男あり〔現住〕東京市小石川區大塚仲町一九

### 伊東二郎丸君

從四位 子爵 東京貯蔵銀行 取締役 高砂生命保險株式會社 取締役

君は故元帥海軍大將伊東祐亨君の令兄たる故子爵伊東祐磨君の第二子なり、當家は先代秋鷹君より顯る、秋鷹維新の際國事に勤め、後海軍に入り累進して

海軍中將に至り東海鎮守府司令長官、軍務局長、兵學校長等に

歷補し、明治十七年子爵を授けられ、又元老院議員、貴族院議員となる、君は明治十六年八月を以て生る、同三十九年二月嚴父薨去により家督を繼ぎ襲爵を仰付らる、同四十三年東京帝國大學法科大學を卒業せり、現時は前記會社各重役たり、家族は母千勢子、夫人登世子、長男英麿君、長女敦子、二男隆麿君あり、姉美代子は愛媛縣人古谷重綱兄久綱君の未亡人にして妹米子は山口縣人笹尾政次郎長男源之丞君に嫁せり〔現住〕東京市芝區車町四二〔電話〕高輪七九三

### 伊東祐忠君

東洋汽船株式會社 沖電氣株式會社各取締役

君は三重縣土族伊東祐賢君の長男にして明治三年九月を以て生る、同二十七年帝國大學法科大學法律科を卒業し、高等海員審判所理事官兼船舶檢官、商船

岡醫科大學教授、同大學附屬醫院長九州帝國大學醫科大學長に

歷任せり、家族は父祐順君、夫人つる子、養子薫子は山形縣人萩原圓長男巖男に嫁し、第三雄君は同縣人村井せい子の養子となれり

〔現住〕福岡市天神町

### 伊東善五郎君

青森銀行 三戸銀行各取締役

君は青森縣の人にして伊藤彦太郎君の長男なり、安政五年正月を以て生る、現時前記會社重役たる他第五十九銀行監査役なり、家族は令聞くに子、長男武次郎君、男英吉君、同孝一郎君女みつ子、つる子あり、長女とく子は千葉縣人花島徳次郎君に二女かち子は青森縣人梅津忠兵衛君に、四女キヌ子は同縣人樋口喜輔、孫喜一郎君に嫁せり

〔現住〕青森市濱町

### 伊藤平三君

京都市參事會員 京都商業會議所常議員

君は京都府の人にして若松伊三兵衛君の長男入夫たり、慶應二年二月を以て生る、家族は令聞芳枝、長男爲次郎君、同妻園子、男泰造君、養子俊二君、女ユタ子、孫壽一君、同禎二君、同隆三君あり〔現住〕京都市上京區室町通御池北入〔電話〕園中二七九

### 伊藤六治郎君

伊藤製茶部取締役

君は三重縣の人にして伊藤重左衛門君の四男なり、明治五年正月を以て生る、先代三兵衛君の養子なり、現時は前記會社重役たる他伊藤製茶部株式會社取締役たり、家族は令聞しよ子、長男正憲君、女由子、女三代子二男正次君、三男正己君、四男正志君、五男正祥君、四女治子あり、長女宜子は東京府人丹波

い(ろ)之部

敬三君四男五郎君に嫁せり

〔現住〕三重縣三重郡四郷村

### 伊東祐賢君

小川温泉株式會社取締役社長

君は富山縣の人にして伊東祐明君の長男なり、明治二年正月を以て生る、米澤與三次君の兄たり、明治四十一年衆議院議員に當選せしことあり、曾て富山縣泊町長たりしが、現時小川温泉株式會社取締役社長たり、家族は妻すみ子、長男隆二君、三男禮三君あり、二女ゆり子は富山縣人伊東文三君に、姪はな子は同縣人濱松與三左衛門長男與三君に嫁し、甥武雄君は同縣人草野孫右衛門長女貞子の婿養子となれり、富山縣泊町大安寺住職伊東順三君は君の弟なり

〔現住〕富山縣下新川郡泊町

### 伊藤一郎君

正五位 男爵 三菱礦業株式會社大阪製煉所副社長

當家は先代圭介より顯る、圭

學校教官兼海軍、事務局事務官等に歷任し、明治三十八年、同四十二年白耳義國ブラッセル府開催萬國海法會議に帝國政府委員として參列せしことあり、現時は前記各會社の重役たる他、日本電池株式會社の重役たり、家族は夫人ます子、長男祐之君、二男敦君、三男孝君あり、弟完藏君は柚原家を繼ぎ、同秀胤君は倉田家を繼げり〔現住〕東京府豊多摩郡大久保町百人町南通二八〔電話〕番町二七八〇

### 伊東祐彦君

正四位勳三等 醫學博士 九州帝國大學教授

君は山形縣土族伊東祐順君の長男にして慶應元年八月を以て生る、前名を熊次と稱し、子爵平田東助君の甥なり、明治二十五年帝國大學醫科大學を卒業し同三十四年獨逸に留學し、大に研鑽を積み歸朝す、後縣立福岡病院小兒科部長、福岡縣技師兼海港檢疫醫官、京都帝國大學福

介は舊名古屋藩士西山玄通の男にして夙に蘭學を修め、後植物

金石の採集に努め、安政五年名古屋に一大藥園を開設して旭屋と稱す、翌六年藩の洋學校教授になり遂に幕府に召されて蕃書調所掛となり、明治元年大學に出仕して理學部員外教授となり同十四年東京帝國大學教授に任じ理學博士の學位を受け、三十四年男爵を授けらる、君は東京府人伊藤恭四郎君の二男にして明治二十一年三月を以て生る、先代圭介君の養子なり、同三十四年襲爵し、大正二年東京帝國大學工科大学治金科を卒業せり現時は三菱礦業株式會社大阪製煉所副長たり、家族は夫人久米子、長男圭一君、二男誠君あり

一〇

### 伊藤平藏君

平山堂 骨董商

君は東京都下に於ける著名なる書畫骨董商なり、平山堂は其

商號なり、夙に書畫の鑑定を以て名を知られ、亦珍品を藏する點に於て著聞なり、君は埼玉縣の人にして、井上萬吉君の弟なり、万延元年三月を以て生る、先代平藏君の養子にして前名を金藏と稱せり、家族は令聞かね子、長男善吉君同妻幾子、孫貞一郎君あり〔現住〕東京市四谷區尾張町一〔電話〕番町二〇

### 伊藤治郎助君

巖手縣多額納稅者 黒澤尻銀行取締役

君は岩手縣の人にして伊藤治郎助君の長男なり、弘化四年六月を以て生る、前名を治郎七と稱せり、現時は前記會社重役たる他、黒澤尻電氣株式會社取締役なり、家族は令聞トミ子、長男治兵衛君、養孫二郎君、孫ヨシ子、同クリ子、同喜助君、同ミネ子、同仁助君、曾孫キヨ子同アヤ子あり、二男吉次君は妻ヨシ及び子と共に分家し、二女トト子は岩手縣人平野理助養嗣



子仁太郎君に、三女イト子は同柴田高松君四女サイ子は同小笠原文太郎長男彌兵衛君に、五女シゲ子は同澤藤彌四郎長男彌吉君に、孫ヒサ子は同吉田文一郎君に嫁せり〔現住〕岩手縣和賀郡黒澤尻町

伊藤忠兵衛君

伊藤忠商事株式會社取締役  
社長 伊藤忠合名會社監査役

君は滋賀縣の人にして伊藤忠兵衛君の長男なり、明治十九年六月を以て生る、前名を精一と稱せり、吳服太物商を營む傍ら前記會社重役に就けり、家族は母やゑ子、妻千代子、長男恭一君、二男廣二君あり、姉こうは其夫忠三君と共に子女を伴ひ分家せり〔現住〕大阪市東區安土町二ノ五一〔電話〕本局四一五〇

伊藤長次郎君

正六位勳四等 兵庫縣多額納稅者 三十八銀行 加古川銀行各頭取

君は兵庫縣の人伊藤長次郎君

君あり〔現住〕神戸市北野町一ノ九四〔電話〕三宮一〇〇三

伊藤乙次郎君

從三位勳二等功四級 豫備海軍中將

君は愛知縣士族伊藤久敬君の男にして、慶應二年十月を以て生る、海軍兵學校及海軍大學校を卒業し、同二十一年海軍少尉に任じ、大正四年十二月海軍中將に累進せり、其間海軍省軍務局々員、淺間艦長、獨逸公使館附、水路部長、佐世保鎮守府參謀長、佐世保、吳各海軍工廠長高等捕獲審檢所評定官、海軍技術本部長、海軍將官會議々員等に歷補す〔現住〕東京市麻布區櫻田町五〇〔電話〕芝一八五二

伊藤律太郎君

共同運輸株式會社事務取締役

君は岐阜縣の人にして、伊藤彌藏君の長男なり、明治六年八月を以て生る、同二十七年東京主計學校を卒業せり、現時前記

の長男にして明治六年四月を以て生る、前名を熊藏と稱し、日本法律學校を卒業せり、同地の資産家にして多額納稅者なり、明治三十七年選ばれて貴族院議員となれり、現時は前記會社重役たる他兵庫縣農工銀行取締役朝鮮銀行監事、日出紡績、大正汽船、神樂の各株式會社々長、神戸海上運送火災保險、大正水力電氣各株式會社取締役、朝鮮起業、共立生命保險、南洋製糖樺太工業、兩備水電各株式會社監査役たり、夫人やゑ子、長男熊三君、男勇次郎君、女靜子、三男健三君あり、弟長藏君は妻と共に分家し、同止五郎君も亦分家し、姉キ子は兵庫縣人伊藤英一君に嫁せり〔現住〕兵庫縣印南郡伊保村 神戸市北長狹通四ノ一九〔電話〕本局六八五

伊藤長藏君

三十八銀行監査役 平島護謄企業株式會社社長

君は兵庫縣の人にして伊藤長次郎君の弟分家なり、明治二十年十月を以て生る、同四十五年東京高等商業學校を卒業し、現時は前記各會社の重役たる他大正汽船、日本製油、大洋海運、日本石綿盤製造、大阪産業各株式會社取締役たり、家族は令閨モト子、長男新一君、二男收二

伊藤嘉七君

知多銀行 知多貯蓄銀行各株式會社頭取

君は愛知縣の人にして林金右

會社重役たる他三菱倉庫株式會社副支配人たり、家族は令閨きみ子長男縁郎君、二男長春君、三男香三君あり、姉ゆか子は岐阜縣人佐野幸吉君に嫁せり〔現住〕東京市深川區小松町七

伊藤大八君

正五位勳四等 元代議士

君は長野縣人平澤健治郎君の二男にして安政五年十一月を以て生る、伊藤とり子の養子にして分家せり、夙に中江兆民君の佛學塾に入り、政治、經濟、心理學を修む、陸軍幼年學校譯官遞信省勅任參事官兼鐵道局長、南滿洲鐵道株式會社副總裁、毛武鐵道株式會社取締役、江ノ島電氣鐵道株式會社重役となりし事あり、曾て初期以來衆議院議員に當選すること五回に及べり家族は夫人やゑ子、長男西夫君、庶子男大一郎君、三男龍夫君あり、長女己八子は富山縣人氣賀高次の兄清作君に、養子くら子は東京府人鈴木虎之助君に嫁し

伊藤忠三君

近江銀行取締役 日新染布株式會社社長 伊藤忠商店主

君は滋賀縣人山本佐衛門君の二男にして明治四年一月を以て生る、伊藤忠兵衛の養兄にて分家なり、吳服商を營み、絹糸綿布羅紗雜貨織物商を兼ね別に前記各會社の重役たる他伊藤商事、日本絹毛紡織、共益社の各株式會社取締役、豊岡土地、大阪製麻各株式會社監査役たり、家族は令閨こう子、長男謙三君あり長女須磨子は其夫に従ひ子と共に分家せり〔現住〕大阪市東區本町二ノ二八〔電話〕本局二七〇

伊藤由太郎君

名古屋商業會議所員 福壽火災保險株式會社事務取締役

君は愛知縣の人にして伊藤忠

右衛門君の長男なり、明治五年四月を以て生る、曾て多額納稅者議員たることあり名望家なり現時は前記會社重役たる他一宮倉庫信託、愛知電氣鐵道、朝鮮起業各株式會社取締役、四日市倉庫、名古屋製陶品各株式會社監査役たり、家族は夫人ちやう子男利彦君、同邦彦君、長女稻子女和子、四男進君、五女待子あり、妹三始子は絶家淺野家を再興し、同ひた子は滋賀縣人高橋要治郎君に嫁せり〔現住〕名古屋市西區大船町一九〔電話〕本局三三九

伊藤竹之助君

大阪製麻 日本機器製作伊藤忠商店各取締役

君は福井縣の人にして逸見勘兵衛君の二男にして、明治十六年七月を以て生る、滋賀縣人伊藤とき子の養子にして分家なり現時前記會社重役たる他伊藤忠商事、帝國油脂、日本車輛製造日華紡織、樽井紡績各株式會社

取締役たり、家族は妻ふき子に長男英吉君、二男順吉君あり〔現住〕大阪市東區本町二ノ二八

伊藤常三郎君

栃木伊藤銀行 栃木米券倉庫各會取締役

君は栃木縣の人にして伊藤芳次郎君の四男なり、明治十二年六月を以て生る、現時前記會社重役たる他、大正精米、栃木大麻、綿網各株式會社取締役たり、家族は令閨アサ子、長男善一郎君、女嘉代子、兄妻こう子、甥芳治郎君、二男武二君、三男節三君、二女實枝子あり、養弟清君は其妻と共に子女を伴ひ分家し、姉キヌ子は東京府人伊藤キミ子の母たり〔現住〕栃木縣下都賀郡栃木町

伊藤幹一君

淺野晝夜銀行 二十七銀行各監査役 京城電氣株式會社取締役

君は舊幕臣伊藤幸之助君の長



男にして弘化元年十一月を以て生る、夙に文部省に出仕し師範學校設立に關し盡力する所あり、現時は前記株式會社取締役たる他帝國煉瓦、仙臺瓦斯、大日本電球各取締役及東洋遊園地、東京瓦斯、旭日生命保險、日本陶料、東京灣汽船、石狩石炭、東京板紙、日本染料製造各株式會社監査役、茨城無煙炭礦株式會社相談役たり、家族は令閨せい子、養子欣二君、妹とし子等あり〔現住〕東京市麴町區下二番町四二〔電話〕九段二五〇

伊藤琢磨君

日本皮革株式會社常務取締役  
日本製靴株式會社取締役

君は愛知縣士族伊藤主計君の弟分家にして、大倉象馬君の實弟なり、明治二年九月を以て生る、同三十年東京帝國大學法科大學を卒業し、後英國に留學せしことあり、現時は前記會社重役たる他、東京毛織株式會社取締役、大倉商事株式會社の監査

役たり、家族は令閨ライ子、長男勇三君、長女武子、女壽美子、二男英二郎君、三男基彦君、四男七郎君、五男八郎君、四女壽恵子あり〔現住〕東京市麴町區富士見町二ノ四二〔電話〕九段二三四五

伊藤源左衛門君

東北實業銀行 東北實業貯金  
銀行各取締役

君は宮城縣の人にして伊藤市右衛門君の長男なり、嘉永二年十月を以て生る、曾て仙北信託株式會社取締役に就任せしことありしが、現時は前記會社の重役にして郷に人望あり、家族は令閨ちとせ、長男源之丞君、同妻みさを子、孫衛君、同ひでの同秀市君同孝君あり、二男源吾君は宮城縣士族兒玉さだ子に、三男昇君は同小山田憲一郎君に各養子となり、二女きよのは同安住仁次郎の長男寛亮君に、孫むめを同松田常治孫司君に、同あさかは同佐々木健太郎君に

嫁せり

〔現住〕宮城縣遠田郡南郷村

伊藤九兵衛君

伊藤製鋼所 日本絹織紡織  
各取締役社長 日本化學肥  
料取締役

君は大阪府の人にして伊藤九良三郎君の長男、同新次郎君の甥なり、明治二十四年八月を以て生る、神戸高等商業學校を卒業し、現時は前記會社の重役たる他、日本絹毛紡織、極東硝子工業各取締役、羽州屋、伊藤惣本店合名會社の代表なり、家族は母スエ子、長男達文君、長女町代子あり〔現住〕大阪市東區南久太郎町二ノ二〇〔電話〕東一三四

伊藤鑽太郎君

横濱實業銀行 横濱實業貯蓄  
銀行株式會社取締役

君は東京府士族伊藤薫の長男にして文久三年十一月を以て生る、現時は前記會社の重役たる他、東洋曹達株式會社監査役た

り、家族は令閨たき子、養子菊枝子あり、從妹すな子は神奈川縣人葛山長次郎君に嫁せり

〔現住〕横濱市根岸字鷺山三七五四

伊藤源次郎君

伊藤硝子製造所取締役 日本  
玖馬貿易商會監査役

君は大阪府の人にして伊藤佐助君の二男なり、明治十年七月を以て生る、現時は前記會社重役たる他、家族は兄佐助君、令閨ハツ子、男政勝君、長女ミネ子、二女美彌子、三男博勝君、三女富美代あり〔現住〕大阪市北區新吉多町番外二九

伊藤小左衛門君

四日市商業會議所特別議員  
四日市銀行 四日市貯蓄銀行  
取締役

君は三重縣の人にして伊藤小左衛門君の長男なり、明治二年八月を以て生る、前名を昌太郎

と稱せり、生糸製茶及醬油清酒釀造業を營む傍ら、前記會社重役たる他、日進工業、伊藤製糸部、伊藤醬油部、伊藤製茶部、伊藤製藥部各株式會社重役、三重農工銀行、横濱生糸、東海電線各株式會社監査役たり、家族は繼母しも子、令閨いち子、弟良吉君、弟妻勢都子、弟千吉郎君、弟幸三君、甥秀郎君、同達郎君あり〔現住〕三重縣三重郡四郷村〔電話〕四一一九

伊藤萬助君

大阪府多額納稅者 三十四  
銀行監査役 大日本紡織株式會社取締役

君は大阪府の人にして伊藤万助君の長男にして、明治十二年三月を以て生る、前名を卯三郎と稱せり、資産家にして洋太物商を業とす、前記會社の重役たる他攝津紡績株式會社取締役伊藤萬商店代表たり、家族は母しな子、令閨きぬ子、長男芳郎君、長女静子あり、弟萬吉郎君、妹

滿龜子、弟良二君、同豊四郎君は各分家し、妹ます子は大阪府人高田久右衛門君に嫁げり

〔現住〕大阪市東區安土町四ノ三〔電話〕本局四〇三〇

伊藤英一君

勳四等 兵庫縣農工銀行取  
締役 明石電燈 神戸取引  
信託各代表

君は兵庫縣人野田菊松君の兄にして入夫たり、元治元年二月を以て生る、曩に高砂町長、郡會議員、縣會議員に擧げられしことあり、明治四十五年衆議院議員に當選せり、現時は前記會社重役たる他、神戸取引所理事、長、播州鐵道、明石瓦斯、龍電氣鐵道、新宮輕便鐵道、兵庫電氣鐵道、鬼怒川水力電氣、加古川製紙、北大阪電氣鐵道、垂水住宅土地各株式會社取締役たり、家族は令閨とき子のみ、長女みね子は大阪府人松代安太郎君に、二女テル子は岡山縣人細田善三郎長男藤彌君に嫁せり

〔現住〕兵庫縣印南郡伊保村

伊藤延次郎君

東京米穀商品取引所仲買人  
東京製煉株式會社取締役

君は三重縣の人にして伊藤市太郎君の弟分家なり、明治六年四月を以て生る、現時は前記會社重役並に業を營み別に殖林製材株式會社の監査役たり、家族は令閨はな子並に養子治平君あり〔現住〕東京市日本橋區北島町一ノ三

伊藤傳右衛門君

勳四等 十七銀行 嘉穂銀行  
各取締役 大正鐵業株式會社長

君は福岡縣の人にして伊藤傳六君の長男なり、萬延元年十一月を以て生る、鑛山業を營み別に前記會社重役たる他九州産業博齊無盡、大正電球、中津絹絲紡績、幸袋工作所各株式會社取締役大分セメント株式會社監査役たり、明治三十七年衆議院議員に選ばれる、日露事件の功に依り勳四等に叙せらる、家族は養子金次君、同秀三郎君、庶子しづ



石井柏亭君

洋畫家

現時に於ける我が洋畫壇の重鎮として名聲噴々たるもの石井柏亭君を以て其の尤なるものとす、君は明治十五年三月東京市下谷區仲徒士町に生る、生粹の江戸ッ子なり、父君は重賢と稱し鼎湖を號となす、君幼にして畫才あり、父君に就いて日本畫を習ふ、後淺井忠君に就き洋畫を學び、技大に進む、明治二十八年より三十七年に到るまで印刷局に奉職し、亞いで中央新



聞の挿書を擔當せしが、眼疾の爲め一時畫筆を抛つ一年有半に及べり、快癒後明治四十三年歐洲留學の途につき大正元年歸朝す、第一回より六回に至る文展に出品して褒状を受くること數回、第七回の文展には「滯船」を出品して二等賞を得たり、大正三年同志と二科會を興し畫界の爲めに盡す所あり、大正博覽會、平和紀念博覽會等の洋畫部審査員となれり、曾て無聲會の新日本畫運動に参加し、其他國民美術協會、日本水彩畫會、大平洋畫會の會員として我が洋畫會に盡くす處尠からず君の名聲益々舉れり、家族は夫人を加代子と稱し、大阪梅花女學校の出身なり、夫人との間に四女あり

伊地知正輔君

當家は先々代正治より顯はる正治鹿兒島大納言參事大議員、左院副議長、同議長、一等侍講



岩田鏡三君

弘益商會主

財産の保全は有價證券の投資にあり、有價證券の投資は極めて簡便にして又頗る有利なりとなし、近來の投資家は擧つて此の方面に志すは時代の趨勢なり然るに斯界に投資を試んとするに就いては充分なる調査を要す茲に於てか一般の投資家は之れが調査に種々なる手数を要し、繁類に堪へずとなし、從つて適當なる機關に據りて調査を依頼せんとするに至る、茲に着眼して一般投資家の爲めに其相談所たらんことを期し、其事務を開始せるを岩田鏡三君なりとなす君は岐阜縣の人にして明治元年

修史局總裁、宮中顧問官等に歴任せり、明治十七年多年の勳功により特に華族に列せられ、伯爵を授けらる、君は正治の男正一郎君の弟にして明治九年九月を以て生る、明治四十三年襲爵す、同三十二年早稻田大學邦語政治科を卒業せり、令閨ヒロ子は、鹿兒島縣人田尻源左衛門君の五女にして、家族は尙男正與君、兄正一郎君、長女操子、二女玉枝あり、姉千代子は同縣人萩原三之助君の許に嫁きたり

伊丹彦次郎君

君は佐賀縣土族伊丹彌太郎君の養弟にして分家なり、慶應三年十二月を以て生る現時佐賀縣多額納稅者にして郷に聲望高く佐賀商業會議所常議員、榮銀行朝日商會、廣津黨業、佐賀紡績各株式會社の取締役、佐賀セント株式會社の監査役たり、三男八女あり、二女スミ子は同縣

人八木忠次郎三男清太郎君に、三女トキ子は同縣人武者龍次郎君に、四女トヨ子は鈴木幾枝長男祥枝君に(東京士族)夫々嫁き八女芳子は佐賀縣人福島安太郎君の養子となれり

伊豆直吉君

君は福岡縣人伊豆善平君の六男にして分家たり、明治四年三月を以て生る、夙に郷里に學を修め、上京して同三十二年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業す、曩に山口中學校教諭たり令閨マツヨは山口縣人竹内棲君の二女にして四男五女あり、二女勝子は福岡縣人大江竹松君の養子となり、四男正道君は同縣人某の家督を相続せり

伊藤義平君

君は鳥取縣土族山崎左馬之丞

君の四男にして安政二年十月を以て生る、先代彌平君の養子なり、夙に東京法學院を卒業し大正四年愛知縣より衆議院議員に選ばれたり、現時は前記會社重役たる外中央鑛業、名古屋瓦斯帝國火災保險、天津田養魚各株式會社取締役、木曾物産株式會社監査役たり、家族は令閨いづ子、長男忠孝君、次男善孝君、三女保子、五女千代子、庶子女美代子、同大二君あり、四男正清君は分家せり

伊藤市次郎君

君は三重縣の人にして伊藤市太郎君の弟分家なり、明治六年六月を以て生る、現時は前記營業の傍ら東京製鍊株式會社取締役、殖林製材株式會社監査役たり、家族は令閨はな子及び養子治平君あり

十月を以て羽島郡に生る、夙に東京に出で、實業界に投ず、三十五年請はれて成田鐵道株式會社の整理事務に當る、君の犀利なる頭腦と卓越せる才腕は幾許もなく其事務を完了せり、後輸贏界に投じ、先づ東株仲買人間の重鎮片岡辰次郎商店に入り、精勵勤勉大に業務に従ふや間もなく其支配人に擧げらる君斯界の表裏に活躍すること十數年に及び今日片岡商店をして斯界の重鎮たらしむ眞に君の力に依る處なり、而も君の志素より他人の使役にあるにあらず、大正五年一月同店を辭し、獨立して弘益商會を創立し、多年の經驗と卓抜なる手腕を揮ひ經營大いに力む、君常に穩健着實の主義を以て一貫し、斯界の信用を博せり、曾て東京株式取引所實物取引員組合第一回の副委員長に擧げられ更に同組合相談役となり又現に同短期取引商議員の任にあり、常に組合の事務に關して熱誠以て其衝に當り、爾來同組

井上角五郎君

君は廣島縣の人井上忠五郎君の長男にして、安政六年十月を以て縣下深安郡野上村に呱呱の聲を擧ぐ、幼にして父を失ひ母堂の手一つに哺育せらる、明治十二年東上して、慶應義塾に入り苦學する事多年、優等の成績を以て卒業するや福澤諭吉翁の推舉により明治十五年韓國政府に聘せられ總理交涉通商事務衙門の顧問となる、後歸朝して時事新報社に入る、後藤象二郎伯君の才學を愛して親任厚く、伯の大團圓結に参加して畫策する處尠ならず、亦た移民を引率して米國カリフォルニア州カラベラスに渡り土地開墾に従事せし事あり、明治二十三年憲法發布せられて議會開設せらるゝや推されて衆議院議員となり爾來三十年の久しきに及び、高邁なる卓見と雄辯とを以て政界一方の重鎮たり大正三年六月功により勳三等に叙せらる、其間會社創立經營に其英才を揮ひ、殊に北海道炭鑛汽船株式會社々長として令



名を知られたり、京都電氣鐵道株式會社々長、日東製鋼株式會社取締役會長、八王子瓦斯、日本製鋼、日本電氣製鋼所、金筆製紙各株式會社取締役、新潟瓦斯、日本ベイント製造、品川銀行、日本人造絹絲、日本瓦斯各株式會社監査役等に就任し、現に矢作水力電氣株式會社々長、木曾川電力株式會社取締役として、名聲益々高し、君は又趣味として和歌を嗜み其近詠に既に堂に入りしものありと聞く、令聞を末子と云ひ、三男五女あり頗る圓滿の家庭をなす

〔現住〕東京市本郷區西片町一〇  
〔電話〕小石川三一四〇

### 石川成秀君

正四位高等官四等 子爵

執袴長袖の人、動もすれば文弱に流れ、多く素餐の譏を免れずと雖も、才幹人物共に卓拔なる者無きに非ず、我が式部官子爵石川成秀君の如きは蓋し華胄界稀に見る所にして、宮中に奉仕して其の職責を辱めず、態度



悠揚として貴公子の範たり、君は舊勢州龜山藩主石川成徳君の長男にして明治十九年七月を以て生る、夙に學習院に學び、明治四十一年三月同院高等部を卒業す、同四十三年佛語研究の爲め佛國に航し、研鑽日を重ぬる事年餘、更に歐洲各地を巡歴し具に人情風俗を視察し、同四十

四年歸朝せり、之より先三十一年父君の薨去と共に家督を相續し、次いで襲爵す、四十五年主獵官に任せられ、大正十年一月宮内省式部官兼主獵官に補せられ正四位に叙せらる、趣味又豊にして殊に體育に熱心なり、而も閑あれば銃獵を提して山河湖川を披渉し、或は家族と共に一日を庭球に打興する等のことを

唯一の楽しみとせらる、其風格欽すべきにあらずや、夫人を尙子といふ、貞淑を以て名あり、長男を成道君、長女を忠子、二女を篤子、三女を教子、四女を晴子といふ

〔現住〕東京市下谷區中根岸二四  
〔電話〕淺草六三四一

### 岩崎清七君

南洋貿易 日東製菓 日本増場 東京精米各株式會社々長

君は栃木の先代岩崎清七君の長子にして、元治元年十二月を以て生る、幼名を清吉と謂へり、明治十六年十二月家督を相續し、清七と改名す、父君清七君は米穀仲買業を開き、専心一意、經營せしより事業擴大して漸く其基礎堅固となりしが、君の業を繼ぐや熱心經營に努力する處あり、益々發展して家連次第に繁昌して遂に今日の如く斯界に雄飛するを得るに到れり君の精力旺盛なるや他に前記の會社重役たる外野田電氣、東京カ

ーボン、日本製粉、日清紡織糖、東海製鋼、東京アルカリ工業、南洋殖産、王子煉瓦、岩崎醬油、岩崎商事、千島興業、大正商船、日華窯業、大和商會、東京醸造、日米信託各株式會社取締役、千代田工業、東京紡績東京商船、横濱炭酸素製造、臺灣殖産製茶、輸出國産、東京製鍊、東京瓦斯、千代田自動車白山水力電氣各株式會社監査役等に任ず當代我實業界に於ける一方の重鎮たりと云ふべきなり

〔現住〕東京市小石川區小日向臺町二ノ八  
〔電話〕小石川七四八六

### 飯塚春太郎君

衆議院議員 桐生織物業組合長

君は群馬縣の人にして飯塚二葉君の長子なり、慶應元年一月を以て生る、夙に中央大學の前身たる東京法學院を卒業せり、君は兩毛地方に於ける織物業の

### 板井儀光君

醫師 京濱病院長

重鎮にして同地實業界の一勢力たり、君は性來の智者にして其人格手腕たる實業界のみに限らず今や政界に於いて異常なる勢力を發揮し、憲政會群馬支部の選舉長として其快腕を揮つて政界の注目となりしことあり現に同縣會議員にして代議士たり(二回)前記會社重役たる外渡良瀬水力電氣株式會社、日本絹織株式會社各取締役たり、家族は令閨リウ子、女ナカ子、甥貞一君、姪美恵子、甥基君、姪たま江、甥功男君、同次男君、同昭君、同四郎君あり、長女つゆ子は東京府人田村吉之助君に、姉かつ子は群馬縣人壽島徳次郎君に、妹シマは同縣人周東嘉吉君に、同タネ子は同新井福太郎君に嫁し、第八彦君は栃木縣人木村ハルの入夫となれり

〔現住〕群馬縣山田郡廣澤村

君は大分縣の人にして明治十



五年を以て都里白杵町に生る、天性叡知にして業を好み、頭腦明晰を以て幼少、既に先輩の間に將來を囑目さる、明治三十四年四月、大分縣白杵町中學校を優等の成績を以て卒業す、而も君の雄志勃々として堪ゆべくもあらず、私そかに大志を抱いて東都に上り刻苦精勵、有ゆる辛

て好成绩を舉げて之に合格し一日の應試を以て免許狀を得素願を達成して醫師となれり、爾來醫業を營みつ、種々なる方面に對つて學理並に實地の研究に携りたるが大正十三年七月一日を以て神奈川縣鶴見町花月園前に理想的病舎を建築し開業せしが君の學識手腕日ならずして世人の好評に上り、之が治療を受くるもの門前に蟬集す、而も君は眞個に献身的診療を以て快となし、不斷病理の研究に餘念なく夙夜精勵是れ勤む、君の如きは晩近刀圭界に得難き人たらずんはあらず眞に斯界の一偉彩たるを失はず、君は銃獵及釣魚に趣味を持ち閑あれば此の樂に微笑すと云ふ家族としては令閨(海軍三等軍醫正永田勤君の女)及び二男あり

〔現住〕神奈川縣鶴見町花月園前

### 市來乙彦君

正四位勳一等 貴族院議員 日本銀行總裁

君は鹿兒島藩士市來平太君の三男にして明治五年四月を以て其の藩邸に生る、君幼にして俊秀の譽あり、長じて其郷養を出するや、東上して東京帝國大學に入學し、同二十九年を以て法科大學を卒業し、直ちに文官高等試験に應じ、優秀の成績を以て合格せり、時に君年齒僅かに二十五才なりき、人以て君の學才の拔群なるに敬服せざるはなかりき、茲に於てか君は志を官途に立て先づ大藏省に出仕して司稅官となれり由來大藏省は其の吏僚を撰擇するに當り頭腦明晰にして計數に精通せる人物を以て網羅する方針なるが君銳才にして其の口辨に於て其覇氣に於て最も適當たり、而も着實慎重一事をも苟もせざる點に於て君の如き實に稀れなりと云ふべきなり、左れば君は就任後間もなく沖繩土地整理事務局事務官を拜命し、次で那覇稅務管理局長、稅關事務官、專賣局書記官を経て大藏省書記官、大藏省參



ノ三二 (電話)牛込八〇二

### 伊藤 清 君

栃木伊藤銀行専務取締役

君は茨城縣人川上彌助君の三男にして明治十八年十月を以て生る、栃木縣人伊藤常三郎君の養弟にして分家せらる、現時株式會社栃木伊藤銀行専務取締役、關東化粧煉瓦株式會社取締役、東神ゴム工業株式會社監査役たり、夫人ヨシ子は東京府人館野榮吉君の二女にして君との間に四男二女あり、長男を精一君、二男を正君、三男を精三君、四男を光雄君といひ、長女を壽美子、二女を篤子といふ

〔現住〕栃木縣下都賀郡栃木町

### 伊藤 潔 君

沖電氣株式會社監査役

君は静岡縣人伊藤市三郎君の二男にして文久三年十一月を以て生る、先代市三郎君の養子にして電信學校を卒業し、爾後遞信省電氣試驗所技師、日本電燈

株式會社技師、芝浦田中製作所員、合資會社沖商會營業部長、株式會社連榮製糖所取締役、日本蓄電池株式會社取締役等に歴任せられ、目下沖電氣株式會社、天鹽水電株式會社、大正電氣株式會社、日高電氣株式會社、關東電氣鐵工株式會社各監査役たり、夫人くす子は三重縣人坂本徳三郎君の令姉にして、君との間に五男一女あり、長男を瓊一君、三男を駿君、五男を四五郎君と云ひ、長女を靜江といふ、靜江は東京府人小林武麿君に嫁せり〔現住〕東京府荏原郡大井町一四〇五

### 伊藤 清 君

松屋吳服店主

君は福岡の人濱地武助君の長男にして、文久二年六月を以て福岡縣糸島郡元園村に生る、家代々農を業とし、傍ら郷社地の差配役、組頭等を勤め、同村第一の名家なりき、君幼より實業に志あり、碌々として鐵鋤を手

にして其の目を消すに忍びず、獨立獨行、以て成功を收めんとし、一日決然として郷關を脱す、萬難を排除し、東都に來りて、偶々一代の名流金子堅太郎君の知遇を受け、得る所又少なからず、日本橋區小山町の路次内に九尺二間の小屋を求め小規模なる小間物化粧品業を開く、時に君年齒二十八なりき、夫より羅吳服、小さき請負等何事にても君は全力を注ぎて従事せしかば君が苦心は漸く成果を得、明治二十四年神田小川町に店宅を構へて、羅吳服商を開くを得るに至れり、君が經營の堅實にして經驗に豊富なるや、業務次第に發展し、三十三年に及び現住地たる南茅場町に堂々たる店舗を構へ、一般吳服商を開くに至れり、今や賣上高一ヶ年五十萬圓に近く、日本橋區内屈指の大商店たり、尙ほ現時北陸鐵道株式會社、東京染織株式會社各取締役たり、夫人ふさは愛知縣人淺野松助君の長女にして、君と

の間に、長男清行君、二女光千代、三女愛子、四女千鶴子、五女正千代あり〔現住〕東京市日本橋區南茅場町三四

### 伊藤 欽亮 君

實業家 交詢社理事

君は山口縣人にして、安政四年八月八日を以て、河武郡萩町に生る、伊藤信亮君の次男なり、明治八年、上京して法律學を獨習し、後三田の慶應義塾に入り益々研究せしかば、學業忽ち進み、卒業するや直に時事新報社に入り、政治經濟の記者となる其の明敏なる言論は社會の大きい歓迎する所となり、其の實務的才幹は同社の發展に甚大の貢獻を爲し、忠實勤勉なる記者として、社中同人の推敬を受けたり、二十九年、同社を退きて、日本銀行に入り、一躍して文書局長の重職に上り、銳意行務を執る、在勤殆ど十ヶ年、同行の爲に、寢食を忘れて盡瘁する所あり、行員皆瞻仰せざるはなし

然るに三十九年五月、驟然として悟る所あり、再び操觚社會に入らんとし、同人の切止せしを顧みず、日本銀行を辭せり、當時三宅雪嶺博士等の經營しつつありし日本新聞は、都下新聞中一異彩を有し、所謂硬き新聞として、天下に獨歩し居たるが偶々經營困難に陥り、到底維持する事能はざるに至りしより、伊藤君は進んで、之を譲受け、社長として、自ら主筆を兼ね、多數の記者を督勵して、精勵發展に力を盡せり、然れども機未だ熟せず、奮闘も甲斐なく遂に廢刊するに至りしは、實に悲想の極みと云ふべきなり、即ち再轉して實業界に入り以て現時に至る、慶應義塾理事、交詢社理事、千代田生命保險相互會社、日本油脂株式會社、日本製粉株式會社、株式會社内國貯金銀行各取締役、第一機關汽罐株式會社監査役たり、夫人をすゞ子と云ひ、東京府人西尾喜平君の令妹なり

### 伊藤次郎左衛門 君

伊藤銀行取締役

君は愛知縣の人、縣下の大地主にして、同縣多額納稅者たり、父君を伊藤祐良君と呼び、君は其の二男にして嘉永元年六月二十七日に生る、家は世々吳服太物商を營み、累代家富み財裕かにして、縣下有數なる富豪の稱ありて、名古屋第一流の老舗たり、東京上野廣小路に、松坂屋と呼び、宏壯雄麗なる店舗を有し、店頭四季流行の裝ひ凝したる數多の人形を陳列して裝飾の美觀を添へ、都人の時好に投じて、大に繁盛を極むるは實に君の有に繋れる支店の一なり、京都及び大阪にも亦宏大なる支鋪を有し、業務益々隆昌を極む、君よく時代の風潮に乗じて事業の擴張を圖り、其の企劃せる所よく機宜を制し、商運日に月に隆盛に、殆んど旭日冲天の勢あ

り、現時令息守松君専ら之が經營の衝に當りて、其の社長たり君また曾て感ずる所ありて、進歩したる金融機關の必要なるを認め、卒先主唱者となり、且之が中心となりて、株式會社伊藤銀行及び株式會社伊藤貯蓄銀行を起し、現に取締役として、經營發展の任に膺たり、兼ねて株式會社愛知銀行の監査役として精力を傾注し、中京金融界の雄を以て目せられ、曩に貴族院議員並に名古屋商業會議所副會頭に擧げられ、令名噴々功あり從五位勳四等に叙せらる、夫人をみつ子と云ひ、同縣の人岡谷惣助君の令妹なり

### 伊地知 季珍 君

後備海軍中將

君は鹿兒島の人、安政四年三月を以て生る、伊地知徳四郎君の男なり、幼より海軍に志あり十五年海軍兵學校を卒業し、翌



十六年海軍少尉に任ぜらる、武藏、金剛各艦長として盛名を馳せ、舞鶴鎮守府參謀長に擧げられ、爾來吳海軍工廠長、艦政本部長、横須賀鎮守府司令官海軍將官會議々員等に歴補せられ四十四年功により正三位勳一等功三級に叙せられ、海軍中將に任ぜらる、夫人をカン子といひ伯爵林雅之助君の叔母たり、六男一女ありて、男を重明君、重雄君、重徳君、女を多嘉子といふ〔現住〕東京市麻布區新堀町七

### 伊地知壯熊君

鹿兒島商業會議所特別議員

君は伊地知貞馨君の二男にして、元治元年九月九日を以て生る、元日本勸業銀行鑑定課長伊地知徳之助君は實に君の令兄なり、君夙に米國に留學し、工學を研究して米國工學士の稱號を得、明治二十五年歸朝するや、鐵道廳雇員となり、翌二十七年遞信省鐵道技師に任じ、遞信省御用掛を勤め、國府津、靜岡、

名古屋の各保線事務所長となり四十年帝國鐵道廳技師に任ぜられ、鹿兒島鐵道の建設所長として赴任し、在職實に七ヶ年、銳意同鐵道の爲めに盡瘁して貢獻する所尠からず、大正四年辭して小倉鐵道に入り、現時小倉鐵道株式會社取締役に擧げられ、鹿兒島商業會議所特別議員たり先之日清戰役に當り、臺灣鐵道の讓與に際し、君渡臺して同鐵道の爲め、劃策經營する所あり功を以て、從四位勳三等に叙さる、同縣の人黒岡帶刀君長女セイ子を娶りて、二男二女あり、長男を壯一君といふ

〔現住〕東京市麻布區筭町一七五

### 伊臣眞君

實業家

君は愛媛の人伊臣忠一君の二男、安田善三郎君の令弟たり、明治十年三月を以て生る、曾て合名會社保善社理事、水戸鐵道株式會社常務取締役、株式會社正隆銀行監査役、株式會社根室

銀行、同信濃銀行各取締役、秋田瓦斯株式會社、滿蒙纖維工業株式會社、滿洲興業株式會社、秋田電氣株式會社、帝國製麻株式會社、筑波鐵道株式會社、中國鐵道株式會社、横莊鐵道株式會社、東京火災保險株式會社各取締役として、君が全精力を傾倒し、只管其の經營發展に努力せらる、夫人しめのあり、兵庫の人近藤靜郎君の令妹たり、長男を第一郎君、二男を次郎君と云ひ、長女を櫻子、二女を翠子四女を春枝といふ

〔現住〕東京市牛込區若宮町一

### 今村製菓株式會社

本社 東京市芝區三田小山町

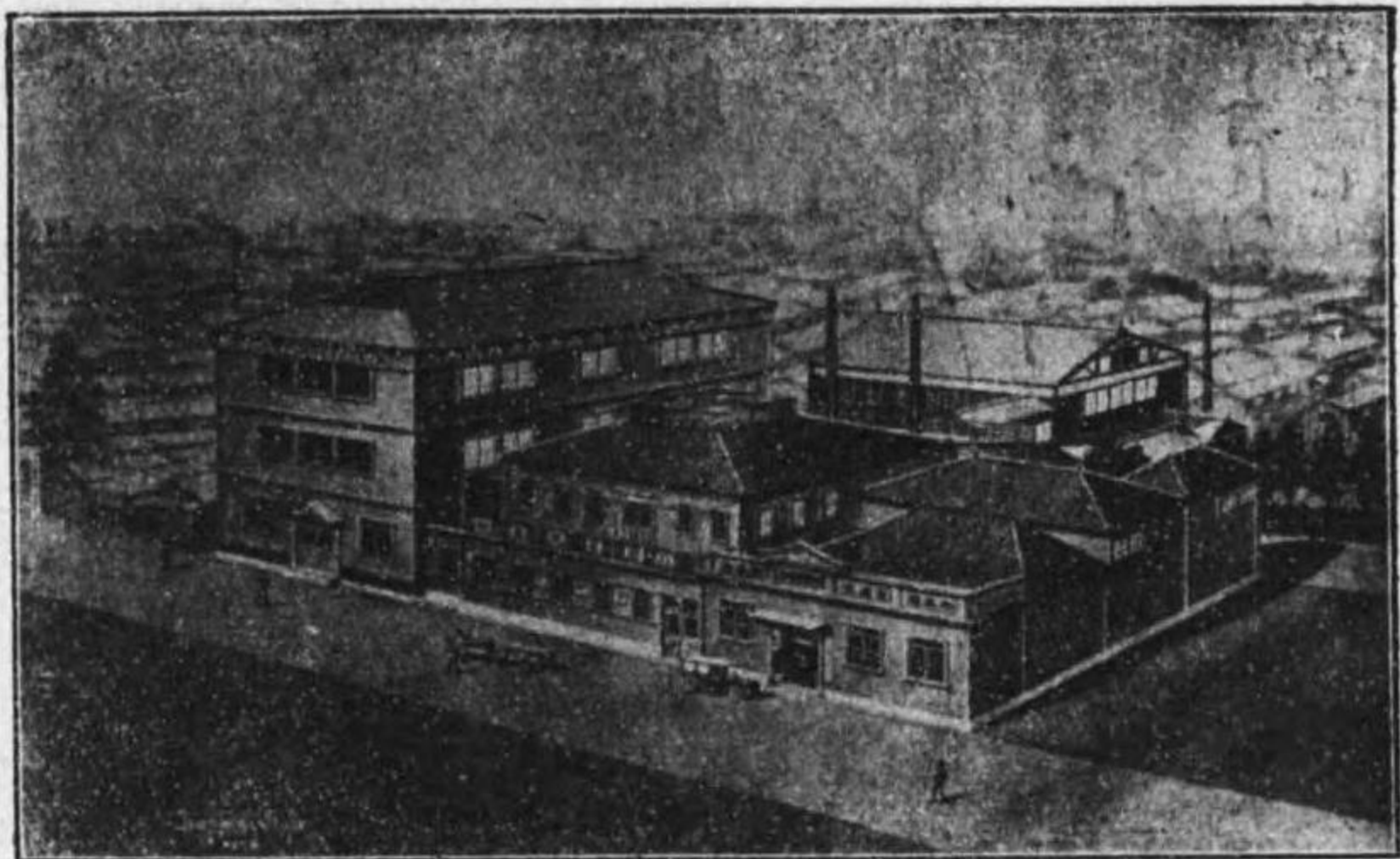
電話高輪三八一〇一

資本金壹百五十萬圓

純國産を標榜し、斯界の一角にその覇を稱へつゝある「水無飴」の製造元、今村製菓會社は從來今村君個人の經營に係りたるが世の好評と従つて起る需要とにより、異常なる發展を來し

斯界に噴々の好評を博するに至り組織を改めて今村製菓株式會社と稱し、資本を増加して壹百萬圓となし、本社の附屬工場六百餘坪を第一工場となし、更に下澁谷に五萬坪の第二工場を増設して大々的發展を試みし結果、内地は勿論、滿洲、朝鮮、支那、南洋方面に至るまで盛んなる輸出を見るに至り、而して販路益擴張され、製造數量増加するに從ひ、現在二ヶ所の工場にては狹隘を感ずるの狀況を來せるに及び、大正十三年四月、社長の經營たりし朝日製麵株式會社(資本金五拾萬圓)を併合し、同社中野工場を第三工場となし、又關西方面の販路擴張の爲めに、大阪に出張所を設置し將來の發展の設備をなし隆々盛況の機運にあり、現時會社の従業員は男工百名、女工參百數十名を算し何れも白衣を着け和氣藹々の間熱心に製造に従事しつゝあり會社の従業員獎勵法としては年二期に定期の増給を行ひ

且つ其成績によつて特別の賞與を與へ又社長今村君は従業員の爲め今村夜學校を設け人格の養成に努め、其他知名の士及び宗



教家等を聘して智識の開發、精神の向上を計り女子従業員には業務の餘暇を利用して裁縫を教へ其他家庭婦人としての教養を

積ませ、且又春秋その慰安會を開き従業員の家にも接觸する機會を繁からしむ等の模範的方針を執り、斯くの如く會社の設備の完ふすると共に製品に對する需要亦激増し各方面より注文殺倒して實に驚く可き數を示すに到れり、會社が製品に對する態度は爾來周到なる注意の上更に一層嚴密なる衛生的注意を加へ凡ての人々の嗜好に投ずるやう熱心に研究し就中會社が最善の努力を拂ひつゝある點は生産能率増進に依る原價の遞減にして、殊に特筆すべきは賣掛代金に關する會社の見解なり即ち從來の取引方法たる賣掛を廢し現金取引に改めたることなり賣掛代金の回收滯滞に因る不便と不利益は即ち流動資金の固定なり、これ等に依りて生ずる利益の消耗は等閑視すべき事非ず會社が特に此點を改革せしこととは明らかに商取引上に於ける一新時代を劃するものと云ふべく斯くして大正十一年下半年期よ

り製品卸値段の大改革を斷行せり、同社の製品水無飴は由來高貴の御料として召されたる外陸軍糧本廠、學習院、赤十字病院等の御用を蒙り尙各博覽會、共進會に於て金銀牌を多數に受領し、一昨年開催の平和博覽會には名譽ある一等金牌を得て如何にその品質の優良なるかを確證して餘りありと云ふべし

君は德島縣の人井口源三郎君の長男にして明治十八年三月を以て生る、學業順を遂ふて進境を見、東上して更に早稲田大學に入り商科を専攻し、明治四十年卒業せり、後直ちに竹内鐵業株式會社に入社し、精勵克く業務に従事して上長の囑望厚かりしが、明治四十四年會社を退いて直ちに獨立以て印刷事業を開始し尙山堂と稱せり、大正六年二月日本加工製紙株式會社の創立せるや君其常務取締役に推されて爾來同社の經營發展に盡力せられつゝあり、尙同年東京紙器株式會社の設立を見るに際し君亦同社の取締役に擧げられ其蘊蓄を傾倒さる、大正十年に至り株式會社早川商店の取締役に兼ね、縦横の才腕を揮ひ各社の發展に専心盡力する處あり、次で同十三年四月井口印刷合名

### 井口誠一君

井口印刷合名會社々主 日本加工製紙株式會社常務取締役

取締役社長 今村太平洋  
常務取締役 今村秀太郎  
常務取締役 今村源作  
取締役 志村吉藏  
監査役 堤徳藏  
監査役 横田徳厚  
等にして以下敏腕なる社員數十名が或は販賣に、或は宣傳に各部署を定めて活動し、又同社研究部には外人技師外數名の研究あり且つ新製品の完成に盡力し、あり、同社また斯界の重鎮たりと稱すべきなり



會社を創立し専ら斯業に従事せんが爲め日本器紙株式會社取締役を辭し監査役に任じ爾來今日に至る、趣味としてテニスを能くして長唄に堪能なり、夫人富貴子との間に長男周三君(十一歳)長女幸子(一歳)あり

〔現住〕東京市市ヶ谷長延寺町七  
〔電話〕牛込五九八



生駒悦君

千代田館主

君は富山縣真庭郡落合町垂水の産にして、明治二十八年四月一日を以て生る、早稻田大學法科の出身なり、中途轉じて、映畫說明界に入り、淺草公園帝國館に主任辯士として、勤務し、大正十二年に至る、同年大震災

後、獨力淺草公園千代田館を直營し、優秀なる映畫を輸入してファンの人氣を熱狂せしめ、一躍斯界の王者となる、君號を雷遊と稱し、映畫界に於いて第一者たるは既に世人の悉知する處たり、而も又經營の才に富む、偉なりと云ふべし

〔現住〕東京市小石川區西丸町十  
三

五百木竹四郎君

株式會社精養軒常務取締役

本邦に於ける洋食の一大權威と云へば先づ指を精養軒に屈せざるものなし、實に同軒は我が洋式料理界の覇者として他の追随を容さず、其盛名内地は勿論遠く海外にまでも知られ、邦國內に於ける各階級の紳士淑女日夜此處に蟠集す、直言すれば社交界の樂園と稱するも強誇張の言にあらざる、調理の巧妙香味の出色、材料の清新に至りては實に東洋第一の稱あり、されば外來の王侯貴紳一度足を我邦に入

れんか、食事調理の用命は必ず同軒に下るを常とす、如何に同軒の聲望隆々たるかを知るべし殊に同軒の歴史に光榮を添へたるは、明治十年以來明治天皇、昭憲皇太后兩陛下が前後二回行幸を賜はり且つ至尊の御調度を上納せり斯くの如く盛名ある同軒の常務取締役兼全國支店總轄營業部長として同軒の經營を双肩に擔ひ最も重き責任を有するものを五百木竹四郎君なりとす君は愛媛縣士族五百木友次郎君の四男にして分家なり、明治二十年五月十日を以て同縣北字和郡宇和島町に生る、四十年君年齡二十歳にして初めて同軒に入る、翌四十一年兵役に服し、四十二年除隊して復職せり、爾來誠實勤勉事務に勵み、漸次經驗を積むに従ひ、經營の要譯を極め、才幹技術自ら舉り、敏腕大に揮ふ、遂に推されて取締役兼支配人となり、經營益々宜しきを得、業務遂次隆盛を加ふ、大正十年に到り歐米各國を巡遊し

井坂孝君

横濱火災海上運送信用保險株式會社社長

我海運界に於ける三大會社の

一なる東洋汽船株式會社が今日の盛大を爲したる、其功勞者として井坂孝君の名は永世不滅のものなり、君は舊水戸藩士井坂直幹君並に前島平君の令弟にして菊地季吉君の令兄なり、明治二年十二月を以て生れ、同二十九年分家して一家を創立せり幼より學を好み、水戸中學を卒業して東上し、第一高等學校を経て、同二十六年東京帝國大學法科大學に入り、英法科を専攻す同二十九年優等の成績を以て卒業し、大學の推薦に依りて當時創立中なりし東洋汽船株式會社に入社す、熱誠大に社務に努め手腕才幹早くも上長の認むる所となり、同三十二年桑港支店長を命ぜらる、在米四年店務を経營する傍ら同地の文明に接して研究する所あり識見益々高く、造詣亦愈々深し、同三十五年歸朝するや、横濱出張所主任に任せらる、此に於てか君は所謂渾身の蘊蓄を傾注して業務に努め常に炯敏機を見るに過たず社運

伊丹彌太郎君

貴族院議員 榮銀行頭取

佐賀は古來生産業の發達頗る遅緩にして、貧弱國たるの譏を免れざりしが、維新の際に處せる先輩者の方針は甚だ中庸を得たるのみならず、大隈侯爵の如き、大木伯爵の如き人才輩出して、彼等の活躍は、國史上重要な真となり、従つて此地方は近來俄に經濟的大膨脹を來すに至れり、君は實に縣人屈指の大地主にして、又當縣第一の多額納税者たり、伊丹文右衛門君の長男にして、慶應二年十二月十五日を以て生る、明治二十六年三月家督を相續せり、曾て株式會社起業銀行、眞宗信徒生命保險株式會社、九州鐵道株式會社、帝國水産株式會社、廣瀧水力電氣株式會社、久留米電燈株式會社、東京醬油株式會社、肥前漁業株式會社等の重役たりし事あり、又佐賀商業會議所議員にも當選せしが、現今は株式會

伊丹重雄君

男爵

其の祖先に溯りて、これが勳功を檢すれば、所謂世に赫々たる、名門たるに拘らず、名門、



名將を出さずして、却て凡庸なる者甚だ多し、所謂三太夫によりて實権を握られ、唯虚位に居るもの、其例乏しからざるにあらずや、然るに謹嚴剛直なる君の如きは、よく父祖の名譽を維持して、愈々その光を添ゆ、寔に華胄の模範たるべく、皇室の藩屏たるの、實よく表象せらるゝものといふべし、君の家は代々粟田青蓮院宮に仕へ、精忠無二の稱あり、先々代重賢君、又青蓮院宮の家臣にして、中頃賀陽宮に仕へ、後再び青蓮院に復歸せり、明治維新の動亂によりて、宮も亦廢絶したるにより即ち大阪判事となり、更に大審院判事、元老院議員等を歴任して、晩年、錦鶏間祇候となり、更に貴族院議員に勅選せられたり、二十九年、勳功により男爵を授け、華族に列せられたり君は即ち重賢君の令孫にして、明治三十年七月を以て生れ、大正九年三月家督を繼ぎ、襲爵被仰付れ從五位に叙さる



石井徹君

日本郵船株式會社取締役  
内國通運株式會社取締役

我が國海運界の重鎮、日本郵船株式會社は世界に赫々たる名聲あり、而して會社の中心勢力たる石井徹君亦斯界の耆宿たり君は静岡縣士族石井廣正君の長子にして明治三年二月を以て生る、君は幼時より穎悟、學を好み、長ずるに従ひ識才著しきものあり、夙に東京帝國大學法科大學政治科に入り研學勉勵、識殖大に進む、同二十九年七月優等の成績を以て卒業せり、同年七月日本郵船株式會社に入社し

〔現住〕東京市赤坂區青山高樹町  
二二ノ二

本社貨物課に勤務す、君人と爲り篤實にして事務に勵精格勤大に努力す、漸次上長に知られて拔擢累進し、同三十九年十二月倫敦支店助役となり、尋で同十四年神戸支店助役に任じ、同年十二月上海支店長となる、大正五年三月同社參事となり倫敦支店長に進み、續いて同七年六月神戸支店長に就き、益々其敏腕を揮ひ事務に執掌する處ありしが、同九年五月に至り多年の功績によりて重役に列し、取締役となり社長伊東米治郎君を補佐して營業部長を兼職し其の造詣を傾倒して盡瘁せり、越へて同十年十二月更に專務取締役となり十二年二月副社長の要職に就き、才幹縱横の快腕を揮ひ事業の發展に力む兼ねて同年近海郵船株式會社取締役となり更に内國通運株式會社取締役となる同年九月大震災救護事務局囑託を拜命せり〔内閣〕同年十一月副社長を辭して取締役となり爾來社務に執掌して今日に至る、

會て上海在任中、上海共同租界參事會員となりし事あり、實に邦人にして市參事會員たること君を以て嚆矢となす、蓋し罕觀の器局たりと謂ふべきなり趣味として運動を好み特に大弓テニスは造詣深く令聞あり夫人キヨ子は男爵船越光之丞君の叔母にして其間三女あり長女を千代子次女を英子、三女を華子と稱す

〔現住〕東京市麻布區筈町一五九  
〔電話〕青山五五五四

伊丹誠一君

實業家

君は佐賀縣の人、新ヶ江伊七君の二男にして、安政四年十月を以て生る、伊丹家に入る、現時株式會社榮銀行、佐賀セメント株式會社、九州窯業株式會社各取締役、窓の梅酒造株式會社肥前漁業株式會社、九州板紙株式會社、川上軌道株式會社各監査役たり、二男次郎君は佐賀縣の人木原吉次君の二女キク子を娶り、長男俊郎君及び二女妙子

あり、三男を三郎君、七女をヒデ子、八女をカツ子といふ、二女トシ子は東京の人稻川豊君長男與一君に、三女ツナ子は同府人岩松玄十君に、五女ヨネ子は千葉縣の人古川傳七君三男精一君に、六女フミ子は分縣の人中島百藏君の長男三郎君に夫々嫁せり〔現住〕佐賀市道祖元町

飯島嘉平君

亞細亞石油株式會社代表社員

君は埼玉縣の人飯島嘉平次君の令孫、明治八年二月を以て埼玉縣藏田村に生る、現時亞細亞石油株式會社代表社員、大日本紡績原料株式會社取締役、株式會社鬼石銀行監査役たり、夫人をヤウ子と云ひ、埼玉縣の人茂木信次郎君の令妹たり、長男を享君、二男を貞君、三男を丈君と云ひ、二女をいし子、三女を富美子、四女を治子といふ、長女シゲ子は埼玉縣の人、茂木信次郎君長男圭三君に嫁せり

〔現住〕埼玉縣兒玉郡藏田村

飯村丈三郎君

日本火災保險株式會社  
常務取締役

君は常陽の魁物にして、地方政界の先輩なり、小久保城南、大津鈴山の徒は地方黨界の優秀として、世間に知られつゝあるも、之を君の閱歴及聲望に比較し來れば、未だ兒孫たるを免れざるなり、況んや財界の巨豪川崎一家の顧問となり、且自ら實業界に奔騰飛躍するをや、時に新聞社の社長として、時務を論策し、悍然として言はんと欲する所を言ひ、昂々乎として政界を睥睨し去るに至りて、獨り常陽の魁物たるのみならず、直に關東の雄鎮を以て、指目せずんばある可らず、君嘉永六年五月を以て常陸國眞壁郡上妻村の里正又五郎君の長男として生る、幼にして學を好み、長して老儒菊地三溪翁に就き漢籍を學び、後東上して、中村敬宇先生の同人社及春風社に螢雪の學を積み

大いに進境を告ぐ、後諸同人と謀り、淺草七軒町に明新學校を創立して、英漢數の諸學を教授し、且之が幹事と爲りて努力する事前後殆んど七星霜、此間入りて學ぶ所の青袴は千を以て數ふるに至れりと、然るに明治九年辭すべからざる家務に逢着して郷里に歸り、復粹かに出京する事能はず、愆くして明治十三年縣會議員に擧げられ、次で常置委員となれり、世人も知るが如く、當時の茨城縣會たるや、治水黨及山獄黨の二派に岐れ、其論戰の熾なる事、恰かも猛火の勁風を負ふて、曠野に走る一般、炎々として天を燒くの觀ありたりき、君此間にありて獨り公明正大の言議を爲し、兩派の蒙を啓きたりしは、吾人の今尙記憶に新たなる所なり、二十三年衆議院議員に當選し、豫算委員として貢獻する所あり、二十六年立候補を斷念して以來、獨力「いはらき」新聞を創立し、且親ら社長となりて、實業振興

飯塚彌一郎君

柏崎銀行頭取

君は新潟縣の人飯塚彌兵衛君の長男にして、嘉永五年七月を以て生る、大正四年新潟縣郡部より推されて衆議院議員に當選



し勳四等に叙さる、現時株式會社柏崎銀行頭取として、北越金融の中樞たらしめ、尙ほ株式會社百三十九銀行取締役、株式會社米穀取引所理事、日本石油株式會社監査役として之が經營に心身を傾倒せらる、夫人を愛子といふ、新潟縣の人丸田伴二君の二女なり、二男知信君は同縣の人關矢孫一君の令妹貞子を娶り、慶子、温子、好子の三女あり、又長女梅子は北海道の人高野新一君に二女愛子は同縣の人増田太平治君に、三女眞子も亦同縣の人伊藤文吉叔父九郎太君に夫々嫁せり

〔現住〕新潟縣刈羽郡高田村

### 伊東亮一君

關東水力電氣株式會社常務取締役  
小田原急行鐵道株式會社取締役理事

官に職を奉じては精勵匪勉よく其職に忠誠を致し、家業界に入りては名聲噴々斯界に轟くものに關東水力電氣株式會社常務取締役伊東亮一君あり、君は明



治二十一年一月八日を以て東京市に生る、幼時已に英才の資ありて比隣の注目たり、夙に學に篤く順を遂ひて學才共に進む、東京帝國大學法科大學に入りて拮据勉勵、螢雪の功を積み、大に學殖を收藏し、大正二年優秀の成績を以て卒業するや直に文官高等試験に應じて、之また易

々として及第し、其の學才を認めらる、身を官途に投じ、大藏省に入り司稅官に任せられ、亞

いて外務省に轉じ外務事務官となる、後更に内閣に入り法政局參事官に任せられ忠實よく事務に執掌し上長の囑目を受く、大正九年に至り感ずる處ありて官を辭し、實業界に投じ、關東水力電氣株式會社に入り、常務取

締役となり兼ねて小田原急行鐵道株式會社取締役理事に就任し爾來會社經營の衝に當り、多年の蘊蓄を傾倒し、縦横の才腕を揮ひ、斯界に令聞を高らしむ、君また外務省に在官當時上智大學の講師となり、博大學の學を披歴して後進學徒を指導し諒々として倦まず爾來今日に至る、而も君未だ壯年にして既に斯の博名あり、蓋し罕觀の高材と謂ふべきなり

〔現住〕東京市外馬込村洗足三七七

### 飯田新太郎君

高島屋吳服店取締役

帝都に近代的大吳服店として三歳の兒童すらその名を知らざる者なく、遠く海外に聞えて、萬里波を蹴つて我邦に遊ぶ者、先づ第一に足を運ぶものに五あり、曰く高島屋、三越、白木、松屋、松坂屋と、財界の巨豪三井系の經營に係る三越に抗して着々と其の健實なる基礎の上に

發展し、殊に震災後に於る機敏なる活動、勝るとも豪も劣るなき營業振を示すものに高島屋あり、即ち君の父君の經營に擊るものにして、内地は云ふ迄もなく遠く殖民地に支店を有し、その擴張、その新企畫、盡く時代の風潮に乗じ、擴張に次々に擴張を以てするの隆昌を極め、到底個人經營の及ばざるに至り、時近之を株式組織となし、父君新七君は取締役會長に、君は取締役として級々として、父君を助けて己ます、今や四大吳服店を壓して、帝都に其の覇を稱へんとす、實に高島屋吳服店の前途や多端、君の責、又重しといふべきなり、君は即ち明治十七年六月を以て生れ、早稻田大學商科を卒業せらる、尙ほ現時高島屋飯田株式會社監査役たり、夫人チエ子は奈良縣の人安川新次郎君の二女にして二男一女あり、鐵太郎君、鐵次郎君及び美枝子あり

〔現住〕東京市芝區高輪南町三〇

〔電話〕高輪一二六〇

### 飯田延太郎君

有隣生命保險株式會社  
取締役社長

保險事業は最も有利にして、實社會と密接せる事業なると共に又最も經營の困難なる事業なり、故に經營者に其の人を得ざれば、盛運を見る事殆んど難し我が有隣生命保險株式會社の如き、先任經營者其の人を得ざりしが爲め、一時維持難をさへ噂されたる會社なりしも、一度飯田君は私財二十餘萬圓を投じて之が救済に盡力するや、忽ちにして社運隆盛に赴き、今や斯業界、有數の社と爲れり、願ふに飯田君は未だ不惑に達せずして早く既に此の成功を收む、蓋し異數の手腕家と云ふべし、而も君が出身の經路に至りては、更に奇なるものあり、君は福岡の人飯田久助君の長男なり、明治六年五月、福岡縣嘉穂郡桂川村に生まる、君は法學を以て、身

を立てんと志し、中央大學に入り、専ら法律經濟を研究し、三十三年、優良なる成績を以て卒業し、明治三十七年、辯護士試験に合格するや、民事訴訟に堪能なる法學博士原嘉道君の事務所に入り、博士を助けて、訴訟事務を執る、直截簡明なる君の辯論、懇切熱心なる其取扱振は頗る依頼者の評判を博したりしも、君は訴訟なるもの、内容の意外に醜惡を極むるを見て、眞に志ある者は永く此の業に従ふを潔とせざる所なりと斷じ、遂に飄然として廢業し、鑛山業を始めたり、先づ北海道夕張登川鑛山を買収して、石炭採掘に従事せり、然るに事業漸く緒に就き、成績頗る良好なりしより、三井物産株式會社は切に君に讓渡を懇請せしかば、君は遂に之を讓れり、茲に於て君は鑛山業を廢し、四十四年、有隣生命保險株式會社に入り、自ら社長として、熱心經營に努めし結果、遂に今日の盛運に達せしめたり

### 猪子止戈之助君

京都帝國大學名譽教授醫學博士

君は兵庫縣人猪子止正清君の長男にして萬延元年四月を以て生る明治十五年東京大學醫學部を卒業し、爾來京都府立醫學部第一等教諭、京都府立療院長、第三高等中學校教諭、同教授、京都府立醫學學校長、京都帝國大學醫科大學教授等に歴任す、曩に外科學研究の爲め、獨乙に派遣せらる、明治三十二年醫學博士の學位を受け、學界に貢献せし所少なからざりしにより特に正三位勳三等に叙せらる、夫人をひさをと云ひ、京都の人廣瀬知

### 猪俣吉平君

貿易業

君は東京の人猪俣耕三君の長男にして嘉永六年三月を以て生る、夙に英國に航し、商業の視察に従ふ事二歳、大に得る所あり、歸りて直に輸出入貿易業を初め業務の次第に發展すると共に、外國品驅逐の目的の下に優良自轉車の製造を初め、次いで革具製造業を營む、時流に投せる君の企畫は盡く成功し、隆昌日を遂ふて至る、此に於て更に活版印刷業を起し、が、貿易業日々に盛んに遂に個人經營の極致に至りしかば、之を二葉屋と稱して株式組織となし、自ら其の代表社員として活躍するに至



れり、夫人静子は東京の人小島嘉右衛門君の二女、長男真造君は北海道の人中川喜三郎君三女松子を娶り、二男守治君は東京の人桑原信雄君二女美知子を娶り、四男を四郎君、五男を謙造君、六男を六郎君、五女を千恵子、六女を美江子、七女を香代子と云ひ、三女政子は夫君泰作君に従ひて分家し、四女愛子は東京の人谷津直秀君に嫁せり

猪飼史郎君

確實にして而も大資本を要せず、無限の販賣活路を有して、利潤又少なからざるものを製業とす、君は明晰なる頭腦と鋭敏なる才智とは夙に之を洞見し明治三十三年島津醫學專門學校薬學科に入り、同三十七年同校を卒業すると同時に日露の役開かれ、君は藥劑官として、戦地に赴くに至る、然して戦役の終

息と共に正八位に叙せられ、陸軍三等藥劑官に任せらる、愈々製業を企つるの時こそ至れり蘊蓄せる學理と、實地に試みたる經驗とは彌が上にも君の自信を強めたり、此に於て大阪の郊外に地を下して工場を建つ、需要日々に増して、供給之に俱はず、擴張に次ぐに擴張を以てし遂に今日の大をなすに至れり、君亦東亞藥株式會社並に、中外護謨株式會社取締役として、社員を督勵し、業務の發展を計り國光株式會社並に日露商業株式會社各監査役として、事業の遂行に萬過りなきを見る、齡未だ若し、前途實に多端といふべし

猪飼九兵衛君

君は大阪の人猪飼徳兵衛君の長男にして先代九兵衛君の養子たり、明治十五年四月を以て生る、三十三年大阪高等商業學校を卒業し、直に日清火災海上保險株式會社に入りしが、謹直なる君の態度と、縦横に走驅する君の才智とは、忽ちにして先輩の認むる所となり、累進に次ぐに累進を以てし、間もなく庶務

長男にして、明治十二年十一月を以て生る、現時株式會社船越銀行、浮羽水力電氣株式會社、九州電氣酸素株式會社各取締役として専ら夫々の事業の遂行に盡力せられて餘念なし、夫人ミツカは福岡の人本庄權之丞君の長女なり、長男を良之助君、二男を良文君、三男を良水君、四男を大六君、五男を敬君といひ長女を哲子、二女を晃子といふ

伊東祐弘君

君は大阪の人猪飼徳兵衛君の長男にして先代九兵衛君の養子たり、明治十五年四月を以て生る、三十三年大阪高等商業學校を卒業し、直に日清火災海上保險株式會社に入りしが、謹直なる君の態度と、縦横に走驅する君の才智とは、忽ちにして先輩の認むる所となり、累進に次ぐに累進を以てし、間もなく庶務

課長に任せらる、斯くして今日に至る、尙ほ株式會社大阪實業銀行監査役、箕面土地株式會社並に日本サイディングクレイ株式會社各取締役たり、夫人トク子は大坂の人貴田治兵衛君の三女なり、長男永太郎君、二男釣之助君、三男和夫君、長女本子あり

怡土東君

君は福岡の人怡土甚次郎君の

君は福岡の人猪飼徳兵衛君の長男にして先代九兵衛君の養子たり、明治十五年四月を以て生る、三十三年大阪高等商業學校を卒業し、直に日清火災海上保險株式會社に入りしが、謹直なる君の態度と、縦横に走驅する君の才智とは、忽ちにして先輩の認むる所となり、累進に次ぐに累進を以てし、間もなく庶務

伊藤長次郎君



し大に事業界に令名を擧ぐ、同二十八年第四回勸業博覽會の開催せらるゝや、君拔擢されて其審査官に任じ、誠意以て重任を完ふしたり、尋いで同三十三年韓國に渡り、大に該地の事情に通じ亦同地に重望を擔ふ、同三十五年選ばれて韓國度量衡改正事業に與り之を完成し、同三十

正六位勳四等兵庫縣多額納稅者 三十八銀行 加古川銀行各頭取

並に朝鮮龍山 (電話)高輪五〇九 古來偉人、名士、名邑、名産等を以て天下に冠たるものを兵庫縣となす、而して足一度播磨にへらんか現代の偉人伊藤長次郎君の名噴々として傳へらる、學あり、機あり、徳あり郷黨悉く君の高風を慕ひ望んで之に仕へ之に事ふること恰も慈父に奉ずるが如し、伊藤家は播州印南郡今市村の舊家にして、世々富豪を以て聞ゆ、初代長次郎は伊藤忠次郎の二男にして寛政元年一家を創立し、爾來子孫常に其名を襲ふ、家世々農を業とし傍ら商を營む、二代長次郎勤儉力行大に産を興し、家訓五十四則を遺す、二代長次郎三男あり、長を長三郎君と稱し中を勝次郎季を五郎吉といふ、長兄早世し、中兄勝次郎三代長次郎たり、其

井上宜文君

君は京都府士族井上武敬君の長子にして明治元年十一月を以て生る、君幼にして秀雋の稱あり、夙に京都中學校を卒業し、後事業界に投ず、明治二十七年上京して鐵道車輛製造業に従事

九年多年の功に依り勳六等に叙せらる、同四十一年歐洲各國を歴遊して、蘊蓄を深め、歸朝せり、同四十四年製業及化學工業に従事し、誠實勤勉事業の隆昌に盡力せられつゝあり、夫人安子との間に長女文子、次女綾子、三女富佐子、四女久江子の諸女あり、一家和氣に満てり

性風流を好み、爲に家道大に衰ふ、後幾許もなく歿するや、季弟五郎吉其後を繼ぎ四代長次郎となる、四代は伊藤家中興の祖なり、一意専心商業に従事し、以て家運を挽回し、明治十年姫路に第三十八國立銀行を、十九年山陽鐵道會社を二十一年神樂會社を、二十三年酒造會社を創立す、次で熟皮會社を整理して其大を致さしめ、以て巨萬の富を積み、一面美田を購ひ、其耕地播州十一郡に跨るに至れり、安政四年苗字帯刀を許され慶應二年一橋藩出張所の取締役筆頭として勤務す、明治十二年始めて縣會の開設せらるゝや其議員に推され、町村制の實施せらるるや村長に擧げらる、或は貧民孤獨を救恤し、或は巨金を抛ちて公共事業に盡瘁す、又海防費金一萬二千圓を獻納し、功によりて從六位に叙せらる、學を好み、詩を嗜み、佛に深く、徳望一世を風靡せり、明治二十八年四代長次郎の易資するや君家督



を相續す、先代の長子にして明治六年四月十一日を以て生る、舊名を熊藏、後名を襲ひ五代目長次郎君と稱す、夙に學を伊保崎簡易小學校姫路中學校に修め次で京都に出で、京都顯道學校を卒へて上京、東京國民英學會に學び、後米人デユクス、英人バンドルに師事して佛語を研究す、學成りて歸國するや、幾多の公職に就任して同縣の發展に資し、今尙其任にあるもの十數一面實業界に飛躍し、往今三八銀行頭取、加古川銀行頭取、兵庫縣農工銀行取締、朝鮮銀行監事、日出紡織、大正汽船、神榮各株式會社社長、神戸海上運送火災保險、大正水力電氣、神戸土地各株式會社取締役、朝鮮起業、共立生命保險、南洋製糖樺太工業、兩備水電各株式會社監査役たり、君の人となりを説く、己に蛇足のみ、曩に功により藍綬褒章を授けられ次で勳四等に叙し、旭日小綬章を贈はる以て君の人物の大なるを知るべし、夫人をトヨ子と云ふ、大阪の人堀内謙吉君の令妹なり、長男龍太郎君、三男三郎君、長女操子、二女恒子、三女菊子、五女彌生子、六女千代子あり

し、夫人をい子との間に長男熊三君、次男勇次郎君、長女静子三男三藏君あり、一家和氣霽然たり〔現住〕兵庫縣印南郡伊保村並に神戸市北長狹通四ノ一九〔電話〕本局六八五

伊集院兼知君

貴族院議員 子爵

當家は先代兼寛より顯はる、兼寛は舊鹿兒島藩士にして、維新の際王事勤め、鹿兒島藩權大參事、海軍四等出仕、海軍少將兼海軍少輔等に歴任し、明治二十年子爵を授けらる、君は即ち子爵本莊宗久君の叔父にして明治三年十月を以て生る、先代兼寛君の養子にして、前名を惣男と稱す、同三十一年に至りて襲爵す、之より先同二十九年主筆官に任せられ、最近又臨時治水調査會委員に擧げらる、從三位勳三等に叙せられ、貴族院議員に互選せらる、事三回に及ぶ夫人春子は養父兼寛君の長女なり、男を兼高君、兼和君、董君

伊澤多喜男君

臺灣總督

君は長野縣の人伊澤修二君の令弟にして、明治二年十一月を以て生る、二十八年帝國大學法科大學政治科を卒業し、翌二十九年愛知縣屬に任じ、爾後内務屬、山梨、岐阜二縣參事官、岐阜縣警部長、福井、滋賀二縣書記官、滋賀縣事務官、同警視、和歌山、愛媛、新潟各縣知事、警視總監、大喪使事務官、大禮使參與官等に歴任し、臨時國民經濟調查會委員、臨時治水調査會委員等に擧げらる、大正五年貴族院議員に勅任せられ、從四位勳二等に叙せられ現に臺灣總督たり、夫人とく子は茨城縣の

伊澤良立君

大日本製糖株式會社常務取締役

君は京都府の人にして、伊澤一郎君の長男なり、慶應三年一月二十三日を以て生る、明治二十年三月慶應義塾を卒業し、直ちに、時事新報社に入り、居る事七ケ年、専ら經濟政治方面を擔當す、日清戦争の前後、擧大の筆を呵して、盛に國論の喚起に躍む、二十八年退社し、三井銀行に入り、長崎、小樽兩支店長たり、次いで三井物産株式會社に轉じ、大いに手腕を發揮せしが、三十八年住友銀行に入社し、四十一年辭職す、翌四十二年大日本製糖株式會社擾亂を極

人色川三郎兵衛君の四女にして長男龍作君、二男紀君、三女いよ子、四女みや子あり、長女高子は静岡縣の人河井重藏君五男昇三郎君に嫁せり

〔現住〕東京府北豊島郡西巢鴨町字宮仲二五一七  
〔電話〕小石川六六

めし際、君招かれて得意の大斧鉞を揮ふ、整理漸く或ると共に常務取締役として、一社の全責任を荷ふて令名高し、最近獨力彌生商會なるものを起し、パツキングの製造を企て、販路日々に廣まる、尙ほ内外鑛業株式會社取締役、雨龍炭礦株式會社、大日本紡織株式會社各監査役たり、夫人をトヨ子と云ふ、大阪の人堀内謙吉君の令妹なり、長男龍太郎君、三男三郎君、長女操子、二女恒子、三女菊子、五女彌生子、六女千代子あり

〔現住〕東京市赤坂區丹後町一七

伊澤平左衛門君

衆議院議員 第七十七銀行頭取

君は文久二年十一月を以て、仙臺市に生る、伊澤半藏君の長男なり、衆議院議員、仙臺市會議員、同參事會員、仙臺商業會議所議員、同副會頭等に擧げらる、宮城縣多額納稅者にして、株式會社七十七銀行並に同宮城貯蓄銀行頭取たり、仙臺に於る

金融の鍵を握る者は實に君ならすして誰ぞや、尙ほ若生電機株式會社、仙臺瓦斯株式會社、仙臺平機業株式會社各取締役、櫻ゴム株式會社、仙臺染織株式會社、敷島醸造株式會社、宮城信託株式會社、槻木花崗石株式會社、東北砂鐵株式會社各監査役たり、大正九年以來衆議院議員に當選する事二回、毎に財界一方の雄を敵として戦ひ、敗るゝなし、人望の大なる、以て見るべきなり、三男平馬君は同縣の人高橋喜右衛門君長女千代子を娶り、四男四郎君又同縣の人佐藤義輔君令妹とよ子を娶り、更に五男平之丞君は福島の人渡邊初吉君三女滿江を娶る、然して長女秀子は夫君米治君と共に分家し、四女友代は同縣の人及川甲子郎君に嫁せり

〔現住〕仙臺市上杉山通

糸川龜之助君

紀陽織布株式會社社長

君は和歌山縣の人、明治八年

九月を以て生る、現時紀陽織布株式會社社長、明治物産株式會社、糸川商事株式會社、岡田商事株式會社各取締役たり、夫人亥登恵は同縣の人針貫源助君の長女にして、長男を敏夫君、四女を千代子、五女を英子といふ二女ふみ子は夫君芳一郎君と共に分家し、三女信枝も亦分家せり

〔現住〕和歌山市木挽町

糸山文吾君

佐世保勸業貯金株式會社社長

君は佐賀縣の人糸山武八君の二男、明治十年一月を以て生れ先代の妹スエ子の跡を繼ぐ、吳服商を營みて佐世保第一の稱あり、又佐世保勸業貯金株式會社を起し、邦家百年の計を慮りて専ら、産業の奨励、勤儉貯蓄の宣傳に、寢食を忘れて盡瘁せられ、株式會社糸山銀行取締役として、當地金融の潤滑を圖る世人君を佐世保の義人といふ、又故ありといふべし、夫人カツ子は同縣の人永野茂平君の養子

一木喜徳郎君

樞密院副議長 法學博士

君は現代の博識にして、官海學海の尤物なり、而も富裕の寵兒として崎嶇曲折の經路なく、坦々として秩序的に順路を濶歩し、深玄なる學理を當代に應用して、燦然たる光華あらしめたる成績は、學界の權威として益々光輝あらしむ、君は其進趣の直線的なりしが爲め、現實と對照して之れが精理の斷案を下し一進一止、竟に圓熟の域に達せらるは、斯界稀有の異彩と謂ふ可きなり、君は遠州掛川の人、父君は同地方に並ひなき大地主岡田良一郎君なり、君慶應三年四月を以て佐野郡倉真村に呱呱の聲を揚ぐ、舊名を丘平と稱したるも、故ありて同郷の富豪一木氏を嗣ぐに及び現今の名に改む幼にして慧敏能く養父に奉省し



て謹慎鄭重、親疎を問はず執れも君の將來に望を屬す、君の青年時は斯く財用足り、慈顔門に倚りて、温情霽々の裡に過ぎたるを以て、毫も成功を急ぐなく秩序的に進境す、明治十六年東京帝國大學豫備門を出づるや、同大學政治理財學科に入り、堅忍自強、常に群を抜く、同二十年優等を以て卒業し、法學士の稱號を得、直ちに實際に接觸して、之れが應用に努めんと決し職を内務省に奉せり、二十三年内務省書記官に累進するや、尙かに期する所あり、自費を以て獨乙に留學し、主として行政法學を討究し、名譽ある學位を受けて、同二十六年歸朝す、歸來更に内務省に復職して、從七位に任せらる、翌年十月東京法科大學教授に轉任し、内務省書記官を兼ね、次いで高等官五等從五位に累進し、同三十一年五月兼官を罷めて内務省參事官となる、此間吾が學海に貢獻する所少なからず、深く世人の畏敬す

る所となり、同三十二年三月法學博士の學位を授けらる、同年法典調査會委員に擧げられ、同三十三年九月勅選せられて貴族院議員となる、次いで兼官を辭し、帝室制度調査局の御用掛を任せらる、次いで奥田義人君其職を辭するに及び、推舉せられ、内閣法制局長官と爲る、四十年内務次官に任じ、大正三十一一年内閣變るや更に内務大臣に任せらる正三位勳一等に叙せられ現時皇典講究所長及び樞密院副議長に任せらる、君人爲り、温良優雅にして、頗る學者的風姿の豊かなるものあり、言議態度共に法度あり、順境を趁へる篤學者として、將た其造詣する所深遠なると、加ふるに多年官海に人となりたるを以て實務の才に長じ、宰理調節悉く機微にして、而も學理に照合して條理徹底す、若し夫れ講筵に立て唇齒徐るに動き、諄々として幽遠の理を説く所、整然章を

吉子、四女を幸子といふ  
〔現住〕島根縣仁多郡藤八川村

一條實輝君

正二位勳二等功五級 公爵  
貴族院議員 官幣大社明治神宮々司

當家は内大臣藤原鎌足の後九條關白道家の三男實經より出づ實經邸を一條に構へ一條と稱す後内基に至り嗣子なく、後陽成院第九の皇子昭良を請うて家を繼がしめ、其の裔今日に至る、君は侯爵四條隆愛君の令兄にして、慶應二年八月を以て生る、先々代實良君の養子にして、前名を孝丸と稱す、海軍兵學校を卒業し、間もなく歐洲に留學す明治二十年海軍少尉候補生となり、大佐に累進す、其の間筑波扶桑、迅鯨の諸艦乗組、松島分隊隊長心得、赤城、吉野、和泉の各分隊長、横須賀水雷團第一水雷艇隊長、同水雷團副官、龍田、敷島各水雷長兼分隊長、横須賀海兵團徵募官、横須賀鎮

糸原武太郎君

阪上鐵道株式會社々長

君は島根縣の人江角勝太郎君の二男、先代武太郎君の養子たり、前名を徳太郎と稱し、明治十二年十一月を以て生る、砂鐵採取及製鐵業を營みて、島根縣多額納稅者たり、山陰屈指の富豪にして、又實業家として、精勵の名高し、現時阪上鐵道株式會社々長、株式會社松江銀行、山陰道産業株式會社各取締役、松江製紙株式會社、株式會社出雲館製糸所各監査役たり、夫人律子は、同縣の人木佐徳三郎君の五女なり、長男を義隆君、長女を道子、二女を壽子、三女を

守府兵事官、横須賀水雷團水雷敷設隊分隊長、横須賀敷設隊分隊長、佛國公使館附、同大使館附、海軍々令部出仕、東宮侍從長、皇后宮大夫心得、掌典次長、皇太后宮職御用掛、大喪使祭官長、奉祀に付祭官長、御歌會始讀師、宮中顧問官、宗秩寮審議官等に歴任す、又瑞西萬國赤十字會議に委員として、參列仰付られ、北米桑港航海、隣邦航海を命せられたり、功により正二位勳二等功五級に叙せられ現時貴族院議員、官幣大社明治神宮宮司等に任せらる、夫人悦子は侯爵細川護立君の令妹なり、六男三女あり、長男を實基君と云ひ男爵を授けらる

〔現住〕東京市赤坂區福吉町二  
〔電話〕高輪四八一五

井上十吉君

英學者

故神田、故和田垣の兩博士と共に日本三大英學者の一人なる井上十吉君は舊徳島藩士井上高



格君の次男にして、文久二年十月を以て徳島市に生る、明治初年東京に上り西洋文明の學を修めんと欲し先づ慶應義塾に入る而も君が所志は屑々たる内地にありて遂げるべからず、終に斷然意を決して海外に學ばんとし明治六年三月遂に英國に渡航せり、最初ペーストゥオースターコルツヂエートスクールに入る、明

治九年六月ラグビーより六十磅のスカラシップを得たり、次で同校に入り十四年卒業して、更に王立鑛山學校に入り、冶金學を専攻し十五年卒業せり、君の海外にある將に十一年に及び同十六年を以て歸朝せり、君の海外にあるや専門學研究の餘暇を以て英語英文の研究に勉め、

老大家として、我英學界の爲めに寄與せらるゝあるは吾人の最も意を強うするに足ものと謂ふべきなり〔現現〕東京市外中野町大字中野一一二四

井上雅二君

衆議院議員 南洋協會理事  
海外興業株式會社々長

君は明治九年六月を以て丹波に生る、夙に四方の志あり、弱冠にして既に對支問題に盡瘁し明治三十一年十一月東亞同文會の設立せらるゝや年齢僅かに二十一を以て當時の名士と相伍し幹事の椅子に列せり、三十四年八月渡歐し、埃國ウキン大學に入り、翌年十一月獨逸柏林大學に轉じ、經濟並に殖民の學を専攻し、三十六年八月に至り歸朝せり、三十八年我政府の推舉に依り韓國財務官に補任せられ、同國財政刷新の任に當り治績大に擧る、時の統監伊藤博文公同國改革の最大障礙たる宮中肅清を斷行するに際し、特に拔かれて宮内府一等書記官となり、卓



勵風發之改革を斷行し、帝室財産の整理並に國有財産調査の難事業に従ひ、萬難を排して其の根本改革を斷行せり、實に韓帝の君を待つ事渥き、其の功績に對し勳三等に陞叙し、屢々君を召見して優詔を賜ひしを以ても知るべし、四十三年四月我世界政策に資せんが爲め、韓國農



商工部並に統監府農商務省等の囑託により、歐米及亞細亞、亞弗利加の本國及殖民地視察の途に上り翌四十四年四月を以て歸朝す、此行國を闊する事二十有八、水陸の旅程實に六萬哩なり實に此の旅は君をして益々我國民海外發展の急務なるを痛感せしめしかば、歸來故森村市左衛門男、故和田豊治君等と提携

して、株式會社南亞公司（植付面積一萬英町、投資金五百餘萬圓）を創立し、君は其の常務取締役となりて馬來半島に護謨事業を興し、邦人南進の途を開くに至れり、爾來今日に至る迄事業の發展を期せんが爲め南洋に往復すること十數回、南洋諸島にして君の足跡の至らざるは甚だ少し、大正四年一月南洋協會を創立して、専務理事に就任し、今日に及ぶ、大正十年十二月戦後の大勢に順應して邦家内外の對策を樹立利導せんが爲め第三次世界歴遊の途に上り、歐山亞水國を闊すること二十二、具に世界改造の狀況を視、大勢の依て赴く根本原因を研究し、將來の經綸を立成して十一年十月歸朝せり、歸來東奔西走我國民海外發展の爲め畫策する所あり、十二年十月には明治製糖株式會社の分身たるスマトラ興業株式會社監査役に就任し、又本年三月には海外興業株式會社社長に就任し、何れも今日に及ぶ

如斯君の生活は終始一貫全く我國民の海外發展の爲めに専念盡力せるものにして、自ら海外拓殖事業の實務に没頭せる外、東亞同文會理事としては對支問題の解決、日支子弟の教育、日支經濟連絡に従ひ、東洋協會評議員としては東亞に於ける諸種事業の發展を期し、又南洋協會専務理事としては對南洋の我國力の進展を畫策して已まず、今や海外興業株式會社社長として南米及南洋移殖民問題の解決に邁進せんとす、洵に邦家の爲め慶賀に不堪なり、然して君の海外旅行は獨乙留學當時の露國並に中央亞細亞、小亞細亞の大旅行を合せて、前記の世界旅行と共に四回、實に足跡天下に普く、世界の情勢に通せるを以て、君の意見畫策にして大政府の傾聽採用せるもの尠からず、又君の交友は、政界、實業界の巨頭を始めとし、凡ゆる方面に普きのみならず、歐米其他の諸外人との交通亦極めて廣く、海外發展

の指導者として最適任なりと稱するを得べし、尙海外移殖民並に海外企業の促進は殆ど朝野都鄙を通じて一貫せる國論とも謂ふべき時機に到達し、歴代の内閣之が遂行に相當の研究と、注意を拂ひ來りたる次第なるが、最近加藤内閣より山本内閣を経て現内閣に及ぶ、震災後の善後對策としても、之が急務を痛感するに至り、帝國經濟會議なるもの成立し、特に拓殖部を設けて、徹底的に之が對策を、講究するに至りしが、君は之れが議員に推選せられ、其の抱負の實現に、努力せられたるは、人の知る所なり、本夏も拓殖事業の用務を以て、比律賓に出張したり、君は又思想問題に對しても一隻眼を有し、讀書を好み、文藻に富む、左に其著書の主なるものを掲ぐ、支那論（明治三十二年）殖民史（明治三十六年）中央亞細亞旅行記（明治三十六年）埃及に於ける英國（明治三十八年）巨人荒尾精（明治四十

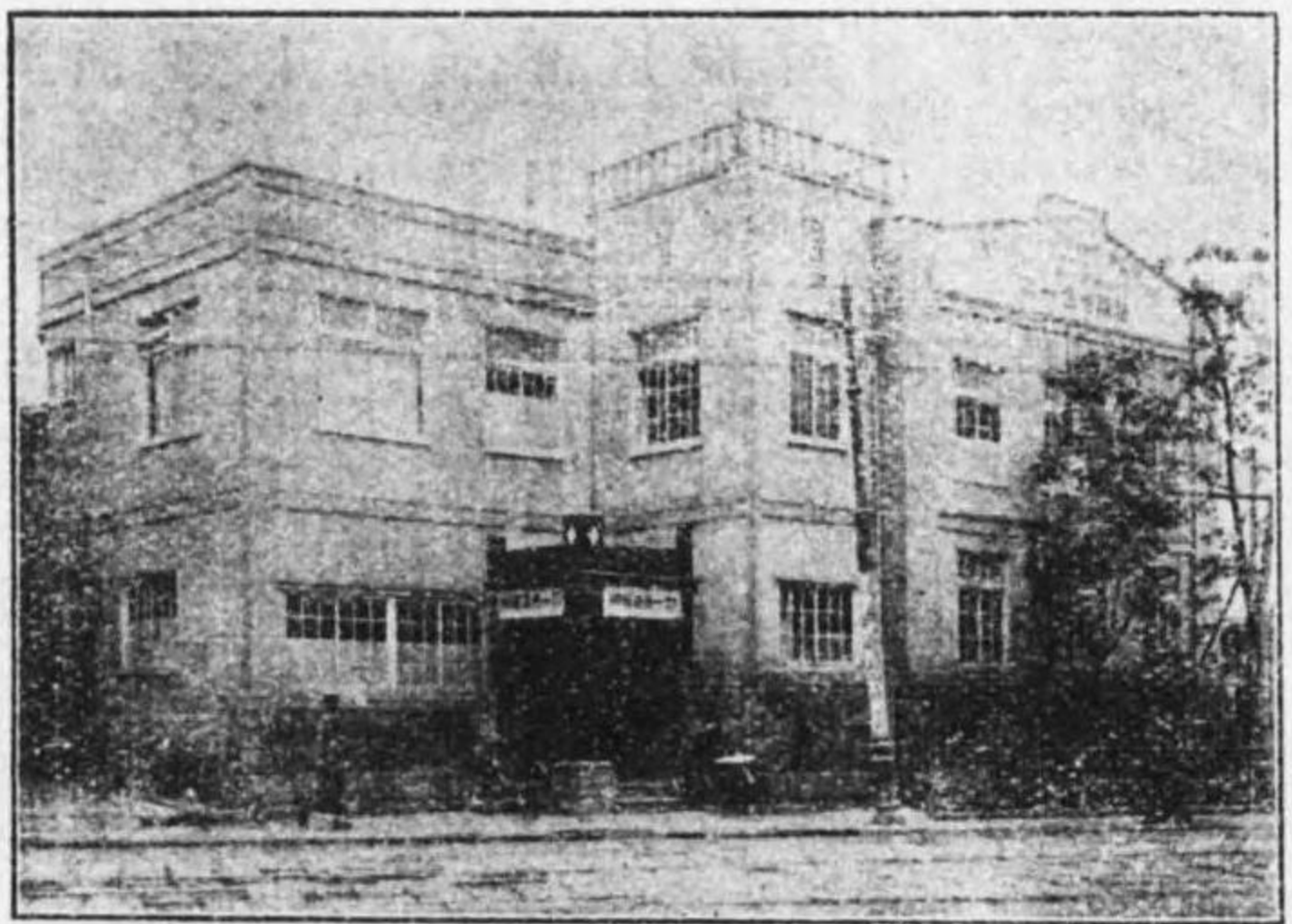
三年）四大陸遊記（明治四十四年）南洋（大正二年）セルロ一ツ傳（大正三年）森村翁熱海一夕話（大正八年）平民宰相原敬（大正十年）改造途上の世界（大正十二年）尙ほ夫人秀子は日本女子大學家政學部々長として令名夙に高し、夫人秀子長男陽一君（成漢中學一年生）長女支那子（米國エール大學留學中）二女幽子（女子大學附屬小學五年生）〔現住〕東京府北豊島郡高田村巢鴨三五五三ノ一（日白停車場上）〔電話〕牛込二八六五番

一色忠雄君

一色活版所主

印刷の鮮明、技術の精巧、意匠の嶄新を以て帝都活版業界の覇者たるものを一色活版所なりとす、所主一色忠雄君は舊鳥取藩士一色忠秀君の二男にして慶應元年五月を以て生る君幼にして既に人世の難路に立つ、明治維新の騷亂に遭遇して家運傾き

全家を擧げて上京するの止むなきに至る、時に明治十三年十一月なりき、君始め續文社の解版職工となる、活版業を以て將來



の事業となすの決心をなせり、幾許もなく慶應義塾附屬の出版社に轉じ、専心斯業の修得に苦心し、滯ること二年更に明治日

報に移れり、越えて明治十五年十二月深く決する處あり、當時京橋區濱町二丁目に住居せし叔父を説ひて同家の一部を借り印刷所に充て更に母堂に乞ふて二百圓を資本となし、茲に初めて意志の貫徹を見、獨力印刷事業を開始せり、實に君十七歳なりき、然るに薄資を以て創立せしこととて設備極めて不完全、加ふるに途次資金を要するに拘らす基金の出處なく、遂に刀劍類を初め祖先傳來の寶刀に至るまで手離すの餘儀なきに至れり、明治十七年京橋區瀧山町に移り拮据經營の結果漸次業績の見るべきものあるに至りたるが、偶々某氏の新聞を引受けたるに、不幸同社の失敗により、君又捨收する能はざる打撃を蒙り進退谷はまり密かに横濱に馳りガゼット新聞社に入りぬ、君茲に於てか孰々思へらく斯業に於て發展成功せんには須らく米國に航し修業するに如くはなしと、遂に決心して私かに密航を企て米

國に航しぬ、然るに天未だ君に幸せず船員の發見する處となり空しく送還の恥を蒙り、時に君年齒僅かに二十有三才なりき、而も君人と爲り堅忍不拔にして果敢なり、何狀之を以て默すべき、遂に決して再度航を企てたり、漸くにして素志貫徹して桑港に至りぬ、各種の業務に従ひ奮闘努力の結果パットラヒツシャ印刷所に入り、爾來各店の印刷所に研究すること前後十年、此間斯業に關する全般の事項を收得し意氣揚々として歸朝せり、歸來父君を補けて、再び新富町に一色活版所の看板を掲ぐるに至れり、君の得意思ふべし、嶄新の機械、技術の精巧、印刷の鮮明、忽ちにして印刷界に知られ、殊に在留歐米人の觀迎頗る厚く、信用日に増し舉り遂に帝都印刷界の白眉たるに到りぬ、君人となり鋭敏にして果敢、而も一面には人に厚く、義侠に富む、其の同業者に對するや信、其従業員に對するや義、



以て斯業に精勵して撓せず、今や名實共に斯界の重鎮となりぬ。震火災後に於ける復興の第一線に立ち、疾風迅雷的の手腕を揮ひ、終に斯業界の魁を以て復興事業に着手し、業務益々忙忙繁激を極む、君が斯業界に於ける聲譽冠絶たるものある真に偉大ならずや(活版所)東京市麴町區有樂町一丁目五番地(電話)大手五五五八 五五五九(現住)東京市外千駄ヶ谷町原宿二〇七



井上文藏君

醫學博士  
東京帝國大學醫學部講師

夫れ國家の病を醫するは政治家の任にして、民人の病を癒するは醫師の業なりと云ふも、國

の政治は素と民命の繋る所、人命を重するは國の隆ゆる所由の本源なり、されば國を醫すると民を醫すると名は異ると雖も國家民人の幸福を目的とするに至りては即ち一なり、故に醫術を濟生の術と云ふ、而も凡庸の徒多くして、真に仁術を施す者尠し、此間に立ちて、學、術兼ね備はり名醫の名を博する君は、兵庫縣但馬の人なり、明治十五年三月を以て生る、天資聰明、夙に醫術に志し、東上して東京帝國大學醫科大學に入り、明治四十年抜群の成績を以て同科を卒業し、同時に國手青山博士の下にありて、専心修業すること三年、明治四十四年、獨逸、伊太利、オーストリア、スペイン等の學術視察の爲め歐洲に渡航し、オーストリアに滞在中、歐洲戰亂に際會し、中途非常の危険を冒し、シベリアを経て、大正六年春歸朝す、爾來醫界に盡す處頗る多く、大正八年功により大日本内科醫學會より恩賜紀



井上源之丞君

東京紙器株式會社事務取締役  
株式會社尾澤藥舖取締役社長

君は東京市の人井上源三郎君

念章を授けられ、同九年醫學博士の榮位を得、現に東京帝國大學醫學部講師、東京鐵道病院屬托、淺草觀音病院長等に任じ、又嘗て特許局審判員となりしも現在その顧問たり、令名高し、君性來温厚にして、篤學誠に紳士の典型と云ふべし、余暇長唄及繪畫の嗜み深く、何れも技堂に入ると云ふ、夫人正子は淑徳の譽高く、長男義文君、次男廣文君の二子あり、家庭頗る圓滿なり(現住)東京市牛込區築土町二九(電話)牛込二九二一

の長男にして、明治十二年十一月を以て生る、業として紙商を營み、別に株式會社尾澤藥舖取締役社長たり、同舖は山の手の名所神樂坂上毘沙門に相對したる一大店舗にして、品質の清新佳良なると、品種の豊富なると亦信用の確實なるとを以て同方面に於ける同業に比類なし、軒を列ねてカフェー尾澤を營み、華客相共に常に店頭に蟬集するの盛況なり、君更に東京紙器株式會社事務取締役として、縦横の敏腕を揮ひ同社をして、逐期好成績を挙げしむ、同社が今日斯界に隆々の名聲あるは、真に非凡なる君の手腕に依るものと謂ふべし、君資性穎悟にして、頭腦亦明晰、加ふるに商機に敏なり、今日斯界に錚々の盛名ある宜なりと云ふべし、夫人サダ子は貞淑にして内助の功淺からず、茂子、愛子の二女あり、家庭極めて圓滿なり

(現住)東京市麴町區土手三番町一四(電話)四谷二二九五

ろ 之 部



樓勝誼君

洋服裁縫業 泰進洋行主

世界各國の津々浦々に至る迄散在して、商業的の手腕を揮ひ、其大をなす、蓋し中華民國人を最多とす、君また然り、君は中華民國浙江省寧波府勤縣西樓村の人、我明治二十五年九月十九日を以て生る、郷里に於て中等教育を卒へ、洋服裁縫業に志し上海にいで、英人裁縫師、ウイリアム、ヴァンに就き専心斯業を習得する事二年、即ち許されて師の下を離れ、大正七年九月我國に渡航し、東京市麴町區

ろ 之 部

有樂町三丁目一番地に洋服裁縫業を開始す、熟練せる技術、精選せる生地、之に加ふるに懇切迅速而も至廉、熱心顧客に對するを以て業務次第に發展し、一般顧客のみならず、侯爵中御門、池田兩家、子爵石川、白川、井上、土岐、梅小路各家、男爵福原、斯波、武井、鍋島各家を初めとし中井新右門、近藤利兵衛園田清彦、木下道雄、井上公二岡田平太郎、木下利吉、丸山英彌、長尾半平、後藤良輔、小林八右衛門、望月小太郎諸氏等の貴顯紳士の愛用を蒙り、營業所擴張の必要に迫られ、大正十年九月現在地に店舗を移し、現に店員三人職工二十有二人を使用し、而も日々注文に追はれつゝあり、亦以て如何に業務の盛大なるかを知るに足る、君また春秋に富む、將來益々大をなすものあらむ、家族は胡紅花あり

(現住)東京市麴町區有樂町一ノ四(電話)大手一八七一、五九二二三

盧百壽君

加納鐵山株式會社事務取締役

君は東京府人盧昌辰君の男にして慶應三年十二月を以て生る現時加納鐵山株式會社事務取締役、加納電氣亞鉛株式會社、日本製鍊株式會社、日本塗料株式會社各取締役たり、令姉こう子は工學博士青木元五郎君に嫁せらる

(現住)東京市麴町區上二番町七

蠟山政次郎君

上州信託株式會社代表社員

君は新潟縣人蠟山政右衛門君の長男にして明治五年八月を以て生る、現時高崎商業會議所副會頭にして、又株式會社上州銀行監査役並びに上州信託株式會社代表社員たり、會て高崎銀行取締役たりき、夫人寛子は同縣人牧口義矩君の令妹にして君と

の間に五男六女あり、長男を政道君、二男を勝次郎君、三男を要三郎君、四男を長四郎君、五男を芳郎君といひ、二女をイク子三女をソノ子、四女をチヨ子五女をフミ子、六女をヨネ子といふ

(現住)高崎市歌川町

六條有瀬君

子爵

當家は村上天皇の孫源師房の末久我通有の後なり、通有より數代の孫有繼を経て暫く中絶す有廣の時に至り之を再興し、夫より九代有容に至り君其の後を承く、君實は有容の孫にして有義君の長男なり、文久二年四月を以て生れ、明治十七年子爵を授けらる官に奉じ淑子内親王家祇候、京都宮殿勤番、殿掌、賀茂神社別當、加茂御祖神社宮司等を歴任せられ、功により正三位に叙さる、男を有直君、有正君、有美君といひ、女を照傳、須磨子、修子、操子といふ、三



女修子は岡山縣人金光正家に嫁せらる

〔現住〕京都市上京區小山上總町

### 六所國四郎君

吉原銀行支配人

君は静岡縣人常葉一郎君の令弟にして慶應二年正月を以て生る、先代良邑君の養嗣子にして現時株式會社富士川銀行、駿富製紙株式會社各監査役並に株式會社吉原銀行支配人たり、夫人りき子は養父良邑君の長女にして、其の間に六男四女あり、長男靜一君は岐阜縣人今井晨君の令妹嘉代子を娶り、二男茂君は同縣人安井龜年君に、三男文三君は分家六所包松君に、五男忠男君は同縣人山本嘉幸君母堂かめ子に各養子となり、又長女とく子は静岡縣人加藤定太郎君長男廣藏君に嫁せり、尙ほ六男義男君、二女清子、三女とみ子及び四女良子あり

〔現住〕静岡縣富士郡今泉村

### 六郷政賢君

子爵

當家は藤原鎌足の孫武智磨の末裔維遠の後なり、維遠より二十代を経て道行に至り羽州山北六郷在の地頭となる、依つて地名を姓とす、其の子政乘徳川家康に仕へ、元和元年羽州本庄に移封せられ二萬石に加増せらる後十代にして先代政鑑君に至る即ち政鑑君は成辰の役に際し奥羽諸藩の反覆賊に與するに係らず斷然官軍に屬し各地に轉戦して偉功を樹つ依つて永世祿一萬石を下賜せられ、同十七年子爵を授けらる、君は政鑑君の長男にして明治五年二月を以て生る同四十年七月襲爵し正四位に叙せらる、夫人鉦子は子爵松井康昭君の叔母にして、其の間に一男一女あり、政貞君及び鍾子といふ

〔現住〕東京府豊多摩郡大久保町西大久保一五九

## は之部



### 八田 紮君

法學士 山東産業株式會社社長

君は明治十七年九月を以て福岡縣大牟田町に生る、東京私立開城中學校を卒業し、第六高等學校を経て帝國大學法科大學獨逸法律科に入學し大正二年卒業せり、後直ちに渡邊治右衛門君一家の事業に關係し、現在は前記會社々長たる他東洋製油株式會社専務取締役並に大船田園都市株式會社、朝鮮産業株式會社千代田織物株式會社、千代田リボン製織株式會社、不動澤炭礦

は之部

株式會社の重役を兼ね其他の會社にも關係せり 現在ひさ子夫人との間に一男四女あり

〔現住〕東京市外上荻窪二〇八

### 花岡次郎君

信濃銀行取締役  
長野電燈株式會社社長

君は長野縣の人にして花岡吉左衛門君の長男なり、明治三年九月を以て生る、同二十三年東京專門學校卒業、後郡會議員、縣會議員等に擧げらる、曩に信濃新聞、信濃銀行、長野瓦斯株式會社の重役にして現今は前記の會社重役たり、家族ははま子令閨ちか子、女れい子、弟馨君同妻てい子、姪郁子、同幸子、同てつ子、甥眞太郎君あり、長女ふみ子は宮城縣人木村惇君に嫁し、弟四郎君は妻とし子及子と共に分家し、同六郎君は長野

縣越壽三郎君の養子となれり

〔現住〕長野縣上水内郡若槻村

〔電話〕二七

### 羽尾勤七君

銀行會社重役

君は埼玉縣人相澤大平治君の長男にして萬延元年五月生る、前名を萬作と稱し先代勤七の養子なり、現在伊勢崎銀行、上毛銀行、利根發電株式會社の取締役たり、令閨ゆう子は埼玉縣人久保道秋君の姉なり、長女みを子に養子正三君を迎へて其間に三女あり

〔現住〕群馬縣佐波郡伊勢崎町

### 羽石龍藏君

馬頭銀行取締役

君は栃木縣人渡邊重太君の弟にして安政三年十一月に生る、先代治助の養子にして前名を貞吉と稱せり、材木商を營み、現時尙喜連川自動車株式會社の監査役たり、夫人八十子は同縣木村淺之助君の養子なり、長女々

ツ子は其夫豊吉君と共に其子を伴ひて分家し、家族は亡長男の未亡人ヨシ子と其遺兒一男二女あり 〔現住〕栃木縣那須郡馬頭町

〔電話〕二七

### 羽生氏熱君

秋田電氣株式會社社長

君は秋田縣士族羽生宗助君の長男にして嘉永二年三月生る、現時秋田電氣株式會社々長たり令閨キエ子は同縣人上遠野秀吉君の長女にして其間に四男三女あり、姉ユウ子、二男氏徳君、四男氏孝君は各分家し、二女アキ子は秋田縣人羽生コウ子の養子となり、三女チヨウ子は同縣人伊藤贊君に嫁せり 〔現住〕秋田市上中城町

### 羽賀虎三郎君

羽賀合名會社代表

君は新潟縣人羽賀吉治君の四男にして慶應二年九月に生る、現時羽賀合名會社の代表社員たり、令閨クマ子は同縣人宮源左



衛門君の四女なり、其間に男順藏君外二女あり、長女ヒデ子は新潟縣人星野俊三君に嫁せり  
〔現住〕長岡市吳服町〔電話〕四一

土生信一君

會社重役

君は和歌山縣人土生金右衛門君の二男にして明治十一年六月に生る、現時大平護謨、和歌山染工、東洋染料製造株式會社の各取締役、和歌山綿布、木津川船渠の各監査役たり、令聞たけのは同縣人和中嘉藏君の孫にして其間に五女あり〔現住〕和歌山市十二番町〔電話〕三〇八

羽田彦四郎君

武州鐵道取締役 辯護士

君は舊臼杵藩士羽田角彌君の二男にして明治二年七月に生る同二十五年東京法學院を卒業し辯護士試験に合格す、曾て東京市辯護士會副會長、惠比須銀行佐渡物産株式會社、中央鐵道株式會社、大日本養殖株式會社重

役たり、現在武州鐵道取締、製々舎業土地、ピーイー商會、米田鑛業、日英石鹼各監査役たり、夫人ゆき子は東京府人大高吉利君の長女にして其間に長男義彦君あり、養子健二君は東京府人福岡仲郎君の五男なり  
〔現住〕東京市京橋區木挽町二ノ一三〔電話〕京橋七三

羽田格三郎君

兵庫縣事務官正六位

君は三重縣人羽田忠久君の二男にして明治十六年一月に生る同四十二年東京帝國大學法科大學を卒業し文官高等試験に合格す、神奈川縣久良岐、橋樹各郡長、東京府理事官、同視學官等歷任して今日に至る、夫人みつ子との間に、二男一女あり  
〔現住〕神戸中山手通四丁目官舎

羽田如雲君

食料品商

君は東京府士族羽田均君の長男にして明治五年七月に生る

食料品商を營み菊屋と稱す、現在東京市會議員、東京商業會議所議員、東京亞鉛鐵工、日本食糧株式會社各取締役たり、夫人八十子との間に二男一女あり、養弟福太郎君は妹種子の入夫となり、養姉チセ子は東京府士族長谷川道興君に嫁せり  
〔現住〕東京市赤坂區一ツ木町八一〔電話〕芝六〇五五

芳賀權四郎君

農商務技師

君は埼玉縣士族春名銀次郎君の弟にして養母いよ子の養子なり、慶應三年四月生る、明治二十五年帝國大學農科大學を卒業す、秋田縣技師、農商務技師、生絲検査所技師、農務局蠶糸課長等に歷任し、現在は前記の外絹業試験所長兼生糸検査所長たり、從四位勳三等、退役陸軍歩兵中尉なり、養母長女てつ子との間に五男一女あり  
〔現住〕横濱市西戸部町九六三

芳我吉右衛門君

内子銀行取締役 兼支配人

君は愛媛縣人芳我嘉三郎君の長男なり、明治十四年七月生にして分家せり、正八位勳六等功

芳賀矢一君

東京帝國大學教授 文學博士

君は福井縣の國學者芳賀真咲氏の長子にして慶應三年五月を以て生る、明治二十五年帝國大

同二十三年早稻田大學英語普通科を卒業す、曩に稻庭水力電氣株式會社代表取締役たり、庶子男匡君あり、妹ムラ子は分家し同ハル子は秋田縣人須田實君に同ゼン子は同縣人柿原盛衛君に嫁し叔父清助君は岡山縣人神善久君に、甥亮君は秋田縣士族沼倉官平君に各養子となれり  
〔現住〕秋田縣雄勝郡湯澤町



春田茂躬君

中日實業株式會社事務取締役社長

君は長野縣の人にして春日茂平太君の四男なり、明治十八年一月を以て生る、同四十一年東京高等商業學校を卒業し、直ちに實業界に入る、現時は前記會社の重役たる他中華電業株式會

花岡平助君

森田製作所監査役

君は天保十一年十一月生れにして兵庫縣人花岡市右衛門君の二男なり、分家して材木商を營み前記株式會社森田製作所の重役なり、家族は令聞たけ子、男平吉君、同妻春枝、孫みよ子、

芳賀榮次郎君

豫備陸軍々醫總監

君は福島縣人芳賀直政君の弟にして元治元年八月に生る、明治二十年帝國大學醫科大學を卒業す、同二十一年陸軍三等軍醫に任じ、大正四年陸軍々醫總監に陞進す、其間陸軍々醫學校教官、廣島陸軍豫備病院長、廣島衛戍病院長、第五、近衛、第一各師團軍醫部長、陸軍々醫學校長、朝鮮總督府醫院長兼京城醫學專門學校長等に歷補今日に至る、現在從三位勳二等功四級なり、又曩に第十二回國際醫學會に參列せし事もあり、令聞キワ子は男爵野崎貞義君の令姉にして其

芳賀恒介君

皆瀬川水力電氣株式會社社長

君は秋田縣人芳賀織右衛門君二男にして明治五年十一月生る、



間に九男一女あり、長女恒子は東京府人永持源次君に嫁し、四男禮政君は福島縣人菅沼信吾君に七男高政君は愛知縣人植村俊二君に各養子となれり〔現住〕東京市麴町區平河町一ノ九

波多野重太郎君

東京高等工業學校教授

君は岡山縣人波多野行藏君の二男にして嘉永六年十二月を以て生る、明治三年大學南校に入り英學を修業し同十二年三菱商業學校を卒業す、會計検査官補滋賀縣商業學校長、静岡商業學校教諭に歴任し、現時は正五位勳五等なり、二女潔子は東京府人廣澤長次郎四男兼次郎君に、五女壽恵子は三重縣人上野繁藏君に、六女近江子は島根縣人大西彌君に嫁せり〔現住〕東京市本郷區駒込千駄木林町一四二

波多野貞之助君

高等師範學校教授

君は舊土浦藩士波多野弘君の

長男にして同高吉君の令兄なり元治元年八月を以て生る、明治二十年高等師範學校を卒業し同二十五年獨逸に留學す、東京高等師範學校講師、同教授兼東京女子高等師範學校教授に歴任今日に至る、令閨タキ子は島根縣人長谷要太郎君の妹にして其間に二男二女あり〔現住〕東京市小石川區原町八二〔電話〕小石川四五〇

波多野承五郎君

前代議員

君は静岡縣人波多野半藏君の長男にして安政五年十一月生る慶應義塾を卒業す、郵便報知新聞、時事新報記者となる、又天津總領事、外務省書記官に任ぜらる、後朝野新聞を經營す、曩に三井銀行、三井地所部、王子製紙會社、三井鐵山會社、三井合名會社、東神倉庫會社の重役たり、大正九年代議士に當選す、家族は令閨すか子との間に三男三女あり〔現住〕東京市麴町

區上二番町一三〔電話〕九段八三

波多野好右衛門君

株式仲買人

君は福岡縣波多江太藏君の長男にして明治十年五月に生る、登美屋と稱し株式仲買業を營む令閨キク子は同縣人藤川與市郎君の長女にして其間に一男二女あり、弟太壯君は福岡縣人笠善助君の養子となり、妹タカ子は同縣人藤田奎太郎君弟秋太郎君に、同マサ子は同縣人福田松之助君に同トミ子は春田三郎次君に嫁せり〔現住〕福岡市下鍋町

波江野吉太郎君

會社重役

君は鹿兒島縣人波江野善四郎君の長男にして慶應三年正月に生る、現在は宜蘭殖産、宜蘭林業株式會社の代表、臺南製糖、臺灣石材株式會社の各取締役、臺中製糖の監査役たり、夫人リンは同縣人汾陽理右衛門君の二女にして、其間に三男三女あり

り、長女ヒデ子は鳥取縣人矢田具寛君に嫁せり〔現住〕臺北羅東郡羅東街

葉室吉太郎君

八幡海陸物産市場代表

君は福岡縣の人、葉室豊吉君の長男にして、明治十五年四月に生る、現在前記の外姪濱礦業國産塗料、日本寫眞工業各取締役たり、令閨アサ子は同縣人磯野萬次郎君の長女にして、其間に三男あり〔現住〕福岡市本町

葉住利藏君

利根發電株式會社長

君は群馬縣人葉住利右衛門君の長男にして、慶應二年七月に生る、前名を久米三郎といふ、曾て群馬縣會議員、同參事會員衆議院議員に選ばる、現在は新田銀行、群馬縣農工銀行各頭取利根發電社長、日本鐵合金、利根軌道、研電社各取締役、上毛燃絲株式會社の監査役たり、令閨だいは埼玉縣人須田治郎平君

の二女なり、長女ひさは子玉縣人新井章治君に、三女やまとは群馬縣人澁澤金三郎君に、姉はる子は澁澤金藏君に嫁し、二女よね子は其夫君三郎君と共に弟文吾君も亦其妻えい子と共に子女を伴ひ各分家せり〔現住〕群馬縣新田郡太田町

馬場幸七君

吳服商

君は東京府人馬場與兵衛君の二男にして、明治十三年一月を以て生る、吳服商を營み東國屋と稱す、令閨とめ子は東京府人鈴木己之助君の五女にして其間に五男一女あり、甥政之助君は其夫人てう子及子と共に分家せり〔現住〕東京市日本橋區瀬戸物町一八〔電話〕本局一一七九

葉山太吉君

醬油醸造業

君は神奈川縣人葉山太七君の長男にして前名を太一と稱せり明治四年十月に生る、東洋銅鐵

工業株式會社の取締役たり、令閨マサ子は同縣人中野源二郎君の三女にして、其間に三男五女あり、長女ソノ子は神奈川縣人森五郎作君に、妹ナホ子は東京府人牧原仁兵衛君に嫁し、二男文二君は同縣人葉山勝次君の養子となり、弟敏之從弟陸吉君は各分家せり〔現住〕神奈川縣三浦郡葉山堀ノ内

馬場太郎右衛門君

田島銀行頭取

君は福島縣の人、馬場太郎衛門君の長男にして前名を長次郎といひ安政四年十一月に生る、現在田島銀行の頭取、田島水力電氣取締役たり、夫人との間に一男三女あり、長男長一郎君は福島縣人馬場直三郎君の長女アサ子を迎へて其の間に一男を擧げ、二女クニ子は養子泰三郎君との間に一男一女あり、長女モト子は福島縣人森千午君に、三女セン子は同縣人馬場直八君に嫁せり〔現住〕福島縣南會津郡伊

南村

馬場齊吉君

安成川水力電氣株式會社取締役

君は東京府士族馬場惟夫君の弟にして、明治八年八月を以て生る、同三十三年東京帝國大學工科大學電氣學科卒業す、曾て京阪電氣鐵道株式會社技師長たり、現時前記の外攝津電氣株式會社監査役たり、夫人との間に一男二女あり〔現住〕京都府紀伊郡向島村

馬場善兵衛君

千葉縣多額納稅者

君は千葉縣人馬場善兵衛君の二男にして明治二十年八月を以て生る、前名を長次郎と稱し父君の死後其名を襲名す、味淋製造業を營み麴屋と稱す、令閨堯子は千葉縣人多田庄兵衛君の五女にして其間に長男治良君あり姉はま子は茨城縣人宮本清次郎君に、同てい子は同縣大森誠太郎君に、妹しづ子は同縣茂在照

に叔母しん子は千葉縣人松本徳太郎君に嫁し、姉かつ子は其夫君龜久壽君に從ひ其子を伴ひて夫君の實家に入れり〔現住〕千葉縣香取郡佐原町〔電話〕一二七

馬場頼一君

特許局事務官兼審理官兼農商務省參事官

君は香川縣馬場甚三郎君の長男にして、明治十二年三月に生る、同三十九年帝國大學法科大學英法科卒業後大學院に入る、同年文官高等試験に合格す、特許局審査官、農商務省事務官、特許局事務官兼同審査官、同審理官兼農商務省事務官を歴任し、現在は特許局事務官兼同審理官兼農商務省參事官、庶務課長たり、夫人祿子は静岡縣室伏完君の令妹なり、姉いく子は香川縣人宮井織衛君に、同トシ子は同縣柴田庫之助君に、妹シウ子は同縣近藤千馬八君に、同カシ子は同縣上原安太郎君に嫁せり〔現住〕東京市小石川區原町一二



六〔電話〕小石川三九〇五



萩原鏑三君

總武銀行事務取締役

君は明治十一年十一月を以て東京に生る、東京府人福本久監三君の三男なり後萩原弘君の養子として入夫せるなり、明治三十六年東京高等商業學校を卒業し、直ちに川崎銀行に入り富澤町支店を経て本店に入り庶務部長に轉じ、次いで川崎貯蓄銀行營業部長に歴任せしことあり、曾て成田銀行取締役たることありしが現時は前記會社重役たる他上總銀行、房州銀行、並に安房實業銀行、和田銀行の各取締役、湊實業銀行監査役等及小倉製紙株式會社取締役たり、君は

諸曲に趣味を有し極めて堪能なり、家族は夫人フキ子との間に長男英雄君、長女タキ子、三女ひろ子あり、妻伯母たか子は分家せり〔現住〕東京市赤坂區新町八二〔電話〕青山五七二〇

花井島三郎君

倉銀行取締役

日本銀行株式會社取締役

君は愛知縣の人にして岡田又右衛門君の弟なり、安政五年五月を以て生れ、先代八郎左衛門君の養嗣子なり、曩に名古屋商業會議所議員たり、現時は前記會社の重役たる他熱田電氣軌道株式會社取締役、三河織物、中央製材、大日本鹽業株式會社の各監査役たり、家族は令閨やゑ子、長男芳三君、同妻よね子、男充三君、女芳子、茂子、六男裕三君、孫正一君、同禮子、同稔君あり、長女きく子は愛知縣人岡田又右衛門長男庸一君に、二女てい子は同松村五郎君に、三女ひで子は同服部綾太郎君弟

鳩山秀夫君

東京帝國大學教授

君は故法學博士鳩山和夫君二男同一郎君の弟にして明治十七年二月を以て生る、明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業す、後民法研究の爲獨佛に留學し歸朝後東京帝國大學助教授、同教授を歴任し今日に至る、從五位法學博士なり、令閨千代子は男爵菊池泰二君の令姉にして其間に長男道夫君あり〔現住〕東京市小石川區小日向臺町三ノ八九〔電話〕番町五〇八

花木英二郎君

百三十三銀行事務取締役

君は滋賀縣士族藤木傳君の長男にして元治元年二月を以て生る、前記會社重役たる他近江貯

蓄銀行取締役たり、家族は令閨龜尾長男實藏君、同妻ふさ子、二男捨二君、女敏子、孫千代子美江子、同圭子あり、長女和子は福井縣士族小川俊一長男達也に、二女友子は岩手縣人佐々木保五郎弟保藏君に、四女文子は滋賀縣人小島惣兵衛長男米吉君に、五女芳子京都府人安盛孫兵衛四男貞三郎君に嫁し、弟榮二君は分家し、同六郎君は滋賀縣人勝辨藏君の養子となれり〔現住〕滋賀縣犬山郡彦根町

八田彦次郎君

長野農工銀行取締役

君は長野縣八田彦次郎君の長男にして明治十年二月生る、前名を慎藏と稱せり、現時株式會社長野農工銀行取締役たり、令閨のふ子は同縣山田松三郎君の妹にして、其間に四男あり、妹きよ子は長野縣藤井安治君に、同純子は同縣人竹内忠雄君に、同就子は同縣人内藤克二君に、同諄子は坂本重雄君に嫁し、弟

謙三君は分家せり〔現住〕長野縣埴科郡松代町〔電話〕三〇〇

鳩山一郎君

衆議院議員

君は曾て衆議院議長にして又早稻田大學の校長たりし故法學博士鳩山和夫君の長男にして明治十六年一月を以て東京市に於て生る、同四十年東京帝國大學英法科を卒業す、東京市會議員同副議長に擧げらる、都市計畫中央委員會委員被仰付、代議士に當選すること三回なり、又森岡製鐵所代表、湊鐵道、日本紙器製造、東京澱粉製糖各取締役、函館水力電氣株式會社の監査役にして辯護士たり、母堂春子は賢母の名高く、令閨薫子は良妻の名高し、令閨との間に一男三女あり弟秀夫君は分家し、姉カヅ子は東京府人鈴木喜三郎君に養姉豊子は分家し、原鹿造君に嫁せり〔現住〕東京市小石川區音羽町七ノ一〔電話〕番町三二四



波多野高吉君

從四位勳三等札幌地方裁判所長

君は慶應三年九月の生れにして東京府士族波多野貞之助君弟分家なり、明治三十七年七月東京帝國大學法科大學を卒業後直ちに司法官試補として東京區裁判所詰となる、明治三十一年二月陸軍歩兵少尉に任ぜらる、同三十二年三月東京地方裁判所檢事、三十五年四月京都地方裁判所判事、三十七年二月神戸地方裁判所部長に榮轉し三十八年一月陸軍歩兵中尉に陞進す、明治三十九年四月日露戰役の功に依り勳六等瑞寶章及金二百圓を拜受す、明治四十一年六月大阪控訴院判事、四十二年五月神戸地方裁判所部長、大正二年四月高

經次君に、養妹ふゆ子は三重縣人鈴木康平君弟幹三郎君に嫁し二男英三君は分家せり〔現住〕名古屋市南區熱田新尾頭町三六六〔電話〕本局六六〇

松地方裁判所長、同八年七月浦和地方裁判所長、十年六月高等官二等に陞り、同年同月新潟地方裁判所長、十二年四月札幌地方裁判所長に歴任し一級俸を受く同年七月勳三等瑞寶章を授けられ十二月從四位に叙せらる、家族は夫人はま子、男武君、女操子あり、長女文子は東京帝國大學助教工學士富塚清君に嫁せり〔現住〕北海道札幌市大通西一〇ノ四

八田宗吉君

衆議院議員

君は福島縣人八田吉多君の長男にして、明治七年十月を以て大隅國大島郡龍郷村に生る、前名を吉之丞といふ、曩に福島縣會議員、同參事會員、同縣地方森林會議員等たり、又沖繩縣國頭郡小學校、東京市東洋小學校長に任ぜらる、後備陸軍歩兵大尉にして、日本化學工業、只見川水力電氣各取締役たり、又司法官試補を命ぜらる、代議士に

當選する事二回、夫人せん子は福島縣渡邊行藏君の長女にして其間に二男四女あり〔現住〕福島縣河沼郡日橋村

八田久作君

成實銀行事務

君は新潟縣人八田久十郎君の長男にして、明治三年九月に生る、現時成實銀行事務高田商業銀行、上越銀行各取締役、越後電氣株式會社の監査役たり、夫人ブン子との間に四男六女あり長女シサ子は新潟縣人長谷川八郎君に、三女喜美子は同縣人岡田貞治君に嫁し、弟健次郎君は其夫人トシ子を伴ひ、妹サイ子は其夫君岩次郎及子を伴ひて各分家せり〔現住〕高田市上小町

八田祐二郎君

國産塗料株式會社取締役

君は福井縣人八田享君の弟にして嘉永二年十一月に生る、夙に海軍兵學校を卒業す、明治四年東郷平八郎と共に軍事研究の



爲英國に派遣グリニツキツチ海軍大學校を卒業す、明治二十年海軍大佐に累進せり、其間伏見宮依仁親王殿下補佐官、英佛各國公使官附武官等に歴補し現時は退役海軍大佐、正六位勳四等なり、衆議院議員に當選する事二回夫人ため子との間に、長男裕一君外に六女あり、長女たみ子は東京府人田中實君に、二女榮子は同府人田中銀之助君に、三女とめ子は同府人士屋禎二君に、四女重子は同深田米次郎君長男謙介君に嫁せり、現住東京市小石川區小日向水道町九四

(電話)小石川二五六〇

### 八條隆正君

貴族院議員 子爵

當家は藤原謙足の裔楠筒隆賀の三男隆英の後裔なり、隆英分れて一家をなし、八條を姓となす、夫より九代を経て先代從四位勳六等子爵隆邦に至る、君其後を享く、君實は伯爵油小路隆成君の叔父、阿部市三郎君の甥

にして明治十六年六月生る、先代隆邦の養子なり、明治四十一年京都帝國大學法科大學を卒業す、明治四十二年稅務監督局兼大藏屬に任じ、爾後大藏屬兼稅務監督官補、稅務監督局事務官等に歴任す、京都府華族、舊公卿家にして、正四位勳四等なり、現に馬政委員會、舊堂上華族保護資金調査會等の委員たり、貴族院議員に當選する事二回、令閨遺子との間に、二男三女あり、現住東京府豊多摩郡澁谷町青山北町七ノ一

(電話)芝一三三

### 蜂谷德三郎君

花菱検査所々長

君は岡山縣人蜂谷熊男君の長男にして、明治七年一月を以て生る、同三十三年東京高等工業學校染織科機械分科を卒業す、曩に群馬縣桐生織物學校教諭たりしことあり、現時花菱検査所技師にして同所長たり、從五位勳四等功五級、退役陸軍歩兵中尉なり、令閨古伊惠子との間に長男信彦君外に四男二女あり、妹春子は神奈川縣人坪田元福君に嫁せり、現住神戸市熊内橋通三ノ一七

### 播磨幸一郎君

石鹼製造業

君は兵庫縣人播磨幸七君の長男にして明治十八年三月に生る、石鹼製造業を營む、夫人通江子は大府人米田重太郎君の四女にして其間に長男幸太郎君、長女和江、二女純子あり、姉あつ子は分家し、妹あいは大阪府人沼野清三君に、同正子は同府人小山彌一郎君二男誠一君に嫁せり、現住神戸市兵庫東川崎町五ノ二五 (電話)園本局一五二

### 針生久助君

旅館業

君は宮城縣人針生久助君三男にして、前名を重治と稱せり、明治二十年五月に生る、針久本店と稱し旅館業を營む、尙秋保石

材軌道、東北木地漆器株式會社の各取締役、名取川水力電氣株式會社の監査役たり、令閨きくる子は千葉要次郎君(宮城縣)の姉にして三男あり、叔父久次郎君は分家し、叔母とめ子は宮城縣人草刈長治君に嫁せり、現住仙臺市國分町 (電話)二〇五

### 針塚長太郎君

上田蠶糸専門學校長

君は群馬縣人針塚喜惣治君の長男にして、明治四年十一月に生る、同二十九年帝國大學農科大學を卒業す、其後農業教育研究の爲獨佛米に留學せり、高等師範學校教授、文部省圖書審査官、同視學官、盛岡高等農林學校教授等に歴任し今日に至る、從四位勳三等なり、令閨ノ子は青森縣士族山本誠一君の姉にして、其間に三男五女あり、長女ウメ子は長野縣人大森教圓君に、妹フキ子は群馬縣人儘田得次郎君に、同トラ子は同縣人速

川庫三郎君に嫁せり (現住)上田市常入町

### 原邦造君

高砂生命 愛國生命保險株式會社々長 第百銀行頭取

君は大阪府田中慶造君の令弟にして養子なり、明治十六年六月を以て大阪府三島郡茨木町に生る、夙に郷里の學校を卒へ、三十七年第三高等學校を経て四十年京都帝國大學法科大學を卒業し、同年滿洲鐵道株式會社に入社し更に四十二年拔群の成績を以て文官高等試験に合格したり、君は現時數多の會社の重役の任にあるが就中第百銀行及東京貯藏銀行の頭取として又愛國生命保險株式會社々長として名聲噴々たるものあり、曩に高砂生命保險株式會社の創設せるや君推されて之が取締役社長となり爾來經營の全責任を負ひて献身的に従事したる結果社運爲めに今日の如き發展を見るに到れり、君は機才縱横にして決裁流るゝが如く實に新進顯達の少壯

實業家として斯界に重きを爲すも故なきにあらざるなり、而も君は資性謹直にして重厚、品行方正にして俊才なり、東京に於ける豪家原六郎君の懇請を容れ入りて同家の養嗣子たり、蓋し原家好繼嗣を得たりと謂ふべきなり君猶春秋に富めり將來の我が實業界發展の爲め大いに期待すべきものあり君の趣味たる多方面に亘れるが殊に和歌、俳句繪畫、謠曲、撞球、圍碁、將棋園藝、散步に到るまで實に造詣深きこと尋常世人の追隨を許さざるものありと、家庭は極めて圓滿にして現在の家族は養父六郎君、養母富子を初めとして夫人多幾子との間に長男俊一君長女梅子、二女澄子、三女以都子、四女喜久子の諸子あり

### 春田助太郎君

日本郵船株式會社管理課長

君は東京府の人春田甚太郎君の二男にして慶應三年八月に生る、明治二十五年東京高等商業學校を卒業す、曩に日本郵船株式會社副參事、調度部副長、管理課主事となる、令閨初子との間に、長男助貞君、二男助英君長女静子あり、養兄源之丞君は其夫人時子及其女雪子並に孫を伴ひて分家し、長男助貞君は分家、源之丞君に、再甥源一君は東京府人堀文治君に各養子となれり (現住)東京市赤坂區青山南

### 春田祐清君

日光川倉庫銀行取締役

君は愛知縣人春田清次郎君の

町五ノ四五 (電話)芝五一八七

### 春田石松君

地銅商

君は大阪府人清水平兵衛君の二男にして明治十一年一月を以て生る、先代武次郎の養子にして家族は養母ツマ子、夫人さく子、養妹ツギ子、庶女静子あり養弟芳造君は分家し、養妹タマ子は大阪府人西川秀次郎君に嫁し、同ハル子は石川縣人安田さん子に、養弟一郎君は大阪府人山岡安之助君に各養子となれり (現住)大阪府南區谷町六ノ四 (電話)園南四七〇五

### 春名高義君

實業土地建物株式會社取締役

君は岡山縣人春名重郎君の弟にして明治三年十二月に生る、同二十六年慶應義塾大學文科を卒業す、北陸自由新聞主筆、時事新聞經濟部長、北海新聞主筆となる、後三井銀行横濱支店長千代田生命保險相互會社總務部長兼祕書役、加富登麥酒株式會



社支配人に就任し、現時は實來土地建物、久留米耕商店、啓成社各取締役、石橋建物株式會社の監査役たり、夫人マズ子との間に二男一女あり、尙庶子女一あり、長女千代子は熊本縣人田中數之助君に、庶子女高枝は東京府人小野しか子に各養子となり、妹ヤナ子は辯護士佐々木藤市郎君に嫁し、弟喜四郎君は樺太興業株式會社に勤務す  
〔現住〕東京市小石川區同心町一六  
〔電話〕小石川一三八五

### 秦 甚七郎君

四個浦金融合會社代表

君は福井縣人福澤德藏君の二男にして、安政六年三月に生る先代甚七郎君の養嗣子なり、現時四個浦金融合會社代表社員たり、家族は夫人とめを、江子玉江子、外三男主税、四男豊治君、五男春治君、あり、長女まつのは福井縣人小林玉吉二男隆三君に、二女菊子江は同縣人岩谷清君に嫁し、養弟義男君は其夫

人壽榮子及子女を伴ひて分家し養妹むめ子は福井縣人實來庄三郎長男文一君に嫁し、姪靜江子は同縣人鎌倉博君の養子となれり  
〔現住〕福井縣丹生郡四個浦村

### 秦 清八君

漁網商

君は北海道人玉井勘作君の二男にして、明治四年八月に生る秦慶治君の養子にして分家せるなり、漁網商を営む、令閨ハル子との間に七男三女あり、長女京子は北海道士族廣谷金藏君に嫁し、二男清次君は同道木村淺吉君の養子となれり  
〔現住〕函館末廣町  
〔電話〕三三二二

### 畑 良太郎君

特命全權公使

君は長野縣人畑成國君の長男にして、慶應三年二月に生る、明治二十三年東京帝國大學を卒業し外務省に入り公使館三等書記官、同二等書記官、同一等書記

官、外務書記官、獨逸大使館參事官等を歴任し現に瑞典國特命全權公使たり、家族は妻てる子の間に良一、古己の二男あり、弟晴治郎君は分家し妹たまきは東京府士族飯田久恒君に嫁せり  
〔現住〕瑞典國日本公使館

### 畑澤要吉君

實業家

君は北海道の人畑澤要吉君の二男にして明治三年六月を以て生る、前名梶松と呼び後ち父の名をつぐ、現時岩内水力電氣株式會社取締役たり、家族は弟熊藏同人妻アエ、姉マサ、甥吉光君姪ヒデあり、尙養子實君は女を伴ひ弟留作君も其妻イトと共に各分家し、妹ハルは北海道太刀川善吉君に嫁せり  
〔現住〕北海道岩内郡島野村

### 島中卓爾君

高知縣多額納稅者

君は高知縣人島中六郎の長男にして文久三年七月を以て生る

現時土佐農工銀行、三浦商工株式會社の各監査役たり、家族は妻清子の間に三男四女あり、長男賢一郎君は高知縣人宮地馬太郎三女壽恵子を娶り一子清恵君あり、父六郎君は前に分家し、四男勝四郎君を養子とし、二女富美子は同縣人三浦鶴次郎君に嫁せり  
〔現住〕高知縣安藝郡土居村

### 島山敏行君

逓信省參事官

君は奈良縣士族島山好敏君の三男にして明治十五年十二月生る、同四十年東京帝國大學法科大學を卒業し逓信事務官、稅關事務官、逓信書記官兼逓信省臨時調查局事務官、逓信監察官等に歴任し、現に監察課長たり、正五位勳四等襲に逓信事業研究の爲め米國に留學せり、家族は父好敏君、弟敏夫君、妻敦子の間に三男あり、尙姉恒子は東京府人柴田榮吉君に嫁せり  
〔現住〕東京市京橋區逓信省官舎

### 秦 豊助君

海軍省政務次官 衆議院議員

君は東京府の人秦源祐君の長男にして明治五年八月に生る、同二十九年帝國大學法科大學を卒業す、福井、愛媛、千葉、神奈川、長崎各縣參事官、秋田、徳島各縣知事等に歴任し、又逓信次官たり、又襲に日本出納品株式會社重役たりしこともあり衆議院議員に當選する事四回、現時從四位勳四等なり、夫人志津子は同府人士族坂田厚孝君の二女にして、家族は尙弟眞吉君あり、姉とみ子は兵庫縣士族澤淳子に嫁し妹さく子は東京府人小島とめ子に、同タケ子は其生母同府川上ノブ子に各養子となれり  
〔現住〕東京市京橋區築地二ノ一二  
〔電話〕京橋八

### 島山國太郎君

横濱食品市場專務

君は神奈川縣人島山兼吉君の長男にして慶應二年三月に生る

八百女と稱し青物商を営む、令閨セイ子は同縣人松村庄兵衛君の二女にして、其間に三男四女あり、二女エイ子は神奈川縣の人大貫房吉三男幸吉君に、妹カネ子は同縣人竹内新太郎君に嫁し、三男福三郎君は同縣人松村彦太郎君の養子となり、弟清次郎君は分家し、同政吉君も亦其妻ふぢ子及女を伴ひて分家せり  
〔現住〕横濱市真砂町一ノ四  
〔電話〕本局二二一六

### 島山小兵衛君

會社重役

君は富山縣人小山小兵衛君の長男にして、明治六年十一月に生る、前名を小四郎君と稱せり現在越中銀行、伏木銀行、七尾商工銀行各取締役、七尾倉庫、岩瀬鐵工場、日本ゼラチン工業中越電氣工業、加藤組、中越鐵工場各取締役たり、夫人クニ子との間に御代子あり、養子は富山縣人細野定次郎君二男昌造君なり尙家族に、孫司君及び弟小

七郎君あり  
〔現住〕富山縣上新川郡東岩瀬町

### 篠崎直之君

銀行會社重役

君は福岡縣の人篠崎德治君の長男にして、明治十年四月に生る、現在三池銀行の取締役、九州酸曹監査役たり、令閨思子との間に、七男一女あり、妹トミ子は福岡縣人平田竹三郎君に嫁せり  
〔現住〕福岡縣三池郡岩田村

### 幡谷仙之介君

茨城縣多額納稅者

君は茨城縣人幡谷庄介君の二男にして分家なり、安政元年正月に生る、農を業とす、令閨てう子との間に三男六女あり、三女はな子は茨城縣人村山寅松君に養女まつ子は同縣人石田伊之松君に四女さく子は同縣村國藏君に嫁し、長女ちよ子は其妻留吉君と共に、二女ゆう子は其夫君嘉久郎君と共に各其子を携へて分家し、長男仙藏君二男仙次郎

君も亦分家し、五女なか子は分家養子留吉君に、六女ふゆ子は分家養子嘉久郎君に各養子となれり  
〔現住〕茨城縣東茨城郡小川町

### 初見五郎君

札幌逓信局工務課長

君は茨城縣人初見敬二郎君の三男にして同新太郎君の弟なり明治十三年八月を以て生る、同四十年十一月京都帝國大學工科大学を卒業す、通信技師、通信技師兼逓信局技師等に歴任し、現時は臨時電信電話建設局技師兼逓信局技師、札幌出張所長、札幌逓信工務課長たり、令閨みどり子は東京府人小野鷺堂の二女にして、其間に五市君、トク子、琴子、美代子、辰二君、文三君あり  
〔現住〕大阪府大阪逓信局官舎

### 初見新太郎君

茨城縣多額納稅者

君は茨城縣人初見敬次郎君の



長男にして、明治三年七月に生る、茨城縣多額納税者たり、夫人チヨウ子は栃木縣人板倉重平君の妹なり、養子謙助君に、夫人ヤエ子を迎へて其間に三女あり、妹ひさは茨城縣人小松原藏太郎君に、同ゆき子は東京府人鈴木孝三君に、同ゆき子は栃木縣人喜多川儀平君に嫁し、弟藤三郎君は埼玉縣人山口嘉三郎長女ゆう子の婿養子となり、叔父莊之助君は其夫人セイ子を伴ひて分家せり〔現住〕茨城縣猿島郡八俣村

服部宇之介君

文學博士 東京帝國大學教授

君は福島縣士族服部茂八君の三男にして、慶應三年四月を以て生る、先代喜平の養子たり、明治二十三年帝國大學文科大學哲學科を卒業し、其後漢學研究の爲清國及教授法研究の爲獨逸に留學す、文部省出仕、第三高等學校教授、高等師範學校教授、文部大臣秘書官兼文部省參事官

同視學官、高等師範學校教授兼東京帝國大學文科大學助教、同教授、北京大學師範科教授に歴任し今日に至る、文學博士にして從四位勳三等なり、令聞シゲ子との間に三男三女あり、長女淑子は熊本縣士族馬場一衛君に嫁せり〔現住〕東京府豊多摩郡戸塚町諏訪二八三〔電話〕番町五一六〇

服部正明君

札幌地方裁判所檢察正

君は愛知縣人服部六右衛門君の長男にして明治八年二月を以て生る、同三十三年東京專門學校を卒業す、同年判檢事登用試験に合格し、福岡、甘木、人吉、長崎各裁判所判事、横濱地方裁判所判事、甲府地方裁判所、大津地方裁判所判事正等歴補して今日に至る、陸軍歩兵少尉にして從五位勳四等なり、夫人たま子との間に、二男一女あり、父君六右衛門君は母堂かね子と共に子女を伴ひ分家し、長女登代

服部源三郎君

東京縣士族株式會社取締役

君は三重縣士族服部源三郎君の長男同修二君令兄なり、明治八年九月を以て生る、現時服部紙店の代表、東京縣士族株式會社の取締役たり、夫人フク子は前田文兵衛君の長女にして其間に澄子あり、尙外に庶子女二女あり、養子健次郎君は三重縣人今村貞雄君の三男なり〔現住〕東京市日本橋區堀留町一ノ四

服部孝太郎君

八十三銀行頭取

君は三重縣人服部泰輔君の長男にして明治二年十一月を以て生る、現在八十三銀行頭取、比奈知川水力電氣株式會社取締役たり、令聞たね子は同縣富島理助君の三女にして、其間に四男四女あり、三女たま子は三重縣

人富田謹三君に、四女みち子は滋賀縣人岡田武司君に、妹とみ子は京都府人山下彌兵衛君に嫁し、弟貞郎君は三重縣人廣部さき子の養子となれり〔現住〕三重縣阿山郡輛田村

服部英明君

衆議院議員

君は愛知縣人服部増太郎君の二男にして分家せり明治十二年三月を以て生る、東京帝國大學法科大學を卒業し辯護士を業とす、又起重機製造、中外製紙各會社取締役たり、令聞隆子は故麻布獸醫學校與倉東隆の二女にして其間に英雄君英正君あり〔現住〕東京市麴町區隼町七

服部文四郎君

東京商業會議所書記長

君は滋賀縣人服部又七君の令弟にして明治十一年一月に生る同三十五年早稻田大學英語政治科を卒業し、又プリンストン大學、伯林大學、伯林高等商

業學校に經濟學を究む、曩にマスタートオプアーツの學位受領せり、曾て旭貿易株式會社監査役たりしが現時は東京商業會議所書記長、早稻田大學教授南洋殖産興業株式會社取締役たり、令聞壽恵子岡山縣人大江松太郎君の四女にして、其間に二女あり〔現住〕東京市下谷區下根岸町八六

服部良太郎君

千葉縣多額納税者

君は千葉縣人服部於兔三郎君の長男にして山越秀太郎君の甥なり、明治十一年十二月を以て生る、曾て米國に遊學せり、農を業とし、インダメタル工場社長、千葉瓦斯工業株式會社代表佐倉淡具商會取締役たり、夫人多可子は同縣人能勢土岐太郎君の二女にして其間に讓治君、節子あり、弟爲次郎君は千葉縣人山城秀太郎君長女まき子に、同正之君は東京府人宮田定七長女伊代子に各婿養子となり、同順

は之部

三郎君は同縣馬立ふみ子の養嗣子となり、妹い子は千葉縣人玉井光胤長男八十彦君に嫁せり〔現住〕千葉縣市原郡海上村

服部春一君

南洋椰子株式會社專務

君は三重縣人服部泰次郎君の三男にして明治二十二年一月を以て生る、同四十四年東京高等商業學校專攻部を卒業、大正六年南洋方面を視察す、嘗て三十四銀行重役たりしが現時は前記の外に神戸住宅株式會社の取締役服部同族會社理事たり、令聞三樹子は和歌山縣人片山道堅君の三女にして其間に達也君一人あり〔現住〕兵庫縣武庫郡御影町瀧ヶ原

服部一三君

貴族院議員 從二位勳一等

君は山口縣士族渡邊兵藏君の二男にして、嘉永四年二月を以て生る、先代又三君の養子なり米國に留學して學位を受く、明

服部平兵衛君

岡山縣多額納税者

君は岡山縣人近藤有年君の二

男にして文久元年六月に生る、先代平九郎君の養子にして前名を彌三郎と稱せり、現時牛窓銀行監査役、東服部代表たり、令聞類子との間に潤二君あり、潤二君は同縣人白神直平君の五女敏子を娶りて與斯子、完二君、貞子、泰子を擧ぐ

服部幾太郎君

〔現住〕岡山縣邑久郡牛窓町〔電話〕八

服部幾太郎君

村松銀行取締役

君は新潟縣人服部幾七君の長男にして文久三年十月を以て生る、現在村松銀行の取締役、村松商業株式會社の取締役たり、令聞ナカ子は同縣人古川伴吉郎君の二女にして其間に一男三女あり、長女マミ子は新潟縣人古川孝三郎君に、三女キト子は同縣人健富健作君に、妹カウ子は同縣人健富岩三郎君に嫁し、長男暢平君は其妻マ子と共に女を伴ひ、弟只造君は其夫人ハツノと子を伴ひて各分家せり



〔現住〕新潟縣中蒲原郡村松町

服部與右衛門君

〔板屋 綿布商〕

君は愛知縣人藤井市兵衛君の四男にして、弘化元年九月を以て生る先代與右衛門君の養嗣なり、曩に日光川倉庫銀行取締役たり、令聞せい子との間に五男一女あり、二男明治郎君は同縣人佐溝太兵衛君の相續人となり四男藏三郎君は分家し、二女すす子は東京府人豊泉益三君に嫁し、六男富之助君は愛知縣人天野泰助君の養子となれり

〔現住〕名古屋市中區下園町二ノ五 〔電話〕園本局四五九、四七九一

服部七兵衛君

〔茶器道具商〕

君は京都府人服部七兵衛君の長男にして慶應三年九月に生る前名を政太郎といふ、茶器道具商を營む、夫人キク子は同府人蘆谷常次郎君の長女にして、其

〔現住〕名古屋市中區西洲崎町四三 〔電話〕本局三〇二二

服部吉兵衛君

〔資産家〕

君は東京府人服部吉兵衛君の長男にして、前名を房吉と稱せり、慶應元年八月に生る、資産家たり、令聞よし子は神奈川縣齋藤丑之進君の妹にして、其間に三男一女あり、弟米藏君は廢家服部氏を再興し、同金藏君は東京府人石川ゑい子の養子となり、妹もと子は同府人木原傳兵衛君に嫁せり〔現住〕東京市日本橋區堀江町二ノ四

服部雄三君

〔會社重役〕

君は鹿兒島縣人服部與次郎君の長男にして明治十五年十一月を以て生る、現時鹿兒島商事、鹿兒島織物勸業株式會社の各取締役たり、夫人カネ子との間に雄一郎君あり、叔母タカ子は鹿兒島縣人山下新五郎君に、妹ノ

服部清一君

〔現住〕鹿兒島市汐見町

〔吳海軍病院第一部長〕

君は廣島縣人小田義夫君の弟にして明治十年七月を以て生る服部庄右衛門君の養子にして分家せるなり、同三十三年海軍少軍醫に任じ、大正七年軍醫大監に累進す、其間横須賀海軍港務部丹後各軍醫長、海軍兵學校附、利根軍醫長、舞鶴海軍病院附、同鎮守府附、吳鎮守府附、吳佐世保各海軍工廠軍醫長、佐世保鎮守府附、同海軍工廠軍醫長、横須賀海軍病院第一部長兼同看護術練習所長を歴補し、現時は吳海軍病院第一部長たり、海軍々醫大佐にして從五位勳三等功五級なり、令聞イマ子との間に一男三女あり、長女千代子は栃木縣人豊田實君に嫁せり

〔現住〕吳市吳海軍病院内

服部俊一君

〔東洋紡績株式會社取締役〕

君は山口縣士族竹田良安君二男にして嘉永六年三月を以て生る、先代良助君の養子なり、工部大學校を卒業し後英國に留學す、工學博士にして、農商務省兵庫造船所機械科長、海軍省艦政局長なり、又桑名紡績株式會社、知多紡績株式會社各顧問、三重紡績會社取締役兼工務長等に擧げらる、夫人をキミ子と呼び其間に二女あり、長女ハツエ子は其夫君廉輔君に従ひ分家し四女静枝子は東京府士族加納謙吉君に嫁せり〔現住〕名古屋市中區白壁町二ノ八 〔電話〕東七九〇

花島兵右衛門君

〔三島銀行頭取 静岡縣農工銀行取締役〕

君は静岡縣の人にして花島和榮君の長男なり、弘化三年十一

月を以て生る、現時前記會社の重役其他駿豆鐵道株式會社取締役なり、家族は令聞とよ子、男信一君、同妻いし子、女まさ子孫信三君あり、二女ふさ子は静岡縣人大沼吉平君に、三女なをは栃木縣人川角次郎次男弟四郎君に養子はま子は静岡縣人相田猪太郎君に、五女さみ子は愛媛縣人御宿好君に嫁し、三男孝一君は妻澄子と共に、五男周一君、孫富美子は各分家し、同恒君静岡縣人津田守藏君の養子となり、伯母たつ子は同縣人小出太三郎君へ入家せり

〔現住〕静岡縣田方郡三島町

塙七平君

〔水戸商業會議所議員〕

君は茨城縣士族塙彌左衛門君の四男にして文久二年四月を以て生る、現時水戸商業會議所議員たり、家族は令聞やを、男雄太郎君、同妻雅子、兄妻つね子孫光太郎君あり、二女榮子は島

根縣人石倉隆君に、姪てる子は茨城縣士族新庄鎮次郎君に、同やす子は岡山縣人岩田恒房君に嫁し、同のお子は夫信豊君に從ひ子女と共に分家せり

原敏行君

〔草野銀行取締役〕

君は福岡縣の人にして矢野雄吾君の二男なり、嘉永六年正月を以て生る、前名を卯次郎と稱せり、現在株式會社草野銀行取締役たり、家族は令聞まさよ、長男郵君、次男放君、同妻タエ子、三男多喜三君、妻サイ、四男龍生君、女ヒデ子、吳郎君、陸男君、孫幸子、同温君、同文夫君、同敏子あり、長女ツネヲは福岡縣士族猪飼松次長男金次郎君に、二女サツキは福岡縣人足立量三君男忍介君に、妹タツノは同縣人栗林健郎君に、同カノエは上野百次君に嫁し、弟彦次郎君は妻ヤスヨ及女を伴ひ分家せり

華園眞淳君

〔現住〕福岡縣浮羽郡竹野村 正五位男爵 眞宗與正寺派管長

當家は親鸞上人の裔にして十一世を経て經豪に至る經豪連上人と力を協せて法道の爲めに盡せり、夫より十一世を経て攝信に至る、戊辰の役に際して末寺の僧侶を率ひて王事に勤む、其功によりて明治五年三月華族に列せられ男爵を授けらる、君は其第六子澤稱二の男にして明治十七年八月を以て生る、前名を應稱と稱す、大正元年襲爵を仰付けらる、明治四十五年京都帝國大學文科大學史學科を卒業し現に眞正興正寺派管長たり、家族は兄演澄君、弟信由君、良巖君、稱淳君あり、伯母晨子は子爵會我祐準君に嫁し、弟稱善君は男爵梶野行和君の養子となり同稱念君及稱君は各分家し、叔父信曉君は其子女と共に亦分家せり〔現住〕京都市下京區醒ヶ井通七條上ル華園町一



### 原六郎君

正四位勳六等  
實業家

君は兵庫の人にして進藤六右衛門君の六男なり、弘化元年十一月を以て生る、先代丈右衛門君の養子なり、曩に大江卓米倉一平君等と共に帝國商業銀行の創立に與り、君其の取締役會長となり會て富士製紙株式會社社長、横濱船渠株式會社取締役會長、横濱正金銀行取締役、東洋汽船株式會社取締役等に擧げられ、實業界錚々の名聲あり家族は夫人登美子、養子邦造君、女美代子、女たつ子あり、長女秀子は和歌山縣人瀧野新次郎君の養子となり、女美津子は三重縣士族北村重昌君の養姉となり同長鋒郎君に二女登世子は子爵伊東二郎君に嫁せり

〔現住〕東京市外品川町北品川御殿山三二五  
〔電話〕高輪二九五



### 秦眞次君

陸軍歩兵大佐 東京警備司令部  
參謀長

君は明治十二年四月を以て小倉市に生る、同三十一年幼年學校を卒業し同三十二年士官學校を卒業す同三十四年陸軍歩兵少尉に任じ同三十六年中尉に三十八年大尉に昇進し同四十二年陸軍大學を卒業せり、同四十二年演習班の新設あるや君初代班長として之に就任し大正二年に到る、大正三年一月奥太利大使館附武官補佐官として渡歐し次で瑞西駐在、伊太利駐在、和蘭駐在と歴補し後和蘭第一回大使館附武官に補せらる、大正七年歸朝するや歩兵第七十聯隊に在勤し大正八年陸軍省新聞班の新設を

見るや君之が初代新聞班長として就任し、令名を博したり、大正十一年濱田歩兵第二十五聯隊長に轉じ、同十二年第三師團參謀長に累進す、大正十二年關東地方大震災に際し戒嚴の令布かる、君亦戒嚴司令部參謀に補せられ次で東京警備參謀長となる、君資性極めて活潑にして磊落寛容なり、殊に海外に於ける修練の賜か常に人をよく遇す、陸軍部内に於て少壯名參謀長として、大に將來を期待さるゝも故なきにあらざる君は大學に在校時代は圍碁に趣味深かりしが現時は釣魚に趣味を移され閑あれば必ず大公坊を極めらるゝを樂しみとせらる、家族は夫人らく子(實踐女學出三十七歳)長女貞子(十六歳)あり〔現住〕東京市小石川區大塚仲町四一

### 原嘉道君

法學博士 辯護士

君は長野縣士族原耕作君の長男にして慶應三年二月を以て生

### 原富岡製絲所

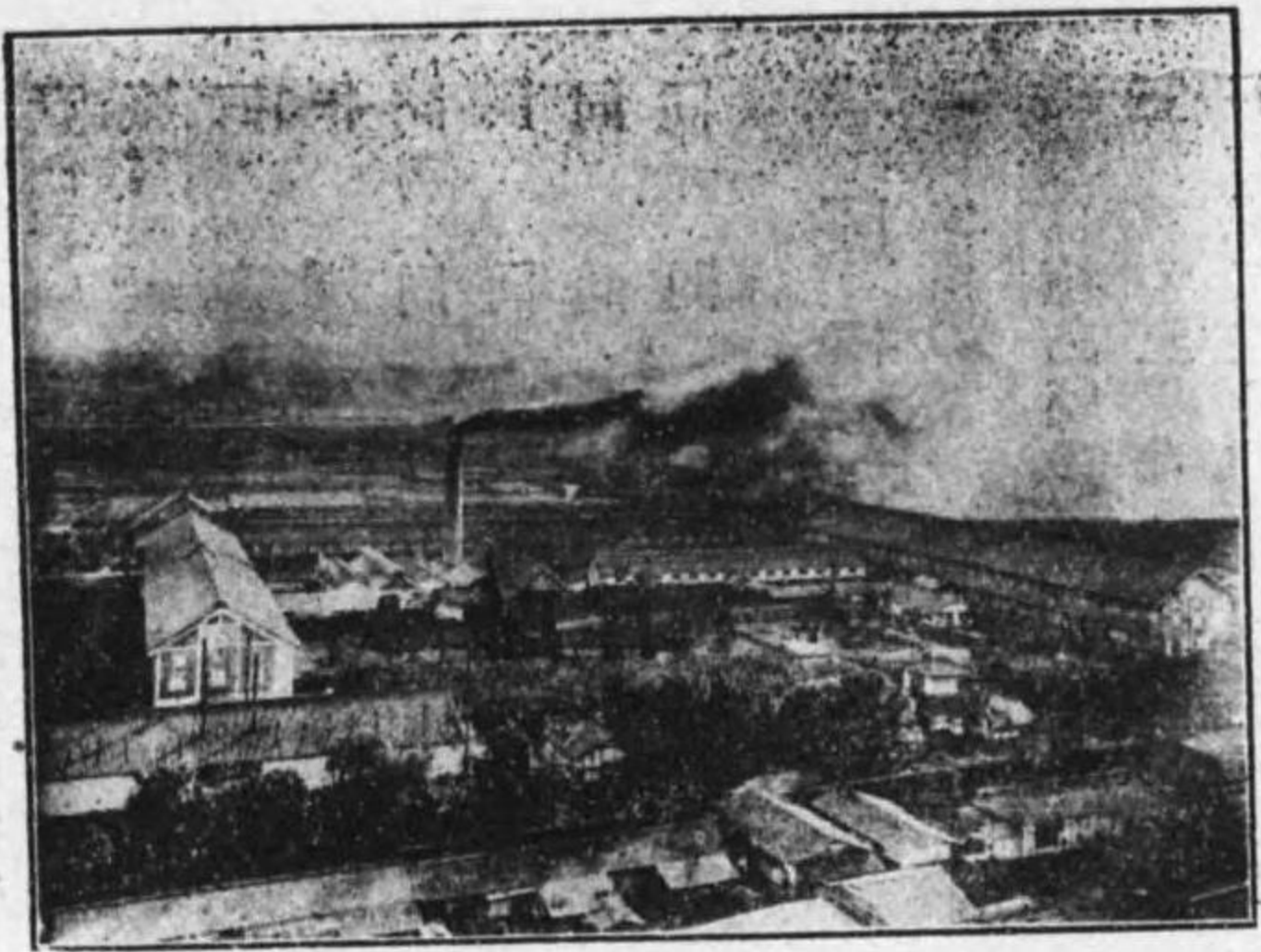
明治二十三年帝國大學法科大學を卒業し、農商務省試補同省參事官、鑛山監督官等に歴任し後自ら辯護士を開業せり、家族は夫人みつ子、長男清輝君、養弟直治君、妹つる子、甥勝之助君、同利治君、二男寛君、甥實之助君、姪とも子あり、長女富美子は熊本縣人林田敏義君に二女明子は兵庫縣人大野龍太郎に妹よし子は長野縣人岩崎順作長男覺太郎君に嫁せり

〔現住〕東京市麴町飯田町三ノ一五  
〔電話〕九段四〇七

〔事務所〕麴町區飯田町三ノ一五  
〔電話〕牛込五七七四

明治三年實業振起の政策に基き模範製絲工場官設の議決せられ時の大藏少輔伊藤博文、租税の正澁澤榮一朝廷の命によりて斯業に最も精進せる佛國人ポールブリーナを雇入れ次いで四年三月庶務少佐尾高惇忠、監督少佐川村光貞、營繕少令史山浦

俊武等の監督の下に當製糸所の起工となり五年十月竣工ブリーナ指揮の下に佛國式器械製糸



の業を開始し、諸縣の生徒に練糸法を傳習せり、爾來其の進歩頗る顯著にして邦人の技術熟達

せしを以て明治八年に至り佛人を解雇し邦人のみの手を以てして能く模範工場たるの實を擧げ續いて官業たること二十有餘年時勢の進運は明治二十六年に及びて始めて此の模範工場を三井家に拂ひ下げ、茲に全く官業より民營に移されたり、其の後諸般の改善は年として行はれざるなく、加ふるに工場の増設ありて事業の進歩著しきものありしが、明治三十五年に及び更に原製糸部之を繼承して經營今日に至れり、此の間明治六年六月畏くも、英照皇太后昭憲皇太后には斯業獎勵の御恩召を以て杉孫七郎、福羽美靜の兩子爵供奉楯取縣令御先導にて、行啓せられたり、當日昭憲皇太后には『いと車とりもめぐりて大御代の富をたすくる道ひらけつ』と御詠あらせられたり、又明治三十五年には、今上陛下の行幸を辱うしたることあるは同所無上の光榮なりと云ふべし、尙明治六年八月には埃國維納大博覽

會に於て進歩大賞牌を明治二十二年佛國大博覽會に於て名譽大賞牌を得、其の他第一回内國勸業博覽會以來各所に於て名譽大賞牌或は進歩大賞牌及び名譽大賞牌等を受けたること數多く列擧の煩に堪へざるものあり、同所製造に係る生糸は主として横濱原輸出部を経て機業家と直接取引をなす、其飛切上と稱する品は本邦エキストラ系の最優等なるものとして頗る市場に重せられ又別製飛切上と稱する品は伊太利、佛國の最優良品と品質相匹敵し其の聲價を世界に博するは同所の誇りなり、附屬施設として専ら力を公共的に致さんが爲め明治三十八年蠶業改良部を創設し同所が多年蠶業家を表彰し來りし素志を繼承し、更に進みて斯業獎勵上幾多の施設をなし、又優良蠶種の無償配布を行ひ、且明治四十四年には其創設七週年記念品評會を開催し、爾來引續き之を實行しつゝあり又四十五年研究課を設け主務大

臣の特別許可を得て、外國蠶種の輸入をなし内外蠶種類の比較研究上試験育をなす等一意専心斯業改良に盡瘁しつゝあり、尙又、就業者に對しての設備としては衛生、教育、娛樂等につき特に意を用ひ衛生上に關しては所内に病院を設け數名の醫師及び看護婦を常備し、又職工救濟會及傷病者特別補助の規定あり又教育上に在りては、工女借樂館を設け、修身讀書作文習字算術裁縫茶の湯插花等に到るまで各専門の教師之を擔任せり、尙家政講習會を催し日常必須の知識技能を教授す、娛樂につきは、毎月一回工女慰安會を開き鴻士碩儒の講演及び各種の餘興を催し、又一ヶ年數回演劇、活動寫眞及其他の興業物を觀覽せしめ、毎日就業時間を割きて呼吸體操を行ひ工場音楽を合奏せしむ、又終業後或は休日には舞踊會を催す等専ら體育と衛生と慰安とに重きを置き春秋二回家庭大園遊會を舉行する等、各種



の方法により趣味と實益とを兼ね與ふることに苦心しつゝあり同社現在の工場は群馬縣北甘樂郡富岡町大字富岡一番地及び埼玉縣兒玉郡若泉村大字渡瀬五百三十九番地等にあり現在の經營責任者は

- 原富岡製糸所々長 大久保佑一
- 同 所員 齋藤勝次郎
- 同 同 伊藤長造
- 同 同 清水光三
- 同 同 長岡義雄
- 同 同 矢田部忠吉
- 同 同 酒井吉之助

### 原伊代次君

實業家

君は徳島縣の人にして宮田衛三郎君の三男なり、慶應元年九月を以て生る、先代伊代次君の養子たるが前名を萬吉と稱せり現時大正林業索道株式會社取締役たり、家族は養母トミ子、令閨タケ子、長男菊太郎君、同妻シゲリ、女フミ子孫ハル子あり長女ムメ子は夫壽一郎君及子女

と共に分家せり  
〔現住〕徳島市北佐吉町

### 原潮君

大阪米穀取引所仲買人

君は茨城縣士族原元整君の三男なり、慶應元年二月を以て生れ、大阪堂島米穀取引所仲買人たり、家族は令閨利字子、男昇一君、男敏一君、甥元君、甥妻する子、再姪倭文子、三男祐三君、二女久子、再甥元章君、再姪みさを、再甥元秀君あり、兄義武君は分家せり〔現住〕大阪市北區堂島濱通一ノ五六〔電話〕四北五三二

### 原保太郎君

正四位勳二等 貴族院議員

君は京都府士族原友次君の四男にして弘化四年七月を以て生る、曾て米國に留學せしことあり、兵庫縣少書記官、同大書記官、山口縣令、山口、福島各縣知事、北海道長官、山林局長兼

林野整理局長等に歴任し、明治三十六年貴族院議員に勅任せられ、現時錦鷄間祇候たり、家族は男鴻太郎君、同愛次郎君、同敬三郎君、庶子女梅子、庶子女保子、同松子あり二女シヅ子は山口縣士族笠井真三君に、三女キク子は石川縣人齋藤半六君に嫁し、六女千代子は同縣士族吉田醇一君に、庶子順子は宮崎縣人長友比佐吉君に各養子となれり〔現住〕東京府下代々幡町代々木南山谷三〇八〔電話〕四谷九八三

### 原象一郎君

正四位勳三等

元國勢院第二部長

君は石川縣士族にして原政矩君の長男、明治十五年五月を以て生る、同三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し、同年文官高等試験に合格せり、後鑛山監督署事務官、法政局參事官、軍需局長、國勢院第二部長に歴任せり、家族は令閨美世子男谿君、女月子、弟驥四郎君、弟妻三枝子、同幸子、二女花野子三男健君、四男士良君、五男玉夫君、甥一郎君、同健也君等あり弟龍三郎君は妻と共に分家せ

### 原勝郎君

正四位勳三等 文學博士

京都帝國大學教授

君は岩手縣士族原勝多君の長男にして明治四年二月を以て生る、同二十九年帝國大學文科大學史學科を卒業し、近世史研究の爲め歐米に留學し歸朝後大學院に入る、後第一高等學校、京都帝國大學文科大學教授に歴任し現在に至る、曾て支那安南、暹羅

り〔現住〕東京府北豐島郡高田町大原一五五三〔電話〕番町二八〇七

### 波多野友江君

從七位勳六等多摩川水力電氣株式會社專務取締役

君は明治八年十月を以て東京市に生る、君の嚴父尹政君は島根縣の人にして幼より大志を抱き、夙に東京に出で大に爲す所あらんとし一度官海に入りしが故ありて之れを辭し野に下り初めて農園を開設し歐米各國より野菜果物其他農産品の種苗を輸入し之れが普及發達を計りしに大に成功し更に煉乳製造所を設け斯業の發展を計り三十四年自ら首唱して四谷銀行を設立し其頭取に推されて經營の任に當れり斯くの如く各種事業の經營に忙殺されつゝも其餘暇を利用して四谷區内の公共事業に功獻したる爲め區内に於ける徳望高きものありきされば君は父君の資質を享け温良にして圭角なく而

も果斷に富み苟も事に當りて、躊躇することなく、曾て鋭敏脱兎の如き安藤部長を助けて毫も違算なかりしは宜なりと云ふべきなり、君夙に東京府立中學校を卒へ次で第一高等學校に入り更に東京帝國大學に學び刻苦勉勵螢雪の功を積み明治三十四年工科大學を卒業せり、後大阪砲兵工廠に奉職し茲に甫めて平素鍛練研究せる學術を實地に應用するの機を得たりしが官命に依り電氣工藝調査の爲め瑞西に出張を命せられ大に研鑽する所あり、時偶々日露の兵火起り造兵の事業非常に繁忙を加へ大に君の技術に俟つものありしかば招電に依り歸朝したり茲に於て君は寢食を忘れ、粉骨碎身して國家の爲めに盡さんとし専ら兵器彈藥の製造を掌り出征軍をして毫も違算なからしむるを得たり戰了りて職を辭し、尋いで東京鐵道株式會社に入り技師となりしが、明治四十四年六月東京市が會社を買収し東京市電氣局を

### 濱田彰君

三菱造船株式會社專務取締役

君は長崎縣の人にして士族一瀬信造君の二男なり、明治三年十一月を以て生る、先代サヨ子の養子たり、東京高等工業學校を卒業し、三菱合資會社長崎造船所副長たりしが現時は三菱造船株式會社專務取締役たり、家族は夫人マン子養子顯吉郎君女シヅメ、孫英子同鈴子あり〔現住〕東京市麴町區富士見町二ノ三九〔電話〕四谷五一八三

### 長谷川太郎吉君

九州製紙株式會社專務取締役

君は新潟縣の人にして加藤寅太郎君の三男なり、明治六年一月を以て生れ、絶家長谷川家を再興せるが、君は當代實業界一方の重鎮にして其の才腕力備共に卓越し斯界に聲名を極めつゝあり、曩に北海道興業株式會社の取締役として敏腕を揮はれ又緑川電力株式會社、鴨綠江製紙株式會社、朝鮮森林鐵道株式會社、八代製紙株式會社各取締役、樺太汽船株式會社、株式會社製所各取締役、樺太工業株式會社、上毛製紙株式會社、東海鋼業株式會社各監査役等其他數多の會社の重役の任にあり更に前記九州製紙株式會社の專務取締役として大に其の敏腕を發揮して社況の發展に迺往直進されつゝあり、蓋し得易らざる器才なりと云ふべし、家族は令室けい子外長男祐之助君長女信子あり



〔現任〕東京市芝區高輪南町四五  
〔電話〕高輪六九八



林頼三郎君

從四位勳三等法學博士  
司法省事務次官

君は舊武州忍藩の儒者三輪禮三君の四男にして養子たり、明治十年九月を以て生れ、同三十年七月東京法學院を卒業し、検判事登用試験、辯護士試験に登第せり、同十一月司法官試験に任せられ水戸區裁判所詰となる同三十二年判事に任じ爾來東京區裁判所判事、宮城控訴院判事、仙臺地方裁判所部長、宮城控訴院部長、東京控訴院判事等に歴任し、同四十四年十一月檢事に任じ大審院檢事に轉ず、大正五

利子の二子あり

〔現任〕前橋市神明町

馬場鏐一君

從四位勳一等 貴族院議員

君は東京府の人山本時光君の長男にして、兼君の養子となる明治十二年十月を以て生る、同三十六年東京帝國大學法科大學を卒業し、文官高等試験に合格せり、稅務監督局事務官、關稅監視官兼同事務官、統監府書記官、同財政監査官、法制局參事官兼行政裁判所評定官、同第二部長、法制局長官等に歴任す、曾て韓國政府に招聘せられたる事あり、令閨信子は養父兼君の長女にして、克己君、正夫君の二子あり

〔現任〕東京市本郷區丸山福山町三  
〔電話〕小石川八八

馬場儀雄君

從四位勳三等功五級歩兵大佐

君は福井縣人馬場平格君の四男にして、明治六年一月を以て

に任じ大正八年陸軍少將に陞任す、其間砲兵會審官、野砲兵第五聯隊付、同中隊長、陸軍砲工學校教官、陸軍省軍務局課員、陸軍技術審査部議員、野砲兵第二十三聯隊長、第十三師團參謀長、野砲兵第二旅團長等に歴任す、母堂をワキ子と云ひ、令閨ヨシ子は山口縣人品川梅藏君の二女にして、義廣君、喜代子、美枝子、義祐君、義路君の諸子あり〔現任〕千葉縣市川町

馬場一衛君

從五位元等馬場縣內務部長

君は熊本縣の人馬場勝三君の二男にして、明治十四年十二月を以て生る、前名を勘次と云ふ同四十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同年文官高等試験に合格す、警視廳方面監察官、福井縣事務官、同視察官、群馬縣警察部長、群馬縣內務部長等に歴任す、母堂をイト子と云ひ、令閨淑子は東京の人服部字之吉君の長女にして、一郎君

原太三郎君

米穀商

君は京都府の人、原喜三郎君の養子にして、安政五年四月を以て生る、米穀商を營み榎屋と稱す、現に京都米穀取引所仲買人たり、令閨いし子は養父喜三郎君の長女にして、善藏君、喜造君、太造君、たみ子、要造君はる子、よね子の諸子あり

〔現任〕京都市下京區油小路綾小路下ル風早町五六九  
〔電話〕下一五〇九

原信正君

五十二銀行監査役

君は東京府人竹内信英君の五男にして原家に入る、元治元年九月を以て生る、現に五十二銀行監査役たり、令閨タケ子は愛媛縣人石原操君の令妹にして、正義君、英吉君、三郎君、正脩君、チヨ子、フヂ子の四男二女あり、正義君の室を和子と云ひ二男あり、長女チヨ子は夫兼次

原眞一君

貿易業 長崎縣多額納稅者

君は長崎縣の人原岩吉君の長男にして、先代富四郎君の養子となれり、慶應二年六月を以て生る、明治三十五年捕鯨合資會社を創立し、同四十二年東洋捕鯨株式會社と改稱し、其常務取締役役に推さる、曾て東洋製氷、富士製鋼各株式會社取締役たり既に造船及貿易業を營む、長崎縣多額納稅者にして、長崎商業會議所議員、原商事、南洋製糖各株式會社長、日本油脂工業、佐賀紡績、日本製氷、東洋捕鯨各株式會社取締役たり、令閨シメ子は同長崎縣人江口辨次君の養子にして、萬一郎君、シヅ子の二子を擧ぐ〔現任〕長崎市築町

原夫次郎君

從五位勳五等衆議院議員

君は島根縣人原與之助君の令弟にして、分家せり、明治八年六月を以て生る、同二十九年和



佛法律學校を卒業し、同三十二年辯護士試験に及第し、廣島區裁判所、同地方裁判所各判事、東京區裁判所判事、司法大臣秘書官、東京地方裁判所判事、東京控訴院判事、内閣總理大臣秘書官、司法省、法制局各參事官等に歴任し、代議士に當選する事二回なり、これより先明治四十二年佛國クルノーブル文科大學に入り法科を卒業し、更に巴里大學校大學院を卒業せり、令閨カチ子は、島根縣人保科昌三郎君の四女にして、武君、博子博男君、文子の諸子あり

〔現任〕東京市牛込區市谷加賀町二ノ三

原駿一郎君

實業家

君は大分縣人原大三郎君の長男にして、明治二十二年九月を以て生る、現に大分縣農工銀行大分銀行、大分貯蓄銀行、豊岡實業銀行、大分鐵道、日本ゴム各株式會社取締役、豊島瓦斯株

式會社監査役に任ず、令閨アサ子は同縣人駕海徹君の令妹にして、逸子、松子の二女あり

す、令閨ヒサ子は同縣人服部六助君の四女にして、信彦君、シケ子、ヒデ子の諸子あり、外に令孫壽彦君、淑子、安彦君存す

原文平君

實業家

君は大阪府人原文之助君の長男にして、中辰之助君の令甥なり、明治十八年三月を以て生るクツワ織物、熊坂織物各株式會社取締役に任ず、母堂を琴子と云ひ、大阪府人源壽君の長女なり、令閨ノブ子は奈良縣人山本七九郎君の三女にして、文之助君、ヒラ子、ナツ子、アヤ子スミ子の諸子あり

〔現任〕大阪府泉南郡熊取村

原三信君

原病院長

君は福岡縣の人原三信君の二男にして、文久三年十一月を以て生る、前名を崎次郎君と云へり、曾て福博遠洋漁業株式會社監査役たり、現に原病院を經營

原弘毅君

從五位勳五等 山口高等學校教授

君は廣島縣の人、原閨吉君の長男にして、明治十五年三月を以て生る、同三十九年東京帝國大學文科大學獨文科を卒業す、曾て第八高等學校教授たり、現に山口高等學校教授に任ず、母堂をシゲ子と云ひ、令閨フミ子は同縣人小川太郎一君の長女にして、毅君、チヨ子、チヅ子の三子あり

〔現任〕山口縣山口町

原靜雄君

正四勳四等 土木技師

君は東京府の人、原保三君の長男にして、明治四年九月を以て生る、同二十七年帝國大學工科大學を卒業し、爾來内務省土木監督署技師、三重、愛知各縣

技師等に任じ、現に朝鮮總督府技師、土木部長に任ず、母堂をむめ子と云ひ、令閨芳子は同府人玉置安根君の令妹にして、一雄君、すみ子、次雄君、正雄君辰雄君の諸子あり

〔現任〕京城、朝鮮總督府土木部

原田元治郎君

原田織機株式會社社長

君は大阪府の人、平田英十郎君の長男にして、安政六年正月を以て生る、現に平田織機株式會社社長たり、令閨りょう子は京都府人宮本誠太君の二女にして、秀夫君、守夫君、芳介君、綾子、鐵吾君の諸子あり

〔現任〕大阪府北河内郡交野村

原田猪八郎君

實業家

君は福岡縣人原田直之助君の長男にして、明治十一年十月を以て生る、現に撫順鐵工株式會社取締役、滿洲皮革、滿洲貯金信託各株式會社監査役たり、令

閨光子は京都の人根本吉太郎君の二女にして、郁子、恭子、寛子、誠一君の諸子あり

〔現任〕大連市山縣通二九號地

原田十衛君

正六位勳四等 衆議院議員

君は熊本縣人原田十次郎君の長男にして、文久元年十二月を以て生る、中江兆民の門下となり、各新聞記者を経て自由通信社主筆たり、文部、司法、大藏各大臣秘書官、東京市助役等を歴任す、代議士に當選する事六回なり、現に熊本電氣株式會社取締役、熊本米穀取引所理事長に任ず、令閨サキ子は東京の人田邊貞雄君の二女にして、養子恭三君あり

〔現任〕熊本縣飽託郡古町村

原田伊之助君

日本眞田株式會社取締役

君は滋賀縣の人原田孫四郎君の二男にして、萬延元年三月を以て生る、先代萬助君の養子と

は 之 部

なれり、現に日本眞田株式會社取締役に任ず、令閨きく子は同縣人長宗彌左衛門君の二女にして、宗治郎君、美知江子の二子あり

〔現任〕岡山縣上房郡松山村

原田庄一君

中外製紙株式會社取締役

君は廣島縣の人原田彌八君の長男にして、明治二十四年二月を以て生る、現に中外製紙株式會社取締役に任ず、母堂をヨシ子と云ふ、令閨ツル子は東京府の人上石竹次郎君の六女にして、庄彌君、妙子、小夜子の三子あり

〔現任〕東京市神田區末廣町一〇

原田六郎君

實業家

君は滋賀縣人淺見又藏君の令弟にして、先代十次郎君の養子となれり、明治二十一年十二月を以て生る、現に株式會社原田造船所社長、原田汽船株式會社代表、八千代海上保險株式會社

取締役、太湖汽船、日清火災海上保險、南洋郵船株式會社監査役等に任ず、養母をヨシ子と云ふ、令閨富士子は海軍中將河原要二君の五女にして、盛治君、隆子、昭子、正治君の諸子あり

〔現任〕大阪府北區中ノ島四ノ甲

五〔電話〕園土佐堀三二

〔現任〕園土佐堀三二

〔現任〕園土佐堀三二

〔現任〕園土佐堀三二

〔現任〕園土佐堀三二

原田二郎君

從五位 實業家

君は三重縣の人原田清一郎君の長男にして、嘉永二年十月を以て生る、曾て大藏省出仕、第七十四銀行頭取、鴻池銀行専務理事、大阪倉庫株式會社副社長等に歴任し、大正四年功により從五位に叙せらる、現に財團法人原田積善會理事長、帝國朝日銀行、日本信託興業各株式會社監査役たり

〔現任〕東京市麻布區市兵衛町二ノ八九

原田藤次郎君

實業家 青森縣多額納稅者

君は青森縣人原田佐治郎君の

長男にして、明治七年十月を以て生る、現に青森縣多額納稅者にして、株式會社青森縣農工銀行取締役に任ず、令閨クニ子は青森縣人長谷川啓次郎君の長女にして、幸雄君、エイ子、タケ子まさ子の諸子あり

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

〔現任〕青森縣西津輕郡森田村

原田隆升君

實業家

君は熊本縣人原田隆道君の長男にして、慶應二年八月を以て生る、現に八幡銀行、近江板紙各株式會社監査役に任ず、令閨ツタ子は同縣人竹田徳太郎君の長女にして、隆康君、隆道君、クニ子の三子あり

〔現任〕熊本縣菊池郡迫間村

原田金次郎君

實業家

君は東京府の人原田銀藏君の長男にして、慶應二年五月を以て生る、電氣器具製造設計請負監督業を營み、原安商會と稱す



現に東京商業會議所議員、原安商會代表、關川水力電氣、武周電力、氣仙水力電氣、池上電氣鐵道各株式會社取締役任す、母堂はる子は福島縣人小瀧善太君の長女にして、令閨菖蒲子は東京の人犬岩啓君の三女なり

〔現住〕東京市京橋區松川町五

原田金之祐君

勳六等 實業家

君は滋賀縣の人原田延次郎君の長男にして、安政元年三月を以て生る、曾て共同運輸會社創立委員、同支配人、日本郵船株式會社伏木支店長、大阪支店長同本店調度課長、同取締役任す、又大阪商業會議所特別議員大阪築港調査委員、朝鮮京城商業會議所會頭等に擧げらる、現に朝鮮郵船株式會社取締役會長日本郵船株式會社相談役に任じ又海軍委員會委員に推さる、令閨ちよう子は同縣人林寛君の長女にして、立之祐君、憲次郎君かね子、順子、みつ子の五子あり

り〔現住〕東京市麻布區飯倉町五ノ五六

原田助君

勳五等 元同志社々長

君は熊本縣人鎌田收君の二男にして、文久三年十一月を以て生る、先代林平君の養子となり分家す、京都同志社に學び、明治二十四年米國エール大學神學部を卒業す、尙其後も度々歐米印度方面を漫遊し又布哇大學に招聘さる、曾て同志社社長たり令閨崎子は兵庫縣人川本恂藏君の令妹にして、健君、泰君、美佐尾子、文子、淳君、美世子、脩君の諸子あり、長女芳子は同志者大學教授片桐哲君に嫁す

〔現住〕京都市上京區室町上立賣下ル〔電話〕上三二九九

原田延一郎君

銀行家

君は岡山縣人仁科眞津三君の二男にして、慶應二年十一月を以て生る、先代芳太郎君の養子

となれり、現に株式會社鴨方倉庫銀行取締役に任す、令閨以知子は同縣人小林郁郎君の長女にして、峻三郎君、省三君、常子の諸子あり、長女小虎子は同縣人池田碩二君に嫁す

〔現住〕岡山縣淺口郡鴨方村

原田哲太郎君

銀行家

君は福井縣人原田兵衛君の長男にして、文久二年十一月を以て生る、現に福井縣農工銀行、高濱銀行各株式會社取締役に任す、令閨やす子は同縣人石塚傳太郎君の令妹にして、英太郎君はる子、やす子、とめ子の諸子あり

〔現住〕福井縣高濱町

原田悌三郎君

機津銀行頭取

君は静岡縣人原田年之助君の二男にして、嘉永六年二月を以て生る、現に株式會社機津銀行頭取たり、令閨きん子は同縣人

池ヶ谷詳之助君の令妹にして、むろ子、すが子、ふさ子の三女あり、むろ子と養子格次郎君との間にみち子、さい子の二女あり、令妹より子は同縣人板倉甫十郎君に嫁す

〔現住〕静岡縣志太郡東益津村

原本大三郎君

勳四等 島根縣多額納稅者

君は島根縣の人原本權八郎君の二男にして、慶應二年九月を以て生る、曾て縣會議員及衆議院議員に選ばる、大正三四年の事件の功に依り勳四等に叙せらる、現に島根縣多額納稅者にして、山陰實業銀行、安來銀行、簸上鐵道、松江製紙、安來製鋼所各株式會社取締役に任す、令閨タタ子は島根縣人並河理二郎君の令妹にして、原本藏三郎君の長男虎一郎君を迎へて養子となす

〔現住〕島根縣安來町

〔現住〕東京市赤坂區表町四ノ一〔電話〕青山六五九九

原田要君

從四位勳三等 工學博士

君は長崎縣の人進藤伊織君の三男にして、嘉永四年五月の出生なり、先代謙介君の養子となる、曾て大學南校、開成學校等に學び、尋で米國に留學し又歐洲各國を歴遊す、ペンシルバニヤ鐵道會社技師長、鐵道技監、逓信省鐵道顧問等に歴任し、現に東京銅材株式會社取締役たり喜久代子、松代子、武夫君、信雄君、操子の二男三女あり

〔現住〕東京市牛込區納戸町二五

原口駒太郎君

喜眞株式會社取締役

君は長崎縣人藤瀬圓二君の三男にして、安政五年十二月を以て生る、先代喜六君の養子となり、現は喜眞株式會社取締役に任す、令閨ツタ子は同縣人森文吾君の長女にして、男克己君



橋本梅太郎君

東洋汽船株式會社專務取締役 淺野物産株式會社專務取締役

君は大淺野家の重鎮なり、君資性潤達、氣宇宏大、瑣々たる些事に拘泥せず常に眼光を大局に注ぎ世界的事業を起さんとす其抱負の偉大なる眞に文明的事業家たるに恥ぢずと云ふべし、君は舊福岡藩士橋本往來君の長子にして明治七年十二月を以て福岡市養邊町に生る、天資英明にして夙に俊才の稱あり、福岡中學を卒業して後二十六年に北米に航し、サン、ノーゼに留まり初め同地師範學校教頭ハワレ一氏の私塾に入り、進んで公共中學に入り研鑽大に努め、成績



良策君、憲一君、サイ子、千代尾子、エイ子の諸子あり

〔現住〕長崎縣西彼杵郡喜々津村

原科彌太郎君

高松商業銀行取締役

君は静岡縣人原料彦左衛門君の長男にして、明治二年十二月を以て生る、現に高松商業銀行取締役に任ず、令聞くに子は静岡縣人と田源作君の四女にして彦雄君、英男君、三郎君、四郎君、正巳君、さき子、しのぶ子光子の五男三女あり

〔現住〕静岡縣安倍郡大里村

原瀨半次郎君

實業家

君は福島縣人原瀨萬右衛門君の長男にして、明治九年九月を以て生る、現に株式會社本宮銀行頭取、郡山銀行、本宮電氣各株式會社監査役たり、母堂をマサ子と云ひ、令聞シウ子は同縣人遠藤久治君の六女にして、萬次郎君、カウ子、美代子、健三

君、ツル子、六郎君、トン子、和平君、サダ子、ケイ子、祐治君の諸子を擧ぐ

〔現住〕福島縣本宮町

早川萬一君

實業家

君は山口縣人福原榮太郎君の令弟にして明治八年三月を以て生る、先代智寛君の養子となる同三十四年東北帝國大學農科大學を卒業し、現に宮城縣農工銀行監査役、東洋醸造株式會社取締役、東北印刷、大日本製氷冷蔵各株式會社監査役、早川牧場早川合名會社各代表者たり、養母をちやう子と云ひ、令聞いわを子は岐阜縣人戸田銳之助君の令妹にして、智雄君、あい子の二子あり〔現住〕仙臺市花壇

早川彌三郎君

正五位勳五等 檢事

君は三重縣人北山辰吉君の三男にして、明治二年四月を以て生る、先代ゆう子の入夫となる

明治大學を卒業し、同二十六年辯護士試験に、同二十七年判檢事登用試験に合格す、尙獨逸ミユンヘン、ハイデルベルグ兩大學に學ぶ、歸來安濃津、四日市名古屋各地方裁判所判事、安濃津區裁判所監督判事、臺灣總督府法院判官、覆審法院判事、同檢察官、東京控訴院檢事等に歴任せり、令聞やす子は東京の人川瀬久作君の令妹にして、わか子、壽々夫君、堂々夫君、秀子の諸子あり

〔現住〕東京府下戸塚町八三八

早川昇策君

土木請負業

君は山梨縣の人早川氏の廢家へ入夫す、慶應三年十一月を以て生る、土木請負業を營み、尙永銅金鑛、下野煉瓦各株式會社取締役に任ず、令聞エイ子は神奈川縣人早川利右衛門君の長女にして、政恵子、清子、昇君の諸子あり〔現住〕名古屋市中區正木町三〇六〔電話〕園本局五五八

早川鐵冶君

實業家

君は岡山縣人早川政誼君の二男にして、文久三年五月を以て生る、札幌農學校を卒業し、米國バスターレグ法律學校に學ぶ、交際官試補、農商務大臣秘書官同省參事官、辯理公使、政務局長等に歴任す、曩に日本火災保險、帝國肥料、小樽木材、日本防腐木材、日本硫安肥料、日實石油各株式會社取締役たり、曾て衆議院議員に當選す、現に横濱護謨製造株式會社監査役たり令聞キタ子は北海道の人笠原方策君の令妹にして、鐵男君、富見子、澄子、清子、美奈子、登喜子の諸子あり〔現住〕東京府下澁谷町下澁谷七九七

早川吉次郎君

實業家

君は兵庫縣人本庄伊三郎君の長男にして、慶應三年正月を以て生る、先代宇八郎君の養子な



服部金太郎君

服部時計店主

君が日本一の時計王なるは、多く説明を要せざる處なり、然も君が一貧兒より身を起し、今日我國第一流の大實業家たるに至りし經歷には、波瀾重疊として起伏せるものあらざれど、また何人にも實行し得、模倣し得る手近き幾多の青年への教訓あるなり、君は萬延元年十月九日

を以て京橋區采女町に呱呱の聲を擧ぐ、父君は元、尾張名古屋の人、服部喜三郎君と呼び、維新前江戸に出で古道具屋を營みたりき、君はその唯一の息なりき、君の幼時を語る者、或は君を以て、大道商人の子にして幼年時代君も亦露店番をせし如く傳ふるも、さして貧なりしには非ず、即ち名古屋より上京せし後も借家に住みしことなく、采女町の家も、云ふ迄もなく君の家なりしが、道具商の事故、晝骨董の露店を銀座に出せしは事實なりきと、世上傳ふる如きは、君の成功を更に花やかにせんが爲、殊更に之を誇張せしものなるべし、君の家、固より富裕ならざりしかど、其貧は所謂貧なるものにして、寒さと飢とに泣くが如き、極貧の生活とは異り、先づ平穩に少年時代を送りし、世上一般の例に叛かずと云ひ得るならん、かくて十三の春を迎えし時、商業實習の爲め京橋區八官町なる唐物店辻屋に

丁稚として入り、三年間奉公したり、然して、子供とも思へぬその勤勉さ、その敏捷さ、その不撓の精神は深く主人の愛する所となりしが、一日も忽にせず、極めて忠實に働きたり、辻屋の前に時計店ありて小林といひき、小林時計店は現時も舊の如くあれど、君は實に、此の時計店を日々眺めては其の目を終へしなり、初め、君は何の氣づく所もなかりしが、ある日一店員の販賣の傍ら、破損せし時計の修繕をなすに眼をとめき、一種の感想圖らずも心に浮びき、時計商の如何に重寶なるかを見しなり、即ち時計の販賣をなす一方時計の修繕もし、販賣薄き折は、修繕のみにも生計を維持し得、その資本も此の修繕によつて得らる、誠に好都合にして然も堅實之にしくはなし、資本なき者は技術を得るを以て第一とす、唐物屋の如き、資金なくしては爲し得ぬ商賣よりは時計商をなすに如かずと心に決し

然らば一日も早く時計屋に入らんとて父君に語りき、その承諾を得しより、直に辻屋を退きて日本橋區上横町なる時計商龜田方に入りし時、年齢僅かに十五なりきと、時は明治七年、時計の需要も亦時計商も尙ほ極めて稀な時代にして、時計の修繕を以て、一種の秘傳の存するが如くに誇張し、容易には人に教へざりき、されば時計店に奉公する、又難事にして、當初凡そ二年子供を見る非れば教ふる與はずとの事なりしが、君心に思へらく、尊き二年を盡々く子守のみには終らせじ、その修繕も亦幾分なりとも教ふるならん、已むを得ずとて、子守の傍ら時計の修繕を教はりき、かくて龜田時計店にあること二歳、君の年齢十七の折、店の都合上、主人の世話を以て下谷なる坂田時計店に入る事とはなりぬ、然も此家に来りてより二年、即ち十九歳に至る迄、全力を傾けて時計



の修繕を學びしが、不幸主人の事業に失敗して閉店するに及び漸く貯へし七圓の金をも主人に與へてその店を出でぬ、夫より後は采女町なる父君の家に入りて、習ひ覚えし時計の修繕を初めき、然も夜に入りて、蠅蝨町人形町の邊りなる夜店に行きては壞れたる時計を安價に求めて充々と撓ます、その修繕をなし之を賣つて以て利益を資本の一部として積立てたりき、かくて十九歳より二十二歳に至る四年間、遂に百五十圓、即ち當時にしては少なからざる資金を貯蓄する事を得、明治十四年采女町に少やかなる時計店を開くに至りき、八官町時代の理想は遂に現實となり、今や少なりとも獨立せる店なり、一家の主人なり根の限り、力の限り、天命の許す限り、運命を開拓し、人後に落ちざる商人にならんとの新なる大望に驅られ、前途の光明をば輝かしき眼をもて望み、努力邁進せり、然も時計店とは云へ

店のみにしては顧客少く、然も利益又薄きを以て、商賣の傍ら古道具屋に至りて、破損せし時計を求む、然して之を修繕しては賣り、以て之を利となす、此の如くにして努力精勵すると共に、亦得し所の金は厘毛も疎にせずして之を貯へしかば、開業僅か二年にして、千五百圓の資本を作るに至る、幸運の曙光次第に見ゆと思ひしに、何たら不幸ぞ、明治十六年向側より出火し、君の店も亦類焼の厄に會ひ辛苦積上げし財産も大半烏有に歸せり、されど君は此の大打撃にも挫折せず、僅かに焼残りし六七百圓の品に、いさゝか賣出し信用とを以て、再び木挽町五丁目店を出しぬ、之君の實に二十四歳の折なりき、恰も其頃横濱の居留地にアイザック・コロンと云へる時計輸入商ありき、京濱の時計は盡々信用借を以て此の外商より時計を求め之を小賣店に卸すといふ一種の仲買的商賣をなし居たりき、君

も亦他の同業者と同じくアイザック商館より品物を借りて以て賣捌する事を初めき、決算は所謂三十日明日と云ひて、品物を借りし日より一ヶ月を経た翌日に支拂ふ契約にて、外人も云ふ迄もなく、承諾の上取引せしが我國の商人は例の如く、更に約束を重んぜず、五日より十日、十日より、六十日、百日と延び約束の期日に支拂を爲す者は一人もなかりき、然るに獨り君は當初より一回も約束の期日を違へし事なく、三十日日には必ず支拂ひを勵行せり、即ち期日より一日前に拂ふとも、一日として遅れし事はなかりき、一日商館に支拂を濟せしに、懐には僅に五十銭しかなかりしといふ、されど時計を卸せし方よりは金が來らず、無理に無理を重ねて支拂を確實にし、如何なる事あるも斷然約束の期日を違へぬ信念の下に一日とても怠りし事はなかりき、此に於て商館の主人も實に意外の思なりき、西洋に

ては普通なるも、日本には實に珍らき、堅き男なり、かゝる人ならば成功疑ひなし、何等顧慮する所なく貸す事を得と思ひしかば、次第にその貸借の數量を増したり、然るに百圓が千圓に千圓が二千圓になるも猶ほ期日を違へず支拂ひしかば、外商の信賴益々篤く、遂に五千圓、一萬圓、二萬圓、五萬圓、十萬圓と次第に貸附方激増す、遂には貸すことを己の金庫にでも入るが如くに、無制限になすに至り、借りる事を拒ぶも、却て賣り進んで來るに至り、従つて安價に手に入れる事を得、利益も従つて増すに至る、と同時に、品物の到着せし時は他店に見せざる以前、先づ君の店に知らずといふに至りしかば、君はその特權を利用し、市場皆無なる品に眼をつけ、之が買取をなせしかば利益の割合又従つて多かりき、かくて君の信用はアイザック商會のみに止らず遂には凡ゆる外商が皆競つてその金高を問

はずして貸附けしかば商賣は大をなすのみ、成功の鍵は君の掌中に既に握られたるに等しく、爾來隆々として、君の事業は旭日昇天の勢をもつて發展したりき、木挽町五丁目より銀座に店を出せしは實に四年、即ち明治二十年にして、最初の店は赤瓢簞と保坂食料店の所銀座四丁目二番地なりき、かくて明治二十年頃既に十萬圓資産を作れりと、精工舎を起して柱時計の製造を企てしは此頃なり、其後朝野新聞の跡を得て、今の尾張町の角に移轉せしが明治二十八年にして、二階建を三階に直し、その上に大きな時計臺を建て増しき、之こそ數年前迄の服部時計店にして、今や元を壞して改築中なり、大正十四年五月その七階建の大建築成るの日は銀座街頭更に一偉觀を添へるなるべし、其の後君は又更に商館との取引より一步を進め、明治三十年直輸入を始めしに隆盛、殆ど失敗を見し事なく

極めて地味に、着々として發展しつゝあり、その成功の跡を辿るに、第一には時計店として身を立てし人とて着眼の尋常ならざりし事、第二には約束を違へずして外商の信用を博したる事、第三には自家に於て製造を始め又直輸入の途を開きし事等、他の競争者よりは製造に於ても、直輸入に於ても、常に六七年先に進みて、他人の製造を始めし時には既に基礎が出来、之と競走するに耐え、他が直輸入を始めし時には、製造に依つて、之と對抗し得る、といふが如く、常に數歩を先んず、之君をして今日の大成功を遂げしめし所以なり、かくて君は事業上に成功すると共に、その人物又年と共に向上發展を遂ぐ、之又君の成功を視るもの、見通すべからざる點なり、君は少年時代風に時計商の有利なるを看破したるが如く、幼時頗る聰明なる人にて、漢學を最も好み、假名は四書及び十八史略等も讀み、猶ほ經典

餘師等をも讀みたり、時計屋に奉公に行きし後も、子等の傍ら寸暇を利用し、讀書を事とせしが、職人氣質の主人は之を快とせずして、青表紙を讀むよりは仕事に勵むに如かずと叱咤せられ、仕事の如きは炬燵に居るも猶ほ覺え得と返答し、主人よりは激しき制裁を加へられしと、君は即ち斯くの如き傾向を幼時より有せし人にて、十九歳より二十二歳に至る迄は、時計商の傍ら、京橋區大工町に住める中村直君と云へる漢學者の許に夜學に行きて學べり、斯くの如きが即ち君をして多くの商人の中に交りて信用を重んじ、職人氣質に墮せず、よく文明的商人として今日の如き成功あらしめた所以にして、富むと共によく文明時代の紳商たる面目を備ふるに至りしも亦かゝる理由よりならん、君の今日の資金幾許なりやその正確は固より望み得ざるも興信所の信用録に於ては最も信用厚き一人にして、昨年の所得

税の如きも二十七萬圓、附加税三十三萬圓たり、株式會社服部時計店の資本金壹千萬圓、積立金四百十五萬圓といふに見るも略ぼその成功の程度を窺ひ得るならん猶ほ君の話を聞くに、獨立以後四十歳迄の奮闘は實に非常なるものあり、朝は七時に起き、夜は一時に非れば寢に就かざりきと、東京市内の時計店をば自ら巡つて注文を取れり、斯くしてその成功の基礎は四十歳迄の間に於て築かれたるが、その大成は云ふまでもなく其後なり、君又曰く「凡そ人の富の増すは雪達磨の如く當初は容易に大きくならざるも、一度大きくなりかけんか、非常なる勢を以て殖ゆるものなり」と、君の今日の成功は全く此の雪磨の如き勢を以て、自ら歳々増しつゝあり、斯くの如きにも拘らず、例へ如何なる炎暑の候にても曾て別荘に行きし事なく、暑熱と戦ひて、之を征伏しつゝ、活動を續けらる、蒲柳の質なりと稱せら



れし君は六十四歳の今日益々健康に、何等老衰の跡だになし、事業に成功し、健康は増進し、品格も整ふ、然してその成功の経路には何等の波瀾なく、曲折なく、極めて順調に成功の大道を歩み来りし如くなるも、その成功の裏面には述上の如き苦心と努力の存するを見る、然もその経歴の純潔にして、その生活の清白なる、その操行の謹直なる君の如きは實業界多く見ざる所、君常に人に語つて、曰く「何人も少し成功せし時、氣が弛むを通例とす、此の時こそ最も恐るべき時にて、大成に至ると小成に止るのとは、通列此處を以て岐るゝが如し、常に人は弛みなく働かざるべからず」と君は實に今日迄此の弛みなく働き今も尚ほ弛みなく働きつゝあり猶ほ最近に於る君が状況を述べんに、大正十二年九月一日の震災に依り銀座本店及本所柳島町工場精工舎並に芝愛宕下町私邸は何れも全部灰燼に歸せしが

本店、私邸には一名の負傷者もなく、又本所工場は當日定例の休業日なりしを以て負傷者一名も無かりき、然して當時新聞紙上に傳へられたる評判によれば服部時計店の損害は或ものは壹千萬元以上なりと稱し、或ものは貳千萬元以上と稱せしも、今大正十二年十月三十一日に終る同社第拾壹回決算報告書に依れば、震災に依る損害三百七十七萬五千餘圓と計上しあり、併し之は帳簿上に於ける損害にて同社は極めて堅實の方針を取り毎期不動産、機械、商品等に對し、多大の償却を爲しつゝありたるが爲め、帳簿上の損害額は前記の如くなるも、實際の損害額は一層大なりしものと察せらる、同決算書に依れば、右の震災損害は盡く積立金より補充し、猶ほ三十萬圓を法定積立金とし、九千餘圓を後期へ繰越せり、されば今回の震災も同社の基礎には何等の變化を及ぼさざるものゝ如し、然して焼失せる

銀座本店はその焼跡に、直に半永久的なる二階建建築に着手し約十五萬圓を投じ、工事を督勵し、早くも昨年十一月二十日に竣工し、該假建築に移轉し、卸部、小賣部とも震災以前の規模にて營業を開始せり、而して震災當時同店小賣部にては修繕の爲め預り居たる懐中時計の總數約壹千五百個なりしが、其大多數は再び使用に耐へざる迄に損傷せり、今回の震災に就ては火災保險會社すら今日に至る迄全然支拂を爲さず、其の他一般に質屋の如きに至る迄辨償の責任なしとして悉く被害者の泣寝入りとなりたるが、服部時計店にては、假令法律上辨償の義務なしと雖も一旦其店を信用して預けられし物品を焼失せりとして其儘に爲し置は、徳義上顧客の信任に背くものなりとし、出來得る限り預り品と同一程度の新しき代り品を全部の顧客に提供せり、同店とても自己所有の在倉品は大部分焼失せることゝて

多數の損傷品に對し、一時に代用品を供給すること能はず、海外よりの新着品を待て、配附を了したること、當時新聞紙上に廣告したるが如し、此舉に就ては得意先も大に満足せるものゝ如く、口頭又は書面にて謝意を表し來れるもの枚舉に遑あらず就中被害者の一人なる英國人、某氏の如きは、特に書面を寄せ同店今回の義舉を稱揚し、信實感謝の意を表したりと云ふ、元來本邦時計界に於ける精工舎の位置は獨特のものにして、第一其製品の範圍頗る廣く、其分類は數百種に上ること、第二懐中時計側及機械の多量生産工場として本邦唯一のものなること第三規模の壯大なること新式機械の完備せる點に於て是亦本邦第一のものなること等種々の意味に於て本邦時計界を代表せるものなることは遠く歐米諸國の同業者間にも認むる所なるに今や一朝震災の爲め三十餘年努力の結晶たる同工場を抛棄して顧み

ざるに至らば、本邦産業界の爲め甚だ惜むべき事なるを以て萬難を排しても精工舎を復興せしむべしとは豫て決定されぬたる所なるも、諸建築物及機械等の設備は全部烏有に歸したるを以て、一時職工を解散することに決し、當時貳千餘名の男女工及事務員に對し、三十七萬五千餘圓の手當を附與して全部解雇せり、不時の天災による解散にして、工場財産の盡くが烏有に歸せし場合なるにも拘らず、充分なる手當を支給せられたるを以て、職工等は災厄中に尙喜色あるを得たり、多年通勤せる工場の殘骸を顧み、泣然として辭去せしは當時數多職工の感想なりしと稱せらる、工場の新築及機械の買入等は其後着々として進行し、舊職工中より復歸せるもの己に三百餘名に上り、猶ほ新機械到着の曉は更に多數の職工復歸すべく、斯くして諸般の設備緒に就かば、逸早く來る四五

月頃には再び同社製品を市場に見るべしと云ふ、因に震災善後會の組織せらるゝや、君は多大の同情を表し、率先して金拾萬圓を同會に寄附せりといふ、君は固時計に依りて身を立てたる人故、今日に於ても時計が同店取扱品の主要部を占むるは世上周知のことなるも、然も今日の同店取扱品の範圍は可なり廣汎なるものにして、寶石裝身具、金銀青銅等の美術製作品は云ふ迄もなく、各種眼鏡類、蓄音機測量機械、寫眞機械等の名だる輸入販賣業者たり、又其姉妹會社として、服部貿易株式會社深川鐵工所等世人の熟知せる所たり

(現住)東京市芝區白金三光町四九八 (電話)高輪五三二二

早川久右衛門君

實業家

君は愛知縣人早川休右衛門君の長男にして、明治十五年十一月を以て生る、前名を米治と呼べり、現に額田銀行、岡崎倉庫

各株式會社取締役、岡崎電燈、燧洋電氣、三陽農林各株式會社監査役に任ず、母堂をりん子と云ひ、令閨かく子は三重縣人山中源三郎君の四女にして、康一君、良平君、誠介君、ふじ子の諸子あり

(現住)岡崎市八帖

早速整爾君

正五位勳三等大藏政務次官

君は廣島縣の山中源藏君の二男にして、明治元年十月を以て生る、先代勝三君の養子となり、早稻田大學の出身なり、市會議員、同議長、廣島商業會議所議員、同會長に選ばる、生産調査會委員、官業整理調査會委員、經濟調査會委員、藝備日々新聞社長、山口瓦斯會社長、廣島電氣、日清燐火各株式會社取締役たり、海軍省參政官、鐵道省次官等に歴任し、現に大藏省政務次官たり、代議士を當選する事八回現在に至る曩に衆議院副議長たり、養女をサト子と

云ふ、令閨さだ子は兵庫縣人内海孫太郎君の令妹にして、女チヨノ子孫朝子あり

(現住)東京市牛込區南町二八 (電話)牛込一九一

早瀬太郎三郎君

實業家

君は大阪府の人早瀬太郎三郎君の長男にして、明治十七年三月を以て生る、前名を爲三郎君と云ふ、早稻田大學商科を卒業す、現に帝國油脂、三平、大神中央土地、木津川土地運河、東亞藥業各株式會社取締役、東北興業、九州石炭鑛業株式會社各監査役たり、母堂をツキ子と云ふ、令閨喜美子は兵庫縣人八馬兼介君の令孫にして、正郎君、惠美子の二子あり

(現住)大阪市東區瓦町二ノ二三 (電話)本局四八八

速水太郎君

實業家

君は三重縣人速水謙益君の長男にして、速水次郎君の令兄な



り、分家して一家を創立す、文久二年四月を以て生る、曾て阪鶴鐵道、箕面有馬電氣軌道各株式會社取締役たり、現に播磨電力電氣株式會社社長、阪神急行電鐵、兩備水電各株式會社取締役等に任ず、常太郎君、鐵次君、一郎君、昇子、隆子、幾久子、清子の諸子あり

〔現住〕大阪市東區天滿橋筋二ノ一  
〔電話〕東一五六八



馬場 愿治君

從三位勳二等法學博士辯護士

君は舊會津藩士馬場庄平君の次男にして萬延元年八月二十四日を以て生る、天資穎明にして黒閣の間常に將來の囑目たりしが、夙に學に篤く、勉業を遂

區東片町一二七

林市藏君

從四位勳三等銀行家

君は熊本縣の人林慎藏君の長男にして、明治三年十一月を以て生る、同二十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、警察監獄學校教授兼内務省參事官新潟縣事務官、山口縣知事、大阪府知事等に歴任し、現に日本信託銀行頭取たり、令聞をしげ子と云ひ静岡縣人市河彦三君の令妹にして、太郎君、喜恵子、みゑ子、英三郎君、千恵子、藤郎君、多恵子、達郎君の諸子あり  
〔現住〕大阪市東區北濱二ノ一

林郁彦君

正五位勳四等醫學博士  
長崎醫科大學教授

君は山口縣の人岩木小五郎君の三男にして、明治十二年三月を以て生る、先代留藏君の養子となれり、明治三十八年京都帝國大學醫科大學を卒業し、長崎醫學專門學校教授たり、現に長

下の信用を得たり、曾て君の部下たりしもの皆君の人格を嘆賞し欽望せざるものなし、令聞高き故なきにあらず、夫人を成子といひ、東京府士族長沼ウタ子

の長女にして二男三女あり、誠君むめ子、政子、久米野、坦君あり、長男誠君の妻は東京女學館出身の才媛なり  
〔事務所〕東京市京橋區日吉町七  
〔電話〕銀座二九二  
〔現住〕東京市外濫谷町字麻布廣尾八七  
〔電話〕高輪五一六八

速水 澁君

正五位勳四等第一高等學校教授

君は岡山縣の人、速水洵君の長男にして、明治九年十月を以て生る、同三十三年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、同大學助手、山口高等學校教授等に歴任し、目下第一高等學校教授に任ず、母堂を千代子と云ひ夫人ノブ子は茨城縣人池田謙藏君の長女にして、健一君、松子不二子、美代子、八重子、悠紀子の諸子あり  
〔現住〕東京市本郷

林平造君

實業家

君は奈良縣人林榮次郎君の令甥にして、明治十九年六月を以て生る、先代平造君の養子となれり、前名を徳太郎君と呼び、鑛業を營む、現に奈良縣多額納税者にして、吉野銀行、福宜鑛業、日本藥産、大和電氣各株式會社取締役、大和索道株式會社長に任ず、令聞壽子は兵庫縣人米井藤吉君の長女にして、平太郎君、春子の諸子あり  
〔現住〕奈良縣宇智郡五條町

林仙輔君

實業家

君は山口縣の人、林順清君の二男にして、文久三年八月を以て生る、現に防長農工銀行、宇部銀行、福山銀行、福川銀行、宇部輕便鐵道、宇部電氣各株式會社取締役に任ず、令聞モト子は同縣人村上俊臣君の二女にして、昌亮君、明夫君、シモ子、

林源十郎君

實業家

君は岡山縣の人、林源介君の長男にして、分家せり、慶應元年二月の出生なり、現に撫川銀行監査役、倉敷紡績株式會社取締役、日向土地、高鍋製絲各株式會社監査役たり、令聞を浦子と云ひ、彪太郎君、桂二郎君、平三郎君、欣四郎君、清五郎君、六郎君、あさ子、富貴子の六男二女を生む  
〔現住〕岡山縣倉敷町  
〔電話〕二六

林平四郎君

勳四等 醸造家

君は山口縣の人林太平君の長男にして、安政四年十一月を以て生る、醬油醸造業を營み、屋號を大澤屋と稱す、曩に山口縣會議員、下關市會議員、同參事會員、同商業會議所會頭等に擧げらる、現に、下關商業會議所

林芳太郎君

實業家

君は富山縣の人、林市之助君の長男にして、慶應二年三月を以て生る、現に城端農産、越中炭礦各株式會社監査役、大丸商事株式會社常務取締役、越中織物、共同綿絲、福野製布各株式會社取締役たり、令聞まつ子は同縣人荒井儀兵衛君の三女にして、市郎君、芳正君、芳信君、芳英君、芳雄君の諸令息、たか子、そとわ、まつ枝の諸子あり  
〔現住〕富山縣福野町

林喜兵衛君

電氣機械商

君は愛知縣の人、林新助君の長男にして、明治九年十二月を

林半助君

實業家

君は廣島縣の人徳永雄太郎君の令弟にして、安政六年十月を以て生る、先代半助君の養子となれり、前名を鶴三郎君と呼べり、醬油味噌製造業及貸金業も營む、現に廣島縣多額納税者にして、輦貯蓄銀行各株式會社專務取締役、福山銀行、廣島縣農工銀行各株式會社取締役、輦輕便鐵道株式會社社長に任ず、養母をリン子と云ひ、令聞ツネ子は養父半助君の長女にして一美君、公三郎君、ミツ子、テル子の諸子あり  
〔現住〕廣島縣沼隈郡輦町



以て生る、電氣機器具商を營み、尙太陽化學品製造、誠電社各株式會社社長、日本拓殖興業株式會社常務取締役、燈洋電氣、東京水電、輪島電氣各株式會社取締役等に任ず、令閨貞子は東京の人井ノ口龍太郎君の長女にして、正利君、千鶴子、節子、令子、榮枝子、幹子の諸子あり

〔現住〕名古屋市中區伊勢山町九七  
〔電話〕本局三三一四

### 林森太郎君

從四位勳三等高等學校教授

君は德島縣の人、林熊太郎君の長男にして、明治五年七月を以て生る、同二十九年帝國大學文科大學を卒業し、第三高等學校教授に任ぜらる、從四位勳四等、退役陸軍歩兵少尉高等官二等たり、母堂をツル子と云ひ、令閨チエ子は同縣人澁田德太郎君の長女にして、千別君、千博君、幸枝子の三子あり

〔現住〕京都市上京區吉田町中大路

### 林鶴一君

從四位勳三等學博士  
東北帝國大學教授

君は德島縣の人、林紉君の長男にして、明治六年六月を以て生る、明治三十年帝國大學理科大學數學科を卒業し、京都帝國大學理工科大學教授、東京高等師範學校教授、東北帝國大學理科大學教授等に歴任し、現に東北帝國大學教授同部長、同附屬圖書館長たり、母堂をチヨウ子と云ふ、令閨ナヲ子は德島縣人綿谷富三郎君の二女にして、義則君、信夫君、定明君、五郎君、キン子の諸子あり

〔現住〕仙臺市掃部町

### 林平次郎君

書籍商

君は東京府の人加藤六兵衛君の長男にして、先代なか子の養子となれり、文久元年四月を以て生る、書籍商を營み六合館と稱す、國定教科書共同販賣所常務取締役、大日本圖書株式會社

取締役、日本書籍、大正堂、日本學用品各株式會社監査役たり令閨はな子は埼玉縣人村松重次郎君の令姉にして、平吉君、善七君、治助君の三令息及一女シゲ子あり〔現住〕東京市日本橋區數寄屋町九

### 林寅造君

諸機械輸入商

君は大阪府の人林音吉君の養兄にして、分家す、明治元年九月を以て生る、諸機械工具輸出入業を營む、現に帝國機械製作所取締役、三木工具製作所代表者、林音吉商店代表者たり、令閨との子は大阪府林富次郎君の令妹にして、貞之助君と呼ぶ一子あり〔現住〕東京市日本橋區小傳馬町一四

### 林雅之助君

從四位 伯爵

當家の先代藩君は舊幕臣林洞海君の三男にして、外務省に出仕し、爾來特命全權公使、外務

次官、特命全權大使、外務大臣等に歴任し、日清戰役の功により男爵を、日英、日佛、日露、各協商の功にて特に伯爵を授けて、明治十年四月を以て生る、大正二年襲爵す、現に東洋織布株式會社取締役たり、母堂を操子と云ふ、忠雄君、孝次君、信君、ラク子、壽美子、さみ子の諸子あり〔現住〕神奈川縣三浦郡葉山堀内四八一

### 林毅陸君

正五位勳三等法學博士慶應義塾長

君は佐賀縣の人、中村清七郎君の四男にして、先代瀧郎君の養子となる、明治五年五月を以て生る、慶應義塾を卒業し、外交史研究の爲め歐米に留學す外務省參事官、慶應義塾大學教授、東京商科大学講師等に歴任し、衆議院議員に當選する事二回なり、現に正五位勳三等法學博士、慶應義塾々長たり、母堂をヨネ子と云ひ、夫人サワ子は

香川縣人高橋諄吉君の令妹にして、明治女學院の出身なり、和子と呼ぶ一女あり〔現住〕東京府下澁谷町下澁谷一八四三

### 林千八君

從七位 實業家

君は熊本縣の人、林勝四郎君の令弟にして、安政六年三月を以て生る、東京法學院、東京專修學校等を卒業し、曾て熊本縣宇土郡長たり、現に熊本商業會議所會頭にして、肥後農工銀行、緑川電力、九州製紙、九州電熱工業、日本國債信託、熊本信託各株式會社取締役、帝國セメント、肥後石礦、九州磚茶、九州林業、九州製藥、熊本印刷、八代製紙各株式會社監査役に任ず令閨天津君は同縣人佐藤直君の令姉にして、靖齋君、直君、喬君、繁君の諸令息、文子、忠子、孝子、縁子、静枝子、彌生子の諸子あり

〔現住〕熊本市蔚山町

### 林音吉君

金物機械商

君は大阪府の人林音吉君の令息にして、明治十七年十月を以て生る、前名を壽三と呼べり、曾てクレセントウオークス株式會社取締役たり、現に合名會社林音吉商店代表、帝國機械製作所取締役たり、令閨をひで子と云ひ、壽一君、茂君の二男あり

〔現住〕大阪市北區堂島濱通二ノ三  
〔電話〕北八七四

### 林武平君

實業家

君は岐阜縣人林武平君の長男にして、明治四年七月を以て生る、曾て奔別炭礦株式會社取締役たり、現に若松海運、關反物各株式會社代表、山下鑛業、山下汽船、福島炭礦各株式會社取締役、浦賀船渠株式會社監査役山下合名會社理事、萬世橋アーケード經營主なり、母堂をしな子と云ひ、令閨まさ子は愛媛縣人吉田畝彦君の叔母にして、健

藏君、よね子の二子あり

〔現住〕東京府下巢鴨町上駒込四三〇  
〔電話〕小石川五六三

### 林太郎右衛門君

實業家

君は富山縣の人林太郎左兵衛君の長男にして、嘉永五年九月を以て生る、中越銀行、共通銀行各株式會社監査役、戸出織物立山酒造、中越木材、荏川木材各株式會社監査役に任ず、令閨つね子は同縣人藤井四右衛門君の令妹にして、常信君、はつ子の子、さくゐ、みすゐ、ゆき子の諸子あり

〔現住〕富山縣東礪波郡北般若村

### 林太郎君

正四位勳三等功三級後備陸軍中將

君は愛知縣人林久助君の長男にして、分家せり、萬延元年四月を以て生る、明治十六年陸軍士官學校を卒業し、同二十一年陸軍大學を出ず、同十六年歩兵少尉に任じ、大正二年陸軍中將

に累進す、其間參謀本部出仕、第一軍參謀、軍務局軍事課長、歩兵第三十三旅團長等に歴補す曾て軍事研究のため獨逸に駐在せり、令閨スカ子は德島縣人上田嘉源太君の令姉にして、養子毅木君あり、長女花江子は醫學博士永井潜君に、二女織子は和歌山縣人三毛一夫君に嫁す

〔現住〕名古屋市中區東久屋町二ノ六六

### 林權助君

從二位勳一等男爵 駐英全權大使

君は舊會津藩士林權助君の長男にして、萬延元年三月を以て生る、明治二十年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、公使館一等書記官、通商局長、特命全權公使、特命全權大使（伊太利駐劄）關東長官等に歴任し、現に英國駐劄特命全權大使たり明治四十年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる、令閨コタケ子は青森縣人關場不二彦君の令妹にして、安君、磐人君、不二



雄君、芳子の三男一女あり  
〔現住〕英國日本大使館

林 仲 藏 君

實業家

君は兵庫縣の人林庄平君の五男にして、安政六年九月を以て生る、襁褓商を營む、曾て神戸商業會議所議員たる事二回なり現に日華工業原料株式會社取締役、土地企業株式會社監査役に任ず、令閨八重子は奈良縣の人長井庄治君の長女にして、榮二君、昌平君、輝夫君、五郎君、甲子郎君の諸令息あり  
〔現住〕神戸市須磨町大手谷の口  
〔電話〕三宮一五ノ六

林 竝 木 君

從四位第四高等學校教授

君は高知縣の人林繁君の二男にして、明治六年五月を以て生る、同三十一年東京帝國大學文科大學を卒業し、同三十五年第四高等學校教授に任ぜらる、現に從四位勳四等たり、令閨楠尾

林 雄 助 君

實業家

君は德島縣の人逢坂平次郎君の二男にして、明治八年一月を以て生る、先代角次君の養子となれり、現に帝國油脂株式會社取締役、内外貿易、内外土地各株式會社監査役に任ず、令閨千鶴子は大阪府人金澤定七君の長女にして、英夫君、奈良夫君、長子、喜美子、房子の諸子あり  
〔現住〕兵庫縣魚崎町

林 博 太 郎 君

從三位勳四等伯爵文學博士

當家は舊山口藩士にして、先代友幸君は國事に盡瘁し、晩年樞密顧問官となり、富美宮、泰宮御養育主任として功あり、子爵より伯爵に陞さる、君は友幸君の令孫にして明治七年二月を以て生る、同四十年襲爵す、明治三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し、同三十七年學習院教授に任じ、爾來東京音

子は同縣人西町藤吉君の長女にして、令妹八枝子は宮城縣人土井林吉君に嫁す  
〔現住〕金澤市長町六番町

林 安 宅 君

正五位勳四等 判事

君は山形縣の人、林茂平治君の令孫にして、慶應三年二月を以て生る、明治二十四年東京法學院を卒業し、判檢事試験に及第す、平、福島、木更津、千葉、仙臺、大曲、古川各區裁判所、福島、千葉、仙臺各地方裁判所、宮城、大阪控訴院各判事、大阪區裁判所監督判事等に歷補し、現に大阪控訴院判事、同部長たり、令閨トヨノ子は新潟縣人仁木善平君の令妹にして、健一君、静子、俊子の三子あり  
〔現住〕大阪府東成郡天王寺前二〇三八

林 清 夫 君

實業家

君は長野縣の人、花園覺吉君

の二男にして、明治十七年十二月を以て生る、林利三郎君の養子となり分家せり、現に郡山土地建物株式會社取締役、川前電氣、大日本紡織各株式會社監査役たり、令閨よしを子は養父利三郎君の長女にして、清一君、幾美子、正啓君、きよ子、美枝子の諸子あり  
〔現住〕福島縣郡山町

林 金 四 郎 君

正五位勳四等 鑛務技師

君は山口縣人林洋三君の三男にして、明治七年三月を以て生る、同三十四年東京帝國大學工科大学を卒業し、鑛山監督官、鑛山監督署技師等に歷任し、現に鑛務技師兼鑛務監督官、仙臺鑛務署鑛業課長たり、令閨廉子は岡山縣人仁科里治郎君の二女にして、隆一君、智枝子、敏子の三子あり  
〔現住〕仙臺市空堀町

濱 尾 新 君

正二位勳一等子爵樞密院議長

君は兵庫縣の人濱尾嘉平治君の長男にして、嘉永二年二月を以て生る、明治五年大學南校監事となり、爾來東京開成學校校長、東京大學法學部、理學部、文學部各綜理補、文部大書記官、專門學務局長、東京大學副綜理、美術學校長事務取扱、元老院議官、文部大臣、東京帝國大學總長、樞密院顧問官、東宮太夫、宗秩寮審議官等に歷任し、又貴族院議院に勅任せられ、東宮御學問所副總裁を仰付けらる、曩に英國劍檢大學名譽法學博士、東京帝國大學名譽教授の稱號を受く、現に正二位子爵、樞密院議長たり、夫人さく子は久保田政周君の令姉にして、令嬢淳子あり  
〔現住〕東京市小石川區金富町三三  
〔電話〕小石川二二〇

濱 岡 光 哲 君

正六位勳四等多額納稅者

君は京都の人、濱岡光恒君の長男にして、嘉永六年正月を以て生る、曩に京都商業會議所會頭、京都同志社財團監事、京都實業協會々長等に擧げられ、又三回衆議院議員に選ばる、大正三四年事件の功により勳四等に叙し、瑞寶章を授けられ正六位を賜ふ、現に京都府多額納稅者にして、朝鮮無炭煙礦、京都工商各株式會社取締役に任ず、達郎君、ヒサ子、恭子の三子あり  
〔現住〕京都市上京下長者町室町西入ル  
〔電話〕上二〇五九

濱 川 七 之 助 君

正八位勳八等實業家

君は高知縣の人、濱川久萬之助君の長男にして、萬延元年五月を以て生る、現時土佐捕鯨高知自動車、土佐機業各株式會社々長、東部捕鯨株式會社取締役に任ず、母堂を榮子と云ひ、

樂學校教育學教授、兼任式部官富美宮、泰宮御用掛、東京高等商業學校教授、東京帝國大學文科大學講師、米價調節調査會、經濟調査會等の各委員に歷任す又歐米へ出張を命ぜらる、現に貴族院議員(二回)にして、東京帝國大學教授、臨時財政經濟調査會委員、日本大學講師、道路會議々員、米穀委員等に任ず、母堂をしづ子と云ひ、夫人ふさは子、子、博仲君、友春君、孝子、壽子、妙子、淑子の諸子あり  
〔現住〕東京府下代々幡町幡ヶ谷三九九  
〔電話〕四谷三七〇

林 田 勇 夫 君

酒造業多額納稅者

君は長崎縣人林田雄四郎君の二男にして、明治三年十一月を以て生る、酒造業を營む、長崎縣多額納稅者にして、矢上教育銀行頭取たり、令閨クマ子は長崎縣人永田長作君の長女にして作之進君、三千子、耕助君の諸



令間鶴子は高知縣の人宮地淺吉君の長女にして、令嬢千鶴子、養子友十郎君、同鬼恵子あり、令妹小澄子は高知縣人西尾勝喜君に嫁す

〔現住〕高知縣安藝郡奈半利町

濱田常助君

尾鷲電氣株式會社社長

君は三重縣の人、濱田退助君の長男にして、安政四年十二月を以て生る、現時尾鷲電氣株式會社社長、株式會社尾鷲銀行取締役にして、令間ちよかは、同縣人土井藤十郎君の長女にして、悉太郎君、藤助君、昇平君、かよ子の三男一女あり

〔現住〕三重縣北牟婁郡尾鷲町

濱田幸衛門君

實業家 多額納稅者

君は高知縣の人、濱田幸右衛門君の二男にして、分家せり、文久元年正月を以て生る、現時高知縣多額納稅者にして、土佐貯蓄銀行、高知銀行、南海醸造

君、初枝子、好子の諸子あり

〔現住〕宇治山田市岡本町

濱根岸太郎君

運送業 北海道多額納稅者

君は愛媛縣の人、濱根忠吉君の長男にして、文久元年九月を以て生る、運送業を營む、現に北海道多額納稅者、向島船渠、濱根商店、尾道輕便鐵道、函館造船株式會社取締役にして、令間ミワ子は北海道の人太田きよ子の令姉にして、養子忠勝君あり

〔現住〕函館市辨天町

濱村勘太郎君

銀行家

君は山形縣の人、濱村友吉君の長男にして、安政五年十二月を以て生る、現時株式會社兩羽農工銀行專務取締役に任じ、又山形商業會議所特別議員たり、令間キウ子は同縣人稻村七郎左衛門君の長女なり

〔現住〕山形市横町

土佐汽船、高知汽船各株式會社取締役に任ず、令間を政子と云ひ、同縣人近森彌兵衛君の長女にして、勝一良君、春榮子の二子あり、春榮子に同縣人松本泉扶君を迎へて養子となす

〔現住〕高知市浦戸町

濱田周次郎君

三郡製糸株式會社代表者

君は和歌山縣の人、濱田太郎右衛門君の二男にして、明治十三年三月を以て生る、現時三郡製絲株式會社代表者、扇田炭礦廣業組各株式會社取締役たり、令間のぶ子は同縣人川口熊太郎君の養子にして、曾一郎君、孝藏君、開作君、幾代子、百代子と代子の諸子あり

〔現住〕和歌山縣海草郡内海村

濱田精藏君

實業家

君は鹿兒島縣の人、濱田清四郎君の二男にして分家す、明治十三年十二月を以て生る、同三

十八年慶應義塾大學政治科を卒業し、千代田生命保險相互會社に入り、同社福岡支部長たり、現時西部合同瓦斯、諏訪炭礦、九州化學工業各株式會社取締役にして、令間ハナ子は同縣人田中藤兵衛君の二女にして、銳一君、龍二君の二男あり

〔現住〕福岡市地行七番地

濱田國松君

勳三等衆議院議員

君は三重縣の人、山村榎香君の二男なり、明治元年三月を以て生れ、先代清三郎君の養子となる、三重縣師範學校、東京法學院を卒業し、町會議員、郡會議員、神都瓦斯株式會社取締役となる、衆議院議員に當選する事正に七回なり、嘗て衆議院副議長たり、大正七年朝鮮及支那方面を視察す、現に勳三等衆議院議員にして辯護士を業とす、令間をかね子と云ひ、同縣人山木代造君の二女にして、幹君、耕二君、三雄君、英五君、從六

賀子の諸子あり

〔現住〕大阪市北區曾根崎中一

〔電話〕園本六三〇

濱崎照道君

東印度貿易株式會社社長

君は東京府の人小林照朗君の令弟にして、明治十二年十二月を以て生る、大阪府人濱崎健吉君の養弟となり分家す、京都帝國大學法科大學の出身なり、現時東印度貿易株式會社社長、大阪堂島米穀取引所理事、南洋護謨拓殖、朝日業各株式會社取締役、阪神急行電鐵株式會社監査役に任ず、令間エキ子は養父永三郎君の三女にして、初男君照三君、三郎君、大助君、良一君の諸子あり

〔現住〕大阪市北區堂島船大工町

三〇〔現住〕北六七九

濱本八治郎君

經路商業銀行頭取

君は兵庫縣の人、濱本八治郎君の長男にして、文久二年四月

濱口吉兵衛君

銚子醬油株式會社社長

君は和歌山縣の人、濱口雄岳君の三男にして、分家す、明治元年七月を以て生る、東京帝國大學法科大學を卒業す、曾て日本橋區會議員に選ばれる、又大正九年以來衆議院議員に選ばれる、事二回なり、曩に歐米を漫遊す現時衆議院議員にして、從七位勳六等退役陸軍歩兵中尉なり、銚子醬油株式會社社長、銚子瓦斯、輸出國産、正十醬油各株式會社取締役、豊國銀行、利根織物海陸物産、東京護謨工業、日本化學纖維各株式會社監査役、第一生命保險相互會社監査役等に任ず、令間ハスエは、和歌山縣人田端喜三兵衛君の四女にして、女光子に、東京の人濱口吉右衛門君の令弟麟藏君を迎えて養子となし、令孫俊平君、童子順子あり

〔現住〕東京市日本橋區小網町四ノ七

濱口儀兵衛君

上ヤマサ醬油醸造元

君は和歌山縣の人、濱口儀兵衛君の二男にして、明治七年四月を以て生る、前名を慶次君と云ふ、夙に帝國大學選科に入り醸造化學を専攻す、明治二十五年商業視察の爲歐米を漫遊す、『上ヤマサ』醬油醸造元にして山十醬油株式會社取締役に任ず母堂をみち子と云ふ、令間ユキ子は島根縣人堀藤十郎君の長女にして勉太、修二、陽三、義郎五郎、毅六、慎七郎君の七男、清子、春子、慶子、實子、秋子の五女あり

〔現住〕千葉縣銚子町

〔電話〕銚子二一

濱口吉右衛門君

濱口商事株式會社社長

君は東京府の人濱口吉右衛門君の長男にして、前名を乾太郎と呼び、明治十六年七月の出生なり、鹽醬油、荒物商を營む、



を以て生る、前名を久八郎君と云へり、現時姫路商業銀行頭取山陽窯業株式會社代表、姫路瓦斯、福島紡績各株式會社取締役等に任ず、令聞よね子は兵庫縣人近藤彌藏君の二女にして、八二郎君、さき子、さだ子の三子あり〔現住〕姫路市福中町〔電話〕一三四

迫間房太郎君

勳六等 釜山商業銀行頭取

君は和歌山縣の人、迫間太郎君の叔父にして、分家せり、萬延元年十月を以て生る、曾て貿易商五百井商店釜山支店支配人たり、現時貿易商を營み、尙釜山府協議會會員、株式會社釜山商業銀行頭取、釜山共同倉庫株式會社社長、慶南銀行、釜山水産、朝鮮瓦斯電氣各株式會社取締役、日本布海苔、釜山商工各株式會社相談役等に任ず、一男君、秀雄君、重男君、武雄君、嘉子、智恵子、美重子の四男三女あり

〔現住〕釜山本町二丁目〔電話〕三二五

狭間範藏君

銀行家

君は大分縣の人、狭間長左衛門君の長男にして、嘉永五年八月を以て生る、大分縣農工銀行大分銀行、大分貯金銀行、北部銀行各株式會社取締役等に任ず男千年君は早稻田大學の出身にして、北部銀行取締役たり、同縣人二宮吉之丞君の四女フミ子を娶る、長女キヨ子及二男卓彌君は何れも分家せり

間左右衛門君

味噌醬油醸造業多額納稅者

君は岐阜縣人間左衛門君の長男にして、明治四年二月の出生なり、前名を由吉と呼べり、味噌醬油溜醸造業を營む、曾てミカドマツチ、木曾電氣各株式會社監査役たり、現時岐阜縣多額納稅者にして、朝日木管、福

島電氣、十六銀行各株式會社取締役、愛知信託、木曾興業、武藏製紙、上毛製絲、帝國電化各株式會社監査役等に任ず、母堂をゆう子と云ふ、令聞すゞへは長野縣人吉川芳太郎君の令妹にして、運吉君、相樂君、載一君廣見君、清君、六郎君、守人君喜代子、久代子の諸子あり

萩野彌左衛門君

貿易商 釜山商業銀行頭取

君は福井縣の人、萩野彌左衛門君の長男にして、元治元年三月を以て生る前名を彌一君と云ふ、貿易商を營み、尙株式會社釜山商業銀行頭取、釜山共同倉庫株式會社取締役、田中善株式會社監査役等に任ず、令聞ふじ子は京都府人石崎ちる子の長女にして、養子幾美子あり

萩原繁太郎君

雜穀商東京商業會議所議員

君は愛知縣の人、萩原善之助君の令兄にして、分家せり、明治元年二月を以て生る、乾物雜穀澱粉海産肥料商を營む、現時東京商業會議所議員にして、東京油脂株式會社專務取締役、日本證券、北日本興業各株式會社取締役等に任ず、令聞さね子は埼玉縣人淺田熊藏君の二女にして保太郎君、のぶ子の二子あり

橋詰又三郎君

吉井銀行取締役

君は福岡縣の人橋詰又平君の長男にして、慶應元年十二月を以て生る、現時吉井銀行、筑後軌道、浮羽水力、九州電氣酸素各株式會社取締役に任ず、令聞トモエは、同縣人吉谷五郎雄君の四女にして、一郎君、正勝君孝子、フキ子の諸子あり、長女喜代子は同縣人原慧德君に嫁す

橋本市太郎君

銀行家

君は三重縣の人、橋本市數君の長男にして、慶應三年十二月を以て生る、嘗て山田銀行取締役たり、現時、三重縣農工銀行桑名銀行各株式會社取締役、百五銀行監査役に任ず、母堂をうと子と云ふ、令聞もと子は同縣人柏木雄君の長女にして、一彦君、寛君、はつ子の二男一女あり

橋本良藏君

最上探炭株式會社社長

君は故衆議院議員高橋本吉君の令弟にして入夫となる、明治十六年五月の出生なり、同十八年早稻田大學、米國プリンストン大學を卒業し、マスター、オブ、アーツの學位を受く、後コロンビア大學に學ぶ、歐洲各國を歴遊し、歸朝して、鐵道院研究所囑託たり、現時最上探炭株式會社專務取締役社長、極東自動車工業、山崎汽罐製作所各株式會社社長に任ず、令聞まつ子は宮城縣人橋本信次郎君の令妹にして一子順子あり

橋本辰二郎君

勳三等 貴族院議員

君は大分縣の人、橋本健平君の三男にして、明治元年五月を以て生る、先代雄造君の養子となれり、鐵商を營む、曩に橋本

橋本陽三郎君

銀行家

君は岡山縣の人、武井上昌君の令弟にして、安政六年九月を以て生る、先代恒三郎君の養子となれり、現時尾道商業會議所特別議員、株式會社第六十六銀

橋本太吉君

勳四等 實業家

君は廣島縣の人橋本長三君の長男にして、明治五年六月を以て生る、慶應義塾の出身なり、嘗て尾道市會議員に擧げられ又



衆議院議員たる事四回なり、現時、尾道輕便鐵道株式會社社長、尾道造酢、中外石油アスファルト、日本リンネット、東海化學工業、日本夏帽子、若松炭礦、九州採炭各株式會社取締役、千代田製紙、日高造船所、日本輕銀製造各株式會社監査役に任ず、  
〔現任〕神奈川縣鎌倉町小町

橋本長俊君

從四位勳六等 子爵

當家の先代網常君は伯林大學に學び、明治十八年陸軍々醫總監に進む、其間陸軍々醫本部長、東京養育醫院長、陸軍省醫務局長等に歴補し、貴族院議員に任じ、同二十八年男爵を授けられ、同四十年子爵に陞せらる、君は網常君の三男にして、明治十五年三月を以て生る、同四十二年二月襲爵す、同三十五年陸軍士官學校を卒業し、騎兵中尉に陞る、曾て軍政研究の爲め佛國に

留學す、現時帝國桐華株式會社々長たり、母堂を操子と云ひ、令閨ツム子は東京の人後藤惣作君の二女にして、東京女學館の出身なり、長久君、長正君、長紀君、俊子、節子の諸子あり  
〔現任〕東京府下澁谷町下澁谷廣尾町二九

橋本保平君

安倍銀行專務取締役

君は静岡縣の人、牧田三次郎君の二男にして、安政元年十二月を以て生る、先代忠兵衛君の養子となれり、現時株式會社安倍銀行專務取締役、静岡米穀取引所理事、三十五銀行監査役等に任ず、令閨ゆう子は同縣人小澤久七君の六女にして、忠次郎君、喜一君、コト子、やす子の諸子あり  
〔現任〕静岡市材木町

橋本萬右衛門君

紳商 郡山橋本銀行頭取

君は福島縣の人、橋本清右衛門君の長男にして、慶應二年六

月を以て生る、綿絲商を營む、現時株式會社郡山橋本銀行頭取、郡山電氣、只見川水力電氣、双葉電力、川前電氣、郡山電爐工業、郡山紡績、郡山土地建物、郡山製紙各株式會社々長、郡山銀行、二本松銀行、仙南電氣工業、四倉電氣、東洋曹達各株式會社取締役、本宮肥料株式會社相談役、橋本合名會社代表者、閑成社代表者等に任ず、母堂をハツ子と云ふ、令閨モト子は同縣人永倉左衛門君の長女にして、鐵吉君、清治郎君、貞治君、篤四郎君、菊壽君、捷六郎君、晋七郎君、淳吉の諸令息、ミチ子キヨ子の二女あり  
〔現任〕福島縣郡山町

橋本圭三郎君

正四位勳二等貴族院議員

君は新潟縣の人、橋本彌十郎君の長男にして、慶應元年九月を以て生る、帝國大學法科大學を卒業す、樞密院書記官、法制局參事官、大藏書記官、臨時國

橋本信次郎君

實業家

君は宮城縣の人、橋本忠次郎君の長男にして、明治十二年四月を以て生る、曾て日本電氣製鐵所取締役、金筆製紙株式會社監査役たり、現時、若松炭礦、四本製紙、大洋漁業罐詰、滿蒙貿易各株式會社代表者、肥後酒精、國光印刷、橋本商店、利根川水力、内外興業、極東煉乳、

橋本喜造君

衆議院議員 多額納稅者

君は長崎縣の人、橋本半平君の二男にして、明治五年十月を以て生る、橋本雄造君の養子となり分家せり、長崎外國語學校及商業學校を卒業し、慶應義塾に學びしも半途退學して米國に渡り居る事四年、政治經濟學を學びて歸朝し、船舶業を營む、曩に長崎縣會議員、佐世保市會議員に擧げられ又三回衆議院議員に當選す、現に長崎縣多額納稅者にして、橋本汽船、佐賀紡績各株式會社々長、佐世保商業銀行頭取、日本海運、黒石嶺黒鉛、長崎製鐵、大正黨業、國際汽船各株式會社取締役、橋本商事、日本タイプライター、南進公司、日本出納器、三國紡績各株式會社監査役に任ず、令閨ツル子は長崎縣人森次吉君の長女にして、喜久雄君、喜雄君、キミ子、喜多子、絹子の諸子あり  
〔現任〕佐世保市島瀬町榎山

橋本喜作君

野村商店常務取締役

君は大坂府の人、橋本繁治君の長男にして、明治三年二月を以て生る、現時株式會社野村商店常務取締役、株式會社大阪野村銀行監査役に任ず、母堂を雪子と云ひ、令閨チカ子は奈良縣の人細川大治君の令孫にして、東京府の人江崎清君の三女育子を迎へて養子となせり  
〔現任〕大阪府泉北郡高石町

長谷川直藏君

實業家

君は兵庫縣の人、永野友吉君の令弟にして、先代彌三郎君の養子となれり、明治四年八月を以て生る、曾て日本乾電池製造電氣計器製作所、東京鑛業、日本人造肥料、高砂信託各株式會社重役たり、現時大日本漆株式會社專務取締役、東洋鉛管製造



日本ハイント製造、根室工業、高砂工業、高砂水力電氣各株式會社取締役に任ず、養母をさきと云ふ、令閨多子は東京の人松澤吉五郎君の令妹にして、穠君、美枝子、喜代子、治子、秀子、梅子の諸子あり〔現住〕東京府下品川町北品川御殿山七二七〔電話〕園高輪一五九

長谷川鏡次君

大湊木材株式會社社長

君は岐阜縣の人、長谷川金左衛門君の令弟にして、分家せり明治五年十月を以て生る、同二十七年高等商業學校を卒業し、材木商を營む、明治二十九年東京木材業組合視察員として臺灣へ派遣せらる、株式會社大光商會取締役たり、現時大湊木材株式會社社長、庄川木材、中外興業各株式會社取締役、東京木材倉庫合資會社代表、帝國コルク株式會社監査役に任ず、令閨を慰子と云ひ岐阜縣人奥田友三郎君の令妹にして、寅之助君、甫

子、壽美子、壽惠子の諸子あり

〔現住〕東京市深川區吉永町四

長谷川進次郎君

丸八運輸株式會社社長

君は愛知縣の人、長谷川甚四郎君の二男にして、分家せり、明治六年七月を以て生る、現に愛知縣會市部會副議長、縣參事會員、丸八運輸株式會社社長、多治見鑛泉土地株式會社專務取締役、東洋工業株式會社專務取締役等に任ず、令閨きぬ子は同縣人小原幸右衛門君の長女にして一子一郎君あり

〔現住〕名古屋市中區南伊勢町一ノ八〔電話〕園本局四九八

半田貢君

實業家

君は大分縣の人、半田鐵一郎君の令弟にして、明治十三年四月を以て生る、先代藤市君の養子となれり、明治三十七年東京帝國大學工科大学を卒業し、現時小田原電氣鐵道株式會社專務

取締役に任ず、令閨をノブ子と云ひ福岡縣人宗英順君の養子なり、光子、俊子、クラ子、房子、妙子、幸子の六女あり

〔現住〕神奈川縣小田原町

半田善四郎君

吳服商 多額納税者

君は群馬縣の人、中村源次郎君の二男にして、明治九年十二月を以て生る、先代平次郎君の養子となれり、現時群馬縣多額納税者にして、吳服商及貸金業を營む、尙ほ原市銀行、輕井澤天然水業、兩毛電氣各株式會社取締役に任ず、令閨いち子は養父平次郎君の長女にして、隆一君、榮一君、八郎君、ふじ子、八重子、ふみ子、歌子、静子の諸子あり〔現住〕群馬縣原市町

半澤洵君

正五位勳四等農學博士

君は北海道の人、半澤時中君の長男にして、明治十二年一月を以て生る、同三十四年札幌農

學校を卒業す、同四十四年應用菌學研究の爲め獨逸に留學せり歸朝して、札幌農學校助教、東北帝國大學農科大學助教、同教授等に歴任し、現に北海道帝國大學教授たり、母堂をカヨ子と云ふ、令閨ミカ子は北海道の人平沼興造君の長女にして、道郎君、啓二君、徳子、孝子、慶子の諸子あり

〔現住〕札幌市北六條西十二丁目

伴房次郎君

正五位勳四等小樽高等商業學校校長

君は京都府の人、伴惣十郎君の二男にして分家せり、明治七年九月を以て生る、同三十五年東京帝國大學法科大学を卒業し獨、佛兩國に留學して、民法商法の研究をなす、曩に京都帝國大學法科大学助教たり、現時小樽高等商業學校長に任ず、令閨澄路子は故理學博士久原躬弦君の長女にして、素彦君、季夫君の二女あり

〔現住〕小樽市綠町三丁目

原合名會社

本社 横濱市辨天通三丁目 四十九番地

原合名會社は本邦生絲貿易業界の覇者たり、従つて同社の斯界に於ける聲望亦卓越せり當社は先代善三郎氏の創設に係り、現社長富太郎氏に至りて業務長足の發展を來たし、爾來我生絲貿易業の中心たるの地位を保持し、其信用と基礎の堅實なることと又貿易數量の巨多なることに於て内外に冠絶せり、今蠶絲貿易商發表に係る大正十二年度に於ける賣込數量を見るに取扱入荷數九萬六千八百二十三捆に達し、當年横濱入荷總數五拾三萬四千二百二十一捆半に對する一割八分強の首位を占め、又外人組合の發表に依る同年取扱輸出高二萬六千四百六十五俵に達し同年横濱輸出總計二十五萬七千四百七十八俵に對する一割を占む斯くの如く當社の取扱數量は年々歲々斯界に於ける隨一の多

額を示し、眞に我が生絲貿易界の首班たるの盛名を保持せり、尙當社は佛國里昂並に米國紐育等に支店を設け、外國華客の注文に便し、聲望海内に比類なきものあり、更に其の經營に關る製絲部たる富岡製絲所は我國機械製絲業の始祖にして明治五年官設されたものなるが、當時は佛人技師ブリーナ氏指導監督に係りしなり明治三十年當社之れを購入する處となり由來工場並に施設の完備共に本邦に於ける模範にして群馬縣工場は七百簽あり名古屋工場は六百五十簽あり、其製品亦本邦最優等の品質を以て斯界の標準格たり、當社は斯くの如く我海外貿易の中心たる生絲に關しあらゆる模範的地位に立ち、國家に貢獻する處頗る甚大なるものあり、社長原富太郎氏は性甚だ豁達所謂横濱商人の粹たり故を以て其爲す所悉く生氣あり、一舉手一投足潑刺として快感を覺えしむ、又人を見るの明高く之を用ふる

林幾太郎君

大倉鐵業株式會社常務取締役

君は大分縣の人、舊日出藩士石井堅平君の三男にして出で、同縣杵築町なる林家を繼ぎ其姓を冒す、慶應二年五月十七日の出生なり、少壯實業界に志を立て、笈を負ふて東都に遊び、東京高等商業學校に入り、研鑽怠らず、同二十三年優秀の成績を以て卒業し、鐵道官吏となり、運輸交通の事務に執掌す、二十八年官を辭し、日本海陸保險會社に入り副支配人と爲る、三十二年倫敦代理店監督員となり、

渡英、滞在二年、業務の傍ら海上保險に就き研究を重ね三十四年歸朝す、偶々同社解散の悲運に相逢し、茲に其清算人となり三十七年無事清算を了して有終の聲名を博す、同年日本火災保險會社に聘せられて支配人となり其經營に任ず、三十九年日本酒造火災保險會社を合併せしも紛擾湧起して容易に收拾すべからざりしも、君快刀亂麻を斷つる敏腕を以て能くこの紛糾を解決し、以て今日の盛隆を來せる誠に非凡の才器なりと云ふべし後同社を辭して大倉組保險部に入り、多年の蘊蓄を傾けて、事に當り、同部の聲名をして斯界に高からしむ、君今や大倉鐵業株式會社常務取締役の要職につき、靈腕を揮ひて經營し、社業益々發展す、君人と爲り重厚、眞摯、而かも頗る活腕を有す、寔に之れは同社の珍重たるのみならず、又實に斯界須要の一人物たりと稱するを得べし、夫人タツ子は貞淑の聞え高く、浩次



君、静子、修三君の三子ありて  
圓滿なる家庭をなす

〔現住〕東京市牛込區二十騎町  
〔電話〕牛込二八〇五

### 箱根土地株式會社

本社 東京府豊多摩郡落合町  
電話 牛込三三五五 三三五六  
三七五七 三七五八  
出張所 東京市丸の内 丸ノ内  
ビルディング八階  
電話 牛込四〇六六 六八四三

人口都市集中は現代文化發達の大勢にして停止する所を知らず都會地の漸次虚弱者乃至不健康者を以て充たさるゝは蓋し當然の歸趨たりと云ふべく従つて從來は一部富豪の贅澤物視されたる別荘地生活は心身の健全なる存續に對し必要欠くべからざるものなりと理解せらるゝに到り、海濱、河岸、湖畔、山間と至る所に所謂別荘地の開設を見るに到れり、而して此人口都市集中の趨勢は勢ひ土地の昂騰を招來し、歐米先進國は申すに

及ばず本邦亦既に年々歳々地價の續騰を示しつゝあり、然るに東京市並に其附近に於ける土地價格は現時歐米各國の夫れに比し尙ほ著るしき遜色あるを見れば、物價が世界的均一せられんとする傾向ある今後に於て、其昂騰率の甚大なること疑を容るべきにあらず、此の趨勢を看取したる當社は、先づ土地の賣買は多額の資本を投せざれば確實に其の經營を遂行するを得ずとの理由に依り、且從來惡弊を殘しつゝありし土地會社の弊害を打破し理想的なる土地會社たらんことを期し創立したるなり、同社の經營に關する著名なる敷設として府下下落合村に於ける文化村、輕井澤に於ける別荘地並にグリーンホテル、千ヶ瀧遊園地箱根に於ける別荘地、遊園地温泉の經營旅館テニスコートの經營等あり更に澁谷町道玄坂に於ける興行及商舖の經營は實に最新文化的の施設として普く世間に喧傳せらるゝ、而も主たる土

地賣買の事業たるや是又異常なる好評を博し、事業益々發展隆盛に赴き今や此種土地會社の白眉と稱さるゝに至る、是等文化的建築物、土地經營等の發達に資する當社の施設として湯川發電所、グリーンホテル箱根電氣鐵道、湯ノ花澤温泉部、製氷部林業部、建築部、東京土地部其出張所として千ヶ瀧、箱根、強羅、湯河原、三島等ありて其敷設完備至らざるなく實に天下の偉觀たり、今當社大正十三年上期の業況を見るに、總收入六拾四萬一千三百三十三圓七十一錢此純利益額拾九萬二千五百九十七圓一錢、後期繰越金五萬四千四百九十一圓五十九錢株主配當年六分の好成绩を挙げたり、會社の專務取締役堤康次郎君は精力絶倫霸氣横溢にして加ふるに頭腦明晰、機略縱横の敏腕家として、同社一切の經營を双肩に負ひ事業の發展隆盛に盡力せられ今や同社は斯界唯一の大會社として事業界噴々の盛評あり、同

社現在重役左の如し

- 取締役社長 藤田 謙一
- 專務取締役 堤 康次郎
- 取締役 若尾 璋八
- 取締役 吉村鐵之助
- 監査役 九鬼 紋七
- 監査役 永井 外吉

### 坂東信樹君

實業家

君は徳島縣の人、小松英夫君の令弟にして、香取君の養子となる、明治十七年十二月の出生なり、現に株式會社阿波商業銀行、阿波國共同汽船株式會社、日本製糖各株式會社監査役に任ず令閨アイ子は同縣人若槻元吉君の長女にして長女琴江子あり  
〔現住〕徳島縣牧野郡川内村

## に之部



### 西野惠之助君

株式會社白木屋呉服店取締役  
社長 日本鋼管株式會社監査役

君は元治元年八月を以て京都府相樂郡稻田村に生る藤田藤三郎君の二男にして先代りう子の養子なり明治二十年慶應義塾を卒業後直ちに山陽鐵道株式會社に入社し會社創立時代より盡瘁し多年會社運輸課長として營業部を擔當し、漸次頭角を顯すに到れり現に全國鐵道に勤務しつゝある赤帽の如き實に君の創設に係るものなり、明治三十九年に到り山陽鐵道の國營となるや當時創設中の帝國劇場株式會社

に之部に

に入り專務取締役として演劇の刷新經營の衝に當れり而も君の才腕は各方面に伸展し大正二年東京海上保險株式會社に入りて火災自動車保險を創設したる他巨館海上ビルディングの建設の如き實に君の擔當に係るものなり大正六年十一月、東洋製鐵株式會社の創立總會に於て常務取締役役に推舉され、同十年七月株式會社白木屋呉服店取締役社長次いで八月日本鋼管株式會社取締役役に擧げられ今日に至る、白木屋は二百六十餘年來の老舗にして久しく經營者其人を不得不振の状態にありしが君の同店に入るや之等の宿弊事務の滯滞を一掃し進んで業務の刷新營業の發展を構じ所謂「最も買よき店」の標語を全國に傳へて其の名聲を高からしめ君の快腕を益々發揮したり、亦彼の大震災に際會しては事業復興の迅速なる世の

同業者を呆然たらしめたるが如きは實に君の敏才の然らしめたるものと謂ふべく、同店は更に君の手腕を大いに、期待すべきものありと云ふべきなり、君は會て劇場視察の爲め歐米各國を巡遊し演藝の經營に關し造詣を深らしめ歸朝せし事あり實に君は讀書及觀劇に趣味深きも宜なりと云ふべきなり、家族は令閨キヨ子（松山藩士族高橋正次郎君の二女）長男豊君（慶應義塾在學中）二女惠美子（聖心女學院在學中）長女は大阪府豊能郡豊中村新免北屋敷白木屋呉服店大阪支店長石渡泰三郎君に嫁し姉きみ子は京都府人安本清右衛門君に嫁せり〔現住〕東京市芝區白金三光町四六四〔電話〕高輪五五四六

### 西村和平君

日本電線株式會社代表  
播磨造船所取締役

君は滋賀縣の人にして西村宥清君の長男なり、文久二年七月を以て生る、現時は前記會社の

重役たる他天滿織物、朝日製鐵三國紡績各株式會社取締役、大阪製鐵、別府土地信託各株式會社監査役たり、家族は令閨ちよ子、長男禎介君、同妻正子、二子、長男禎君、同妻康子、三男辨造君、長女しづ子、二女みよ子、三女まさ子、孫太一君、同啓之助君、同康君、同啓子等あり  
〔現住〕大阪府西區新町通四ノ三二〇〔電話〕園新町二九三

### 西村寅三君

從五位勳四等 元稅務監督局  
技師兼醸造試驗場技師

君は東京府士族西村捨三君の長男にして明治五年十一月を以て生る、同三十二年東京帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し愛知縣技師、同縣農事試驗場技師、農商務技師、大藏省稅務監督官、大藏省技師、大藏省臨時建築部技師等に歷任せり、家族は母銀子、夫人千代子、長男有信君あり、妹芳子は岐阜縣士族國枝謹弟博君に同トヨ子東京府人西原新太郎養子貢君に嫁し同秀



留君は沖繩縣士族川口絆藏君の養子となり同幸は其夫多一郎君と共に子女を伴ひ分家せり

〔現住〕東京豊多摩郡澁谷町中澁谷四〇 〔電話〕芝一一九三

### 西高辻信雅君

正四位勳六等男爵  
太宰府神社宮司

當家は土師氏にして遠江介菅原古人の裔高辻信嚴より出づ信嚴太宰府信全の弟子となり其後を享け姓を西高辻と改む、君は信嚴君の三男にして明治十年六月を以て生る、官幣中社太宰府神社宮司たり 〔現住〕福岡縣筑紫郡太宰府町

### 西中弘君

西中商會 輸入商

君は兵庫縣の人にして西中安兵衛君の孫なり明治二十四年十二月を以て生る、西中商會と稱し輸入業を營む、家族は母ひさ子、弟格君、伯父治三郎君、伯父妻さく子、從兄利吉君、從弟仙吉君、從弟照學君、從妹すが子、從妹こすぎ子、從弟源太郎

君、同音吉君、再從妹とし子、同ひさ子、再從弟清君、同利雄君あり、伯父甚吉君、同作藏君は各分家し、從弟繁三君は兵庫縣人福田自照君に再從弟市郎君は大阪府人白榮明吉君に各養子となり、叔母みつは兵庫縣人下良政吉君に嫁せり

### 錦小路頼孝君

子爵 舊公卿家

### 西田博太郎君

工學博士

君は山口縣人士族西田榮太郎君の長男にして、明治十年八月を以て生る、同三十四年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し、同三十六年、英獨國留學織維工業及染色染專攻たり、尙礦印刷局抄紙部員、名古屋高等工業學校教授、日本セルロイド人造絹絲株式會社技師、同社專務取締役、同技師長、工務部長名古屋高等工業學校講師、日本毛絲紡績株式會社技師、桐生染色學校教授等に歷任せり、露國に出張す、令閨ヒサ子は、山口

### 西田庄助君

農服商

君は滋賀縣人西田教寛君の長男にして、安政六年一月を以て生る、曩に郡會議員に擧げらる勳四等にして、近江銀行、近江水力電氣株式會社取締役たり、ケ谷町原宿一七〇

### 二宮孝順君

新潟縣多額納稅者

君は新潟縣士族二宮孝順君の長男にして、明治十九年四月を以て生る、前名を孝徳君と云へり、新潟縣多額納稅者たり、家族は母ミタ子、令妻ハナ子、男孝正君、女順子、弟孝誠君、妹イツ子、妹イト子、妹ラク子、二男孝顯君、二女フミ子、三女トミ子、五女あい子あり、姉ミサヲ

君は同縣人高草太久之助君に嫁せり

### 仁井田益太郎君

法學博士

君は福島縣士族、仁井田穩重君の長男、明治元年十月の生なり、同二十六年帝國大學法科大學を卒業し、民事訴訟法研究の爲獨逸に留學、京都帝國大學教授東京帝國大學教授、同法學部長に歷任せり、家族は母シナ子令閨アイ子、男秀穂君、養弟誠次郎君、妹ナヲ子、二男甲斐君、養甥達君、養弟誠次郎君あり、妹トミ子は福島縣人菅野善三郎君に同トヨ子は、山口縣人田中芳春君に、同ヒロ子は、岡山縣人月本喜多治君に嫁し、同ヨシ子は福島縣人關内市重君の養子となれり

### 二條厚基君

正四位 貴族院議員

當家は藤原鎌足十七世法性寺關白忠通四世の孫東山關白道家の次男福光關白良實の裔なり二條押小路に邸居せしを以て姓を二條と稱す、其れより、二世關白道平の後二十二世を経て基弘に至る、基弘は公爵九條道實同應司信輔、男爵鷹司信照叔父に當れり、明治十七年公爵を授けらる、同二十一年英國に研學し式部御用掛となる、君は基弘卿の二男にして、明治十六年六月の生なり、大正八年襲爵す、大正六年、神奈川縣囑託を命ぜられたり、令妻和子は、石川縣人士族横山章君の長女なり

### 新田長次郎君

新田帶革製造所代表者

君は愛媛縣人新田喜惣次君の二男にして、同仲太郎君の叔父分家なり、安政四年五月の生なり、獨人に就きて洋式製革術を學びたり、明治十八年獨立して工場を創設、東京、名古屋、福岡に出張所を設け、十勝國止若岡に製革工場を設置、米國及佛國世界大博覽會開設に際し、彼地に出張し斯業に關する調査研究を爲す、又製革用タンニンエキスの製法を研究、明治三十五年斯業に貢献する所大なるを以て敕定の綠綬褒章を賜はる、大正四年即位大禮に際し、正六位に

### 新居田直太郎君

棉花 綿糸工業藥品 肥料  
金銀銅鐵石商

君は大阪府人新居田常七君の長男として、明治二年正月を以

留君は沖繩縣士族川口絆藏君の養子となり同幸は其夫多一郎君と共に子女を伴ひ分家せり

〔現住〕東京豊多摩郡澁谷町中澁谷四〇 〔電話〕芝一一九三

### 西高辻信雅君

正四位勳六等男爵  
太宰府神社宮司

當家は土師氏にして遠江介菅原古人の裔高辻信嚴より出づ信嚴太宰府信全の弟子となり其後を享け姓を西高辻と改む、君は信嚴君の三男にして明治十年六月を以て生る、官幣中社太宰府神社宮司たり 〔現住〕福岡縣筑紫郡太宰府町

### 西中弘君

西中商會 輸入商

君は兵庫縣の人にして西中安兵衛君の孫なり明治二十四年十二月を以て生る、西中商會と稱し輸入業を營む、家族は母ひさ子、弟格君、伯父治三郎君、伯父妻さく子、從兄利吉君、從弟仙吉君、從弟照學君、從妹すが子、從妹こすぎ子、從弟源太郎

子是新潟縣人二宮喜作長男貞太郎君に、同イク子は同縣人山崎平三郎長男平造君に、妹ヨシ子は同縣人白勢正衛父友彌君に、同クメ子は東京府人淺田吉太郎長男玄太郎君に、同トキ子は新潟縣人平田豊次郎三男治六君の許に嫁きたり

### 二階堂三郎左衛門君

貴族院議員

君は廣島縣人望月清四郎君の長男にして、慶應二年十二月を以て生る、先代壽光君の養子たり、前名を熊七郎と云へり、多額納稅議員に當選すること二回現に貴族議員たり、家族は、男速雄君、女エイ子、孫哲郎君、孫千代子、養弟助君、養弟妻ヨシ子、孫榮二君、同敏子君、同幸代子、同繁造君、姪寛子、甥謹二君、同晴三君あり、二女ヨシコは廣島縣人海塚新八弟辰治郎君に、三女ミサヲ子は岡山縣士族山田米次郎君に、四女ミツ



叙せらる、夫人ツル子は大阪府人井上儀助君二女にして、其間四男二女あり、次男長三君は、東京士族早田喜稔妹キヌ子を娶り、三男昌次君は、滋賀縣人矢野平四郎四女壽恵子を娶り、四男愛祐君は三重縣人河村清兵衛二女孝子を娶りたり

〔現住〕大阪市南區難波久保吉町一四七 〔電話〕西七四八 〔販賣部用〕西七八六〔庶務課用〕

### 新田忠純君

貴族院議員

當家は源經基五世の孫源義家の裔義純の後なり、其より二十餘世を経て俊純に至る、俊純維新の際王事に盡して功あり、明治十七年男爵を授けらる、君は俊純君の二男、安政三年十一月の生れなり、幼名を誠丸と云へり、明治二十七年に襲爵、佛國に留學せり、明治十五年外務省公信局御用掛を命ぜらる、貴族院議員に當選すること四回、家族は、庶子男義郎君、同義美



### 西川忠亮君

求林堂主 印刷材料貿易商 印刷材料合同聯合會々長

君は兵庫縣人庄貴三君の長男として明治元年五月を以て生る先代スエ子の入夫たり、動六等にして、神戸市會議員、神戸海運組合副組長、日本海員救濟會常議員にして、西川商會と稱し海運業を營めり、家族は、夫人さと子、男健三君、四男駿三君あり、二男航三君は神奈川縣人小野ラク長女コサト子に、二女昌子は東京府人加藤さと子に各養子となれり

工場を巢鴨町に設け特設部(局紙部)を丸ノ内ビル三階に、支店を九州博多市に、代理店を大阪京都、名古屋、仙臺、北海道に設置し益々事業の擴張を計りつゝ、ある傍ら築地活版製造所、東京印刷株式會社、株式會社秀英舎建築工業株式會社、日本建築株式會社其の他二三會社の重役及び築地郵便局長たり、尙前記の外東京印刷材料組合長として、斯界の發達に盡力しつゝあり、家族は夫人みち子との間に忠幸君、里舞子、多美子、多可子、壽美子ありて、一家は頗る春風に滿つ

〔現住〕東京市京橋區築地二ノ六 〔電話〕東京橋三三三

### 西勝男君

子爵

當家は先々代寛二郎君より顯る、寛二郎君は舊鹿兒島藩士にして、陸軍に入り累進して、陸軍大將に陞任す、其の間、歩兵第十一、同第二各旅團長、威海

### 西川莊三君

海運業

君は兵庫縣人庄貴三君の長男として明治元年五月を以て生る先代スエ子の入夫たり、動六等にして、神戸市會議員、神戸海運組合副組長、日本海員救濟會常議員にして、西川商會と稱し海運業を營めり、家族は、夫人さと子、男健三君、四男駿三君あり、二男航三君は神奈川縣人小野ラク長女コサト子に、二女昌子は東京府人加藤さと子に各養子となれり

〔現住〕神戸市京町六九 〔電話〕三宮三三三九三

衛古領軍司令官、第二師團長、滿洲駐屯軍司令官、教育總監等に歴補せり、尙日清戰役の功にて、男爵を授けられ、日露戰役の功により、子爵に陞されたり君は寛二郎君の六男にして、明治二十七年十二月生れ、大正四年先代兄毓男君の後を繼ぎて襲爵す、同三年陸軍士官學校を卒業し、現時近衛歩兵第二聯隊附たり、家族は母ミキ子、兄毓男君、兄鎮男君にして、姉アイ子は豫備陸軍少將佐治喜一君に同ひろ子は兵庫縣人小島長四郎長男長一君に、同ハル子は山梨縣人若尾謹之助君に嫁きたり

〔現住〕東京市麻布區筈町一六二

### 西島順榮君

實業家

君は福井縣人西島信君の三男にして、明治十二年十一月を以て生とす、上毛撚絲、越前石各株式會社の取締役たり、尙福井撚絲染色株式會社の監査役をも兼ぬ、夫人じう子は福井縣人野

村蒼生壽君の三女にして、其間一男三女あり、弟數枝君は其妻なつ子と共に同濟君は其妻いそ子と共に同深君は其妻スヅヲと共に其子女を伴ひて各分家し妹みどり子は福井縣人中島多左衛門君長男保君に嫁きたり

### 西原文平君

實業家

君は福井縣人西原孫太郎君の長男にして、萬延元年二月を以て生る、勤七等にして、地頭方銀行、南遠電氣株式會社監査役にして、村長、郡會議長、縣會議員等に擧げらる、夫人はま子は、静岡縣人増田甚平君の妹にして、其間に、男松平君、其妻いな子、男竹二君、其妻なみ子女さく子、同れつ子、同みつ子あり、二女とも子は静岡縣人植田勘六長男富藏君に嫁し、三女せつ子は同縣人加藤鉦一郎君に嫁し、三男信二君は分家し、弟策重君は其妻かね子と共に東京

府人大霜照留君に、同僚八君は静岡縣人西郷伊平治君に各養子となりたり

〔現住〕静岡縣榛原郡地頭方村

### 西尾忠方君

正五位子爵 元貴族院議員

當家は源經基卿八代義康卿の後裔義氏卿の二男長氏卿の後なり、それより十一世を経て吉次卿に至り、西尾を姓とす、更に六世を経て忠篤卿に至る、君其後を享く、君實は子爵加藤泰秋卿の四男にして、明治十七年五月の生れ、先代忠篤卿の養子たり、明治四十三年襲爵し、大正二年東京帝國大學政治科を卒業し、同七年貴族院議員に擧げられたり、家族は、養母明子、令妻美知子、男忠義君、長女禮子二男忠智君あり〔現住〕東京市麴町區富士見町二ノ三七

### 西尾繁太郎君

實業家

君は鳥取縣士族西尾柳八君の

二男として分家せり、安政五年十二月を生とす、鳥取縣農工銀行頭取、山陽水力電氣、鳥取抄紙各株式會社取締役たり、夫人ちよ子は、同縣人西尾六郎君の三女にして、其間三男一女あり長男英治君は同縣人西尾爲造二女きぬ子を娶り、三男喜太三君は、同縣人士族野坂金治郎三女保子を娶りたり、二男庸三君は、其妻こう子及女と共に分家し、長女なみ子は同縣人西尾爲造長男貞一君の許に嫁きたり

〔現住〕鳥取縣岩美郡美保村

### 西脇濟三郎君

實業家

君は新潟縣人西脇國三郎君の長男として、明治十三年二月を以て生る、初め學習院に學びて後渡英ケンブリッジ大學に學ぶ西脇銀行を創立し、其頭取となり、新潟縣の多額納税者たり、新潟縣農工銀行、小千谷銀行取締役、銀山拓殖、太陽生命保險生氣粘土石炭各株式會社々長、



日本製煉、日本水力電氣各株式會社取締役、日本電氣工業、日本機器製作各株式會社監査役たり、夫人春子は男爵上田宗雄君の妹にして、其間に二男一女あり、弟健治君は妻子を伴ひ分家し、姉トミ子は新潟縣人西脇新次郎君に、同タシ子は東京府士族山口弘一君に、妹アイ子は新潟縣人蕪木八郎右衛門長男淳太郎君に、同エツ子は岡山縣人横部實之助君に嫁す、叔母キシ子は新潟縣人山口越太郎君の母たり、〔現住〕東京市小石川區小日向臺町二ノ一八

西脇吉右衛門君

西脇商店代表者

君は愛知縣人西脇吉右衛門君の長男にして、明治二十一年十一月を以て生る、前名を榮太郎と云へり、現時西脇商店代表者たり、家族は、母てつ子、及令聞しげ子、男秀夫君、弟正一君、長女千代子、同一雄君あり、妹京子は其夫三郎君に從ひて分家

し、弟咲二郎君も亦分家せり

〔現住〕名古屋市西區上園町三ノ二〇

西川巖君

第五高等學校教授

君は石川縣人西川邊君の長男にして、明治十一年の十二月を以て生る、同三十七年、東京帝國大學文科大學にて、英文科を卒業せり、曾て清國廣東省汕頭にて姚門子弟の教育に従事せしことあり、香川縣立高松中學校教諭、大阪市立ブル女學校教頭、第四高等學校教授等に歴任せり、家族としては、母とよ子夫人つる子、男光君、弟他見男君、弟妻増枝、弟爲善君、姪靜子あり、

西川虎吉君

工學博士

君は大阪府の西川新助君の長男なり、明治元年十二月を以て生る、麻生二郎君は、兄なり、

西脇吉久君

熊本通信局工務部長

君は東京人西脇隆吉君の長男にして、明治五年四月を以て生る、同三十七年、東京帝國大學電氣工學部を卒業し、逓信技師郵便電信學校教授、仙臺、京都各郵便局工務課部長、東京中央電話局長、東部逓信局工務部電話課長、九州逓信局工務部長等に歴任せり、夫人ツネ子は同府人川口市太郎君の二女にして、其間に六男二女あり、

〔現住〕熊本縣飽託郡大江村

西神六郎君

男爵 貴族院議員

當家は先代周卿より家名を擧ぐ、周卿は夙に和蘭に留學す、後元老院議員、貴族院議員に列し明治三十年勳功に依り、華族に列し、男爵を授けらる、君實は舊幕臣林洞海六の男、伯爵林雅之助の叔父なり、萬延元年九月を以て生る、海軍中將にして、

從三位勳二等たり、明治十四年

海軍少尉補に任じ、爾來累進して現官に至る、其の間、淺間艦教官、海軍大學校、海軍軍司令部等の副官、海軍大學校學生、龍驤乗組、扶桑、千代田等の砲術長、千代田、吉野、武藏等の諸分隊長、海軍軍司令部、横須賀の海兵團長、佐世保捕獲審檢所評定官、威仁親王附武官、日露戰役大本營附に歴任、歐洲及清國の軍事視察を命ぜらる、又日清の戰役に從軍し、吉野回航委員として、英國に出張を仰付られ、現に有栖川宮宮務監督たり、家族は、養母ます子、令聞きよ子、養子西乙君（男爵赤松範一君弟）あり、〔現住〕東京府下荏原郡入新井町大字新井宿字山王二七二四〔電話〕大森九

西村彦右衛門君

實業家

君は東京府人西村宗元君の長男にして、文久三年十一月を以て生る、京近煉瓦株式會社々長

西彦製瓦株式會社代表者にして

瓦業を營む、夫人は、京都人杉本兵助君の四女にしてツサ子と云ひ其の間に一男二女あり、二女八重子は京都人杉本カメ子に妹リヤツ子は同府人上田シウ子に各養子となり、同ヌイ子は同府人三上吉兵衛三男伊之助君に嫁し、弟孫三郎君は其妻つね子と共に分家せり

〔現住〕京都市下京區大佛南門大和六路東入〔電話〕園下二六二

西野市兵衛君

西野製紙株式會社長

君は福井縣人西野源助君の長男にして、慶應二年三月を以て生る、大和田銀行監査役、西野製紙所株式會社社長たり、曾て合名會社西野商會代表社員たり、夫人いの子は石川縣人倉元常松君の妹にして其間に一男一女あり、長男謙三君は、同縣人素谷喜沙久六女外喜子を娶り、弟藤助君は、福井縣人、大谷孫三郎君妹すき子を娶り、同幸作君は

明治二十七年帝國大學工料大學

應用化學科を卒業し、同三十年アルカリ工業研究の爲、歐米に留學、東京帝國大學工料大學教授九州帝國大學教授に歴任せり令聞セキ子は、富山縣人神通清次郎君の姉にして、其の間に二男一女あり、弟藤吉君は其妻みね子を伴ひて分家せり、

〔現住〕福岡縣福岡市荒戸四番町

西川嘉門君

元代議士

君は千葉縣人黒川菊松君の弟養子たり、明治九年一月を以て生る、元代議士たり、東京市會議員、同市參事會員に歴任、小湊鐵道株式會社取締役たり、牛肉商を營めり、家族には、養父健治君、夫人かつ子、男嘉雄君其妻登美子、女むめ子、養伯父日善君、同日賢君、四男武之助君、五男健三郎君、二女花子、三女壽子、六男勝治君、四女喜久子あり、〔現住〕東京市小石川區表町一八〔電話〕小石川六五九

石川縣人織部次右衛門君の妹行

子を娶りたり

〔現住〕福井縣今立郡岡本村

西山龜太郎君

郡山電機工業株式會社取締役

君は福島縣人西山岩太郎君の長男にして、明治二年七月を以て生る、郡山電氣、大日本紡績川藤電氣、只見川水力電氣、雙桑電氣、各株式會社の取締役たり、郡山製紙、相馬電氣、郡山土地建物各株式會社監査役たり令聞をモト子と呼び、其間に六男一女あり、長男秀助君は、福島縣人鈴木七郎君の三女ハナ子を娶り、長女タニ子は福島縣人伊勢庄司君に嫁せり

〔現住〕福島縣安積郡小野新町

西松喬君

西松商店代表者

君は岐阜縣人西松權兵衛君の長男にして、慶應元年十二月を以て生る、明治十八年慶應義塾別科を卒業し、棉花商を營み、

株式會社西村商店代表社員たり夫人トモマツ子は福岡縣士族諏訪横平君の三女にして、其間一男三女あり

〔現住〕大阪市西區土佐堀裏町八七〔電話〕園土佐堀六八〇

西澤定七君

實業家

君は長野縣人西澤佐太郎君の長男として、嘉永六年五月を以て生る、池田商業銀行、大町商業銀行、北安銀行各株式會社取締役、大町銀行、安曇電氣各株式會社監査役たり、夫人さよ子は、長野縣人、西澤彌惣治君の長女にして其間一男一女あり

〔現住〕長野縣北安曇郡八坂村

西坂熊太郎君

實業家

君は兵庫縣人中野幾之助君の弟として、嘉永四年二月を以て生る、先代三郎進君の跡を相續し、百三十七銀行頭取、篠山輕便鐵道株式會社取締役たり、家



族は夫人カツ子、男源三郎君、其妻倫子、男元二君、其妻みへこ子にして、尙政子、同長治君同春子あり、二女ます子は京都府人士井市兵衛長男博夫君に嫁きたり

〔現住〕兵庫縣多記郡篠山町

### 錦戸右門君

實業家

君は宮城縣士族錦戸景訓君の長男にして、慶應二年十月の生なり、明治二十一年高等工業學校を卒業し、曾て横濱生命保險株式會社總支配人たり、横濱火災海上保險株式會社取締役兼支配人、日本香科、會津興業各株式會社取締役たり、夫人は秋田縣人菅原景忠君の三女にして、秀子と呼び、其間に一男二女あり、長男綱君は、東京府人河田幾太郎君の二女八重子を娶り、長女はなえは、宮城縣人士族石田康君弟、基君に二女きぬ子は同縣人吉井虎之助弟桃鹿呂君に嫁したり

〔現住〕横濱市青木町四六三

### 錦織保親君

子爵

當家は從二位萩原從久卿の後なり、從久卿分家して錦織の家を成し六代を経て榮久卿に至る君は其嗣子たり、舊公卿家にして、君實は侯爵中山輔親卿の弟にして、選定相續なり、明治三十九年四月の生れにして、大正五年襲爵す、家族は、養祖母文子及養妹良子あり〔現住〕東京市赤坂區青山北町一ノ八

### 西島助義君

從二位勳一等 男爵

君は山口縣士族西島治右衛門君の長男にして、弘化四年九月を以て生る、先代光義氏の養子なり、君明治六年陸軍少尉に任じ同三十七年陸軍中將に累進し其間歩兵第十一、同第十四各聯隊長、教導團長、歩兵第二十四同第七各旅團長、臺灣守備混成第三旅團長、第二、第六各師團

### 西澤善七君

木綿卸商

君は東京府人小林八十吉君の長男なり、安政五年七月の生にして、曩に東京市會議員、同府會副議長に選ばれたり、東京銀行監査役、東亞綿絲工業、大正回漕各株式會社取締役、東亞公司、内國通運株式會社監査役たり、家族は養母ナヲ子、令妻ふじ子、男善三郎君、其妻キミ子女すみ子、孫よし子、同善一君なり、二男澁之助君は其妻たま子と共に子女を携へて分家し、長女キヨ子は東京府人辻新兵衛二男千三郎君に嫁きたり

〔現住〕東京市日本橋區新材木町

### 西澤又右衛門君

六十三銀行支配人

君は長野縣人西澤又右衛門君の長男として、嘉永五年十月を以て生る、現時六十三銀行の支配人たり、家族は令妻さし子、

### 西野嘉右衛門君

德島縣多額納稅者

君は德島縣士族西野保太郎君の二男にして、明治十一年一月を以て生る、兄嘉右衛門の死去するに及び、其跡を選定され相續せり、前名を保太郎君と云へり、夙に専修學校理財科を卒業し、阿波商業銀行取締役、阿波國共同汽船、日本製糖、金陵西野商店各株式會社取締役たり、藍玉商をも營む、家族としては令妻マサエ子、男保太郎君、兄妻ユタカ子、二男寛次郎君、男龍三郎君あり〔現住〕東京市京橋區本八丁埋三ノ六

### 西山覺次君

高知縣多額納稅者

君は高知縣人西山富三郎君の長男にして、安政五年五月を以て生る、曾て土佐運輸、神通電力各株式會社の取締役たり、現時、高知商業會議所、土佐電氣鐵道、高知製絲所、南海醸造、高知汽船各株式會社の取締役たり、雜貨商をも營む、令妻よし子は、同縣人南龜太郎君の妹なり、三男あり、長男啓吉君は、同縣人中澤好實君の姉澄子を娶りたり、尙孫榮一君、同吉久君あり

〔現住〕高知縣高知市種崎町

### 西野謙四郎君

實業家

君は德島縣士族西野保太郎君の養子にして、分家せり、嘉永二年の正月を以て生れとす、現時阿波商業銀行、阿波國共同汽船各株式會社取締役、金陵西野商店株式會社監査役たり、家族

長、駐韓軍司令官等歷補す、日露の役に偉勳あり明治四十年特旨を以て華族に列し、男爵を授けられたり、令聞は長野縣人安野重吉君の長女にしてサト子と呼び、其間に一男二女あり

〔現住〕長崎縣長崎市市川町

### 西澤喜太郎君

實業家

君は長野縣士族堀内鍋作君の二男にして、慶應元年十二月を生とす、先代喜太郎君の養子たり、前名を喜三郎君と云へり、曩に長野商業銀行、長野瓦斯株式會社各重役たり、六十三銀行取締役、長野農工銀行監査役、信濃電氣、北信鐵道、長野信託大倉製紙工場、信濃學用品各株式會社取締役、諏訪工業監査役たり、令妻くに子との間に一男四女あり、三女はま子は、日本女子大學校出身にして、法學博士浮和民長男醫學士友樹君の許に嫁したり

〔現住〕長野市櫻枝町

### 西村精一君

從三位勳二等 陸軍中將 貴族院議員

君は山口縣士族西村昌三君の長男にして、安政二年六月を以て生る、明治九年陸軍少尉に任じ同三十九年陸軍中將に昇任せり、其間陸軍士官學校教官、野戰砲兵第一大隊長、野戰砲兵第二聯隊長、舞鶴要塞司令官、東京砲兵工廠提理に歴補せり、曩に日露役の勳功に依り功二級金鷄勳章を賜ふ、明治四十年九月華族に列し、男爵を授けらる、大阪鎮臺砲兵第四大隊、教導團砲兵大隊等の隊附、近衛砲兵大

### 西内貞吉君

理學博士

君は高知縣士族西内英君四男にして、明治十四年十二月を以て生る、同三十九年京都帝國大學理工科大學理學科を卒業し、大學院に入り、數學研究の爲め米國に留學す、京都帝國大學理工科大學講師、京都高等工藝學



校教授、京都帝國大學理科大學助教授、同教授等に歴任す、曩に米國へ出張せり、家族は、父英君、母政子、男光君、兄徳君、兄妻定子、甥勝君、姪八重子、長女惠子等あり、

〔現住〕京都府上京區上塔元

### 二神精一君

實業家

君は愛媛縣人二神種繼君の二男として嘉永三年三月を以て生る、伊豫農業銀行、愛媛貯蓄銀行、各取締役たり、令閨ヒサ子は同縣人宮内小平太君の二女にして、其の間に四男四女あり、長男靜君は、愛媛縣人奥島清三郎君四女ツタエ子を娶り、長女ツル子は分家し、三男俊平君は其妻完子及其子を伴ひて分家し二女ヒデヨ子は、宮城縣人羽田公太郎君に、四女不二枝は靜岡縣人木戸勝隆長男高雄君に嫁し二男豊君は東京府人二神寛治君に四男文太君は分家し、二男豊君各養子となる

〔現住〕愛媛縣温泉郡餘土村

### 二宮榮熊君

實業家

君は鹿兒島縣人士族二宮孝助君の長男にして、明治三年一月を以て生る、東亞織布株式會社專務取締役、東京ワセリン工業株式會社取締役たり、令閨フク子との間に五男二女あり、長女久子は實踐女學校出身、二女凱子も又實踐女學校在學中なり、令閨姉春子は海軍々醫大佐鈴木重治君に嫁し、兄留留國産君は陸軍砲兵中佐たり

〔現住〕東京市赤坂區青山高樹町

### 二宮傳右衛門君

實業家

君は新潟縣人二宮傳右衛門君の長男として、明治四年十一月の生なり、前名直助と云へり、柏崎銀行株式會社專務、相崎米穀取引所株式會社理事、越後鐵道株式會社監査役たり、令閨フネ子は、新潟縣人牧口義矩君の姉

にして其の間四男三女あり、長男信芳君は、新潟縣人島田左武郎君の妹君子を娶り、二男芳正君及弟直次郎君は各分家し、同爲三郎君も亦其妻須磨子並に子を携へて分家せり

〔現住〕新潟縣刈羽郡柏崎町

### 二條正麿君

貴族院議員

當家は二條公爵家の別家にして、其祖藤原鎌足十七世の孫忠道君四世の孫、道家の二男、良實の裔なり、京二條に邸居せしを以て、之を姓とす、夫より二世道平の後二十一世を経て裔敬君に至る、君は齊敬君の四男にして、分家なり、公爵二條厚基君は養叔父にして、男爵四條隆英君は君の兄なり、明治五年一月の生れにして、同三十五年十月男爵を授けらる、學習院高等學科を卒業し、明治三十二年帝國大學法科大學を卒業し、同大學院修了す、明治三十七年司法官試補、東京區裁判所檢事代

理を命せらる、貴族院議員に當選すること三回現に議員たり、伯爵酒井忠克君の令姉鶴子を娶りて其間二男二女あり、二女康子は公爵二條基弘君の養子となりたり〔現住〕東京府下豊多摩郡戸塚町源兵衛五四

### 仁禮景嘉君

子爵

當家は先々代景範より顯はれたり、景範は舊鹿兒島藩士にして維新前米國に航し海軍の兵衛を修め明治五年以降軍籍を海軍に列し、累進して、海軍中將になり、海軍兵學校長、海軍大臣樞密顧問官等に歴任し、明治十七年を以て、子爵を授けられたり、其子海軍少佐景一君其弟景助君相續す、君は先代景助君の長男にして、明治四十四年九月を生とす、大正六年襲爵す、家族は、祖母壽賀子、弟景正君あり、父景助君は母嘉枝子と共に分家し伯爵春子は男爵齋藤實君に嫁せり〔現住〕東京市四谷區仲

町三ノ四齋藤男爵邸内

### 仁木傳吉君

古物商

君は新潟縣人渡邊傳八郎君の二男、萬延元年二月を以て生る、總町銀行の監査役、帝國煉瓦株式會社取締役たり、古物商を營み菊屋と號す、令閨き代子は新潟縣人西脇三右衛門君の三女にして、其間に四男二女あり、長男正之助君は、岐阜の近藤會次郎長女愛子を娶り、三女まさ子は東京府人西脇健治長男庄五郎君に嫁し、四女りき子は同府人小栗清次郎君に嫁したり

〔現住〕東京市麴町區麴町一ノ一

### 仁科梅太郎君

實業家

君は靜岡縣人仁科重吉君の長男、慶應元年四月を以て生る、其盛銀行常務取締役、岡部銀行取締役、木谷川絹紙工業株式會社々長たり、令閨いせ子は、同縣人

大塚小七君の長女にして、長男敏郎君は靜岡縣人庄司松太郎四女壽恵子を娶り、長女れい子は宮城縣人勝尾信彦君に、二女るか子は靜岡縣人村松力太郎長男晋作君に嫁したり、尙弟廣吉君は其妻と共に其子女を伴ひて分家せり

〔現住〕靜岡縣志太郡岡部町

### 新田留次郎君

從四位勳三等

君は石川縣人新田市太郎君の弟にして、分家せり、明治六年二月の生れなり、明治三十年帝國大學工科大学土木科を卒業し曩に朝鮮總督府鐵道部工務部長たり、現時朝鮮總督府工務課の技師たり、令閨は高田隆七君の二女にして時子と呼び三男四女あり〔現住〕京城西小門町官舎

### 新渡戸稻造君

法農學博士 帝國大學教授

君は東京府士族太田時敏君の養嗣子にして、文久二年八月を

### 新田仲太郎君

愛媛縣多額納稅者

君は愛媛縣人新田利平君の長

以て、巖手縣に生れ、先代七郎君の養子となる、明治十四年札幌農學校を卒業し、米國ジョンズ、ホプキンス大學を卒業し、爾來札幌農學校助教授、同教授北海道廳技師、臺灣總督府技師京都帝國大學法科大學教授、第一高等學校校長、東京帝國大學農科大學教授、東京帝國大學法科大學教授等に歴任せり、曩に獨逸に留學し、ボン、ハレベルリン大學に於て、農政農業經濟學教授、亦日本交換教授として、米國ブラオン大學其他五大學校にて講演同大學より法學大博士の學位を贈らる、明治三十二年農學博士、同三十九年法學博士の學位を授けらる、令閨萬里子は米國人ジョセフ、エルキントン君の長女にして、養子孝夫君養子こと子あり〔現住〕東京市小石川區小日向臺町一ノ七五

### 新元鹿之助君

〔現住〕愛媛縣温泉郡味生村

君は鹿兒島縣人福崎市兵衛君の二男、明治三年八月の生れにして、先代正兵衛君の養子たり明治二十八年帝國大學工科大学土木工學科を卒業し、鐵道作業局技師、靜岡運輸事務所長、臺灣總督府鐵道部技師、同部長、等に歴任す、令閨シン子は、同縣人重野安居君の三女にして、其間二男四女あり、長男八通雄君は、東京府立第一中學校出身



女歌子は臺灣總督府高等女學校出身、同春子も同學校を卒業し同和子は同校在學中にして、長女シヅ子は滋賀縣人原田金之祐次男憲次郎君に嫁し、同則子は新潟縣人日川玖城君に嫁きたり

### 新里康昌君

沖繩縣多額納稅者

君は沖繩縣人新里蒲君の長男にして、安政二年五月を以て生る、沖繩縣多額納稅者たり、家族は、令閨ヲト子、男康眞君、其妻カメ子、亡二男妻ツル子、孫康保君、孫妻カミ子、孫康亮君、孫康毅君、同康和君、曾孫雄君あり、長女カメ子は分家し、二女マカト子は、同縣人城間宏眞長男宏廣君に嫁したり

〔現住〕沖繩縣那覇松山町

### 新島善直君

北海道帝大農學部教授

君は東京府士族新島善之君の長男にして、明治四年七月の生

れなり、明治二十九年帝國大學農科大學林學科を卒業し、同三十八年造林學及保護林學を研究の爲に、獨逸に留學す、札幌農學校教授、東北帝國大學農科大學教授、北海道廳技師に歷任せり、令閨榮子は、獨逸國人フラスンツエーメル君の長女にして、其間に、二男一女あり、弟良一君は分家せり

### 西原直方君

實業家

君は高知縣士族廣川淳吉君の弟にして養子たり、明治十六年十一月を以て生る、土佐製肥、關西起業、土佐宮崎製紙各株式會社の取締役、土佐密林株式會社の監査役たり、家族は、養父晴廉君、夫人松以子、長男馨君、二男徹君あり、養妹政以子は、北海道士族吉本其枝長男且龍君に嫁きたり

〔現住〕高知市大川筋

### 西原爲五郎君

元 第十六師團參謀長

君は愛媛縣人西原幾太郎君の弟にして、分家せり、明治三年八月の生、同二十七年陸軍士官學校、次で陸軍大學校を卒業し

### 西原茂太郎君

對島警備隊司令官

君は福岡縣士族西原廉一郎君の長男にして明治五年を以て生れたり、同二十六年陸軍士官學校を卒業し、同二十七年陸軍工兵少尉に任じ、大正八年陸軍少將に累進し、其間陸軍砲工學校教官、工兵第七同十四同十八各大隊長、陸軍士官學校教官、陸軍電信隊長、兼陸軍技術審査部議員に歷補せり、夫人道子は東京府人藤堂景泰君の三女にして三男三女あり、長女秀子は長野

縣人金井滿君に嫁し、弟廉之助君は其妻きみ子と共に分家をなせり

### 西堀清兵衛君

實業家

君は滋賀縣人西堀清兵衛君の養子にして、明治二年十二月の生なり、前名を龜吉と云へり、現時關西倉庫、峰山組運送、各株式會社取締役、東洋紡績、家滿仁織物各株式會社監査役たり家族は、養母よね子、令閨テツ子、男清一郎君、同妻つな子、三男榮君あり、長女たつ子は夫里三郎君に従ひ分家し、二女か代子は滋賀縣人西村與助君に嫁きたり

### 西洞院信意君

當家は恒武天皇の末大納言高棟の後なり、後十七世にして、行事に至り西洞院と稱す、夫れより十二世を経て時名卿に至る

時名卿勤王の志深く同志の諸公卿と謀る所あり、事破れて落飾して風月と號す其子信愛卿後を受け明治十七年子爵を授けらる

君は信愛卿の長男にして、明治七年の八月を以て生る、三十七年襲爵す、弟範善君、同愛雄君同時雄君、姉里子、妹知秀子、妹朝子あり

〔現住〕京都府葛野郡朱雀野村聚樂廻豐樂西町

### 西尾兵一郎君

實業家

君は大阪府人西尾直彦君の長男にして安政四年正月を以て生る、現時大阪農工銀行株式會社取締役なり、夫人テツ子は奈良縣人谷甚四郎君の長女にして、長男義郎君に、大阪府人辻林包藏君の長女位子を娶り、男卓彌君、同六郎君、同至知郎君、孫兵衛君、同民子、同春子あり、二女義子は大阪府人植木成吉君に、三女泰子は奈良縣人吉川眞四郎君に、四女房子は、同縣人藥師院保實君に、妹ミドリ子は

大阪府人谷要君の許に嫁せり

〔現住〕大阪府南河内郡國分村

### 西尾小左衛門君

實業家

君は奈良縣人西尾孝平君の長男として、安政二年五月を以て生る、前名を保太郎君と云へり曩に御所銀行の頭取たり、家族は妻クメ子、男孝成君、男四郎君女タカ子、男五郎君あり、長男孝治君、弟小五郎君は分家し、三男孝三君は奈良縣人平井コウ子方に、弟小太郎君は大阪府人辻野傳藏君に各養子となりたり尙長女奈美子は奈良縣人山岡甚太郎二男武雄君に嫁せり

〔現住〕奈良縣南葛城郡葛村

### 西脇健治君

毛織物商

君は新潟縣人西脇半七君の七男にして、分家なり、安政三年五月の生れにして、毛織物商を營む、家族は、夫人クマ子、男庄五郎君、其妻まさ子、女とら子

女つる子、三男喜久三君、孫鐵雄君あり、二女ヨシ子は新潟縣人小林甚太郎君に、三女たつ子は東京府人今井梅十郎君に、四女てる子は同府人、岡山鏡治郎君に、六女いく子は、同府人池谷儀兵衛二男泰二君に嫁し、二男健次郎君は分家せり

〔現住〕東京市麴町區麴町六ノ一五

### 西川龍次君

煙草商

君は神奈川縣人鷲巢德平君の二男、安政六年五月生なり、先代九郎左衛門の養子となり、代々煙草商を營む、西川工場の代表者たり、妻フク子は神奈川縣人内田善六君の長女にして、其間に、五男一女あり、長男欣次郎君は、福島縣人、高野政次郎君の姉ムメ子を娶り、二男篤次郎君は、東京人、小島増吉君四女トヨ子を娶りたり

〔現住〕東京市淺草區八幡町一二



### 西川武十郎君

埼玉縣多額納稅者

君は埼玉縣人西川武左衛門君の長男、萬延元年七月を以て生る肥料商を營む、其妻ひさ子は埼玉縣人内山温載君の長女にして其間二男あり、長男武助君は埼玉縣人岩崎半右衛門の妹ト子と娶り、二男武三郎君は、同縣人新井泰助君長女久壽子と娶りたり、尙孫てい子、同春太郎君、同武吉郎君、同とよ子、同謙三郎君あり、弟利三郎君は其妻たき子を伴ひて分家せり

〔現住〕埼玉縣北足立郡志木町

### 西川甚五郎君

勳四等 貴族院議員

君は滋賀縣の人西川重威君の長男にして、明治三年六月を以て生る、蚊張、疊表は豊臣時代の創業に係り、又東京市日本橋區通の支店は二百餘年來の老舗なり、現時全國を通じ八箇所の支店を有す、貴族院議員に當選

せらる、事二回、尙慈善及公共團體に盡す所尠からず、大正六年大演習に際し、實業功績者として大本營に召され特に御下問を賜はる、明治三十六年以降滋賀縣會議員に當選し、又第五回内國勸業博覽會、韓國京城博覽會三重、愛知二縣開催關西府縣聯合共進會、滋賀縣原蠶種製造に共用する種繭、八幡稅務署相續稅及營業稅等の審査員、大日本蠶絲會支會副會頭、評議員、日本大博覽會滋賀縣商議員等に擧げられたり、近江屋と號し、蚊張、疊表、花産、緑布、薄團商を以て名あり、夫人ため子との間に五男二女あり、長男富太郎君は分家し、二女しげ子は大阪府八吉田一穀君に嫁きたり

〔現住〕滋賀縣蒲生郡八幡町  
〔電話〕園五〇

### 西村與兵衛君

實業家

君は滋賀縣人西村與兵衛君の二男にして、明治十七年一月の生なり、前名を淺治郎と呼びたり、近與と稱し洋織物商を營む西村商事代表者、東京モスリン紡織、日本綿絲布、湖南鐵道、東洋紡績、北日本産業、日本絹織、大和工業各株式會社の取締役、歐亞通商、永田メリヤス機械各株式會社監査役、西村モスリンキヤリコ商店の各代表者たり、家族は、母つる子、夫人み

### 西村庄次郎君

格屋旅館主

〔現住〕東京市牛込區早稻田馬場下町

君は京都府人西村庄五郎君の長男として、文久元年二月を以て生る、格屋と號し、代々旅館業を營む、特許自動運輸株式會社監査役たり、家族は男次郎君養子善三郎君、女ふみ子、庶子定雄君、同秀雄君、同女百々子同男信夫君、同女八重子、孫源一君、同榮子、同和子あり、庶子榮太郎君は分家し、姉たね子も又女を伴ひ分家し、庶子政男君は、京都府人清水平治郎長男熊太郎君に、同女春枝子は同府人島田芳太郎君に各養子となり、妹すゑ子は大阪府人西尾善兵衛君の許に嫁せり、〔現住〕京都上京區駄屋町御池南入

### 西村保吉君

朝鮮總督府殖産局長

君は愛媛縣士族西村景信君の長男にして、慶應元年六月を以て生る、明治三十四年文官高等試驗合格、宮城縣事務官、山口縣參事官、同事務官、長野縣北海道廳各事務官、廣島、愛知各縣内務部長、島根、埼玉各縣知事等に歴任し現職に至る、家族は、令妻タメ子、男俊吉君、女喜美子にして、長女惠美子は北海道士族高橋榮治君に二女香譽子は京都人法學士、澤田實君に嫁し、弟春吉君は分家せり

〔現住〕京城大和町三丁目官舎

### 西ヶ谷可吉君

江尻貯蓄銀行專務取締役

君は静岡縣の人にして西ヶ谷喜之衛門君の長男なり、安政五年十一月を以て生る、現時は江尻貯蓄銀行專務取締役なり、家族は母きた子、令聞きよ子、長男潔君、令妻阿茶子、孫たち子

### 西村勸兵衛君

實業家

君は兵庫縣西村勸兵衛君の長男、弘化三年二月を以て生る、

孫瑞枝君、徹君、同堂君、同さち子あり、長女みよ子は静岡縣人曾田彦次郎君に、二女きしは同龜山彌右衛門君に、四女かよ子は同松下孫三郎養子孝平君に嫁りつ子は同小野田周二郎君に嫁し、二男正己君は其妻スカ及子を伴ひ弟保次郎君に同戸作君は各分家し、同元次郎君は同縣人黒田定吉君の死跡相續人となり同海作君は妻つ及び子を携へ同縣人江川幸次郎家を相續し三君一助君は同小島英君に、四男自助君は神奈川縣人福井民治郎長女てる子に、五男信吾君は同秋野三千雄姉綾子に、各婚養子となれり

〔現住〕静岡縣庵原郡庵原村

### 西谷金藏君

勳四等 鳥取縣農工銀行 協立銀行各取締役

君は鳥取縣の人にして安政五年八月を以て生る、西谷萬市君の長男なり、明治三十一年以來衆議院議員に當選すること七回

なり現時は前記各會社重役たる他倉岩電氣、東洋生命保險株式會社各取締役たり、家族は令聞たき子、長男繁藏君、二男定晴君、同妻龜野子、孫富美惠子、同一郎君、同静子、同勝安君あり、長女よしの子は鳥取縣人岸田繁三郎二男恒藏君に嫁し、二女かつの子は同縣人市場まんに弟熊吉君は同松尾うたに各養子となれり

〔現住〕鳥取縣東伯郡北谷村

### 西川幸兵衛君

旭織工所豊田貿易各株式會社 取締役 吳服商

君は京都府の人にして西川幸兵衛君の長男なり、明治十四年八月を以て生る、前名を幸三郎と稱せり曾て西川合名會社代表社員たり、現時は前記各會社重役たり、家族は母たね子、妻尙子、長男幸太郎君、女多満子、二女満子、二男知男君、三女幸子、弟幸藏君あり、妹きの子は京都府人竹上藤兵衛長男藤五郎

君に嫁せり

〔現住〕京都市下京區烏丸通り蛸薬師上ル  
〔電話〕園中一四〇

### 西川庄六君

勳八等 滋賀縣多額納稅者 近江帆布株式會社監査役

君は江洲八幡の人にして十五世西川庄六君長男なり、明治五年六月を以て生る、前名を宗治郎と稱せり世々綿花商を營み三百年來の老舗なり、曾て東京紡績株式會社、愛媛縣紡績株式會社、近江帆布株式會社、八幡製紙株式會社の重役にして別に日本絹織株式會社の取締役なり、家族は令聞照子のみ長男榮一郎君は滋賀縣人西川利右衛門君の指定相續人となれり、〔現住〕滋賀縣蒲生郡八幡町  
〔電話〕六

### 西四辻公堯君

正五位勳四等子爵陸軍歩兵 中佐元歩兵第七十六聯隊長

當家は内大臣藤原鎌足十一代の孫太政大臣公季より六代權中



納言通季の後裔正二位權大納言四世公享の男從四位上左兵衛公碩の後なり公碩別に一家を興し西四辻と稱す後二代を経て正三位公業に至り明治十七年子爵を授けらる先代孝照其後を受く、君は實に子爵小倉英季君の弟なり、明治十一年八月を以て生る先代孝照の養子にして、明治四十二年襲爵を仰付らる、同十三年歩兵少尉に任じ大正五年少佐に累進し本郷聯隊區司令部員歩兵第七十六聯隊大隊長、同聯隊長に歴補せり、家族は夫人數子、長男武君、長女壽榮子、同二女彌榮子、二男公順君、三男公敬君、四男公祐君あり

〔現住〕豊橋市東町

### 西田利七君

實業家

君は滋賀縣の人にして西田才助君の二男なり、安政元年十一月を以て生る、曾て株式會社近江米穀取引所理事たりし事あり現時は近江貯蓄銀行監査役、大

津瓦斯、吉野商店各株式會社の取締役なり、家族は令閨小梅子長男善之助君、同妻あさの子、男利三郎君、三男利喜三君、孫喜一君、同喜雄君、同登美子、同喜久子、同多賀子あり、長女タケ子は滋賀縣人山岡いくの養子となり、三女リキ子は兵庫縣人吉田金之助君に嫁せり

〔現住〕大津市堅田町

### 西田由君

實業家

君は京都府の人にして高木文右衛門君の五男にして、嘉永六年十月を以て生る、先代藤次の養子なり、文部省師範學校卒業後、京都府立師範學校、同高等女學校、第三高等學校、京都帝國大學に教鞭を執り又島根縣師範學校長たりしことあり、後大同生命保險株式會社を創立し專務取締役なしが、現時は廣益殖産株式會社取締役、大同生命保險株式會社相談役なり、家族は長男成秋君、同妻久榮子、次男

忠介君、同妻ミヨ子、三男良介君、孫明君あり、長女滿佐子は醫學博士伊藤秀君に、二女豊子は東京府士族榎木寛則君の次男工學士寛二君に嫁せり

〔現住〕京都府船井郡園部村

### 西田爲次郎君

實業家

君は富山縣人西田吉四郎君の二男にして、明治九年十一月を以て生る、現時富山魚市株式會社取締役たり、家族は令閨ツヤ子、養子翁之助君、養子ハル子孫一貞君、同良作君あり、長女ヒロ子は富山縣人藤野五三郎君の養子となり、弟義之助は妻ハル子と伴ひて分家し、孫喜美子は其死跡を相續せり

〔現住〕富山市室屋町

### 西田英太郎君

實業家

君は奈良縣士族西田信貴君の長男にして、慶應三年十月を以て生る、現新十津川陶器合資會

社の代表社員たり、家族は令閨かめ子、長男信春君、女春子、四女静子あり、長女あい子は北海道人乾富惠君に、妹スミ子は奈良縣士族津本與市長男増太郎君に、同トミエは同津本磯光君に嫁せり

〔現住〕北海道樺戸郡新十津川村

### 西田正俊君

實業家

君は廣島縣の人にして西田代吉君の長男なり、後分家して一家をなす、慶應三年七月を以て生る、大津裁判所に奉職し、後吳服貿易商を開業し、又前田熊太郎君の經營に係る金庫衛製造業を繼承し、大阪府度量衡同業組合長に推され、先に大阪府會議員たりしことあり、現時朝日製鐵、別府土地信託、大阪土地建物、大阪港土地、大阪製鐵、朝日黨業の各株式會社の取締役たり、家族は令閨きよ子及養子俊一君あり

〔現住〕大阪市西區本田町一ノ六五

### 新野榮太郎君

實業家

君は愛媛縣の人にして新野源次郎君の長男なり、明治六年三月を以て生れ、同二十六年私立早稻田大學を卒業せり、明治四十二年垣生村長に擧げらる、現時は今出銀行株式會社專務取締役、伊豫勝山銀行取締役、松山軌道伊豫製氷各株式會社取締役南海新聞社監査役たり、家族は父源次郎君妻リン子、男一君、弟毅君弟妻淑子、二男源孝君、二女貴美枝子、三女三千代子、三男源進郎君、四女壽賀子、五女正子あり、妹イワ子は愛媛縣人高須延夫君に、同ミシ子は同縣人栗原清次長男長十郎君に嫁せり

〔現住〕愛媛縣温泉郡垣生村

### 新妻胤嘉君

實業家

君は宮城縣士族新妻嘉明君の長男にして、慶應三年十二月を以て生る、現時は東北實業銀行

に之部

東北商業貯金銀行各監査役、東北不動産取締役、東北館監査役たり、家族は母ちよの子、妻はる子、長男太郎君、二男二郎君三男、三雄君、四男四郎君、五男大五君、長女經子、二女嘉子三女勝子あり、弟文吾君及同三郎君は分家せり

〔現住〕仙臺市東四番町

### 新山花輔君

正四位勳三等下總御料牧場長

君は山口縣士族白根正一君の三男にして、安政三年五月を以て生る、先代春太郎君の養子なり、明治十三年駒場農學校を卒業し、宮内省主馬寮五等技師新冠御料牧場長、農商務技師牧馬監督官、馬政官、馬政局技師等に歴任せり、曩に歐米諸國へ派遣せらるること數回に及べり、家族は養母ウタ子、夫人フサ子男春雄君、養子敏介君、女フミ子、女禎子、孫良太郎君、同和子、同英二郎君、同智重子、同雅三君あり、二女樂子は山口

縣人古谷茂助長男法學士二衛君に、三女花子は同士族工學士小川敬二郎君に、四女榮子は同藤井與一郎長男直一君に嫁せり

〔現住〕東京府下荏原郡目黒村上目黒字柳五一四

〔電話〕一九九四

### 新島宗三郎君

實業家

君は千葉縣の人にして安田權右衛門君の二男なり、安政六年八月を以て生る、先代安次郎君の養子なり、世々薪炭商を營み中村屋と稱せり、深川銀行監査役たり、家族は養母つる子、妻津奈子、男惣治郎君、女しま子養弟鍋三郎君、甥一郎君、同捷二君、姪ふさ子あり、養妹てる子は千葉縣人鈴木仙藏君に嫁し庶子男昇君は分家せり

〔現住〕東京市深川區東町二

### 西尾勘兵衛君

實業家

君は鳥取縣士族西尾勘胤君の

二男にして、明治二年二月を以て生る、前名を益藏君と稱せり現時鳥取農工銀行、大正鳥取銀行、將惠銀行各取締役なり、家族は令閨こと子、男善孝君、同妻晴枝子、女喜久子、女育子、二男孝敏君、四女慰子、三男敏博君、孫美淳君あり、妻ちよ子は夫甚作君と共に分家し、弟光胤君も亦分家し、妻ちよ子は鳥取縣人勝山鐵藏君に嫁し、姪貞子は同縣人渡邊菊太郎君の養子となれり

〔現住〕鳥取縣岩美郡倉田村

### 西岡竹藏君

實業家

君は兵庫縣の人にして西岡安左衛門君の長男なり、明治六年五月を以て生る、現時繁盛銀行頭取、丸西株式會社取締役たり、家族は令閨やな子、男安憲君、同トク子、男新君、弟宗一君、弟妻みつ子、孫チエノ子、姪正代君、同秋江あり、弟早太郎君は妻菊野子及び子女を共に分家



し、妹いと子は兵庫縣人千葉仲太郎君に、同せん子は同縣人山本政太郎君の養子増吉君に嫁せり

西岡良助君

實業家

君は和歌山縣の人にして西岡良助君の長男なり、明治十二年十一月を以て生る、現時は關西石材株式會社取締役たり、家族は母むめ子、妻千代子、女倉子三女梅子あり、四女富子は和歌山縣人矢部太郎君の養子となり、弟周三郎君は妻ミネ子と及子女を共に分家し、同耕次郎君も亦妻ナカ子及子女と共に分家し、同良策君も亦分家せり

西岡貞太郎君

實業家

君は兵庫縣の人にして西岡馬吉君の長男なり、安政三年正月を以て生る、曩に合名會社鈴木商店下關支配人、佐賀紡績株式

會社株式會社大里製糖所監査役なりしが、現時は帝國炭業代表沖見炭坑社長、日本商業、日本酒類醸造、鹿兒島醸造各株式會社の取締役、札幌製粉、彦日山埜各株式會社監査役たり、家族は妻かめ子、養子啓二君、女文字あり

西川太治郎君

勳四等 實業家

君は滋賀縣の人にして西川太右衛門君の長男なり、元治元年五月を以て生る、明治二十一年東京專門學校を卒業し、大津市會議員、大津商業會議所會頭、縣會議員、衆議院議員に擧げられしことあり、現時大津商業會議所特別議員、丸初製紙株式會社取締役、近江新報社長なり、家族は妻きよ子、男小三郎君、同妻きん子、女はな子、孫昇君同國武君あり、四男正喜は滋賀縣人清水庄九郎君に、弟左祐君は大阪府人中村善助君に、各養

西田作次郎君

實業家

君は京都府西田郷泰君の長男にして、元治元年四月を以て生

子となり、甥泰二郎君は滋賀縣人外池成太郎長女マオの婚養子となれり

西川一男君

正五位勳四等 大審院部長

君は舊下野國壬生藩士西川正順の長男にして、同頭三君の兄たり、明治三年三月を以て生る同三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し、東京區裁判所、東京控訴院判事及部長に歴任す、現時は大審院部長たり、家族は母たき子、夫人アツサ子、長男正一君、二男正身、二女久子、三男正世君あり、弟於菟六君は分家せり

西永公平君

金澤商業會議所會頭

君は石川縣士族西永與平君の長女にして、元治元年二月を以て生る、明治二十二年明治法律學校を卒業せり、曩に金澤倉庫株式會社、加能銀行重役たりしが、現時は前記の要職にある外金澤米穀取引所株式會社理事長温泉電軌株式會社取締役たり、家族は令閨かおり、長男公一君三女常子、四女玉子、五女柳子

る、京都府人農工銀行監査役たり、令妻セイ子は京都府人金辻與兵衛君の長女にして、其間に二男二女あり、長男畠一君は宮城縣人士族小村良平君の妹セツ子を娶り、二女キヌ子は島根縣士族井上榮太郎君の弟乙五郎君に三女千鶴子は愛知縣人士族榎木義延長男義雄君に、妹サタ子は京都府士族若杉保短長男保定君に嫁き、弟於菟君は同府人小堀容洲君の養子となりたり

西永公平君

金澤商業會議所會頭

君は石川縣士族西永與平君の長女にして、元治元年二月を以て生る、明治二十二年明治法律學校を卒業せり、曩に金澤倉庫株式會社、加能銀行重役たりしが、現時は前記の要職にある外金澤米穀取引所株式會社理事長温泉電軌株式會社取締役たり、家族は令閨かおり、長男公一君三女常子、四女玉子、五女柳子

あり、二男泰君、三男孝三君は各分家し、長女喬子は石川縣人藤井武君に、二女愛子は愛媛縣人矢内原忠雄君に嫁せり

日本國債株式會社

東京市京橋區元數寄屋町三丁目三、四、十二番地

臨時電話青山三二四五

國家經濟上時勢に適切なる施設として、帝國公債の民衆化に努むるの政策は、汎く世間の稱導する處にして、政府亦之を保護獎勵の必要を認め第四十議會に有價證券割賦販賣法案を提出せられ、其際大藏大臣は有價證券の割賦販賣は一般の貯蓄を勵勵せる好個の機關なりと説明し、銀行局長亦證券の民衆化を計る良法なりと唱へられたり、同社は此主旨に従ひ、之が實行方法に關し、最も簡易に且つ有利なる便法を計り、世人に公債の割賦購入を勧めて國家政策に貢獻し、併せて一般に勤儉貯蓄の風を盛んならしめ、相互の利

殖に便せんことを趣意として、有價證券割賦販賣に基き、十數年前大藏大臣免許の下に設立されたものにして、其販賣する所は、専ら帝國公債五分利證券にして契約満期の際、其契約高に應じたる公債證券を渡すものとす、其他一般金銭貸付、公債債券の即賣を營業とし、購買加入者にして中途死亡、火災及び不時の災厄に罹りて解約するときは即時拂込金を返還する事、購買加入者にして貸金の必要なきときは契約證券を擔保として低利貸付を爲す事、公債、勸業債券等總て他店より勉強し何種類にても直ちに注文に應ずること、公債、勸業債券の擔保貸付其他不動産擔保の貸付並に信用貸付等秘密低利を以て定期又は月賦の方法により便利に取扱ふ事等の特長あり、前記の營業項目を以て創業以來既に十有餘年世間の信用愈々加はり、爾來營業區域も漸次發展し、今や大阪支店、北陸地方總監督部、名古屋

屋地方總監督部、徳島地方總監督部、熊本地方總監督部、京都總監督部、高松總監督部、近江總監督部、北海道總監督部、水戸總監督部、秋田總監督部、福岡地方總監督部等を中心として全國樞要の地域に出張所、代理店を設け旺なる活動を試み、世間の信用を博し、事業益々隆盛の域に進展しつつあり、専務取締役竹村欽次郎君は現時我實業界に於ける錚々たる重鎮にして國力の充實を計るには勤儉力行にありとなし奮闘努力斯界に雄飛されつゝあり

日本醫師共濟生

命保險相互會社

本社 東京市京橋區錦町一三

電話京橋特長三三〇八、三八二五

臨時電話青山二六二二

日本醫師共濟生生命保險相互會社は、大正八年十月資本金五十萬圓全額拂込を以て創立し、事務所を赤坂區溜池町六番地に設置

し、開業したるものにして、創業の趣意により其組織に特長あるを以て斯界に堅實なる業運を得つゝあり、當社は全國醫師會の贊同によりて生れたる相互會社にして保險契約者を社員と稱し、重役の選舉、會社の財政其他重要事項は悉く社員より互選せられたる社員總代會に於て合議決定する組織にして、營業稅免除の特典を有せり、又資本金五十萬圓は全額拂込済なるにより四分の一拂込の資本金二百萬圓の會社と匹敵し且つ代理店の機關を設置せざる特長あり、上記の如き營業方針を以て堅實なる經營の結果設立日尙淺きに拘はらず、斯界に好評を博し、業務益々發展し、現時は東京、大阪、京都、關東、名古屋、神戸、横濱、札幌、福岡、廣島、岡山、仙臺、金澤、四國、熊本、京城等に支部を設置し、今や契約高四十萬圓、責任準備金二百二十八萬八千壹百九十七圓、資産二百九十四萬五千九十八圓を示し



保險界一方の重鎮として愈々隆盛の域に進展しつゝあり、現在重役は左の如し

- 相談 役男爵 北里柴三郎
- 社長 長子爵 實吉 安純
- 専務取締役 八木 逸郎
- 取締役 金杉英五郎
- 取締役 笹川三男三
- 取締役 岡田 久男
- 取締役 山上 兼輔
- 監査 林 暉
- 監査 林 暉

### 日本毛織株式會社

本社 神戸市西田町六百九十一番屋敷  
資本金貳千萬圓

本邦に於ける毛織物の需要は年々増加を示す一方にして、殊に日清戦役後に於ける官野兩方面の需要は眞に驚く可き者あり即ち内地製産を企劃せる會社工場の勃興を見たるが、當日本毛織株式會社も亦輸入を防遏し、國利を増進せんが爲に、明治二十九年十二月資本金五十萬圓を以て播州加古川に創立せられ、専ら地厚物の製織に従事せしが國民生活の向上に伴ひ、漸次そ

の販路を擴張し社運日に發展して、三十九年一百万圓に、四十五年三百万圓に、増資したるに、偶々歐洲大戰の勃發するあり、參戰各國は工業動員を行ひ逐次その範圍擴大し、製織能率の減退を來せる爲め、我國は莫大なる洋絨の注文を受くるに至り、各工場何れも擴張に次ぐに擴張を以てし、同社亦大正四年に五百萬圓に増資し、同七年には日本毛糸紡績株式會社を合併して一千萬圓の資本となし、同八年には更に之を倍加して二千萬圓となすに至り製造能率益々増加して今日の盛況を見るに至り大正十三年上半期の業況を見るに當期純益金三百三十七萬三千七百七十八圓十六錢餘、前期繰越金四百九萬九千九百一圓五十二錢餘合計七百四十七萬參千七百九圓六十八錢の好成績を挙げたり、東京支店は明治三十三年出張所の名稱の下に開設されしものにして其後事業の發展に伴ひ、同四

十二年改稱を行ひ關東方面の事務を執掌しつゝあり現在重役の氏名を記すれば

- 取締役社長 川西 清兵衛
- 常務取締役 谷江 長
- 取締役 有馬 市太郎
- 取締役 小曾根喜一郎
- 取締役 澤田 清兵衛
- 取締役 松方 幸次郎
- 取締役 瀧川 辨三
- 取締役 敷根 敬二郎
- 取締役 塚脇 敬二郎
- 取締役 秋山 忠直
- 監査 松本 鐵次郎
- 監査 門川 葉三郎

### 株式會社日本晝夜銀行

本社 東京市京橋區尾張町二ノ一三  
電話 大手七四六  
資本金壹千萬圓

株式會社日本晝夜銀行は明治三十一年九月の設立にして初め京橋區竹川町に本店を置き、同商號を稱し、方針は他の一般銀行と同一なるも、唯晝夜業務を見るを以て特色とし斯界に好評あり、爾來行務の隆昌と共に日本橋區通一丁目に移轉し、淺野晝夜銀行と改稱し、斯くして商

續の益々擧るに從ひ、資本金も亦漸次増大を來たし、大正六年には五百萬圓に、大正九年四月には一千萬圓となし、帝都金融界一方の雄を以て目せらるゝの盛運に會せり、是れ蓋し同行の信用と其の資金の大、晝夜營業の便よりも更に大なるは富豪淺野總一郎氏の信用が克く同行の發展に與つて力あらしめたるに他ならず、而るに後年安田系統に移り、再び日本晝夜銀行と改稱し、支店を日本橋、赤坂、龜戸、江戸川、淺草、神田麻布、芝(以上東京)、大阪、新町、九條(以上大阪)、京都、御旅町(以上京都)、横濱其他に設置し、行務更に隆盛を示し、經營者又四圍の情勢に鑑み、取引の緩急を圖りて、穩健なる營業方針を執りし結果、業況著しく擧り、大正十三年上期には大震火災の打撃並に海外貿易の不振更に政變等の不況續出し、一般金融界極度の不振にありたるにも拘らず、當行は當期純利益金

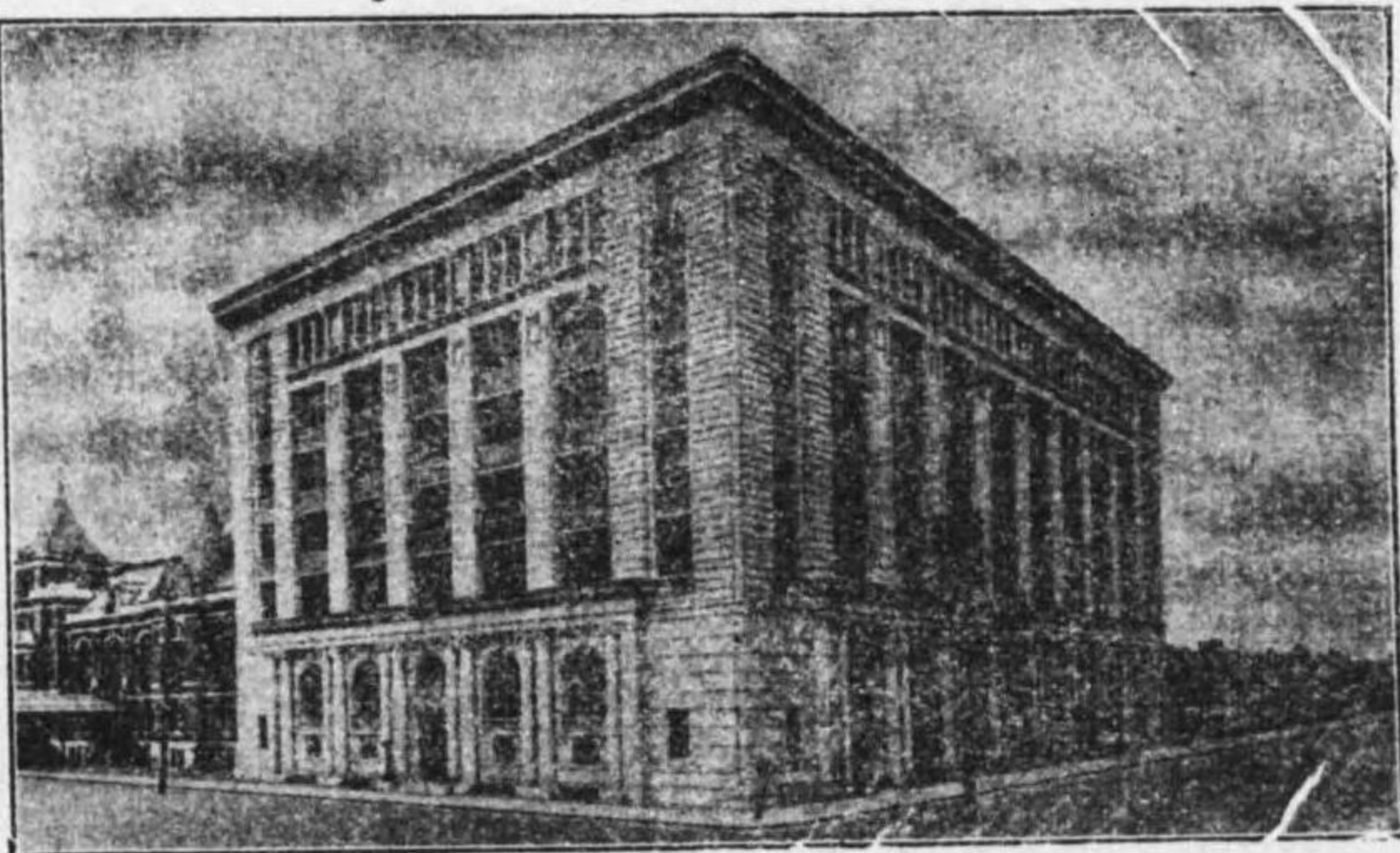
二十八萬二千八百五十二圓八一錢を擧げ、後期繰越金四萬八千六百四十四圓四十七錢を算するの好成績を示せり、以て同行が如何に斯界に信用あり、社員又如何に經營の宜しきを得たるかを知らるに足る、今や帝都斯界の重鎮を以て目する、眞に宜なりと謂ふべし現在重役以下の如し

- 取締役頭取 安田善四郎
- 専務取締役 齋藤 恂
- 取締役 安田善兵衛
- 取締役 高野 省三
- 取締役 兵須 久
- 取締役 永島 二郎
- 取締役 飯田 武也
- 監査 綿貫 清久

### 株式會社日本興業銀行

本社 東京市麹町區永樂町二ノ七  
東京中央局私書函第八四號  
電話 牛込四八六九、五二六四、五二六五  
資本總額五千萬圓

日本橋支店 東京市日本橋區新右衛門町三  
電話 大手二二四、四一四八  
大阪支店 大阪市東區高麗町五ノ一



大阪中央局私書函第二八  
電話 本局長八一、長八二、  
四〇二〇、五〇二〇  
神戸支店 神戸市仲町三六  
神戸局私書函第三二二  
電話 三宮長六四、八三、四〇〇九

當行は勸業銀行、農工銀行と等しく特種銀行の一にして、其任務は主として工業資金の融通を計るにあり、同行設立の由來

を按ずるに、日清戦役後事業勃興し、本邦に於ける資本の供給は以て其需要に應ずる能はず、從つて各種の事業は資本の欠乏の爲め、その發達を阻害せらるるの虞あり、茲に於て株券債券等有價證券取引に關する特別の金融機關を設け、其眞價を維持し、發達を企劃するの必要を認め、動産銀行を設立し、以て金融の整理を期せんとし、明治三十三年七月該法案を帝國議會に提出せり、法案は直に協賛を経三月の公布を見るに至れり、是れ日本興業銀行法令なりとす、次で同三十五年四月創立準備全く整ひ、茲に初めて開業を見るに至れり、興業銀行の營業は工業資金の融通を計るを目的とするが故に、國債、地方債、社債及株券を質とする貸付、國債地方債社債の應募又は引受、預金及保護預り、信託業務、營業上餘裕金を以てせる國債地方債社債券の買入等に決定せらる、同三十八年同法を改正し、更に國

債地方債社債又は株券を擔保とする手形割引及法律の規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付の二項を追付せり、又之と同時に我國に於て營む銀行及其附帶業務の規定を設け、行務を擴張して、韓國及滿洲に於て營業することを許せり、同行の營業資金は、株金及債券の二種にして、債券發行は當初拂込金額の五倍を限度とし、尙ほ貸付金現在高及所有地方債社債券現在高を超過するを得ざる規定なりしも、同三十八年、其限度を拂込株金の十倍に擴張せり、株金は三十九年内外資本共通の計劃を立て、七百五十萬圓の増資の如きも、悉く之を英國倫敦に於て募集せり、爾來資本金は一千七百五十萬圓となり、逐次事業の發展擴張と共に増資を行ひ、現時は總資本金五千萬圓(全額拂込済)を擁するに至れり、業務に於いて最近の五年間の經過を見るに、預り金は一千六百萬圓より現在の八千九百餘萬圓に



なり、貸出は六千餘萬圓より二億五千六百餘萬圓となり、興業債券は七千七百餘萬圓より二億八千八百餘萬圓（大正十一年十二月三十一日現在調）を以て數ふるに至り、又資産は金四億七千六百餘萬圓を算し、尙大正十三年度上期營業成績は總益金一千九百四十八萬一千五百七十八圓、前期繰越金六十五萬八千三百五十圓合計二千十三萬九千九百二十八圓、當期總損金千五百九十一萬二千八百六圓にして、差引當期利益金四百二十二萬七千二百二十二圓を得、依つて各積立金に合計九十萬圓を計上し、株主配當金を前期同様年一割を敢行せり、更に同行は貸金庫業務を營み、一、公債證書、社債券株券其他有價證券、一、貨幣貴金屬、寶石類其他の貴重品、一、諸手形、諸契約證書其他の重要種類の保護預りを取扱ひて好評を博せり、上掲の如く當行は政府監督の下に業務を營み、基礎の安全確實は申迄もなく特に工業金融機械として興業債券の發行

を許可され、一般工業家に取最も有用なるは勿論、一般銀行業務を營むこと、金融界は至極便利を蒙りつゝあり、當行の基礎は益々鞏固となり、特種銀行界の重鎮として著々堅實なる發展を爲しつゝあり、現在當行の役員氏名以下の如し

- 總 裁 小野英二郎
- 副 裁 松本 重威
- 理 事 岩佐 理藏
- 理 事 彌永 克己
- 監 査 役 松本 弘造
- 監 査 役 相馬 永胤
- 監 査 役 服部金太郎
- 監 査 役 大場 多市

日本製粉株式會社

當社は小麥粉製造を業とし、外に乾餾餾製造を附屬營業とす本邦に於ける製粉事業は、その用途廣大にして、同社の外に東亞製粉株式會社、日清製粉株式會社、

會社等ありと雖も、其の創立の古くして、規模の最も大なるに至りては同社に及ばざるや遠し同社は明治二十九年の創立にして、當時は資本金額十萬圓を以て、南條新吉郎君之が社長たりき、次で明治四十一年明治製粉株式會社を、同四十二年帝國製粉株式會社を何れも合併して更に大正九年三月に至りて、東洋製粉株式會社、大里製粉所、札幌製粉株式會社、東亞製粉株式會社の各社を合併して、今や千五百五十五萬圓の巨資を擁するの一大會社となり斯業界の重鎮として立つに至れり、其間事業の發展は、創立の當時に比して實に隔世の感あり、同社の生産能力は實に一日數萬バレルに達し、各地より輻輳する注文に應じつゝあり、遠くは朝鮮、支那、滿洲、南洋等に及べり、工場は東京内外に於ては扇橋工場（深川區東扇橋町）小名木川工場（府下大島町八丁目）東京工場（府下砂村）其他栃木縣小山工場群馬縣高崎工場、門司工場、神

- 取 締 役 社長 岩崎 清七
- 專務取締役 高木 武
- 常務取締役 竹村 弟一
- 取 締 役 平野 復男
- 取 締 役 伊藤 欽亮
- 取 締 役 原田 鎮治
- 取 締 役 谷 治之助
- 取 締 役 窪田 駒吉
- 取 締 役 志水寅次郎
- 取 締 役 田畑新三郎
- 監 査 役 根岸盛太郎
- 監 査 役 平野平兵衛
- 監 査 役 篠原 正次

は 之 部



穗積重遠君

正五位勳四等法學博士 東京帝國大學教授

君は學界の耆宿にして夙に清廉高潔を以て聞え徳望一世を風靡する、男爵現樞密顧問官法學博士穗積重遠君の長子にして明治十六年四月を以て東京市深川區福住町に生る、幼にして穎悟、聰慧の資あり學を好み才識卓然として群を抜くものあり、明治二十九年三月東京高等師範學校附屬小學校を卒業し、次で三十四年三月同校附屬中學校を卒へ同三十七年七月第一高等學校を

は 之 部

卒業するや直ちに東京帝國大學法科大學法律科に入學せり、而も君の學才と其の篤學とは衆に秀で、明治四十年十一月在學中に於て己に文官高等試験に合格せり、尋で翌四十一年七月抜群最優等の成績を以て卒業し衆望を蒐む、同年九月擧げられて同大學の講師となり、四十三年三月同大學助教に陞れり、大正元年に到り撰ばれて民法及び法理學研究の爲め獨、佛、英、米に留學し大に研鑽琢磨斯學の淵奥を極め同五年歸朝せり、同年九月東京帝國大學法科大學教授に任せられ、同六年十一月法學博士の學位を授けらる、時に君年齒僅かに三十有五才なりき、如何に君が頭腦明晰にして、英學天才的なるを知るに足る、現時は東京帝國大學法科大學教授（高等官二等）たる外臨時法制審議會幹事、辯護士法改正調査會

堀内彌二郎君

醫學博士聖路加病院内科部長 堀内醫院長

君は和歌山縣の人にして、明治十三年一月十三日を以て那賀

郡川原村に生る、幼にして穎悟郷黨に異數を以て目せらる、夙に故上野清氏の經營に係る東京中學校を卒業し、後金澤第四高等學校第三部を経て東京帝國大學醫學科大學に入り精勵研鑽する處あり明治四十一年十二月を以て卒業し更に斯學の淵奥を極むべく病理解剖學教室に入り山極勝三郎教授に師事し、後同四十二年十二月より故青山胤通先生の内科教室に内科學を專攻せり其間駒込病院々長故宮本教授に就き傳染病治療法を學び、又小兒科教室に學び各科研究を爲し益々深奥の學殖を極むる處あり明治四十四年二月東京市築地聖路加國際病院に入り院長ドクトル、アール、ビートイストラ氏の下に内科部長として爾來今日に至る、其間大正六年四月同病院の委嘱により北米合衆國ボストン市ハーバード醫科大學に入り大に切蹉琢磨研究すること二年餘に及び更に内科教授ヘンリー、クリスチアン氏のピーター



セント、ブリガム病院に出入して實地研究に従ひ亦オット、フオリン教授の生物化學教室に於てダブリュー、アール、ブルーア助教授と共に同氏の血液脂肪定量法を用ひて脂肪の新陳代謝を研究せしが其結果發表せる健康兔血液脂肪含有成分の變化、急性貧血による乳糜血(リペミー)論文は獨逸國專門大家の驚愕贊堂を博したり、而も君の天稟の叡才は益々斯學の堂奥に入り、其の所産たる肺肉腫、又稀に見る食道腺細胞癌等の參考論文は共に學位論文となり大正十年一月舊規定による醫學博士の學位を授與せられたり、大正十二年二月帝都の中心東京驛頭に大丸の内ビルディングの竣工するや其七階に堀内醫院を設け新時代の都市開業醫に一新機軸を示し更に諸會社の醫部顧問、囑托等を兼ね、保健第一の鍵は健康診察にあり、平時健康上の欠缺を見出し、攝生するにあり、疾病豫防に力むべし等の宣傳をなし

大に社會の爲めに貢獻しつゝ、あり君天資英明にして篤學、刀圭界稀に見る偉才なりと謂ふべし家族は夫人愛子(岐阜縣人杉野浩氏次女にして埼玉縣知事齊藤守園氏並に栃木縣内務部長杉野繁氏は令兄たり)長男一彌君(十才)長女知恵子(十才)彌榮子(四才)の三子あり  
〔現住〕東京市芝區翠平町三  
〔電話〕高輪六二九五

保々誠次郎君

君は東京府の人にして保々誠次郎君の長男として明治二十六年十月の出生たり、前名を三郎と稱す、日本硝酸化綿製造合名會社代表、東京石輪製造株式會社取締役等を兼ね居れども又君自らも石輪製造業を營み芳誠舎と稱して大いに奮闘せらる、令閨花子あれども子なく専ら母及び祖母に孝養を盡さる  
〔現住〕東京市本所區綠町四ノ二  
三

堀越勘治君

君は東京府士族堀越辰之助君の長男にして、安政五年十月を以て生る、和洋織物商を營み堀越商店と稱せり、別に東京キャリコ製織株式會社專務取締役、堀越合資會社代表たり、家族は令閨もと子、長男安太郎君、二男泰次郎君等あり  
〔現住〕東京市日本橋區通旅籠町  
一一

堀二作君

君は富山縣の人にして堀二作君の長男にして、嘉永四年九月同縣に生る、株式會社富山銀行取締役、北陸土木株式會社社長を兼ね尚ほ小川温泉株式會社取締役及び東洋絹織物株式會社監査役等たり、君の傑出せる才智は父祖の業を繼ぐも潔しとせず自ら信せる道に立ちて奮闘幾星霜遂に今日の大をなせるなり  
〔現住〕富山縣射水郡横田村

堀義太郎君

君は石川縣人堀忠知君の長男にして、安政五年五月を以て生る、石川縣尋常師範學校教諭を初めとし山形宮城京都岡山等の各師範學校長を歴任し偉大なる教育家として名聲高し、二人の令息は既に家庭をもたれて既に曾孫さへ有り  
〔現住〕岡山市門田屋敷

堀秀孝君

當家は内大臣藤原謙足の孫堀權太夫の裔たり、數世の後秀政に至りて豊臣秀吉に仕へて功あり越前の國主に封せられ北庄に居城す其の子秀治越後の國主として四十五萬石に封せらる、而して其の子忠俊故有りて奥州岩城に流さる、別に秀政の二男親良越後龍見の城主たりしが後野

堀謙治郎君

州島山に移城し其後更に信州飯田に移さる、之より數世の後が即ち親篤君にして君は其の長男たり、明治二十五年八月出生にして同四十一年七月子爵を襲ひ正五位たり〔現住〕東京市小石川區高田豊川町三十七

堀三太郎君

社、石見製紙株式會社取締役等を兼ね、君は稀に見る子福者にして、令閨もと子との間に八男五女有り  
〔現住〕島根縣鹿足郡畑ヶ迫村

堀啓次郎君

又奈良縣多額納稅者たり、夫人むめとの間に四男三女有り、長男久太郎君及び二男猶熊君は共に家を構へて父君の業を助けて益々奮闘せらる  
〔現住〕奈良縣高市郡舍橋村

保板潤治君

君は新潟縣人保坂貞吉君の長男にして明治八年六月生る、父祖の遺産を受けて銀行業を志し現時株式會社直江津商業銀行頭取として北越金融機關の中樞たらしめたり、夫人つま子との間に三男三女有り  
〔現住〕新潟縣中頸城郡津有村

堀藤十郎君

君は兵庫縣人堀亮君の弟にして、嘉永六年三月に生る、曩には龍野醬油株式會社取締役たりしが現今は株式會社兵庫縣農工銀行取締役合名會社堀銀行代表等を兼ね、令閨すみ子との間に二男一女有り  
〔現住〕兵庫縣揖保郡小宅村

堀熊次郎君

君は福岡縣人瓜生幾次君の長男にして、慶應二年八月を以て生る、先代甚四郎君の養子にして曾て福岡縣郡部より衆議院議員に當選せし事有り、勳四等に叙せられ堀鑛業株式會社及び小島電氣株式會社、代表者にして又帝國製紙株式會社、臺灣製鹽株式會社の各取締役たり、夫人ふさ子との間に一男有り既に家庭の人たり  
〔現住〕福岡縣鞍手郡直方町

保科次郎君

君は新潟縣人矢澤林藏君の六男にして、明治十一年十二月同縣に出生せらる、而して同三十六年東京高等商業學校を優等の成績を以て卒業せられてより直ちに小野田セメント製造株式會社に入り、曾て同社大連支店支配人兼技師たりしが現今は本社取締役として終始一貫同社の爲めに盡せる如き又稀に見る所也  
〔現住〕山口縣厚狹郡須惠村

君は島根縣の人堀伴成君の長男にして、嘉永六年六月生る、前名を禮造と稱せらる、鑛業を營み堀鑛業株式會社の取締役を初めとし、石見水力電氣株式會

君は奈良縣の人堀猶次郎君の長男にして、元治元年二月生る、代々商業を以て近隣に名有り、

君は富山縣の人にして堀二作君の長男にして、嘉永四年九月同縣に生る、株式會社富山銀行取締役、北陸土木株式會社社長を兼ね尚ほ小川温泉株式會社取締役及び東洋絹織物株式會社監査役等たり、君の傑出せる才智は父祖の業を繼ぐも潔しとせず自ら信せる道に立ちて奮闘幾星霜遂に今日の大をなせるなり